

令和 7 事業年度 業務実績報告書

第 23 期（令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日まで）

令和 8 年 6 月

独立行政法人日本芸術文化振興会

目 次

令和7事業年度業務実績報告書

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	
1 文化芸術活動に対する援助	1
2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演	10
(1) 伝統芸能の公開	19
(2) 現代舞台芸術の公演	44
(3) 青少年等を対象とした公演	53
(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等	60
(5) 快適な観劇環境の形成	71
(6) 広報・営業活動の充実	76
(7) 劇場施設の使用効率の向上等	82
(8) 日本博の運営・実施	85
3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修	89
(1) 伝統芸能の伝承者の養成	92
(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修	101
4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	109
(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	113
(2) 伝統芸能に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施	119
(3) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	122
(4) 現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施	124
II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	126
III 予算、収支計画及び資金計画	133
IV その他業務運営に関する重要事項	141

令和7事業年度評価報告書

はじめに

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	
1 文化芸術活動に対する援助	1
2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演	
<1> 伝統芸能の公開	2
<2> 現代舞台芸術の公演	5
<3> 日本博の運営・実施	8
3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修	
(1) 伝統芸能の伝承者の養成	10
(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修	10
4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	
(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	12
(2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	13
II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	14
III 予算、収支計画及び資金計画	15
IV その他業務運営に関する重要事項	16
独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会委員名簿	17
独立行政法人日本芸術文化振興会評議員会規則	18
独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会要項	19

令和 7 事業年度業務実績報告書

第 23 期（令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日まで）

令和 8 年 6 月

独立行政法人日本芸術文化振興会

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 文化芸術活動に対する援助

- (1) 助成金等の交付
- (2) 助成に関する情報等の収集及び提供
- (3) 芸術文化振興基金の多様な財源確保と管理運用

1 文化芸術活動に対する援助

《中期計画の概要》

1 文化芸術活動に対する援助

(1) 助成金の交付

ア 次に掲げる活動に対する助成金の交付

- ① 芸術家及び芸術に関する団体が行う芸術の創造又は普及を図るための活動
- ② 文化施設において行う活動又は文化財を保存・活用する活動で地域の文化の振興を目的とするもの
- ③ 文化に関する団体が行う公演及び展示、文化財である工芸技術の伝承者の養成、文化財の保存のための伝統的な技術又は技能の伝承者の養成その他の文化の振興又は普及を図るための活動

イ 助成金交付事務の効率化等

- ① 審査方法等選考に関する基準の策定及び事前公表
- ② 助成の成果等に対する評価等を踏まえた客観性・透明性の高い審査
- ③ 助成対象活動の実施状況の調査
- ④ 助成対象分野の現状等の調査
- ⑤ 地方公共団体との連携協力の推進
- ⑥ 情報通信技術等を活用した申請手続き等の合理化

ウ 文化芸術に対する国の支援施策や社会状況を踏まえた適切な組織体制の再編・強化、芸術団体等の自律的・持続的発展を目指す伴走型支援の在り方の検討

エ 専門人材を計画的に配置するなどアーツカウンシルとしての機能強化に向けた、地域版アーツカウンシル・他の独立行政法人等の専門機関・団体・文化庁等との連携の確立及び強化

(2) 助成に関する情報等の収集及び提供

文化芸術活動に関する情報の収集、データベース化やホームページを通じた提供の推進

(3) 芸術文化振興基金の多様な財源確保と安全かつ安定した管理運用

《年度計画の概要》

1 文化芸術活動に対する援助

(1) 助成金等の交付

ア 次に掲げる活動に対する芸術文化振興基金、文化芸術活動基盤強化基金、文化芸術振興費補助金及びその他外部資金による助成金の交付等による支援

- ① 芸術家及び芸術に関する団体が行う芸術の創造又は普及を図るための活動
- ② 文化施設において行う活動又は文化財を保存・活用する活動で地域の文化の振興を目的とするもの
- ③ 文化に関する団体が行う公演及び展示、文化財である工芸技術の伝承者の養成、文化財の保存のための伝統的な技術又は技能の伝承者の養成その他の文化の振興又は普及を図るための活動

イ 助成金交付事務の効率化等

- ① 審査基準の策定及び事前公表
- ② PD・PO、専門委員及び専門調査員等による公演等調査・評価・意見交換の実施・次年度のための審査への活用
- ③ 職員による会計調査、PD・PO による助成対象活動の公演等調査
公演等調査:800 件以上
- ④ 助成対象分野の現状等に関する調査分析及び海外における実態調査の実施
- ⑤ 地域の文化振興等の活動に関する地方公共団体との連携協力
- ⑥ 助成業務システムを活用した令和 8 年度助成対象活動の募集

ウ 文化芸術に対する国の支援施策や社会状況を踏まえた適切な組織体制の再編・強化、芸術団体等の自律的・持続的発展を目指す伴走型支援の推進

エ 文化庁との連携による PD・PO を活用した審査・評価・助成事業の在り方の検討、他の独立行政法人等の専門機関や団体等との連携、地域版アーツカウンシル等との連携を推進するための「アーツカウンシル・ネットワーク」や「情報プラットフォーム」の活用 PD・PO による芸術団体等への助言に対する満足度:73%【モニタリング指標】

(2) 助成に関する情報等の収集及び提供

ア 文化芸術活動への支援に関する情報の収集・提供

イ 文化芸術活動に関する基礎的な情報の収集、データベースの構築

ウ 振興会の助成事業に関するホームページ上の情報の充実、ホームページ等を通じた成果の発信

エ 助成対象活動の募集に関する情報提供

オ オンラインやメールフォーム等多様な方法による、助成金に関する応募相談の受付

(3) 芸術文化振興基金の多様な財源確保と安全かつ安定した管理運用

自己評価	B
自己評価の根拠	以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を達成しているため、自己評価はB評価とする。 ・公演等調査件数及び PD・PO による芸術団体等への助言に対する満足度ともに数値目標を上回った。 ・芸術文化振興基金、文化芸術振興費補助金、文化芸術活動基盤強化基金、及び民間団体からの寄附金等外部資金による助成金の交付等を年度計画に定められたとおり実施した。 ・文化芸術活動基盤強化基金事業に関して、事業の実施効果を高めるため、令和 5 年度補正予算事業「クリエイター等育成・文化施設高付加価値化支援事業」中間報告会等を初めて企画開催するとともに、令和 6 年度補正予算による新たな事業として、「クリエイター等支援事業（育成プログラム構築・実践）」及び「クリエイター・事業者海外展開促進事業」を開始した。 ・助成事業ウェブサイトを大幅にリニューアルしたほか、年次報告書の英語版を令和 6 年度版より新たに発行し、広報・周知の更なる向上を図った。
数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）	公演等調査件数：848 件/800 件(106.0%) PD・PO による芸術団体等への助言に対する満足度：80%/73%(109.6%)
主要な業務実績	(1) 助成金等の交付 ・芸術文化振興基金による助成金：交付件数 397 件、助成金交付額 721,035 千円 ・文化芸術活動基盤強化基金による助成金(委託事業を含む)：採択件数 80 件、助成金交付予定額 11,200,000 千円（※令和 7～9 年度の 3 年間の事業及び令和 7～8 年度の 2 年間の事業に対する交付予定額） ・文化芸術振興費補助金による助成金：交付件数 458 件、助成金交付額 6,330,971 千円 ・文化芸術振興費補助金による助成金(委託事業)：交付件数 144 件、助成金交付額 3,829,802 千円 ・寄附金等外部資金による助成金：採択件数 3 件、助成金交付額 384,432 千円 (2) 助成に関する情報等の収集及び提供 ・ホームページアクセス件数：277,333 件(うち芸術文化振興基金ホームページ：103,351 件、劇場・音楽堂等機能強化推進事業ホームページ：40,834 件、文化芸術活動基盤強化基金ホームページ：133,148 件) (3) 芸術文化振興基金の多様な財源確保と管理運用 ・基金運用益：219,910 千円 ・芸術文化振興基金への寄附：35 件 401,133 千円

(1) 助成金等の交付

ア 助成金等の交付

① 令和7年度助成金の交付実績

(a) 芸術文化振興基金による助成

助成対象分野		応募 件数(件)	採択 件数(件)	助成金交付 予定額(千円)	交付 件数(件)	助成金 交付額(千円)
芸術創造 普及活動	現代舞台芸術創造普及活動	524	171	395,000	167	384,452
	音楽	(129)	(48)	(117,000)	(47)	(112,952)
	舞踊	(69)	(25)	(57,000)	(24)	(54,000)
	演劇	(326)	(98)	(221,000)	(96)	(217,500)
	伝統芸能・大衆芸能の公開活動	83	26	49,000	25	48,000
	美術・メディア芸術等の創造普及活動	26	7	10,000	7	10,000
	超域的芸術創造活動	28	7	13,000	7	13,000
	国内映画祭等の活動	50	27	41,000	26	40,700
	映画祭	(37)	(19)	(36,000)	(19)	(36,000)
	日本映画上映活動	(13)	(8)	(5,000)	(7)	(4,700)
小計		711	238	508,000	232	496,152
地域文化 振興活動	地域文化施設公演・展示活動	187	88	154,500	86	152,231
	文化会館公演	(93)	(52)	(71,000)	(50)	(68,731)
	美術館等展示	(94)	(36)	(83,500)	(36)	(83,500)
	歴史的集落・町並み、文化的景観保存活用活動	10	7	4,900	7	4,900
	民俗文化財の保存活用活動	19	12	10,100	10	9,269
	小計	216	107	169,500	103	166,400
文化振興普及 団体活動	アマチュア等の文化団体活動	180	62	58,400	59	55,578
	伝統工芸技術・文化財保存技術の保存伝承等活動	5	3	3,000	3	2,905
	小計	185	65	61,400	62	58,483
合計		1,112	410	738,900	397	721,035

(b) 文化芸術活動基盤強化基金による支援

- ・文化庁令和6年度補正予算により、新たに「クリエイター等支援事業(育成プログラム構築・実践)」を開始。大学・専門学校等と企業・関係団体等業界が連携し、国際的な活躍を目指す学生や社会人に必要となるスキル等を習得する国際的な場での実践を含めた育成プログラムの構築・実践を、弾力的かつ複数年度にわたって支援する。
- ・経済産業省令和6年度補正予算により、新たに「クリエイター・事業者海外展開促進事業」を開始。映像作品の制作において、制作会社が資金調達やIP活用等に主導・参画し、海外市場に訴求する高品質なコンテンツ(映像、ゲーム等)を制作する長期的な取組を支援することで、コンテンツの国際競争力や収益基盤の強化を促進する。

メニュー名			応募 件数(件)	採択 件数(件)	支援予定額 (千円)
クリエイター等 支援事業 (育成プログラム 構築・実践) ※1	〈1〉 コンテンツ分野における産学官連 携による教育機関の機能強化支援	補助型	18	18	4,671,749
		委託型	5	5	1,466,494
	〈2〉 コンテンツ創造・海外展開のための 実践的な社会人育成支援	補助型	15	10	1,687,166
		委託型	7	6	1,174,591
	小計		45	39	9,000,000
クリエイター・ 事業者海外展開 促進事業 ※2	(1) 長期にわたる国内映像制作を行う事業 (プロダクション・ポストプロダクション支援)		82	15	1,989,047
	(2) 長期にわたる国内映像企画開発を行う事業 (プリプロダクション支援)		75	26	210,953
	小計		157	41	2,200,000
合計			202	80	11,200,000

※1 令和7～9年度の3年間の事業に対する支援予定額

※2 令和7～8年度の2年間の事業に対する支援予定額

(c) 文化芸術振興費補助金による助成

助成対象分野		応募 件数(件)	採択 件数(件)	助成金交付 予定額(千円)	交付 件数(件)	助成金 交付額(千円)
舞台芸術等総合支援事業 (公演創造活動)	複数年計画支援	44	30	1,854,760	30	1,853,904
	音楽	(18)	(15)	(1,211,397)	(15)	(1,211,397)
	舞踊	(8)	(4)	(324,018)	(4)	(324,018)
	演劇	(12)	(6)	(218,337)	(6)	(217,481)
	伝統芸能	(3)	(3)	(45,278)	(3)	(45,278)

	大衆芸能	(3)	(2)	(55,730)	(2)	(55,730)
	公演事業支援(一般枠)	323	135	1,074,649	134	1,055,496
	音楽	(84)	(35)	(388,080)	(35)	(384,218)
	舞踊	(37)	(18)	(206,181)	(17)	(193,568)
	演劇	(151)	(56)	(354,331)	(56)	(351,653)
	伝統芸能	(36)	(17)	(57,740)	(17)	(57,740)
	大衆芸能	(15)	(9)	(68,317)	(9)	(68,317)
	公演事業支援(ステップアップ枠)	29	8	37,591	8	37,591
	音楽	(7)	(1)	(3,523)	(1)	(3,523)
	舞踊	(2)	(1)	(5,801)	(1)	(5,801)
	演劇	(16)	(4)	(24,332)	(4)	(24,332)
	伝統芸能	(2)	(1)	(1,982)	(1)	(1,982)
	大衆芸能	(2)	(1)	(1,953)	(1)	(1,953)
	小計	396	173	2,967,000	172	2,946,991
舞台芸術等総合支援事業 (国際芸術交流)	海外公演	43	27	270,719	26	259,530
	国際共同制作公演(海外公演)	6	3	22,212	3	22,212
	国際共同制作公演(国内公演)	5	2	19,893	1	5,059
	国際フェスティバル	7	5	130,176	5	130,176
	小計	61	37	443,000	35	416,977
舞台芸術等総合支援事業 (全国キャラバン)	全国規模の巡回団体による公演等実施事業	15	9	540,000	9	531,716
	小計	15	9	540,000	9	531,716
舞台芸術等総合支援事業 (芸術家等人材育成)	芸術家等人材育成	60	50	414,000	50	407,744
	大学における芸術家等育成	18	12	179,740	12	162,256
	小計	78	62	593,740	62	570,001
劇場・音楽堂等 機能強化推進事業	劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業	15	15	680,940	15	676,964
	地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	199	119	657,302	119	636,409
	共同制作支援事業	3	2	58,337	2	57,111
	劇場・音楽堂等間ネットワーク強化事業	20	6	60,172	6	59,475
	小計	237	142	1,456,751	142	1,429,959
映画製作への支援	劇映画	80	23	331,826	23	320,547
	記録映画	43	11	55,610	11	54,460
	アニメーション映画	11	4	72,410	4	60,320
	小計	134	38	459,846	38	435,327
合計		921	461	6,460,337	458	6,330,971

(d) 文化芸術振興費補助金による委託事業

- ・「学校巡回公演」：振興会が選定した 144 の公演団体（163 企画）による巡回先 1,512 校を決定した（再委託経費は 3,829,802 千円）。

(e) 寄附金等外部資金による助成

- ・我が国のオーケストラ界を活性化することを目的に民間から寄せられた特定寄附金により、オーケストラ活動の底上げ及びオーケストラの将来の財産となる取組を令和 5 年度から 3 年に渡り支援する「新たなオーケストラ支援事業」について、令和 7 年度分の交付決定を行った（3 件、交付決定額 384,432 千円）。

イ 助成金交付事務の効率化等

① PD・PO・専門委員・調査員による公演等調査の結果を踏まえた評価、助成対象団体との意見交換の実施

＜前年度(令和 6 年度)助成対象活動の事後評価の実施＞

- ・文化芸術振興費補助金による各事業（舞台芸術等総合支援事業（公演創造活動・国際芸術交流）、劇場・音楽堂等機能強化推進事業）について、以下のとおり前年度助成対象活動についての事後評価を実施した。
- ・評価結果を団体に伝達するとともに、意見交換・助言等を行う意見交換会を実施した。

＜事後評価の経過＞

令和 6 年度中	専門委員、PD・PO 及び公演調査員による公演等調査の実施。 ・舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動)すべての活動 ・舞台芸術等総合支援事業(国際芸術交流)国際共同制作公演(国内公演)及び国際フェスティバルの 2 区分 ・劇場・音楽堂等機能強化推進事業 劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業及び共同制作支援事業は全助成対象団体活動 ・地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業は抽出された 11 施設 18 活動を対象とする。
6 月上旬～中旬	第 3 回専門委員会(書面審議)開催。

	事後評価の方法及び評価基準等について審議・「事後評価の進め方について」決定。
6月下旬～7月中旬	各専門委員による書面審議を実施。
7月上旬～下旬	第4回専門委員会開催。合議により評価を実施。
8月	舞台芸術等部会(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動・国際芸術交流))。 地域文化活動部会(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)開催。 各専門委員会の評価の結果について審議・決定。
8月～9月	評価対象団体に対し、PD・PO及び事務局より評価結果を伝達するとともに、意見交換、助言等を行った。
9月18日	第69回運営委員会において、事後評価の結果を報告。

《意見交換実績》

区分	実績	前年度実績
団体数	706件	573件
延べ実施回数	1,084件	593件

対象	目的
応募団体	・応募団体のうち希望のあった団体等に対し、助言等を行うため。 ・応募団体のうち希望のあった団体に対し、採択・不採択理由等を伝達するため。
採択団体	・採択団体に対し、助言等を行うため。
関係団体等	・過去に助成実績のある団体や有識者、関係団体等に対し、今後の助成制度のあり方についてのヒアリングを行うため(日本映画製作支援事業)。
寄附者等	・助成対象活動に対する事業の報告のため(新たなオーケストラ支援事業)。

② 会計調査、公演等調査の実施

《会計調査》

区分	実績	前年度実績
団体数	66件	69件
助成対象活動数	83件	98件

・助成金に係る会計処理が適切であったかどうかを確認するため、基金・助成事務局事務職員による会計調査を実施した。

《公演等調査》

区分	実績	年度計画	達成率
助成対象活動数	848件	800件	106.0%

・芸術文化振興基金、文化芸術振興費補助金及び文化芸術活動基盤強化基金における助成対象活動等について、専門委員、PD・PO等による公演等調査・現状の確認等を行った。

③ PD・POによる助言に対する満足度

配布数(A)	回答数(B)	満足数(C)	回収率(B/A)	満足度(C/B)	年度計画
172	120	96	69.8%	80%	73%

・満足度については、PD・POとの意見交換会を実施した団体等を対象に行ったアンケートにおいて、PD・POの助言に対する四段階の満足度評価のうち最も高い満足度を回答した団体等の割合を指標とする。

④ 調査研究の実施

調査研究	得られた知見・今後の対応など
芸術鑑賞の習慣化についての実態調査 (Web アンケート調査)	鑑賞者の分野や特性、習慣化に影響する要因が明らかになり、定期的な芸術鑑賞者の増加に繋がるような支援策の検討に役立てる。

⑤ 地域の文化振興等の活動に関する地方公共団体との連携協力

・都道府県・政令指定都市の担当部局に令和8年度助成事業募集開始の情報をメール配信により提供した。

⑥ 令和8年度助成対象活動の募集

(a) 令和8年度助成対象活動の募集

- ・芸術文化振興基金及び文化芸術振興費補助金による令和8年度助成対象活動の募集案内及び審査基準を10/1に公開し、応募相談期間を経て、10/30～11/13に電子申請方式による受付を行った。
- ・新事業として、文化芸術振興費補助金による「劇場・音楽堂等と芸術団体との連携による地域活動基盤形成支援事業」を令和8年度より開始。本事業については、募集案内及び審査基準を1/26に公開し、応募相談期間を経て、2/20～3/2に電子申請方式による受付を行った。

(b) 令和8年度助成対象活動の採択状況

i. 芸術文化振興基金による助成

助成対象分野		応募件数(件)	採択件数(件)	助成金交付 予定額(千円)
芸術創造普及活動	現代舞台芸術創造普及活動	455	172	397,500
	音楽	(128)	(48)	123,000
	舞踊	(58)	(26)	56,000
	演劇	(269)	(98)	218,500
	伝統芸能・大衆芸能の公開活動	61	27	48,500
	美術・メディア芸術等の創造普及活動	20	6	9,500
	超域的芸術創造活動	31	7	12,000
	国内映画祭等の活動	45	29	40,400
	映画祭	(32)	(20)	(35,500)
	日本映画上映活動	(13)	(9)	(4,900)
小計		612	241	507,900
地域文化振興活動	地域文化施設公演・展示活動	192	82	154,500
	文化会館公演	(103)	(48)	(71,000)
	美術館等展示	(89)	(34)	(83,500)
	歴史的集落・町並み、文化的景観保存活用活動	9	6	2,900
	民俗文化財の保存活用活動	24	12	10,600
	小計	225	100	168,000
文化振興普及団体活動	アマチュア等の文化団体活動	149	74	58,300
	伝統工芸技術・文化財保存技術の保存伝承等活動	14	3	4,500
	小計	163	77	62,800
合計		1,000	418	738,700

ii. 文化芸術活動基盤強化基金による支援

- ・文化庁令和7年度補正予算による「クリエイター等育成支援（マンガ等コンテンツの次世代のデジタル配信プラットフォームの構築に向けたコンソーシアム創出等）」について、令和8年4月に募集等を開始するため、募集案内や要望書様式の作成などの準備を進めた。
- ・経済産業省令和7年度補正予算による「コンテンツ産業成長投資支援事業」について、公募要領及び応募書式を3/31に公開した。

iii 文化芸術振興費補助金による助成

助成対象分野			応募件数 (件)	採択件数 (件)	助成金交付 予定額(千円)
文化芸術等 総合支援事業	公演創造活動	複数年計画支援	42	25	1,620,065
		公演事業支援(一般枠)	312	163	1,320,323
		公演事業支援(ステップアップ枠)	20	6	26,612
		小計	374	194	2,967,000
	国際芸術交流	海外公演	55	32	294,216
		国際共同制作公演(海外公演)	5	3	13,956
		国際共同制作公演(国内公演)	6	1	4,828
		国際フェスティバル	7	6	130,000
		小計	73	42	443,000
	芸術家等人材育成	芸術団体による育成	61	50	501,360
		大学における育成	10	8	107,040
		小計	71	58	608,400
劇場・音楽堂等と芸術団体との連携による 地域活動基盤形成支援事業		劇場・音楽堂等と芸術団体との連携による 地域活動基盤形成支援事業	110	55	939,786
		小計	110	55	939,786
		劇場・音楽堂等機能強化推進事業		劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業	16
地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	221			143	739,831
共同制作支援事業	2			2	86,145
小計	239			159	1,450,967
日本映画製作支援事業		劇映画	40	13	222,864
		記録映画	30	5	27,770
		アニメーション映画	1	1	1,070
		小計	71	19	251,704
		合計		938	527

iii. 文化芸術振興費補助金による委託事業

- ・「学校巡回公演」について、269 団体（424 企画）の応募団体より 145 団体（160 企画）を採択した（委託業者との契約における再委託金額総額は 4,100,000 千円）。

(c) 令和 8 年度助成対象活動の採択に係る審査の状況

- ・運営委員会、4 部会及び 16 専門委員会において、以下のとおり審査を行った。

<委員会・部会・専門委員会の開催実績>

区分	開催実績
運営委員会	第 69 回 9/22、第 70 回 1/19、第 71 回 3/17
舞台芸術等部会	2 回開催 1 月(書面)、3 月
音楽専門委員会	3 回開催 12 月、2 月(第 1 分科会 1 回、第 2 分科会 1 回)
舞踊専門委員会	2 回開催 12 月、2 月
演劇専門委員会	3 回開催 12 月、2 月(第 1 分科会 1 回、第 2 分科会 1 回)
伝統芸能・大衆芸能専門委員会	3 回開催 12 月、2 月(伝統芸能分科会 1 回、大衆芸能分科会 1 回)
国際交流・超域的活動専門委員会	3 回開催 12 月、2 月
地域活動基盤形成専門委員会	2 回開催 3 月、4 月
芸術家等人材育成専門委員会	2 回開催 12 月、2 月
映像芸術・美術部会	1 回開催 3 月
美術専門委員会	2 回開催 12 月、2 月
劇映画専門委員会	2 回開催 12 月、2 月
記録映画専門委員会	2 回開催 12 月、2 月
アニメーション映画専門委員会	2 回開催 12 月、2 月
映画祭等専門委員会	2 回開催 12 月、2 月
地域文化活動部会	1 回開催 3 月
文化施設公演活動等専門委員会	4 回開催 12 月、2 月(第一分科会、第二分科会)
文化施設展示活動専門委員会	2 回開催 12 月、2 月
文化団体活動専門委員会	2 回開催 12 月、2 月
文化財部会	1 回開催 3 月
文化財保存活用専門委員会	2 回開催 12 月、2 月

<審査の経過>

9/18	第 69 回運営委員会 8 年度芸術文化振興基金及び文化芸術振興費補助金による助成対象活動募集案内の内容、審査基準等を了承。
11/1～15	8 年度助成事業 応募受付期間
12 月上旬～下旬	専門委員会 書面及び合議審査に先立ち、審査の方法等について審議・決定。
12 月下旬～2 月上旬	各専門委員による書面審査。
1/19	第 70 回運営委員会 応募状況についての報告、助成金の分野別配分予算案について決定。
1 月下旬～2 月下旬	専門委員会 書面審査の結果を踏まえた合議審査を行い、助成対象活動を選定。
3 月上旬	部会 助成対象活動及び助成金交付予定額を審議。
3/17	第 71 回運営委員会 助成対象活動及び助成金交付予定額を決定し、理事長に答申。

<審査の経過> 劇場・音楽堂等と芸術団体との連携による地域活動基盤形成支援事業

9/22	第 69 回運営委員会 文化庁にて予算要求中であることを報告
12/19	運営委員会書面審議 審査基準の決定、運営委員会規程ならびに補助金による助成金交付要綱の改正案承認
12/26	政府予算案の閣議決定を受け、運営委員会規程ならびに補助金による助成金交付要綱を改正
1/19	第 70 回運営委員会 12 月の書面審議内容を報告。文化庁より経緯説明
2/20～3/2	8 年度助成事業 応募受付期間
3/6	第 1 回専門委員会 書面及び合議審査(第 2 回専門委員会、4 月 9 日)に先立ち、審査の方法等について審議・決定
3/10～4/2	各専門委員による書面審査

※令和 8 年 4 月に、第 2 回専門委員会、舞台芸術等部会(書面審議)、運営委員会(書面審議)を行い、同月末に採択先公表予定。

ウ 芸術団体等の自律的・持続的発展を目指す伴走型支援の推進

《文化芸術助成の在り方に関する検討チーム》

- ・6名の運営委員を構成員とする検討チームを組織し、3回の会合を実施。助成金の規模、基本方針、重点事項、体制、改善事項について協議し、芸術文化振興基金及び文化芸術振興費補助金に係る助成金交付の基本方針の改正案をとりまとめた。改正案は第69回芸術文化振興基金運営委員会（9/22）にて審議され、了承された。

＜開催実績＞

回次	日程	内容
第1回	7/22	文化芸術助成の在り方について、芸術文化振興基金及び、文化芸術振興費補助金それぞれの趣旨・目的を踏まえ、助成金交付の規模・基本方針、助成金交付に係る重点事項や体制、改善事項について議論。
第2回	8/15	
第3回	8/28	

《文化芸術活動基盤強化基金による助成事業等における伴走型支援》

- ・文化芸術活動基盤強化基金による助成事業等において、事務局が採択団体と面談等によって進捗管理を行うほか、各分野の有識者等である当該事業のアドバイザー等を通じて、採択団体との面談やアドバイス、現地視察、各種サポート等を実施するなど、事業の進捗にあわせた伴走型支援を実施した。
- ・「クリエイター等育成・文化施設高付加価値化支援事業」に係る中間報告会を初めて企画・開催。次年度以降の各団体の取り組みの持続的な発展に寄与した（6/5、会場：文科省講堂）。
 - ・参加者アンケートにおける満足度：94%（大変満足～やや満足）
 - ・参加者アンケートにおける次回参加意向：91%

エ 地域におけるアーツカウンシル等との連携等

《地域版アーツカウンシル等との連携推進》

- ・全国に所在するアーツカウンシル機能を有する組織の連携強化を図る「アーツカウンシル・ネットワーク」のミーティングを開催した。

＜開催実績＞

回次	日程	会場	内容
第1回	8/21	犀の角(長野県上田市) ・オンライン併用	「信州アーツカウンシルの来た道とこれから」と題したトークや「今後の活動のためのブレインストーミング」と題したグループディスカッション等を行った。
第2回	12/5	オンライン	日韓国交正常化 60 周年記念シンポジウムの参加報告、そしてアーツカウンシル年鑑 2026 の作成等について協議した。
第3回	1/30	那覇市若狭公民館(沖縄 県那覇市)・オンライン併用	「地域アーツカウンシルの現在地」と題したトークセッションを行い、それを聞いた参加者によるグループディスカッション等を行った。

- ・地域版アーツカウンシルの実態や活動を可視化することを目的に、アーツカウンシル・ネットワークに加盟またはオブザーバー参加をしている団体の取り組み等をまとめた「アーツカウンシル・ネットワーク年鑑 2025」を作成し、アーツカウンシル・ネットワークのホームページに掲載した（3/31）

(2) 助成に関する情報等の収集及び提供

ア 文化芸術活動への支援に関する情報の収集・提供

- ・令和6年度助成事業年次報告書を発行、助成事業の成果を可視化し、更なる質の向上に資する取り組みを行った。

イ 文化芸術活動に関する基礎的な情報の収集、データベースの構築

- ・国及び振興会の文化芸術団体に対する効果的な支援に係る政策の企画・立案に資することを目的に、我が国における文化芸術活動の動向把握に向けた基礎資料収集等を15団体に委託し、データの蓄積及び整理を行った。

ウ 振興会の助成事業に関するホームページ上の情報の充実、成果の発信

① ホームページ上の情報の充実

- ・助成事業に応募した者に任意で協力を求めた「文化芸術活動に対する助成事業に関するアンケート」の集計結果を振興会ホームページに掲載した（3/31）。
- ・令和6年度の助成事業を紹介する年次報告書をホームページに掲載した（日本語版 1/30、英語版 3/31）。
- ・利用者の利便性向上のため、助成事業のページをリニューアルした（3/31）。

《ホームページアクセス件数》

区分	件数	前年度実績
芸術文化振興基金 HP	103,351 件	95,858 件

劇場音楽堂等機能強化推進事業 HP	40,834 件	45,645 件
文化芸術活動基盤強化基金(クリエイター支援基金)HP	133,148 件	-
合計	277,333 件	141,503 件

※Google Analytics の仕様変更により、令和 5 年度から集計方法がユーザー数に変更されている(4 年度まではセッション数)。

エ 助成対象活動の募集に関する情報提供

① 募集情報のホームページへの掲載

- ・「学校巡回公演」について、令和 8 年度の実施団体募集(9/8)をホームページで周知した。
- ・「学校巡回公演」について、令和 8 年度の実施校募集(12/10)をホームページで周知した。
- ・振興会ホームページに令和 8 年度助成事業募集に関する特設サイトを開設した。募集案内を掲載するとともに審査基準の公表を実施した(10/1)。

オ 応募相談の受付

区分	実績	前年度実績
団体数	4,366 件	1,492 件

- ・オンラインや電話、問い合わせフォーム、メール等様々な方法で応募相談を積極的に行った。

(3) 芸術文化振興基金の多様な財源確保と管理運用

ア 基金の管理運用

運用益 219,910 千円

- ・基金の管理運用については、安定した収益を確保し継続的な助成が可能となるよう、安全性と収益性のバランスを考慮しつつ、金利動向を踏まえた効率的な運用に努めた。

イ 寄附金等多様な財源の確保

《寄附の受入》

区分	実績		前年度実績		対前年度増減
	件数	金額	件数	金額	金額
芸術文化振興基金	35 件	401,133 千円	84 件	401,435 千円	△302 千円

- ・令和 7 年度においても引き続きホームページ等による周知を実施し、寄附の受入の促進を図った。
- ・上記の寄附受入の他に、民間団体からの特定寄附金により、令和 5 年度から 3 年間の継続的な支援事業として「新たなオーケストラ支援事業」を実施し、7 年度には 384,432 千円の交付決定を行った。

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(1) 伝統芸能の公開

ア 主催公演の実施

イ 演目の拡充

ウ 日本博に関連した公演等の企画・実施

(2) 現代舞台芸術の公演

(3) 青少年等を対象とした公演

(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等

(5) 快適な観劇環境の形成

(6) 広報・営業活動の充実

(7) 劇場施設の使用効率の向上等

(8) 日本博の運営・実施

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

自己評定	B
自己評定の根拠	以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を達成しているため、自己評定はB評定とする。 ・公演数、入場者数、公演収支の改善については、いずれも目標値を上回った。 ・オンライン動画配信については、伝統芸能分野の舞踊公演(Enjoying the Masterpiece of Kabuki Dance)の視聴数が海外を中心に約42万回(令和4年度末の公開以来の累計は約120万回)に達するなど、新たな観客層の開拓や国内外への普及に寄与した。 ・伝統芸能分野では、上演の途絶えていた演目の復活や新作の上演等により演目の拡充を図った。 ・新国立劇場では、公演数、入場者数、公演収支の改善のいずれも目標値を上回り、入場料収入については、過去最高額を記録した。 ・国際的なレピュテーションの確立を目指し、世界初演作品の発信や海外カンパニー・作品の紹介など、舞台芸術のグローバル拠点としての役割をより一層追求した。英語版ホームページのアクセス件数、外国人入場者数、舞台映像の海外からの視聴割合、海外メディアへの掲載件数のいずれも目標値を大きく上回った。 ・英国ロイヤルオペラハウスにて実施した新国立劇場主催による「ジゼル」ロンドン公演は、全5公演すべてが完売し、現地主要メディアからも5つ星を含む高評価を獲得するなど成功をおさめた。さらに、第26回英国舞踊批評家協会賞の最優秀カンパニー賞を日本のバレエ団として初めて受賞した。日韓合同公演「焼肉ドラゴン」についても14年ぶりに韓国 芸術の殿堂(ソウル・アーツ・センター)での上演を実現し、海外公演の成功や国際的評価の獲得を通じ、国際的な発信力の向上につながる成果が得られた。 ・日本博採択事業の外国人来訪者満足度については、目標値を達成した。
数値目標の達成状況 実績/目標(達成率)	公演数:174公演/168公演(103.6%) 入場者数:477,209人/429,789人(111.0%) 公演回数、公演日数、公演収支の改善:公演実績表参照 青少年や社会人等を対象とした公演の入場者数:97,226人/84,680人(114.8%) 外国人向け公演の入場者数:24,693人/23,811人(103.7%) オンライン動画配信の視聴数:486,898回/357,200回(136.3%) 日本博採択事業の外国人来訪者満足度:56件/54件(103.7%)
主要な業務実績	[1] 伝統芸能分野 [2] 現代舞台芸術分野 [3] 日本博の運営・実施 各表参照
課題と対応	[1] 伝統芸能分野 [2] 現代舞台芸術分野 [3] 日本博の運営・実施 各表参照

[1] 伝統芸能分野

自己評価	B
自己評価の根拠	以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を達成しているため、自己評価はB評価とする。 ・公演数、入場者数、公演収支の改善については、いずれも目標値を上回った。 ・国立劇場等の再整備期間中の代替施設での公演について、法人独自の指標として新たな観客層の開拓に取り組み、SNS 登録者数及び外国人入場者数は目標値を達成した。若年層入場者数は7月歌舞伎鑑賞教室の実施期間の大半が夏休み期間であったことの影響により学校団体が減少したため目標値を下回ったが、公演全体の入場者数は目標値を達成した。 ・能楽堂では、高い企画力・制作力と効果的な観客勧誘によって、すべての公演において入場者数の目標値を達成した。能・狂言以外の伝統芸能との併演により、観客へ新たな切り口を提示できた。また、過去に能楽堂で復曲した作品の再演や新復曲など、レパートリーの拡充に貢献した。さらには、手話狂言の上演など、既存の枠組みを越えた能楽の魅力の豊かな広がりを示した。 ・文楽公演では、首都圏においては計3公演のうち2公演を新たな会場(12月文楽鑑賞教室を東京芸術劇場、2月文楽公演を神奈川芸術劇場)で開催し、各会場の特性を生かし、いずれも入場者数の達成率が120%を超えた。また、文楽劇場は、大阪・関西万博開催に合わせ、公演日数を例年の約21%増の120日に設定し、特に万博期間中にあたる公演では、インバウンドを含む外国人誘致を意識した企画や鑑賞サービスを積極的に実施した。外国人入場者数は前年比約60%増となり、所期の目標を達成した。さらに、「義経千本桜」の通し狂言や当代最高の配役を揃えた28年ぶりの「新薄雪物語」の上演を通じて、文楽の魅力を伝えるとともに、次世代への演目の継承を図り、外部専門家等から高く評価された。 ・文楽劇場は、大阪・関西万博の地元の劇場としての存在と上方の伝統芸能をアピールする目的で、全17公演を実施し、収支改善のため、令和7年度からチケットの会員割引率を10%に変更し、座席等級を廃止した。文楽2公演の好成績や特別企画全2公演のチケットの早期完売、大衆芸能全8公演の収支の黒字等により、年間の合計入場者数は目標値を上回り、委託金等を除く公演収支を黒字にすることができた。
数値目標の達成状況 実績/目標(達成率)	公演数:146公演/141公演(103.5%) 入場者数:276,497人/243,589人(113.5%) 公演回数、公演日数、公演収支の改善:公演実績表参照 青少年や社会人等を対象とした公演の入場者数:85,334人/74,180人(115.0%) 外国人向け公演の入場者数:24,693人/23,811人(103.7%) オンライン動画配信の視聴数:451,296回/314,100回(143.7%)
主要な業務実績	(1) 伝統芸能の公開 ア 主催公演の実施 ① 歌舞伎 ・一般向けに平易な案内付きで提供する「歌舞伎名作入門」として、「仮名手本忠臣蔵」の中で名場面として知られながら比較的上演機会が少ない「九段目」を関連深い「二段目」とともに上演した(9月歌舞伎)。 ・通し狂言の形式で「鏡山旧錦絵」を17年ぶりに上演し、成果を上げた(初春歌舞伎)。 ② 文楽 ・5月文楽公演、2月文楽公演では、前回上演から約20年間途絶えていた作品を取り上げ、人形浄瑠璃文楽が壮大な戯曲として成立している古典芸能であることを幅広い観客層に訴求した。また、〈文楽名作入門〉として短時間かつ比較的安価で鑑賞できるステージを設け、新規・訪日外国人層への訴求を図るとともに、従来の観客が新たな観客を文楽公演へ誘う契機とした。 ・12月文楽鑑賞教室では、ポータブル字幕サービス(英語)を提供し、東京芸術

劇場という観劇環境に優れた会場へ来場する訪日観光客への対応を行った。また、Discover BUNRAKU では、英語を母語とするナビゲーターにより、日本文化に親しみのない観客へ文楽鑑賞の入口となる解説を行った。

- ・文楽劇場では、大阪・関西万博の開催に合わせ、インバウンドをはじめとする外国人誘致を特に意識し、振興会初の36日ロングランを含む120日5公演を実施した。年間の入場者数は目標値を上回り、委託費等を除く公演収支も黒字に転じた。
- ・万博開催期間中の4公演では、外国人来場者を特に意識した演目の選定、オンラインゲーム「刀剣乱舞ONLINE」とのコラボレーション企画、英語解説及び字幕表示等に取り組んだ。その結果、外国人来場者数は前年比約60%増の約5,400人で、コロナ禍以降では最高となり、所期の目標を達成した(4月、6月Discover、夏休み第3部、爽秋)。
- ・21年ぶりに通し狂言で「義経千本桜」を上演した4月公演と、当代最高の配役を揃えて28年ぶりに上演した「新薄雪物語」を含む初春公演で、入場者数は目標を上回る21,000人台に達し、収支は23,000千円以上の黒字となった。初春公演では、令和元年11月公演以来の當祝を配布した。
- ・竹本千歳太夫が「一谷嫩軍記」熊谷陣屋の段(夏休み)と「心中天網島」北新地河庄の段(爽秋)の演奏により令和7年度(第82回)日本芸術院賞を、吉田一輔が「曾根崎心中」(爽秋)の成果により令和7年度大阪文化祭賞を、「新薄雪物語」(初春)が十三夜会月間賞を受賞した。

③舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等

- ・舞踊では、人気オンラインゲーム「刀剣乱舞ONLINE」とコラボレーションした入門公演を行う一方、初代国立劇場開場時から続いていた上方舞や素踊りを集める公演を、閉場後初めて実施した。
- ・邦楽では、義経の生涯に沿って様々な流派の邦楽を聴く公演や、「雪の合方」の旋律が使われた曲を紹介する企画性の高い公演を実施した。また、11月には文楽協会の協力を得て、国立劇場閉場後初めて「文楽素浄瑠璃の会」をサントリーホール・ブルーローズで開催した。
- ・声明では、語り物の声明である講式を取り上げ、上演前に聴きどころや見どころを紹介した。また、雅楽による附物・附楽を加えた演出により、見ごたえのある公演を実施した。
- ・特別企画としては、計3公演を実施した。4月には日韓国交正常化60周年を記念し、両国の宮中芸能が共演する公演を実施した。6月には国立国楽院及び国立釜山国楽院の招聘により、4月公演で上演した琉球舞踊・組踊をソウルとプサンの2会場で上演した。ソウルでは韓国の宮中芸能と共演し、釜山では解説付きの琉球芸能単独公演として行い、国際交流として意義ある事業となった。3月には岩手県遠野市との共同制作により、「遠野物語」を題材として、文楽の太夫・人形と遠野の民俗芸能が共演する新企画を、遠野と東京の2か所で上演し、地方自治体との連携を図った。
- ・文楽劇場10月舞踊公演では、斯界トップクラスの舞踊家、演奏家の総出演による多彩な作品の上演が話題を集め、入場者数が目標値を約19%上回った。
- ・文楽劇場6月邦楽公演では、入場者数が目標値を超え、公演費の圧縮にも努めたことにより、公演収支を黒字にすることができた。
- ・文楽劇場の特別企画公演では、5月に地元大阪を拠点に活動する天王寺楽所雅亮会の雅楽を、11月に文楽劇場初の「人間国宝の会」として関西在住の出演者による邦楽及び狂言を上演した。両公演とも早期に完売し、入場者数は目標値を超え、上方の伝統芸能の拠点にふさわしい企画内容が高く評価された。また、5月公演では、大阪・関西万博開催期間中であることを踏まえ、開演前に舞台上で雅楽の道具を鑑賞できる「ステージ見学」や、通訳音声ガイド付きの解説を実施し、初心者や外国人来場者にも雅楽の魅力を伝えた。なお、5月公演の収支は黒字に転じた。

④大衆芸能

- ・代替施設においても、定席公演に相当する公演を「国立演芸場寄席」と題して行い、また、「花形演芸会」も継続して行った。
- ・文楽劇場は全8公演を実施し、公演収支は全公演で黒字となった。
- ・文楽劇場2月「浪曲名人会」は、昭和100年記念と題して昭和ゆかりの演題を上演するとともに、初企画として実演付き解説を上演し、浪曲の特色を分かりやすく紹介した内容と高く評価された。また、3月「上方演芸特選会」は3

日間の完売があり、入場率は97%を超え、出演者に當祝を配布した。

⑤能楽

- ・充実した企画内容と効果的な観客勧誘によって、すべての公演において入場者数の目標値を達成した。
- ・年間を通じて特定の流儀に偏りのない番組を基礎とし、上演が稀な能楽作品を積極的に取り上げ、また、共通のテーマでの能楽と他芸能との公演など、国立能楽堂ならではの企画を実施した。
- ・7月には、初めて能・狂言をご覧になる方を主対象に、コンパクトな構成で能と狂言を上演する「国立能楽堂ショーケース」を、大阪・関西万博の開催期間に合わせて延べ6日間上演した。万博を目的とした訪日外国人が一定数来場し、企画目的を十分に達成した。
- ・8月企画公演では、「聳入り」をテーマに講談・落語・狂言と異なる芸能を取り上げ、多彩な芸能を一挙に鑑賞できる公演を行った。
- ・11月企画公演〈手話狂言〉では、東京デフリンピックの開催期間に合わせ、ろう者とプロの狂言師による手話狂言を上演した。聴覚障害者も多数来場し、時宜に即した企画を行うことができた。
- ・11月企画公演〈明治時代と能 岩倉具視生誕 200年〉では、岩倉具視の生誕200年を記念し、明治12年に岩倉邸で行われた天覧能に沿った演目を、ゆかりのある能楽師を揃えて上演した。独吟、仕舞、狂言、能と様々な形式での上演を通じ、能楽の魅力を堪能できる公演となった。
- ・3月企画公演〈復興と文化 東日本大震災15年〉では、震災から15年の節目に、震災5年目となる平成28年に復曲初演した復曲能「名取ノ老女」を上演した。復興と再生への願いを込めて制作された作品を改めて上演することで、震災の記憶を風化させることなく次世代へと繋ぎ、伝統芸能が「心の復興」を担う役割を改めて示す貴重な機会となった。

⑥組踊等沖縄伝統芸能

- ・1838年の史料に依拠・考証して復元した「執心鐘入」や第4回新作組踊戯曲大賞で入賞した作品等の上演を行った。

イ 演目の拡充

- ・6月歌舞伎鑑賞教室では、中村鴈治郎家に伝わる家の芸・玩辞楼十二曲の一つ「土屋主税」を、東京で35年ぶりに上演した。また、9月歌舞伎公演では「仮名手本忠臣蔵」全十一段のうち、上演機会が少ない「二段目」と「九段目」を取り上げ、事前解説を付けて「歌舞伎名作入門」として提供した。
- ・文楽の廃絶演目で復曲した「諸葛孔明鼎軍談」司馬徽離庵の段を、曲の伝承で重要な役割を果たした初代鶴沢清七の二百回忌の年に因み、素浄瑠璃の試演会で上演した(文楽劇場11/26小ホール「伝統芸能講座」)。
- ・演者に高度な技術が要求される「新薄雪物語」の28年ぶりの上演にあたり、上演場面を再構成し、次世代への演目の継承を図った(文楽劇場初春文楽公演)。
- ・振興会主催の舞踊公演において、吉村流の振付と若衆の扮装による「都若衆万歳」の26年ぶりの上演や、「築地明石町」「安達ヶ原」の初めての上演等を通じて、演目の拡充を図るとともに、今後の上演の参考となる規範を示した(文楽劇場10月舞踊公演)。
- ・国立能楽堂では、過去に復曲した作品の再演を相次いで実施した。3月28日企画公演の「名取ノ老女」(平成28年復曲)をはじめ、5月20日には「世阿弥自筆本による 能『雲林院』」(平成25年復曲)を新たな配役で上演。さらに5月28日には「賀茂物狂」(令和4年復曲)を再演した。なお、3月28日の能「名取ノ老女」・狂言「鷲」とともに改めて台本・演出・節付を検討、稽古を重ねて上演することで、過去の成果の継承と新たな発掘の両面を提示する機会となった。

(3) 青少年等を対象とした公演

- ・中高生を主な対象とした鑑賞教室、社会人、親子を対象とした公演を実施するとともに、解説や体験コーナー、親子向けの鑑賞支援等を通じて、親しみやすい鑑賞機会の提供に努め、次世代の観客層の育成を図った。
- ・文楽劇場夏休み文楽特別公演第1部では、「西遊記」が解説や台本・演出の工夫で評価を受けるとともに、子供限定の音声ガイド無料貸出(利用実績:1,745台)をはじめ前年度の同公演で好評だった事業に加え、他機関との地域連携PRイベントを初めて実施し、来場者サービス向上に繋げた。
- ・外国人を対象とした公演を実施し、解説や多言語対応等により、伝統芸能へ

	の理解促進と新たな観客層の開拓を図った。 (4) 伝統芸能の公開の実施に際しての留意事項 ・国立劇場等の再整備期間中は代替施設での公演実施に当たり、会場が所在する自治体等と連携協定を締結し、公演実施及び公演周知における連携協力のほか、住民公演招待、住民向け優待チケット販売、入門講座、展示等の住民還元事業を実施し、地域住民に対する伝統芸能の振興を図った。 ・2025 年大阪・関西万博開催期間中、「開催記念」と称した本公演で外国人向けの企画を実施したほか、万博会場では、パビリオンにおける文楽人形の展示及びオープニングパフォーマンスや、上方の伝統芸能を一堂に会した実演イベント等に協力した。 (5) 快適な観劇環境の形成 ・チラシ・ポスター等による観劇マナー啓発を行った。 ・外国人来場者のため、公演内容を多言語で紹介する冊子を配布するとともに、会場の案内を多言語で表示した。 ・代替施設での公演実施にあたり、施設ごとに異なる観劇環境を踏まえながら、各施設の協力のもと、プログラムやオリジナルグッズの販売・イヤホンガイド等のサービスを提供した。 ・各館で上演演目等にちなんだフォトスポットを設けて、観劇記念とするとともに、来場者による SNS 等での発信を通じた公演情報の周知を図った。 ・能楽堂では、能楽師の案内で国立能楽堂内を見学する「国立能楽堂オープンデイ」を新たに実施した。 ・文楽劇場では、日本博 2.0 事業(委託型)として、Discover BUNRAKU 以外にも、英語の音声同時解説サービス(有料)を提供した(利用実績：1,258 台)。また、大阪・関西万博の後半の時期に開催する文楽公演の全日程で、英語の字幕表示(夏休み第3部)や日本語・英語対応の「字幕アプリ通信方式」の表示を実施した。 (6) 広報・営業活動の充実 ・各分野において公演情報等をホームページで公開し、公演 PR を行った。また、出演者のインタビュー映像や公演記録映像を活用したダイジェスト版映像を公演周知に活用した。さらに、X(旧 Twitter)、Instagram、LINE に加え、Tripadvisor に写真を掲載するなど、SNS を利用した広報活動を実施した。 ・劇場の地元地域との提携によるチラシ・ポスターの掲示や SNS での広報、地元住民向け優待販売・入門講座、近隣店舗や商業施設との協力によるキャンペーン、ホテル・旅行代理店との連携強化による公演の広報・営業活動を積極的に展開した。 ・団体観劇を促進するため、過去に利用した団体への公演情報提供や公演内容に応じた営業活動を実施した。 ・既存顧客の繋ぎとめや新たな観客層の開拓を図るため、イヤホンガイド付きなど各種団体向けプランの販売や、団体幹事やホテル・旅行代理店の担当者への招待会等を実施した。 ・インバウンドや若年層等の新たな観客層の開拓を図るため、国内外 OTA での広報・チケット販売を実施した。 ・次世代の観客育成を図るため、「国立劇場キャンパスメンバーズ」会員校を対象にした講座・イベントや、「U29」等の若年層向け割引販売を実施した。 ・地域や文化施設、旅行代理店等との連携による講座等のイベントを通じて、公演の広報・営業活動を積極的に展開した。 ・文楽劇場では、来場促進及び観劇チケット購入促進を目的として、トピックスとなる文楽三業解説会を実施した(爽秋文楽特別公演、初春文楽公演、参加者数：318 名)。 (7) 劇場施設の使用効率の向上等 ・施設利用に関する情報を、ホームページ・パンフレット・DM・専門誌等で随時発信するとともに、利用者アンケートを実施し、サービス向上に努めた。 ・ユニークベニューの取組により、収入の増加に努めた。 ・各館において、説明・見学対応等を行い、劇場利用者の増加に努めた。
課題と対応	国立劇場等の再整備期間中は、代替施設での公演実施に伴い、会場の制約などの課題が生じている。再整備期間中の業務の特性を踏まえた組織体制の強化を進めるとともに、引き続き、代替施設での実績やデータを踏まえ、早期の公演周知や新たな観客層の開拓、地方公共団体等との連携強化を図り、入場者数および収支の改善に取り組む。

[2] 現代舞台芸術分野

自己評定	A
自己評定の根拠	以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を上回る成果を得られたため、自己評定はA評定とする。特に、海外公演の成功や国際的評価の獲得を通じ、国際的な発信力の向上につながる成果が得られた。 ・公演数、入場者数、公演収支の改善については、いずれも目標値を上回った。入場料収入については、過去最高額を記録した。 ・国際的なレピュテーションの確立を目指し、舞台芸術グローバル拠点事業に取り組んだ。 ・オペラ・バレエの両ジャンルで世界初演作品を新制作し、世界へ発信するとともに、現代舞踊・演劇では海外カンパニーを招聘し、世界の第一線のアーティストや作品を国内に紹介するなど、舞台芸術のグローバル拠点としての役割をより一層追求した。 ・英語版ホームページのアクセス数、外国人入場者数、舞台映像の海外からの視聴割合、海外メディアへの掲載件数について、いずれも目標値を大きく上回った。 ・新作オペラ「ナターシャ」は、多言語で書かれた新境地のオペラとして高い評価を受け、International Opera Awards 2025 新作部門にノミネートされた。 ・英国ロイヤルオペラハウスにて実施した新国立劇場主催による「ジゼル」ロンドン公演は、全5公演すべてが完売し、現地主要メディアからも5つ星を含む高評価を獲得した。The New York Times や The Daily Telegraph でも2025年のベスト・パフォーマンスに選出され、さらに、英国舞踊界における最高峰の評価の一つである第26回英国舞踊批評家協会賞(National Dance Awards)の「Stef Stefanou Award for Outstanding Company(最優秀カンパニー賞)」を日本のバレエ団として初めて受賞した。この賞の獲得は、我が国の舞台芸術の国際的評価の飛躍的向上に資する顕著な成果が表れたものである。 ・日韓合同公演「焼肉ドラゴン」は、日韓国交正常化60周年記念公演として、14年ぶりに韓国 芸術の殿堂(ソウル・アーツ・センター)での上演を実施した。また、計画になかった新国立劇場中劇場での凱旋公演も追加開催し、全45公演のツアーを成功させた。
数値目標の達成状況 実績/目標(達成率)	公演数:28公演/27公演(103.7%) 入場者数:200,712人/186,200人(107.8%) 公演回数、公演日数、公演収支の改善:公演実績表参照 青少年を対象とした公演の入場者数:11,599人/10,500人(110.5%) オンライン動画配信の視聴数:35,602回/43,100回(82.6%) 英語版ホームページへのアクセス件数:237,145件/180,000件(セッション数)(131.7%) 公演の外国人入場者数:5,336人/4,000人(133.4%) 舞台映像の海外からの視聴割合:43.9%/20%(219.5%)【モニタリング指標】 新国立劇場に関する海外メディアへの掲載件数:146件/90件(162.2%)【モニタリング指標】
主要な業務実績	(2) 現代舞台芸術の公演 ①オペラ ・11公演51回のオペラ公演を実施し、オペラ公演全体で目標入場者数を達成した(達成率109.0%)。 ・「ナターシャ」「ヴォツェック」の2作品を新制作し、レパートリーを充実させた。本2作品は、大野和士芸術監督が自ら指揮にあたった。 ・大野和士芸術監督による日本人作曲家委嘱作品シリーズ第3弾として制作した細川俊夫による新作オペラ「ナターシャ」は、International Opera Awards 2025 新作部門にノミネートされたほか、2025年度ミュージック・ペンクラブ音楽賞を受賞した。現代の諸問題をテーマに扱い、多言語で書かれた新境地のオペラとして高い評価を受け、台本・作曲者・指揮者・電子音響等のス

タッフが語るトークイベント「新作オペラ『ナターシャ』創作の現場から」も開催し、作品の理解を深める機会となった。

②バレエ

- ・6公演 63回のバレエ公演を実施し、バレエ公演全体で目標入場者数を達成した(達成率104.2%)。
- ・新国立劇場バレエ団オリジナルの「くるみ割り人形」(ウィル・タケット振付)を新制作し、世界初演した。全18公演の総入場者数は31,084名となり、本演目の歴代最多人数を記録した。
- ・英国ロイヤルオペラハウスにて、新国立劇場主催による「ジゼル」ロンドン公演を実施し、全5公演はすべて完売した。現地主要メディアから5つ星を含む高評価を獲得し、The New York TimesやThe Daily Telegraphでも2025年のベスト・パフォーマンスに選出されるなど、高い評価を受けた。この成功を経て、2026年4月にロイヤル・バレエ&オペラ主催の「インターナショナル・ドラフト・ワークス(International Draft Works) 2026」に新国立劇場バレエ団の作品が招聘されるなど、同劇場との連携がさらに深まっている。加えて、第26回英国舞踊批評家協会賞最優秀カンパニー賞を日本のバレエ団として初めて受賞した。なお、本ロンドン公演にあたっては、オフィシャルスポンサーとして株式会社 木下グループ、オフィシャルエアラインとして全日本空輸株式会社の支援を受けた。
- ・「ジゼル」ロンドン公演は現地スタッフによる映像収録が行われ、NHK BS「プレミアムシアター」及びNHK Eテレにおいて放送された。
- ・新国立劇場バレエ団シーズン・ゲスト・プリンシパルの福岡雄大が、第37回服部智恵子賞を受賞した。
- ・クラスレッスン見学会、「ライモンダ」「String SAGA」のリハーサルライブ配信等を実施し、観客が公演を鑑賞するだけでなく、舞台を創り上げる過程や作品に関する知識を得られる機会を提供した。

③現代舞踊

- ・3公演 12回の現代舞踊公演を実施し、現代舞踊公演全体で目標入場者数を達成した(達成率117.1%)。
- ・「Young NBJ GALA 2025」において、元新国立劇場バレエ団ダンサーであり、NBJ Choreographic Groupで振付家としての経験を重ねてきた福田圭吾による新作を上演できたことは、新国立劇場バレエ団の中から次世代の振付家を育てていくプロジェクト全体にとって非常に意義のあることであり、ダンサーのみならず若手振付家の育成という面でも大きな成果となった。
- ・フランスを拠点に振付家・ダンサーとして活躍し、ストラスブール・グランテスト国立演劇センター「TJP」のディレクター(総芸術監督)も務める伊藤郁女(いとうかおり)氏の作品「ロボット、私の永遠の愛」を上演した。日本国内でまだよく知られていなかった振付家の作品に触れる機会を得たとして高く評価された。
- ・「フレンズ・オブ・フォーサイズ」においては、入場率が目標を大きく上回る結果となった。世界各国で上演され、ダンスの多様性と可能性を提示するコンテンポラリーダンスの最先端とも言える作品を日本初演できたことは極めて意義深い。

④演劇

- ・8公演 95回の演劇公演を実施し、演劇公演全体で目標入場者数を達成した(達成率116.5%)。
- ・海外招聘公演として、「母」と「鼻血—The Nosebleed—」の2作品を上演した。
- ・日韓国交正常化60周年を迎えることを記念し、日韓合同公演「焼肉ドラゴン」を上演した。14年ぶりに韓国 芸術の殿堂(ソウル・アーツ・センター)でも公演を行い、全国公演(北九州・富山)を経て中劇場で凱旋公演を行う全45公演のツアーを成功させた。
- ・こつこつプロジェクト第二期・第三期参加作品の「夜の道づれ」をStudio公演として上演した。これまでクローズドであった試演会を一般にも公開するという試みであり、チケット料金を安価に設定したほか、作品のさらなる発展を目指して、終演後に演出家や出演者が直接観客から感想や意見を聞く

	〈トークバック〉を開催した。 ・「焼肉ドラゴン」作・演出の鄭義信が、第 67 回(2025 年度)毎日芸術賞を受賞した。 ・公演に付随して「ギャラリープロジェクト」の企画を実施した。 (3) 青少年等を対象とした公演 ・主に青少年を対象とした公演を 2 公演実施した。 ・こどものためのオペラ劇場を 14 年ぶりに復活し、子供やファミリー層に向けたオペラ公演として、「オペラをつくろう！小さなエントツそうじ屋さん」を新制作して上演した。 (4) 現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項 ・国際的なレピュテーションの確立を目指し、舞台芸術グローバル拠点事業に取り組んだ。 ・共催などによる公演等を 1 公演実施した。 ・全国各地の文化施設等における公演を 8 公演実施した。 ・国際文化交流公演等を 9 公演実施した。 ・「新国デジタルシアター」において公演映像等の配信を推進した。海外からの視聴割合は 43.9%となった。 ・昨年度連携協定を締結した韓国 2 劇場について、韓国国立劇場とは交換上映会を実施し、芸術の殿堂(ソウル・アーツ・センター)とは「焼肉ドラゴン」のソウル公演及び AAPPAC の交換研修等で協力関係を深めた。また、パリ・オペラ座ともパリ・オペラ座バレエ団公演「PLAY」への特別協力や「バレエ・アステラス 2025」へのパリ・オペラ座バレエ学校招待等を行い、各国劇場との連携を強化した。 (5) 快適な観劇環境の形成 ・新制作オペラの作品理解を深め、興味関心を喚起するオペラトークを実施したほか、演劇ではスペシャルトークを実施した。 ・バレエ 10 月公演「シンデレラ」より、バレエ公演にて終演後のカーテンコールの撮影を可能とした。SNS において写真を伴うバレエ公演のロコミが増え、視覚的な魅力が直接伝わることで、公演の認知度向上に寄与した。 ・英語通訳付きのバックステージツアーを計 6 回実施した。 ・演劇公演で視覚・聴覚障害者向けに観劇サポートを実施(令和 7 年度障害者等による文化芸術活動推進事業)。 (6) 広報・営業活動の充実 ・ホームページと SNS(Facebook、X(旧 Twitter)、Instagram)を連動させ、映像も活用して積極的に情報発信に努めた。 ・世界の芸術・文化施設のデジタルガイドを無料で楽しめるアプリ「Bloomberg Connects (ブルームバーク・コネクト)」に新国立劇場のページをオープンした。 ・欧米の舞台芸術サイト・雑誌に広告を掲載して、新国立劇場の認知を高めるとともに、同メディアに記事掲載の働きかけを行った。 ・海外からジャーナリストを招聘し、新国立劇場の認知を高めるとともに、海外メディアでの露出を図った(オペラ「ナターシャ」9 名)。 ・7 月の「ジゼル」ロンドン公演に際しては、現地エージェントと協働して現地での広報・営業活動に努め、高い入場率を実現することができた。 (7) 劇場施設の使用効率の向上等 ・施設利用に関する情報を、ホームページ・パンフレット・専門誌等で随時発信した。
課題と対応	オンラインでの公演映像配信について、人員体制や権利処理の面で依然として課題が残るものの、新制作のオペラ公演を中心に出演者やスタッフとの契約にあらかじめ配信条項を盛り込むなどの改善を進めている。権利処理を円滑化し、配信体制を整えることに努めたい。

[3] 日本博の運営・実施

自己評価	B
自己評価の根拠	以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を達成しているため、自己評価はB評価とする。 ・日本博採択事業の外国人来訪者満足度については、目標値を達成した。 ・年間を通じ、採択事業者が取組を実施した際に積極的に実地に赴いてインバウンドへの対応状況や参加者の実態を確認し、必要に応じて実施内容の改善点等を助言した。 ・2025 大阪・関西万博において、伝統文化の様式美と現代的な臨場感を融合させて日本の美を創出し、万博来場者に日本文化の多様性に触れる機会を提供するとともに、多くの国内外の人々が日本各地で日本文化を実感し体験できるよう、全国各地の文化資源を活用した事業を展開した。また、日本博 2.0 公式 Web サイトや SNS において、万博関連記事を取り上げ、万博機運の醸成に貢献した。 ・日本博公式ホームページにてインバウンドのニーズに沿った新規記事を約 40 本公開したほか、データを精緻に分析して公式ホームページ等へ誘導を図ったことで海外からの閲覧数、アクセスユーザー数、平均滞在時間が前年度と比較して大幅に増加した。 ・令和 5～7 年度に商談した海外の旅行会社 116 社に対し、様々な切り口のメールマガジンを送付した結果、複数の旅行会社において商品取扱いが開始されたほか、ギリシャ、ドイツ、イタリア等世界各国からオーダーメイドプランへの問合せがあり、団体旅行の受入れが実現した。
数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）	日本博採択事業の外国人来訪者満足度(採択時に事業者が自ら設定した目標値に達した事業の割合が 3 分の 2 以上):56 件/54 件(103.7%) (目標値を達成した事業数:56 件)÷(採択事業数 81 件×2/3:54 件) ※採択事業数 82 件のうち、年度途中で事業廃止となった 1 件を評価対象から除く。
主要な業務実績	「最高峰の文化資源の磨き上げによる満足度向上事業」の実施 委託型：交付件数 67 件、委託金額 3,576 百万円 補助型：補助件数 15 件、補助金額 342 百万円 ・参画型の認証 文化施設・団体等 6 件 プロジェクト 138 件 ・戦略的なプロモーションの実施 日本博公式ホームページ 1,800,118PV(前年比 1.3 倍) (海外から 1,675,903PV(前年比 1.4 倍)) Instagram フォロワー数 22,867 人(前年比 4,371 人増)
課題と対応	・「日本の美と心」を基本コンセプトとし、全国各地で魅力ある文化コンテンツを造成して、オーバーツーリズム対策や国際発信力の強化に努め、外国人来訪者の増加や地方誘客を促進するとともに、国内において日本文化の本質を深く理解し楽しむことによって、文化芸術の振興を図る。 ・外国人来訪者満足度に加えて、ホームページへのアクセス数などを令和 8 年度から新たに評価指標として設定し、事業全体を適正に評価できるようにする。

2-(1) 伝統芸能の公開

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(1) 伝統芸能の公開

つとめて伝承のままの姿で多様な伝統芸能の公開を行い、その適切な保存と振興を図る

再整備期間中に実施する代替施設での公演においては、新たな観客層の獲得に資する上演方法等を検討

ア 歌舞伎公演：筋の展開が理解しやすい「通し狂言」での上演、上演の途絶えた優れた演目・場面の復活、新作等の上演、解説を付した公演等の実施

イ 文楽公演：「通し狂言」や見せ場を中心に複数演目を並べる「見取り狂言」等の様々な形態での上演、上演の途絶えた優れた演目・場面の復活、新作の上演、解説を付した公演等の実施

ウ 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等公演：質の高い技芸の公開、芸能の特性を踏まえた企画性の高い公演等の実施

エ 大衆芸能公演：寄席を中心に受け継がれてきた伝統的な大衆芸能の公演、多彩な出演者による企画性の高い公演等の実施

オ 能楽公演：伝統的な能狂言の演目と各流の演者を能楽全体を見渡す視点に立って組み合わせた公演、上演の途絶えた優れた演目の復曲、新作の上演、解説を付した公演、企画性の高い公演等の実施

カ 組踊等沖縄伝統芸能公演：組踊等沖縄伝統芸能の鑑賞機会の提供、上演の途絶えた優れた演目の復曲、新作の上演、解説を付した公演、本土の芸能やアジア・太平洋地域の芸能も取り上げる企画性の高い公演等の実施

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(1) 伝統芸能の公開

ア 伝統芸能の保存と振興を図るため、別表 1 のとおり主催公演を実施、国立劇場等の再整備期間中は代替施設で公演を実施、日本博に関連した公演を企画。国立文楽劇場の文楽公演については、大阪・関西万博の開催時期を踏まえて実施。

イ 演目の拡充

①歌舞伎：復活等上演時の「国立劇場文芸研究会」による補綴

新作歌舞伎脚本の募集にあたり説明会を実施

②文楽：上演が途絶えていた場面の復活、新作も視野に入れた上演に向けての準備

③能楽：上演機会の稀な作品の上演、国立能楽堂制作による復曲作品の再演及び、演出を再検討した復曲作品の上演、他の能楽堂等で上演された復曲作品と新作の再演

④組踊等沖縄伝統芸能：組踊、琉球舞踊、三線音楽、沖縄芝居、民俗芸能及び本土の芸能など多様なジャンルの公演の上演

上演機会の少ない優れた演目や古典の様式を踏まえた新作の上演

「新作組踊戯曲大賞」の公募・選考・表彰

ア 主催公演の実施

《分野別公演実績(伝統芸能分野総計)》

分野	実績					計画					入場者数 達成率
	公演数	回数	日数	入場者数	入場率	公演数	回数	日数	入場者数	入場率	
歌舞伎	4	91	67	60,614	69.3%	4	94	70	47,300	53.0%	128.1%
文楽	8	464	164	134,873	42.1%	8	441	164	123,700	39.2%	109.0%
舞踊	3	6	3	3,049	69.5%	3	6	3	1,720	40.1%	177.3%
邦楽	4	4	4	1,484	68.8%	3	3	3	1,150	65.1%	129.0%
雅楽	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
声明	1	1	1	966	83.0%	1	1	1	1,070	91.9%	90.3%
民俗芸能	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
琉球芸能	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
特別企画	7	7	7	4,083	67.8%	4	4	4	2,560	66.5%	159.5%
舞踊・邦楽等	15	18	15	9,582	70.0%	11	14	11	6,500	58.8%	147.4%
大衆芸能	49	167	166	21,747	54.4%	48	165	164	21,750	55.1%	100.0%
能楽	51	63	58	38,720	98.0%	51	63	58	35,050	88.7%	110.5%
組踊等	19	28	25	10,961	70.7%	19	28	25	9,289	60.2%	118.0%
合計	146	831	495	276,497	53.5%	141	805	492	243,589	47.8%	113.5%

※入場者数達成率＝実績入場者数/計画入場者数

※単位は、公演数：公演、回数：回、日数：日、入場者数：人

※計数はそれぞれ四捨五入により単位未満を処理しているため、合計において一致しない場合がある。

※公演収支の改善状況については、(4)伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等に記載。

※6月特別企画韓国公演については、総席数が確認できなかったことから、入場率の算出対象から除外している。

《館別公演実績(伝統芸能分野総計)》

館名	公演数	回数	日数	入場者数	入場率
代替劇場(国立劇場)	18	222	122	109,236	66.2%
代替劇場(国立演芸場)	41	140	140	17,854	50.8%
国立能楽堂	51	63	58	38,720	98.0%
国立文楽劇場	17	378	150	99,726	38.1%
文楽劇場	10	352	125	96,401	37.5%
小ホール	7	26	25	3,325	80.4%
振興会小計	127	803	470	265,536	53.1%
国立劇場おきなわ	19	28	25	10,961	70.7%
大劇場	17	25	22	10,410	70.5%
小劇場	2	3	3	551	74.7%
合計	146	831	495	276,497	53.7%

※国立劇場・国立演芸場の再整備に伴う代替劇場での公演の実績は、すべて「代替劇場」として表示。

※単位は、公演数：公演、回数：回、日数：日、入場者数：人

※6月特別企画韓国公演については、総席数が確認できなかったことから、入場率の算出対象から除外している。

①歌舞伎

《制作方針》

代替劇場において、会場の特性に合わせた公演を実施し、国立劇場主催公演にふさわしい充実した内容の公演を制作する。

9月には、「歌舞伎名作入門」として一般向けの入門公演を実施する。1月は、有名作品でありながら上演機会に恵まれてこなかった演目を、初春公演にふさわしい体裁に補綴して本格的な「通し狂言」として上演する。

6月・7月には青少年等を対象とした入門公演を実施し、英語による観劇サポートを充実させた外国人向けの公演も実施する。また、6月に静岡県、神奈川県において移動公演を実施する。

以上により、歌舞伎の保存・振興を図る。

○

新国立劇場中劇場を使用して実施する9月歌舞伎公演は、青少年向けの「歌舞伎鑑賞教室」で取り上げる機会のない名作を一般の客層向けに提供する「歌舞伎名作入門」として、義太夫狂言屈指の大作「仮名手本忠臣蔵」の中で名場面として知られながら上演頻度の低い「九段目」を、伏線となる「二段目」とともに上演する。各場面の上演前に平易な解説を付け、来場者が予備知識なしで気軽に名作を楽しめるよう工夫を凝らす。人間国宝・中村梅玉の加古川本蔵をはじめ、中村鴈治郎の桃井若狭之助と大星由良之助、中村扇雀の本蔵妻戸無瀬、市川門之助の由良之助妻お石など、キャリアの長い俳優陣がいずれも初役に挑むほか、大星力弥役の中村虎之介や本蔵娘小浪役の中村玉太郎といった若手俳優にとっても貴重な経験を積める機会となり、実演家が先人の芸を継承する上でも有益な公演となることを目指す。

同じく新国立劇場中劇場で実施する初春歌舞伎公演は、有名作品ながら上演頻度が少ない「鏡山旧錦絵」を17年ぶりに通し狂言として上演する。通常上演される場面に加え、国立劇場文芸研究会の創作による華やかな大詰「右大將頼朝花見の場」を新たに設け、初春公演に相応しい明るい作品作りを企図する。八代目尾上菊五郎が襲名後初めての国立劇場主催公演出演で召使いお初を20年ぶりに勤めるほか、中村時蔵が中老尾上、坂東彌十郎が局岩藤にそれぞれ初役で挑み、七代目尾上菊五郎が源頼朝役で舞台を引き締めるなど、適材適所の配役により、芸の継承を図りながら充実した舞台を提供することを目指す。

また、歌舞伎を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図ることを目的として、主に歌舞伎初心者を対象とした解説付きの入門公演「歌舞伎鑑賞教室」を実施する。

6月は荒川区のサンパール荒川を拠点に、中村鴈治郎家に伝わる家の芸「玩辞楼十二曲」の中から「土屋主税」を上演する。本作の鑑賞教室での上演は初めて、巡業を除く東京での上演は35年ぶりとなる。旗本・土屋主税を家の芸として継承する中村扇雀が演じ、中村錦之助が大高源吾を、嵐橋三郎が晋其角を勤めるほか、侍女お園の坂東新悟、落合其月の市川青虎など若手世代を積極的に起用し、次世代への芸の継承を図る。併せて、歌舞伎の魅力や約束事、作品の見どころなどを分かりやすく紹介するため、「解説 歌舞伎のみかた」を上演する。期間中には、社会人向けの公演「大人のための歌舞伎入門」を14日午後7時開演で実施する。また、英語対応を充実させた外国人向けの公演「Discover KABUKI」を20日に実施する。さらに東京地区以外でも鑑賞機会を提供するため、23日に静岡市の静岡県コンベンションアーツセンター・グランシップ、25・26日に横浜市の神奈川県立青少年センターで移動公演を行う。

7月は、盛夏の時期に定番の怪談物の名作舞踊劇「色彩間苧豆一かさね」を上演する。鑑賞教室の演目としては初めての上演となる。襲名後初の国立劇場出演となる中村萬壽がかさねを、中村芝翫が12年ぶりに与右衛門を演じ、円熟した出演者による本格的な歌舞伎舞踊に触れる機会とする。併せて、歌舞伎の魅力や様々な約束事、作品の見どころなどをわかりやすく紹介するため、「解説 歌舞伎のみかた」を上演する。公演期間が各種学校の夏休みの時期に当たることから、「親子で楽しむ歌舞伎教室」として児童・生徒と保護者が一緒に鑑賞できる機会を提供する。また、英語対応を充実させた外国人向けの公演「Discover KABUKI」を25日午後7時開演で実施する。

(a)公演実績

公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
		回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
9月歌舞伎公演 「歌舞伎名作入門 仮名手本忠臣蔵」	9/5～27 新国立劇場中劇場	21	21	8,995	46.8%	24	24	5,900	26.8%	152.5%

新春歌舞伎公演 「通し狂言 鏡山旧錦絵」	1/5～27 新国立劇場中劇場	21	21	14,016	72.5%	21	21	10,300	53.5%	136.1%
6月歌舞伎鑑賞教室 「解説 歌舞伎のみかた」 「土屋主税」	6/4～21 サンパール荒川	32	16	19,712	66.6%	32	16	18,800	63.5%	104.9%
7月歌舞伎鑑賞教室 「解説 歌舞伎のみかた」 「色彩間菰豆」	7/17～26 ティアラこうとう	17	9	17,891	92.6%	17	9	12,300	66.5%	145.5%
歌舞伎【合計】	4公演 計画:4公演	91	67	60,614	69.3%	94	70	47,300	53.0%	128.1%

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b)外部専門家等の意見

- ・歌舞伎公演専門委員会について、第1回は5/26に、第2回は3/27に実施した。

(c)アンケート調査

公演数	配布数(A)	回収数(B)	回答数(C)	満足数(D)	回収率 (B/A)	満足回答率 (D/C)
4公演	2,520	1,674	1,474	1,464	66.4%	99.3%

(d)優れた業績・評価すべき点

- ・「歌舞伎名作入門」として実施した9月歌舞伎公演は、同年3月の松竹創業130周年記念歌舞伎座興行の通し狂言でも上演されず、10年近く上演機会がなかった「九段目」を、関連深い「二段目」と合わせて上演するという企画性に対して高い評価が寄せられた。上演にあたり、「九段目」でカットされがちな「雪転し」の部分を含めた丁寧な上演を心掛けたことや、各幕の冒頭に口上人形によるご案内パートを設けた工夫に対しても、SNSを中心に好意的な声が多数寄せられ、国立劇場が提供する歌舞伎公演としての意義を示すことができた。舞台成果としても、ベテランから若手まですべて初役揃いという意欲的な配役が実現した中で、高い水準の舞台が展開され、実演家の芸の継承の面でも貢献することができた。
- ・名作として知られながら上演機会に恵まれてこなかった「鏡山旧錦絵」を通し狂言として17年ぶりに取り上げた初春歌舞伎公演では、「歌舞伎には不向きな新国立劇場の舞台・客席の不自由さを乗り越えての好舞台」、「古典を尊ぶ国立劇場ならではの良心的な制作」、「歌舞伎座等での歌舞伎公演と相互に補完し合いつつ、重要な古典演目の技芸の伝承や、演目・演出の多様性を担保するという、国立劇場に求められる役割を果たしている」等、多くの肯定的な意見が寄せられ、国立劇場の存在意義を示すことができた。八代目尾上菊五郎のお初に対して、尾上役に中村時蔵、岩藤役に坂東彌十郎を初役で起用した配役は、バランスの取れた競演として評判を呼んだだけでなく、芸の継承に寄与することにもなった。また、七代目尾上菊五郎が源頼朝役で登場する大詰「右大将頼朝花見の場」を国立劇場文芸研究会の手で創作することで、初春公演に寄せられる来場者からの期待に応える、充実した内容の舞台を提供することができた。

【特記事項】

- ・令和7年度日本博2.0事業(委託型)(6月、7月教室「Discover KABUKI」)
- ・令和7年度日本博2.0事業(参画型)(9月歌舞伎、初春歌舞伎)
- ・新国立劇場中劇場のオーケストラピットに当たる部分を迫り上げて舞台の一部とし、張り出し舞台の形状とした。また1階席下手側前方の客席を一部撤去して花道を特設した。(9月歌舞伎、初春歌舞伎)
- ・仮設花道の真正面に当たる1階席4席を「花道正面席」(20,000円、出演者サイン色紙の特典付き)として販売した。(9月歌舞伎)
- ・上演場面ごとに、冒頭で口上人形と人物関係図パネルを用いた事前解説を提供した。(9月歌舞伎)
- ・劇中(大詰「右大将頼朝花見の場」)で出演俳優による手拭い撒きを行った。(初春歌舞伎)
- ・大使招待を実施した。(初春歌舞伎、1/21)

②文楽

《制作方針》

文楽の保存と振興のため、「通し狂言」「見取り狂言」等の様々な形態により上演する。

それらの公演の中で、上演頻度が少ない演目や場面を積極的に取り上げ、文楽技芸員にとって次世代への技芸の継承やレパトリーの拡充につながるよう、また、観客に対しても文楽の作品の多様さを伝えられるように努める。

また、解説を付した鑑賞教室を継続して実施する。初心者や低年齢層にも鑑賞しやすく、文楽の魅力に触れることができるような新作の上演にも取り組む。併せて、外国人旅行者等に訴求力のある公演を制作する。

初代国立劇場閉場期間ではあるものの、人形浄瑠璃文楽の振興のために、レパトリーの先細りを避け、その上でこれまで以上に観客層の拡大に取り組む。

○

5月は初代国立劇場閉場後に3回目の上演となるシアター1010で、三部制公演を実施する。第一部は安倍晴明誕生にまつわる物語が明確になるよう、東京では20年ぶりの上演となる「加茂館」「安名物狂」「信田森二人奴」を含めた通しに近い形で上演に取り組む。第二部は、有名狂言の鑑賞機会を提供する。文楽の鑑賞機会が少ない層に対する訴求力を高め、第一部と対照的に有名狂言の「義経千本桜」の二段目と道行を取り上げる。また、第三部では〈文楽名作入門〉と題し、鑑賞前には作品の世界を理解できる工夫を行い、短い時間で鑑賞できる「平家女護島」を上演し、手ごろな価格で提供する。

2月は初めての開催である神奈川芸術劇場ホールにて、第一部と第二部を通して、「絵本太功記」の上演を行う。東京・大阪ともに19年間にわたり上演がなかった「安土城中」「局注進」「長左衛門切腹」「瓜献上」を含めて、光秀の謀反という有名なストーリーとともに、久吉の躍進というもう一つの物語の柱を提示する。これにより、当代の観客層の作品理解の助けとすると同時に、出演者にとっては次世代への演目の継承を目的とする。また、第三部は5月に引き続き〈文楽名作入門〉として、新しい観客の来場をねらうべく、神奈川芸術劇場ホールの特徴を生かして、文楽では珍しい花道を設置し「勅進帳」を上演する。初代国立劇場開場においても例がなかった花道から義経一行の引っ込みを見せる演出を行う。

12月は東京芸術劇場プレイハウスという舞台設備に恵まれた上演環境を活かして、文楽鑑賞教室では上演実績のない「国性爺合戦」を上演する。希代の劇作家である近松門左衛門が海外を舞台に描いた作品としての面白さと、床と人形によるダイナミックな演奏・演技を通じて、文楽初心者にも人形浄瑠璃文楽の魅力を伝えることを目指す。これまで通り、作品上演とともに、実演家による解説を付して実施する。

○

文楽劇場は、2025年大阪・関西万博の開催に合わせ、インバウンドを含む外国人の誘致に重点を置き、例年よりも長期にわたって開催し、万博会場の地元の劇場としての存在と世界に誇る日本の伝統芸能としての文楽の魅力をアピールする。

4月公演は、人形浄瑠璃の三大名作の一つとされる「義経千本桜」を「通し狂言」として上演する。令和2年4月公演で上演を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、公演中止とした。この公演期間中の13日から開催の「大阪・関西万博」の来場者を含む外国人の集客も見据え、現在の鑑賞傾向に鑑みて三部制で実施する。初段「仙洞御所」からの通し上演は平成16年(2004)以来21年ぶりである。

夏休み特別公演は2025大阪・関西万博開催記念と銘打ち、第1部は子供と保護者を対象にした「親子劇場」、第2部は「名作劇場」、第3部は「サマーレイトショー」という恒例の三部制で開催する。第1部は、「西遊記」を一昨年、昨年に続いての《完結篇》として上演し、詞章の現代語への改訂や舞台機構を駆使した演出で、一層親しみやすい娯楽作品を目指す。また、解説「文楽ってなあに？」は、子供にもわかりやすい文楽の紹介と人形の構造や遣い方を解説する。第2部は、「一谷嫩軍記」「桂川連理柵」という時代物と世話物の代表作の上演で、文楽の神髄を堪能できる構成とする。第3部は、大阪・関西万博に来場する外国人の集客を意識し、冒頭に英語を交えた解説「Welcome to BUNRAKU!」の上演と英語の字幕表示に加え、日本文化の一ジャンルである「刀剣」をテーマとした「伊勢音頭恋寝刃」「小鍛冶」を上演する。また、「小鍛冶」が銘剣・小狐丸の誕生にまつわる演目であることから、名剣を擬人化したキャラクターが登場するオンラインゲーム「刀剣乱舞 ONLINE」とのコラボレーションを演出及び広報・観客サービスで企画し、若年層をはじめとする来場者の新規開拓も図る。

例年11月開催の秋季の文楽公演は、2025大阪・関西万博の閉幕時期に合わせ、9月から10月中旬にかけての異例の36日ロングラン公演を開催し、外国人や初心者等の来場者の新規開拓を図る。比較的コンパクトな上演時間で来場者の利便性を考慮した三部制で、公演期間の半ばで11:00開演の部と18:00開演の部の演目を入れ替え、集客の増加を図る。11:00開演の部と18:00開演の部では、主に外国人来場者に重点を置いた演目を配し、開演時には英語ナレーションによる紹介動画「Welcome to BUNRAKU!」を映写し、わかりやすいストーリーで外国人にも楽しめる「恋女房染分手綱」「日高川入相花王」、昨年アメリカ公演でも注目を集めた「曾根崎心中」を取り上げる。14:00開演の部では、文化庁芸術祭主催公演として、近松

門左衛門の最高傑作と称される「心中天網島」を上演し、充実の配役を揃える。また、日本語・英語の2言語対応を可能にするため、文楽劇場では初めての「字幕アプリ配信方式」による表示を導入する。

初春文楽公演でも三部制を実施し、各部に特色を持たせた構成とする。第1部は、国立劇場の開場から60年を迎える節目の年の初春にちなんだご祝儀曲として「寿式三番叟」で幕を開け、屈指の名作「摂州合邦辻」を上演する。第2部は、演奏・演技ともに高度の技術が要求されるために上演の機会が限られる「新薄雪物語」を平成10年(1998)4月以来28年ぶりに取り上げ、文楽の演目のレパートリーを今後に継承させることも視野に入れ、上演場面を再構成して上演する。第3部は、外国人を含む初心者が理解しやすく、気軽に楽しめる演目として、夫婦の情愛と壺坂寺の眼病封じの利益を描いた名作「壺坂観音霊驗記」と文楽劇場では20年ぶりの「連獅子」を上演し、観客層の新規開拓を図る。

(a)公演実績

公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
		回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
5月文楽公演 第一部「芦屋道満大内鑑」 第二部「義経千本桜」 第三部「平家女護島」	5/9～27 シアター1010	54	18	14,143	46.9%	54	18	11,300	37.5%	125.2%
2月文楽公演 第一部「絵本太功記」 第二部「絵本太功記」 第三部「勸進帳」	2/11～23 KAAT 神奈川芸術劇場 ホール	36	12	13,709	78.4%	36	14	11,300	38.0%	121.3%
12月文楽鑑賞教室 「万才」解説 文楽の魅力」 「国性爺合戦」	12/4～18 東京芸術劇場 プレイハウス	28	14	13,759	69.7%	28	14	10,300	53.2%	133.6%
文楽(東京)【小計】	3公演 計画:3公演	118	44	41,611	61.8%	118	44	32,900	41.5%	126.5%
4月文楽公演 「通し狂言 義経千本桜」	4/5～30 文楽劇場	72	24	21,708	41.2%	72	24	18,000	34.2%	120.6%
夏休み文楽特別公演 「西遊記《完結篇》」解説 文楽ってなあに?」/「一谷嫩軍記」 「桂川連理柵」/「Welcome to BUNRAKU!」 「伊勢音頭 恋寝刃」/「小鍛冶」	7/19～8/12 文楽劇場	69	23	17,233	34.2%	69	23	20,100	39.9%	85.7%
爽秋文楽特別公演 「Welcome to BUNRAKU!」 「恋女房染分手綱」/「日高川入相花王」 「心中天網島」/「Welcome to BUNRAKU!」 「曾根崎心中」	9/6～10/14 文楽劇場	108	36	21,411	27.1%	108	36	23,000	29.1%	93.1%
初春文楽公演 「寿式三番叟」/「摂州合邦辻」 /「新薄雪物語」/「壺坂観音 霊驗記」 「連獅子」	1/3～27 文楽劇場	69	23	21,510	42.6%	46	23	16,100	47.9%	133.6%
6月文楽鑑賞教室 「五条橋」解説 文楽へようこそ」 「三十三間堂棟由来」	6/5～19 文楽劇場	28	14	11,400	55.7%	28	14	13,600	66.4%	83.8%
文楽(大阪)【小計】	5公演 計画:5公演	346	120	93,262	36.9%	323	120	90,800	38.5%	102.7%
文楽【合計】	8公演 計画:8公演	464	164	134,873	42.1%	441	164	123,700	39.2%	109.0%

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b)外部専門家等の意見

- ・文楽公演専門委員会(本館)について、第1回を6/27に、第2回を3/13に開催した。
- ・文楽公演専門委員会(文楽劇場)について、第1回を7/9に、第2回を3/2に開催した。

(c)アンケート調査

区分	公演数	配布数(A)	回収数(B)	回答数(C)	満足数(D)	回収率 (B/A)	満足回答率 (D/C)
東京	3公演	745	491	569	559	65.9%	98.2%
大阪	5公演	978	715	686	679	73.1%	99.0%
合計	8公演	1,723	1,206	1,255	1,238	70.0%	98.6%

(d)優れた業績・評価すべき点

＜東京公演＞

- ・5月は国立劇場主催の文楽公演会場として定着しつつあるシアター1010を会場に、見巧者と鑑賞初心者、両方への誘客を可能にする構成とした。第一部の「芦屋道満大内鑑」は、東京公演の観客が見る機会を得なかった珍しい場面を取り入れた。そして、人形浄瑠璃文楽は名場面だけを継承しているのではなく、ストーリーを追いながら、作者が仕掛けた戯曲としての面白さを堪能できることを示すことができた。また、〈文楽名作入門〉は、「平家女護島」という著名作品、安価な価格設定、70分という上演時間、19時という開演時間設定から、多くの集客を得ることができた。また、外国人観光客にも多く鑑賞機会を提供できた。
- ・2月は神奈川芸術劇場ホールの舞台機構を生かし、「絵本太功記」という優れた戯曲の通し上演と、花道を設置して「勸進帳」の上演を行った。都心から離れた神奈川芸術劇場のみを会場にした公演であったが、多くの観客を得ることができた。「絵本太功記」は「尼ヶ崎」が人口に膾炙した場面であるものの、そこに至るまでの物語を鑑賞する機会はこれまで多くなかった。神奈川芸術劇場ホールは趣向を凝らした演出に対応できる機構を有しており、多くの場面が必要なことから、場面分の大道具の仕込みが必要な通し狂言の上演が可能であった。ほかにも通し狂言で上演可能な作品はあるが、今回は公演時期が大河ドラマの放映開始時期に重なることから、関心の高さを狙い戦国武将が活躍する「絵本太功記」を取り上げた。「勸進帳」は国立劇場の舞台技術と出演者の力が高みで結集し、花道での力強い人形の演技や総勢14名の床の演奏を観客に楽しんでいただくことができた。
- ・12月は、近松門左衛門の作品の中でも異色である海外を舞台にした作品「国性爺合戦」を上演した。人形浄瑠璃文楽が描こうとする登場人物たちが相手を思う気持ちを伝えようとするテーマに変わりはなく、古典演目に親しむ機会を提供できた。また、「国性爺合戦」は本公演でも上演機会が少なく、役に挑むことが限られている中、文楽鑑賞教室で実施している中堅を中心にしたダブルキャストだからこそ、芸員それぞれが役の理解に挑み、出演者同士が切磋琢磨しあう成果をあげることができた。

＜大阪公演＞

- ・文楽劇場は、2025年大阪・関西万博の開催に合わせ、120日にわたる異例の公演スケジュールを編成し、万博開催期間中の公演では、インバウンドを含む外国人来場者を特に意識した演目の選定や鑑賞環境の整備に取り組んだ。また、一日にわたる通し上演やレパトリーの拡充を通じて、人形浄瑠璃文楽の多彩な魅力を発信する公演も企画した。その結果、鑑賞教室を含む5公演を予定どおり実施し、4月、初春の両公演の好成績により、年間の合計で、入場者数が目標を超え、委託費等の収入を除いても公演収支が黒字となった。外国人来場者数が前年比約60%増の約5,400人で、新型コロナウイルス感染症の発症以降では最高となり、所期の目的を達成することができた。
- ・4月文楽公演では、作品ゆかりの地での成功祈願や大阪・関西万博とのタイアップ等、広報・営業活動を特に積極的に展開した。また、集客に苦戦する夜の時間帯の第3部では、宙乗り等の演出や豪華な舞台美術等で外国人にも楽しめる場면을配したことで、入場者数が直近5年で最高の7,500人以上に増えた。この底上げも功を奏し、全体の入場者数が令和2年以降で初めて20,000人を突破して目標を超え、公演収支も目標の約2倍の黒字額となった。
- ・夏休み文楽特別公演では、第1部「西遊記」では上演台本の改訂や舞台機構を駆使した演出が効果を発揮し、子供の来場者にも理解しやすい内容になった。また、若手人形遣いによる終演後のお見送り、子供限定の音声ガイド無料貸出、オリジナルグッズの配布により、子供の来場者の関心と呼んだ。第3部「小鍛冶」上演に伴い、オンラインゲーム「刀剣乱舞 ONLINE」とのコラボレーション企画を精力的に行い、集客の弱い夜間の第3部の売上枚数が5,000枚を超えた。特に「Welcome to BUNRAKU!」での文楽人形「小狐丸」の操演やロビー展示により、人形を撮影した写真や動画がSNSで拡散され、一定の集客にも結び付いたと思われる。
- ・爽秋文楽特別公演は異例の36日ロングラン開催で、出演者・スタッフの体調維持が懸念されたが、全日程を予定どおり実施することができた。Cプロ「曾根崎心中」は、大ヒット映画「国宝」の効果も加わり、入場者数が全体の約41%を占め、3プログラムの中で最も多かった。また、Cプロの入場者数の約65%が11:00開演の部を占めており、演目入れ替えの効果と言える。字幕アプリ配信方式の導入に対する来場者の反応は賛否両論で、外国人来場者向けのアンケート調査では、利用者の約95%が「満足」「やや満足」と回答したが、高齢者を中心に「従来の字幕表示が見やすい」「ダウンロードの設定操作が複雑」等の声も散見され、今後の字幕表示のあり方を検討するうえでの参考となった。
- ・初春文楽公演では、人間国宝3名を中心とする人形遣いの配役や切語りの竹本千歳太夫と豊澤富助という最も充実したコンビの演奏等、当代最高の出演者を揃えた第2部「新薄雪物語」が、広報・営業活動を通じて話題を集めるとともに、舞台成果でも高く評価され、文楽劇場の文楽公演では比較的高い8,900人を超える入場者数を得た。さらに、初春らしい祝儀曲の第1部「寿式三番叟」や外国人を含む初心者が気軽に楽しめる第3部「連獅子」も来場者の興味を集め、公演全体の入場者数は21,510人、公演収支は新型コロナウイルス感染症の発症以降で最高の25,000千円以上の黒字となり、いずれも目標を上回った。

【特記事項】

- ・令和7年度(第80回)文化庁芸術祭主催公演(文楽劇場:爽秋Bプロ)
- ・2025大阪・関西万博開催記念(文楽劇場:夏休み、爽秋)
- ・令和7年度日本博2.0事業(委託型)(本館:12月教室「Discover BUNRAKU」)
- ・令和7年度日本博2.0事業(委託型)の一環として、主に2025大阪・関西万博開催に合わせ、外国人来場者に向けた事業を以下のとおり実施した(文楽劇場)。
 - ① 英語による解説「Welcome to BUNRAKU!」の実施(夏休み第3部:実演、爽秋Aプロ・Cプロ:映像)
 - ② 舞台上部に特設した字幕表示装置により、上演演目の解説を英語で表示(Discover BUNRAKU、夏休み第3部)。
 - ③ 解説での英語ナビゲーターの起用(Discover BUNRAKU)
 - ④ 日本語・英語の2言語対応を可能にするため、従前の舞台上方の字幕表示の代わりとなる「字幕アプリ配信方式」による表示(爽秋)。
 - ⑤ 英語の音声ガイドを実施(4月、Discover BUNRAKU、夏休み第2部、初春=利用実績:1,374台)
 - ⑥ 英語対応が可能な劇場案内スタッフ等を配置(4月、Discover BUNRAKU、夏休み、爽秋、初春)。
- ・令和7年度日本博2.0事業(参画型)(本館:5月、9月、2月、文楽劇場:4月、6月鑑賞教室、夏休み第1部・第2部、爽秋Bプロ、初春)
- ・協力:株式会社ニトロプラス(文楽劇場:夏休み第3部)
- ・後援:大阪府教育委員会、尼崎市(文楽劇場:夏休み)
- ・関西元気文化圏共催事業(文楽劇場:全公演)
- ・振興会の伝統芸能分野では初めて、文化庁「劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業」として割引販売を実施した(文楽劇場:初春1/23~25第3部、販売実績:148枚)。
- ・文楽劇場では令和元年11月以来の當祝を配布(文楽劇場:初春)。
- ・吉田一輔が「曾根崎心中」天満屋お初役の成果により令和7年度大阪文化祭賞を受賞(文楽劇場:爽秋)。
- ・「新薄雪物語」が十三夜会賞1月月間賞を受賞(文楽劇場:初春)。
- ・竹本千歳太夫が「一谷嫩軍記」熊谷陣屋の段と「心中天網島」北新地河庄の段の演奏により令和7年度(第82回)日本芸術院賞受賞(文楽劇場:夏休み、爽秋)。

③舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等

《制作方針》

本館の舞踊公演では、人気オンラインゲームとコラボレーションした公演で日本舞踊を初めて見る観客にも、日本舞踊に親近感をもってもらえる公演を目指す一方、国立劇場開場時から続いていた舞や素踊りを集める公演を実施し、日本舞踊の真髄を示す。

本館の邦楽公演では、義経の生涯に沿って様々な流派の邦楽を聴く公演や、「雪の合方」の旋律が使われた今日を比較する曲を紹介する企画性の高い公演を実施する。また、11月には文楽協会の協力を得て、国立劇場閉場後初めて「文楽素浄瑠璃の会」を実施する。

声明公演では、澄憲作の「如意輪講式」を取り上げ、流麗な響きを持つ天台宗の声明を味わっていただくとともに、雅楽との共演で新たに附楽や附物を試み、より華やかな舞台をお楽しみいただける構成にする。

特別企画公演は4月と3月に実施する。4月「組踊と宗廟祭礼楽」は日韓国交正常化60周年を記念して、日韓両国の宮中芸能が共演する。3月「『遠野物語』を語る」は柳田國男の名著「遠野物語」を文楽の太夫が語り、映像・文楽人形・民俗芸能と織りなす遠野物語の世界をお客様にお楽しみいただくことを目指す。

○

文楽劇場の舞踊公演では、日本舞踊界を代表する舞踊家と演奏家の総出演により、文楽劇場ならではの高い水準の舞踊公演を継続的に提供している。10月「東西名流舞踊鑑賞会」では、日本舞踊界の第一線で華々しい活躍をみせる東西の舞踊家が一堂に会する舞踊公演として、舞踊家、演奏家ともにトップクラスの競演により、歌舞伎舞踊、素踊り、座敷舞、創作舞踊など多彩な形式の舞踊作品を上演し、日本舞踊の魅力に迫る内容とする。振興会主催公演で初演となる創作曲や上演機会の少ない古曲等の作品も積極的に取り上げて、日本舞踊の豊かなバリエーションを紹介するものとする。

邦楽公演では、現在の人形浄瑠璃文楽座において第一線で活躍している、又は躍進を期待されている太夫・三味線弾きが義太夫節を演奏する「素浄瑠璃」の鑑賞会を実施する。28回目を数える今回は、劇的展開に富んだ伝承曲や情愛豊かな人気曲等の多彩な演目を取り上げ、語り物音楽の魅力を堪能できる番組とする。

特別企画公演は5月と11月に実施する。5月「悠久なる雅楽—天王寺楽所の楽統」は、大阪の天王寺楽所雅亮会による管絃、催馬楽、舞楽の名曲を上演する。大阪・関西万博期間中の開催であることも意識し、公演冒頭に外国人、初心者に向けたレクチャーデモンストラーション形式による解説と楽器紹介(英語逐次通訳あり)を行うほか、開演前の舞台上に装束・楽器を展示したステージ見学を実施し、雅楽に親しめる機会を提供する。11月「人間国宝の至芸—源平の世界を聴く—」は文楽劇場で初めての人間国宝の会として、「源平の世界を聴く」というテーマのもと、関西在住の人間国宝5名が揃い至芸を披露する。各演目解説を担当するナレーションの人選も含め、上方の伝統芸能の拠点である大阪の文楽劇場ならではの公演として、当代最高峰の名人たちの豪華競演を堪能できる番組とする。

(a)公演実績

《公演別公演実績》

公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
		回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
8月舞踊公演 「国立劇場×刀剣乱舞 ONLINE 刀剣男士髭切・膝丸がいざなう！ 日本舞踊の楽しみ Discover NIHONBUYO」	8/9 浅草公会堂	2	1	1,693	80.9%	2	1	560	28.2%	302.3%
11月舞踊公演 「舞踊鑑賞会」	11/29 大手町ホール	2	1	642	68.2%	2	1	560	59.4%	114.6%
舞踊(東京)【小計】	2公演 計画:2公演	4	2	2,335	77.0%	4	2	1,120	38.2%	208.5%
5月邦楽公演 「邦楽で聴く義経伝説 —英雄の生涯をたどる—」	5/17 国立能楽堂	1	1	379	60.4%	1	1	400	63.8%	94.8%
11月邦楽公演 「文楽素浄瑠璃の会」 ※年度計画外	11/17 サントリーホール ブルーローズ	1	1	331	92.5%	—	—	—	—	—
1月邦楽公演 「表現のあじわい—雪—」	1/24 新国立劇場 小劇場	1	1	351	84.0%	1	1	350	90.7%	100.3%

公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
		回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
邦楽(東京)【小計】	3 公演 計画:2 公演	3	3	1,061	75.6%	2	2	750	74.0%	141.5%
10 月声明公演 「如意輪講式 —天台声明と管絃による—」	10/25 ティアラこうとう	1	1	966	83.0%	1	1	1,070	91.9%	90.3%
声明(東京)【小計】	1 公演 計画:1 公演	1	1	966	83.0%	1	1	1,070	91.9%	90.3%
4 月特別企画公演 「組踊と宗廟祭礼楽 —日韓宮中芸能の共演—」	4/19 文京シビック 大ホール	1	1	676	41.2%	1	1	1,300	79.3%	52.0%
6 月特別企画韓国公演 (ソウル公演) ※年度計画外	6/13 韓国国立国楽院 礼楽堂	1	1	495	—	—	—	—	—	—
6 月特別企画韓国公演 (釜山公演) ※年度計画外	6/15 韓国国立釜山国 楽院 ヨナクダン	1	1	353	—	—	—	—	—	—
3 月特別企画公演 『遠野物語』を語る—語り・芸能・映像 が織りなす遠野の世界— ※年度計画外	3/8 遠野市民セン ター	1	1	480	51.9%	—	—	—	—	—
3 月特別企画公演 『遠野物語』を語る—語り・芸能・映像 が織りなす遠野の世界—	3/28 シアター1010	1	1	645	92.4%	1	1	400	57.1%	161.3%
特別企画(東京)【合計】	5 公演 計画:2 公演	5	5	2,649	55.2%	2	2	1,700	72.6%	155.8%
舞踊・邦楽等(東京)【合計】	11 公演 計画:7 公演	13	11	7,011	69.5%	9	7	4,640	62.3%	151.1%
10 月舞踊公演 「東西名流舞踊鑑賞会」	10/18 文楽劇場	2	1	714	52.7%	2	1	600	44.3%	119.0%
舞踊(大阪)【小計】	1 公演 計画:1 公演	2	1	714	52.7%	2	1	600	44.3%	119.0%
7 月邦楽公演 「文楽素浄瑠璃の会」	7/5 文楽劇場	1	1	423	56.2%	1	1	400	53.1%	105.8%
邦楽(大阪)【小計】	1 公演 計画:1 公演	1	1	423	56.2%	1	1	400	53.1%	105.8%
5 月特別企画 「悠久なる雅楽 —天王寺楽所の楽統—」	5/31 文楽劇場	1	1	720	95.6%	1	1	530	70.4%	135.8%
11 月特別企画 「人間国宝の至芸 —源平の世界を聴く—」	11/28 文楽劇場	1	1	714	94.8%	1	1	330	43.8%	216.4%
特別企画(大阪)【小計】	2 公演 計画:2 公演	2	2	1,434	95.2%	2	2	860	57.1%	166.7%
舞踊・邦楽等(大阪)【合計】	4 公演 計画:4 公演	5	4	2,571	71.2%	5	4	1,860	51.5%	138.2%
舞踊・邦楽等【総合計】	15 公演 計画:11 公演	18	15	9,582	70.0%	14	11	6,500	58.8%	147.4%

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※6 月特別企画韓国公演については、総席数が確認できなかったことから、入場率の算出対象から除外している。

(b)外部専門家等の意見

- ・舞踊公演専門委員会について、第 1 回は 7/3、第 2 回は 3/25 に開催。
- ・邦楽公演専門委員会について、第 1 回は 7/4、第 2 回は 3/23 に開催。
- ・雅楽・声明公演専門委員会について、第 1 回は 7/10、第 2 回は 3/24 に開催。
- ・民俗芸能・琉球芸能公演専門委員会について、第 1 回を 7/10 に開催。

※民俗芸能・琉球芸能公演専門委員会の評価対象である3月特別企画公演が3/28の実施であるため、第2回は4/13に開催予定。

- ・短期公演等専門委員会(文楽劇場)を2回開催。第1回は7/29、第2回は3/5。

(c)アンケート調査

公演数	配布数(A)	回収数(B)	回答数(C)	満足数(D)	回収率 (B/A)	満足回答率 (D/C)
6 公演	4,707	3,579	3,095	3,029	76.0%	97.9%

(d)優れた業績・評価すべき点

《本館》

＜舞踊＞

- ・8月舞踊公演では、人気オンラインゲーム「刀剣乱舞 ONLINE」とのコラボレーションを実施した。舞踊家と刀剣男士 髭切、膝丸のとりおろし音声掛け合いながら進行する解説と、刀剣 髭切、膝丸にゆかりのある舞踊作品の鑑賞を組み合わせることで、初めて見る観客にも、日本舞踊に親近感をもってもらえる公演となった。

11月舞踊公演では、国立劇場開場以来、長らくシリーズとして続けてきた「舞の会」、および「素踊りの会」を開催した。どちらも趣向が異なる名作を中心とした番組で、出演者に第一線で活躍している舞踊家および演奏家を起用することで日本舞踊の真髄を示す公演となった。

＜邦楽＞

- ・5月邦楽公演では、趣向が異なる4作品の上演で、邦楽の幅広さ、趣の違いなどを紹介し、観客の邦楽への理解を深めることができた。また、演目の題材となっている逸話の背景やそこに至るまでの義経の人生を講談調で語った演目前のご案内も好評を得た。
- ・初代国立劇場閉場後開催できていなかった「文楽素浄瑠璃の会」を実現した。「絵本太功記」という大作において脇筋にあたることから、上演機会が限られてしまう作品を演奏者、また観客に対しても伝承する機会を作ることができた。
- ・1月邦楽公演では、邦楽の特徴的な表現について取り上げ、その由来となった地歌とともに他の三味線音楽への多様な広がりを紹介することができた。国立劇場主催公演では平成17年以来、演奏機会がなかった小唄を取り上げ、邦楽のジャンルの多様性を発信することができた。

＜声明＞

- ・10月声明公演「如意輪講式」では和文声明の「講式」にスポットを当て、語り物の声明の魅力を紹介することができた。また、開催場所の自治体と連携して事前講座を行い、多くの地元の方々に来場いただけたことで、国立劇場の新規客層の開拓に寄与することができた。

＜特別企画＞

- ・4月特別企画公演「組踊と宗廟祭礼楽」では、琉球舞踊・組踊と韓国の宗廟祭礼楽が共演した。国立劇場での宗廟祭礼楽の上演は平成14年5月以来で、両国の宮中芸能を一度に見られる貴重な機会となった。また、日韓両国の伝統文化について観客の理解が深まる一助となった。
- ・3月特別企画公演「『遠野物語』を語る」は初代国立劇場閉場後初めて民俗芸能の上演となった。本公演は振興会と岩手県遠野市が共同で制作し、遠野と東京の2会場で上演したことで、伝統芸能の公演制作における地方との連携を図ることができた。

《文楽劇場》

＜舞踊＞

- ・10月「東西名流舞踊鑑賞会」は、斯界トップクラスの舞踊家、演奏家の総出演による多彩な作品の上演を通して、日本舞踊の魅力を広く届けるとともに、各流派の芸の継承の点で大きな役割を果たした。特に、上演機会の少ない古曲の一中節の作品で若衆の扮装で舞う「都若衆万歳」や主催公演では初めての「築地明石町」、舞台美術に工夫を凝らした大曲「安達ヶ原」は意義深い上演となった。また、他の演目でも話題を集め、入場者数が目標を約19%上回った。

＜邦楽＞

- ・切語り2名を中心とする文楽座の精鋭の出演に加え、特に芸の継承の観点から「鬼一法眼三略巻」菊畑の段が広報等で話題を集め、友の会会員を中心に集客を堅実に伸ばし、入場者数は目標を上回るとともに、公演費の圧縮の効果も加わって公演収支を黒字にすることができた。

＜特別企画＞

- ・5月「悠久なる雅楽－天王寺楽所の楽統」は、管絃、催馬楽、舞楽を揃えた名曲ラインアップを、通訳付きの事前解説(レクチャーデモンストレーション)や雅楽ステージ見学、日本語・英語併記のプログラムとと

もに提供し、雅楽ファンのみならず、初心者や外国人来場者に対しても、雅楽の魅力を紹介することができた。公演は満席となり、公演収支も黒字となった。雅楽への関心の高さを示すとともに、ステージ見学には約半数の来場者が参加するなど、普及面でも効果があったといえる。

- ・ 11 月「人間国宝の至芸一源平の世界を聴く」では、国宝、源平等の話題性が早期のチケット完売に結び付いた。文楽劇場で初めてとなる「人間国宝の会」として、地元関西在住の人間国宝による完成度の高い圧巻の舞台を提供できたことは意義深い。舞台美術やナレーションにも工夫を凝らし、視覚・聴覚面でも各ジャンルや作品の世界への導入に成功した。

【特記事項】

- ・ 令和 7 年度(第 80 回)文化庁芸術祭主催公演(本館:11 月舞踊、文楽劇場:10 月舞踊、11 月特別企画)
- ・ 令和 7 年度日本博 2.0 事業(委託型)(本館:4 月特別企画、8 月舞踊、3 月特別企画、文楽劇場:5 月特別企画)
- ・ 令和 7 年度日本博 2.0 事業(委託型)として、以下のとおり実施した(文楽劇場 5 月特別企画)。
 - ① 雅楽ステージ見学
 - ② 「お話／実演」の音声ガイドによる英語の逐次通訳(機器の無料貸出)
 - ③ 公演プログラム(日英併記)の無料配布
 - ④ インバウンド向け配信事業の実施(9/18～R8.9/30)
- ・ 令和 7 年度日本博 2.0 事業(参画型)(本館:4 月特別企画、8 月舞踊、3 月特別企画を除く全公演、文楽劇場:5 月特別企画を除く全公演)
- ・ 関西元気文化圏共催事業(文楽劇場:全公演)

④大衆芸能

《制作方針》

寄席で演じられる大衆芸能には、落語・講談・浪曲のほか、奇術・太神楽曲芸・漫才・漫談・コント・ものまね・俗曲といった多種多様な分野の芸能が含まれている。また、落語に代表されるように、江戸と上方といった地域ごとに独自の発展を遂げてきた分野の芸能もある。国立演芸場及び国立文楽劇場では、大衆芸能の多様な内容を幅広く取り入れ、地域性を加味した公演を企画・立案し、その普及・振興を図るとともに、演芸家の技芸の伝承にも配慮した公演の制作を行うこととする。

演芸場では、従来からの寄席形式で構成する定席公演を中心に大衆芸能公演を実施する。

定席公演は、公益社団法人落語芸術協会及び一般社団法人落語協会所属の演芸家を中心に出演者を選定する。落語、講談、浪曲、奇術、太神楽曲芸、漫才、コント、俗曲等、様々な分野の演芸家が出演することによって大衆芸能の多彩な魅力を伝えとともに、世代、性別を問わず幅広い観客層が楽しめるような公演を企画する。また、民間の寄席に比べ、一人(組)当たりの高座時間を長く確保することによって、内容を割愛することなく落語を一席務めることができるようにするなど、技芸の伝承にも配慮した公演制作を目指す。

若手新人公演は、各分野の若手演芸家が、年間で花形演芸大賞を競う競争性の高い公演で、優秀者に賞を授与することで、その育成と技芸向上を目指す。落語に限らず、多種多様な大衆芸能の分野からの出演者を選定する。

初代国立演芸場開場後、令和6年1月より代替施設において定席に相当する公演を「国立演芸場寄席」と題し、若手新人公演とともに継続している。

○

文楽劇場では、大阪における伝統的な演芸場のかつての賑わいを取り戻すべく、上方の大衆芸能の普及・振興を目指す。

2月「浪曲名人会」は、開場の翌年の昭和61年(1986)から開催し、関西浪曲界の第一人者が揃う恒例の公演。今回は、昭和100年を記念し、昭和にちなんだ演題を上演する。また、令和6年に「浪曲語り」が国の重要無形文化財に指定されたことを受け、初の取組みとして冒頭に若手浪曲師と曲師による実演付きの解説を行い、浪曲の魅力をわかりやすく紹介する。

6月「浪曲錬声会」は、次代を担う若手浪曲師の「語り」の向上を目的にした二部制の公演。若手浪曲師4名に各部1席の口演で日頃の研鑽の成果を披露させ、今後の飛躍に繋げる公演とする。今回は、「浪曲ご当地めぐり」と題し、第1部では東日本、第2部では西日本の各地を舞台にした演題を取り上げる。

奇数月開催の「上方演芸特選会」では、落語、浪曲、漫才、マジックなど多彩な演芸種目を上演する昔ながらの寄席として、上方演芸4団体(上方落語協会・浪曲親友協会・関西演芸協会・関西芸能親和会)と協力し、大衆芸能各分野の技芸の継承保存と関西演芸界の振興に努める。

(a)公演実績

公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
		回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
4月国立演芸場寄席(16日～20日)	4/16～20 紀尾井小ホール	5	5	703	56.2%	5	5	560	44.8%	125.5%
4月国立演芸場寄席(21日～25日)	4/21～25 紀尾井小ホール	5	5	273	21.8%	5	5	560	44.8%	48.8%
5月国立演芸場寄席(6日～10日)	5/6～10 紀尾井小ホール	5	5	478	38.2%	5	5	560	44.8%	85.4%
5月国立演芸場寄席(26日～30日)	5/26～30 紀尾井小ホール	5	5	826	66.1%	5	5	700	56.0%	118.0%
6月国立演芸場寄席(16日～20日)	6/16～20 紀尾井小ホール	5	5	899	71.9%	5	5	560	44.8%	160.5%
6月国立演芸場寄席(23日～27日)	6/23～27 紀尾井小ホール	5	5	1,208	96.6%	5	5	560	44.8%	215.7%
7月国立演芸場寄席(14日～18日)	7/14～18 紀尾井小ホール	5	5	567	45.4%	5	5	700	56.0%	81.0%
7月国立演芸場寄席(21日～25日)	7/21～25 紀尾井小ホール	5	5	381	30.5%	5	5	560	44.8%	68.0%
8月国立演芸場寄席(6日～10日)	8/6～10 深川江戸資料館	5	5	410	35.3%	5	5	560	48.3%	73.2%
8月国立演芸場寄席(11日～15日)	8/11～15	5	5	400	31.7%	5	5	560	44.4%	71.4%

公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
		回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
	すみだトリフォニーホール									
9 月国立演芸場寄席(3 日～7 日)	9/3～7 深川江戸資料館	5	5	415	35.8%	5	5	560	48.3%	74.1%
9 月国立演芸場寄席(22 日～26 日)	9/22～26 すみだトリフォニーホール	5	5	355	28.2%	5	5	560	44.4%	63.4%
10 月国立演芸場寄席(1 日～5 日)	10/1～5 深川江戸資料館	5	5	275	23.7%	5	5	560	48.3%	49.1%
10 月国立演芸場寄席(27 日～31 日)	10/27～31 すみだトリフォニーホール	5	5	399	31.7%	5	5	560	44.4%	71.3%
11 月国立演芸場寄席(5 日～9 日)	11/5～9 深川江戸資料館	5	5	925	79.7%	5	5	700	60.3%	132.1%
11 月国立演芸場寄席(24 日～28 日)	11/24～28 すみだトリフォニーホール	5	5	315	25.0%	5	5	560	44.4%	56.3%
12 月国立演芸場寄席(1 日～5 日)	12/1～5 すみだトリフォニーホール	5	5	371	29.4%	5	5	560	44.4%	66.3%
12 月国立演芸場寄席(16 日～20 日)	12/16～20 深川江戸資料館	5	5	441	38.0%	5	5	560	48.3%	78.8%
1 月国立演芸場寄席(5 日～9 日)	1/5～9 すみだトリフォニーホール	5	5	990	78.6%	5	5	560	44.4%	176.8%
1 月国立演芸場寄席(14 日～18 日)	1/14～18 深川江戸資料館	5	5	497	42.8%	5	5	560	48.3%	88.8%
2 月国立演芸場寄席(12 日～16 日)	2/12～16 深川江戸資料館	5	5	487	42.0%	5	5	560	48.3%	87.0%
2 月国立演芸場寄席(23 日～27 日)	2/23～27 すみだトリフォニーホール	5	5	478	37.9%	5	5	560	44.4%	85.4%
3 月国立演芸場寄席(4 日～8 日)	3/4～8 深川江戸資料館	5	5	388	33.4%	5	5	560	48.3%	69.3%
3 月国立演芸場寄席(23 日～27 日)	3/23～27 すみだトリフォニーホール	5	5	1,177	93.4%	5	5	560	44.4%	210.2%
定席公演【小計】	24 公演 計画:24 公演	120	120	13,658	46.5%	120	120	13,860	47.2%	98.5%
4 月花形演芸会	4/12 大和田伝承ホール	1	1	270	93.1%	1	1	220	75.9%	122.7%
5 月花形演芸会	5/18 大和田伝承ホール	1	1	214	73.8%	1	1	220	75.9%	97.3%
6 月花形演芸会	6/7 大和田伝承ホール	1	1	161	55.5%	1	1	220	75.9%	73.2%
7 月花形演芸会	7/5 大和田伝承ホール	1	1	173	59.7%	1	1	220	75.9%	78.6%
8 月花形演芸会	8/23 大和田伝承ホール	1	1	192	66.2%	1	1	220	75.9%	87.3%
10 月花形演芸会	10/18 大和田伝承ホール	1	1	152	52.4%	1	1	220	75.9%	69.1%
11 月花形演芸会	11/15 大和田伝承ホール	1	1	221	76.2%	1	1	220	75.9%	100.5%
12 月花形演芸会	12/6 大和田伝承ホール	1	1	211	72.8%	1	1	220	75.9%	95.9%
1 月花形演芸会(1/12)	1/12 大和田伝承ホール	1	1	281	96.9%	1	1	220	75.9%	127.7%
1 月花形演芸会(1/24)	1/24 大和田伝承ホール	1	1	253	87.2%	1	1	220	75.9%	115.0%
2 月花形演芸会	2/8 大和田伝承ホール	1	1	139	47.9%	1	1	220	75.9%	63.2%
3 月花形演芸会	3/1 大和田伝承ホール	1	1	195	67.2%	1	1	220	75.9%	88.6%
花形演芸会【小計】	12 公演 計画:12 公演	12	12	2,462	70.7%	12	12	2,640	75.9%	93.3%

公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
		回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
5月特別企画公演 「立川流落語会」	5/16～17 大和田伝承ホール	2	2	492	84.8%	2	2	380	65.5%	129.5%
6月特別企画公演 「花形演芸会スペシャル～受賞者の会～」	6/22 紀尾井小ホール	1	1	228	91.2%	1	1	230	79.3%	99.1%
9月特別企画公演 「五代目圓楽一門会」	9/20～21 大和田伝承ホール	2	2	334	57.6%	2	2	380	65.5%	87.9%
1月特別企画公演 「国立名人会」	1/2 大和田伝承ホール	1	1	281	96.9%	1	1	260	89.7%	108.1%
2月特別企画公演 「演芸大にぎわい～東から西から～」	2/20～21 大和田伝承ホール	2	2	399	68.8%	—	—	—	—	—
特別企画【小計】	5公演 計画:4公演	8	8	1,734	76.1%	6	6	1,250	71.8%	138.7%
大衆芸能(東京)【合計】	41公演 計画:40公演	140	140	17,854	50.8%	138	138	17,750	51.3%	100.6%
浪曲名人会	2/21 文楽劇場	1	1	568	75.4%	1	1	500	66.4%	113.6%
浪曲名人会【小計】	1公演 計画:1公演	1	1	568	75.4%	1	1	500	66.4%	113.6%
浪曲錬声会	6/28 文楽小ホール	2	1	223	70.1%	2	1	230	72.3%	97.0%
浪曲錬声会【小計】	1公演 計画:1公演	2	1	223	70.1%	2	1	230	72.3%	97.0%
5月上方演芸特選会	5/21～24 文楽小ホール	4	4	348	54.7%	4	4	545	85.7%	63.9%
7月上方演芸特選会	7/23～26 文楽小ホール	4	4	554	87.1%	4	4	545	85.7%	101.7%
9月上方演芸特選会	9/24～27 文楽小ホール	4	4	524	82.4%	4	4	545	85.7%	96.1%
11月上方演芸特選会	11/19～22 文楽小ホール	4	4	452	71.1%	4	4	545	85.7%	82.9%
1月上方演芸特選会	1/21～24 文楽小ホール	4	4	602	94.7%	4	4	545	85.7%	110.5%
3月上方演芸特選会	3/4～7 文楽小ホール	4	4	622	97.8%	4	4	545	85.7%	114.1%
上方演芸特選会【小計】	6公演 計画:6公演	24	24	3,102	81.3%	24	24	3,270	85.7%	94.9%
大衆芸能(大阪)【合計】	8公演 計画:8公演	27	26	3,893	79.7%	27	26	4,000	81.8%	97.3%
大衆芸能【総合計】	49公演 計画:48公演	167	166	21,747	54.4%	165	164	21,750	55.1%	100.0%

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b)アンケート調査

公演数	配布数(A)	回収数(B)	回答数(C)	満足数(D)	回収率 (B/A)	満足回答率 (D/C)
4公演	546	351	268	261	64.3%	97.4%

(c)優れた業績・評価すべき点

- ・演芸場 1月特別企画公演「国立名人会」は、重要無形文化財保持者神田松鯉、前落語協会会長柳亭市馬を中心とした正月らしい華やかな番組を実施。入場率も 96.6%と好評だった。
- ・文楽劇場では全 8 公演を予定どおり実施し、公演収支は全公演で黒字となった。
- ・文楽劇場 2 月「浪曲名人会」では、初めての企画として実演付き解説「浪曲へようこそ」を上演し、浪曲の

特色をわかりやすく紹介した内容であると高く評価された。

- ・文楽劇場 3 月「上方演芸特選会」は 3 日間の完売があり、入場率が 97%を超えた。

【特記事項】

- ・昭和 100 年記念(2 月「浪曲名人会」)
- ・令和 7 年度日本博 2.0 事業(参画型)(本館・文楽劇場：全公演)
- ・関西元気文化圏共催事業(文楽劇場：全公演)
- ・出演者に當祝を配布した(3 月「上方演芸特選会」)。

⑤能楽

《制作方針》

定例公演は、能・狂言の伝統的な演目を曲柄や季節、能と狂言のバランスを配慮しつつ、能一番・狂言一番により番組を構成し、初心者にも鑑賞しやすい公演とする。月2回のペースで公演を実施し、年間を通して能・狂言の持つ多様な魅力を余すところなく明らかにする。

普及公演は、能一番・狂言一番に事前の解説をつけ、より分かりやすく、深く鑑賞するための公演とする。能・狂言の伝統的な演目を曲柄や季節、能と狂言のバランスを配慮しつつ月1回のペースで公演を実施する。

企画公演は、テーマ性を持たせて能・狂言の魅力を紹介する「企画公演」のほか、上演頻度の低い演目を含めて狂言のみを3演目上演する「狂言の会」、能・狂言を存分に堪能していただく「特別公演」等、企画性をより強調した公演とする。また、毎年夏季に行っている「親子で楽しむ能の会」「親子で楽しむ狂言の会」などに加え、本年も「国立能楽堂ショーケース」を実施し、入門的な内容を軸に新たな観客層を開拓する。7月末には初めて能・狂言を鑑賞する観客を主対象に、コンパクトな構成で能と狂言を上演する「国立能楽堂ショーケース」を、大阪・関西万博の開催期間中に延べ6日間上演する。11月には東京デフリンピックの開催期間に合わせて手話狂言を上演する。年間を通じて過去に復曲した作品の再演に取り組むほか、年度末には、狂言「鷺」の現存する伝書を基に脚本を再構成した復曲上演も行う。

鑑賞教室は、中高生を中心とした初心者を対象に、名作を選んでわかりやすい形で上演する。学生が親しみを持てるよう、能・狂言上演の前に解説を付ける。また、外国人を主な対象とした公演としては「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover Noh & Kyogen」を英語解説付きで実施する。

(a)公演実績

公演名	日程	回数	日数	入場者数	入場率	達成率
狂言「腰折」、能「歌占」	4/9	1	1	618	98.6%	108.4%
月間特集在原業平生誕1200年 狂言「業平餅」、能「右近」	5/14	1	1	622	99.2%	109.1%
月間特集在原業平生誕1200年 狂言「素袍落」、能「井筒」	5/23	1	1	621	99.0%	108.9%
狂言「悪坊」、復曲能「玉井 貝尽」	6/4	1	1	619	98.7%	108.6%
狂言「秀句傘」、能「六浦」	6/19	2	2	616	98.2%	108.1%
狂言「萩大名」、能「楊貴妃 玉簾」	7/3	2	2	622	99.2%	109.1%
狂言「才宝」、能「玄象」	9/3	2	2	621	99.0%	108.9%
狂言「謀生種」、能「野宮 合掌留・火宅留」	9/19	1	1	620	98.9%	108.8%
狂言「空腕」、能「咸陽宮」	10/1	1	1	621	99.0%	108.9%
狂言「饅頭」、能「俊寛」	11/5	1	1	620	98.9%	108.8%
能作者のまなざしー観阿弥ー 狂言「宗論」、能「通小町 雨夜之伝」	11/14	1	1	623	99.4%	109.3%
能作者のまなざしー観阿弥ー 狂言「塗附」、能「江口」	12/3	1	1	622	99.2%	109.1%
能作者のまなざしー観阿弥ー 狂言「胸突」、能「自然居士 古式」	12/19	1	1	622	99.2%	109.1%
能「絵馬」、狂言「牛馬」	1/7	1	1	622	99.2%	109.1%
月間特集近代絵画と能 狂言「泣尼」、能「松浦佐用姫」	2/18	1	1	622	99.2%	109.1%
月間特集近代絵画と能 狂言「酢薑」、能「鉢木 黒頭」	2/25	1	1	621	99.0%	108.9%
狂言「左近三郎」、能「須磨源氏」	3/4	1	1	622	99.2%	109.1%
狂言「樋の酒」、能「小塩」	3/18	1	1	614	97.9%	107.7%

公演名	日程	回数	日数	入場者数	入場率	達成率
定例公演【小計】	18 公演 計画:18 公演	18	18	11,168	99.0%	108.8%
解説、狂言「重喜」、能「野守」	4/12	1	1	623	99.4%	103.8%
月間特集在原業平生誕 1200 年 解説、狂言「簸屑」、能「杜若 日蔭之糸・増減拍子」	5/10	1	1	623	99.4%	103.8%
解説、狂言「真奪」、能「敦盛 二段之舞」	6/14	1	1	623	99.4%	103.8%
解説、狂言「宝の槌」、能「一角仙人 酔中之舞」	7/12	1	1	623	99.4%	103.8%
解説、狂言「墨塗」、能「花筐 大返・舞入」	9/13	1	1	623	99.4%	103.8%
解説、狂言「狐塚」、能「松虫」	10/11	1	1	623	99.4%	103.8%
解説、狂言「禰宜山伏」、能「養老」	11/8	1	1	622	99.2%	103.7%
解説、狂言「腹不立」、能「唐船 棹之掛・盤渉」	12/13	1	1	623	99.4%	103.8%
解説、狂言「三本柱」、能「百万」	1/10	1	1	621	99.0%	103.5%
月間特集近代絵画と能 解説、狂言「子盗人」、能「高砂」	2/28	1	1	623	99.4%	103.8%
解説、狂言「横座」、能「祇王」	3/14	1	1	619	98.7%	103.2%
普及公演【小計】	11 公演 計画:11 公演	11	11	6,846	99.3%	103.7%
【国立能楽堂ショーケース】 狂言「長光」、能「羽衣 和合之舞」	4/18	1	1	622	99.2%	113.1%
【狂言の会】 狂言「鶏聲」、狂言「金藤左衛門」、素囃子「楽」、狂言「瓢の神」	4/29	1	1	620	98.9%	106.9%
月間特集在原業平生誕 1200 年 【企画公演】能を再発見する 狂言「布施無経」、世阿弥自筆本による能「雲林院」	5/20	1	1	618	98.6%	106.6%
月間特集在原業平生誕 1200 年 【企画公演】能を再発見する 狂言「御茶の水」、復曲「賀茂物狂」	5/28	1	1	620	98.9%	106.9%
【国立能楽堂ショーケース】 狂言「寝音曲」、能「鶴飼」	7/23～24	2	2	891	71.1%	111.4%
【国立能楽堂ショーケース】 狂言「棒縛」、能「葵上」	7/25～26	2	2	1,246	99.4%	155.8%
【国立能楽堂ショーケース】 狂言「蝸牛」、能「船弁慶」	7/28～29	2	2	1,246	99.4%	155.8%
【企画公演】親子で楽しむ狂言の会 おはなし、狂言「水掛聲」、狂言「蟹山伏」	8/2	1	1	615	98.1%	106.0%
【企画公演】素の魅力 狂言語「朝比奈」、袴能「砧」ほか	8/6	1	1	622	99.2%	107.2%
【企画公演】狂言と落語・講談 講談、落語、狂言「八幡前」	8/28	1	1	622	99.2%	107.2%
【企画公演】親子で楽しむ能の会 おはなし、能「土蜘蛛」	8/30	1	1	615	98.1%	106.0%
【国立能楽堂ショーケース】 狂言「文山賊」、能「小鍛冶黒頭」	10/17	1	1	622	99.2%	113.1%
【企画公演】蠟燭の灯りによる 狂言「伯母ヶ酒」、能「梅枝」	10/25	1	1	618	98.6%	106.6%
【企画公演】手話狂言 手話狂言「鶏聲」「瓜盗人」「博奕十王」	11/22	1	1	526	83.9%	105.2%
【企画公演】明治時代と能岩倉具視生誕 200 年記念 おはなし、狂言「隠狸」、能「石橋 和合連獅子」	11/29	1	1	613	97.8%	105.7%

公演名	日程	回数	日数	入場者数	入場率	達成率
【特別公演】 狂言「野老」、能「綾鼓」	12/24	1	1	618	98.6%	106.6%
【国立能楽堂ショーケース】 狂言「清水」、能「般若」	1/16	1	1	623	99.4%	113.3%
【狂言の会】 狂言「骨皮」、新作狂言「二文酒」、狂言「馬口労」	1/22	1	1	622	99.2%	107.2%
【特別公演】 能「当麻」、狂言「文蔵」、能「妻戸」	1/31	1	1	618	98.6%	106.6%
【企画公演】復興と文化東日本大震災十五年 復曲狂言「鷺」、復曲能「名取ノ老女」	3/28	1	1	616	98.2%	106.2%
企画公演【小計】	20 公演 計画:20 公演	23	23	13,813	95.8%	114.3%
【能楽鑑賞教室】 解説、狂言「附子」、能「鉄輪」	6/24～28	10	5	6,268	100.0%	114.0%
【外国人のための能楽鑑賞教室】Discover Noh & Kyogen 解説、狂言「鴈磔」、能「清経」	9/23	1	1	625	99.7%	104.2%
鑑賞教室等【小計】	2 公演 計画:2 公演	11	6	6,893	99.9%	113.0%
能楽【合計】	51 公演 計画:51 公演	63	58	38,720	98.0%	110.5%

※劇場はすべて能楽堂。

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

《目標入場者数》

区分	定例公演	普及公演	企画公演 (ショーケース)	企画公演 (その他)	Discover Noh & Kyogen	能楽鑑賞教室
目標入場者数 ()内は入場率	570 人/回 (90.9%)	600 人/回 (95.7%)	550 人/回 (87.7%)	580 人/回 (92.5%)	600 人/回 (95.7%)	5,500 人 (87.7%)

※企画公演(ショーケース)のうち、2 日公演は 800 人/公演(63.8%)

※企画公演(その他)のうち、11/22 企画公演のみ 500 人/回(79.7%)

(b)外部専門家等の意見

- ・公演専門委員会を 2 回開催(2/3、3/6)。
- ・専門家の主な意見は下記のとおり。
 - ◇ 普段、能を鑑賞したくてもなかなか能楽堂に足を運べない観客を対象としたショーケースの試みは大いに評価できる。見所もいつもよりは年齢層が若いようだし、仕事帰りらしい人もチラホラ見受けられる。体験コーナーは今回も盛況だし、能役者によるプレトークも 普段縁遠い役者を身近に感じるよい機会であろう。一番の挑戦は 19 時開始で、狂言と能で 2 時間程度におさめるという時間設定であろう。
 - ◇ ショーケースの連続公演は、夏休みの時期の開催で、能楽愛好者以外の方々や若い世代、海外からの旅行者のために開かれたものとなり、能楽の普及として大変意義のある公演だと思います。
 - ◇ (11 月 22 日企画公演)夏季デフリンピック競技大会が今年、日本で初めて開催された。それを記念して日本ろう者劇団による狂言の舞台が催された。和泉流三宅右近師の指導により、狂言の型と手話を併せた表現を作り上げ、三宅狂言会が声によって出演する。聴こえない人は手話によって鑑賞し、手話がわからない人は声によって理解する。まさに多様化した表現と舞台演出であり、演劇の可能性を感じることのできるすばらしい公演であった。日本開催の年の企画として意義のあるものであり、あらゆる人が古典芸能を楽しめるようにということを発信できたのではないかと思う。
 - ◇ (11 月 29 日企画公演)明治十二年八月に明治天皇、皇太后、皇后が岩倉具視邸に行幸啓して天覧能が開催された。その中から今回の企画公演では「正尊」「海士」が独吟と仕舞で、「隠狸」「石橋 和合連獅子」は一曲通しで演じられた。その折の演者の流儀や家の流れを汲む方々が今回の舞台を勤めたことは、記念する番組にふさわしく、歴史を振り返ることと再現・継承の形としても納得のいくものであった。
 - ◇ (3 月企画公演)震災から 5 年後に復曲された東北を舞台とする能「名取ノ老女」の再演と、廃絶した鷺流狂言「鷺」の新たなバージョンでの復曲初演とから成る催しである。「鷺」は、鷺の動きを模した鷺舞が見どころ。野村萬斎のすらりとした体格を活かした演技は効果抜群で、狂言らしい物真似芸の楽しさが溢れていた。鷺の原作の精神と舞台が今回実現したようだ。「名取ノ老女」は、かつてこの曲をレパートリーとしていた宝生流による上演である点が注目の舞台。シテ、ツレともに隙のない演技によって古

き神能のダイナミズムを見事に体現していた。国立能楽堂がこの曲を大切に扱い、10年で8回も上演されたのは意義のあることである。

(c)アンケート調査

公演数	配布数(A)	回収数(B)	回答数(C)	満足数(D)	回収率 (B/A)	満足回答率 (D/C)
16 公演	10,561	4,044	4,044	3,941	38.3%	97.5%

※うち1回を「外国人のための能楽鑑賞教室」で実施。

(d)優れた業績・評価すべき点

- ・充実した企画内容と効果的な観客勧誘によって、開催したすべての公演において高い入場率を達成した。
- ・7月には、初めて能・狂言をご覧になる方を主対象に、コンパクトな構成で能と狂言を上演する「国立能楽堂ショーケース」を、大阪・関西万博の開催期間に合わせて延べ6日間上演した。万博を目的とした訪日外国人が一定数来場し、企画の目的を十分に達成した。
- ・11月企画公演〈手話狂言〉では、東京デフリンピックの開催期間に合わせ手話狂言を上演した。聴覚障害者も多数来場し、時宜にあった企画であった。
- ・11月企画公演〈明治時代と能 岩倉具視生誕200年〉では、岩倉具視の生誕200年を記念し、明治12年に岩倉邸で行われた天覧能に沿った演目を、所縁のある能楽師を揃え上演した。独吟、仕舞、狂言、能と様々な形式での上演を通じ、能楽の魅力を堪能できる公演となった。
- ・年間を通じて過去の復曲作品の再演を相次いで実施した。3月28日企画公演の「名取ノ老女」（平成28年復曲）をはじめ、5月20日には「世阿弥自筆本による 能『雲林院』」（平成25年復曲）を新たな配役で上演。さらに5月28日には「賀茂物狂」（令和4年復曲）を再演した。なお、3月28日には狂言「鷺」の新たな復曲上演も行い、過去の成果の継承と新たな発掘の両面を提示する機会となった。
- ・3月企画公演〈復興と文化 東日本大震災15年〉で上演した復曲狂言「鷺」は、現存する鷺流の伝書の記述に沿う形式であらずじを復元し、鷺舞も鷺の動きを真似る形を多用したことから、物真似芸としての狂言の魅力を大きく感じられる作風とすることができた。また復曲能「名取ノ老女」は、復興と再生への願いを込め制作された作品であり、震災から15年という節目に取り上げることで、震災の記憶を風化させることなく次世代へと繋ぎ、伝統芸能が持つ「心の復興」を担う役割を改めて発信する貴重な機会となった。

⑥組踊等沖縄伝統芸能

《制作方針》

定期公演は、組踊、琉球舞踊、三線音楽、沖縄芝居及び民俗芸能の構成により上演する。

組踊公演では、長年親しまれてきた名作をはじめ、上演機会の少ない作品などを取り上げる。組踊保持者の指導のもと、高質な技芸の継承を図る。

琉球舞踊公演では、代表的な古典舞踊や雑踊をはじめ、創作舞踊を交えながら、各流派の特色ある作品も取り上げ、琉球舞踊の奥深さを堪能できるよう、公演を制作する。出演者は、ベテランから若手まで幅広く焦点をあて、当劇場ならではの舞踊公演の制作に努める。

三線音楽公演では、琉球古典音楽を中心に、三線の魅力を広く紹介するとともに、他の伝統楽器にも触れながら、趣向を凝らした公演を制作する。

沖縄芝居公演では、歌劇から台詞劇まで、沖縄芝居の魅力を存分に紹介するとともに、沖縄芝居界の発展に繋がる公演を制作する。

民俗芸能公演では、現地のスタイルを可能な限り活かしながら、観客と演者とが一体になれるような土着的な公演を制作する。

企画公演は、沖縄伝統芸能の新たな可能性を求め、さらなる発展に繋がる公演の制作に努める。アジア・太平洋地域の芸能、本土の芸能、並びに新作作品の上演等、多岐に及ぶ内容を発信する。

普及公演は、組踊・三線音楽・沖縄芝居と、3つのジャンルにおける入門編となる公演を制作する。初心者向けに解説を交え、親しみやすい演目を選定する。且つ、若手実演家の技芸の向上を目指す。

研究公演は、組踊等の作品研究や演出の考証を目的とした公演を企画する。

(a)公演実績

公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
		回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
琉球舞踊「うりずんの舞」	4/12～13 おきなわ小劇場	2	2	352	71.5%	2	2	337	68.5%	104.5%
琉球舞踊鑑賞会	4/26 おきなわ大劇場	1	1	397	64.2%	1	1	377	61.0%	105.3%
組踊「未生の縁」	5/17 おきなわ大劇場	1	1	298	53.6%	1	1	334	60.1%	89.2%
三線音楽「古典音楽の美」	5/31 おきなわ大劇場	1	1	199	80.9%	1	1	140	56.9%	142.1%
琉球舞踊「群舞の彩り」	6/7 おきなわ小劇場	1	1	488	79.0%	1	1	377	61.0%	129.4%
三線音楽「琉球・沖縄こころの歌」	6/21 おきなわ大劇場	1	1	459	74.3%	1	1	321	51.9%	143.0%
組踊「西南敵討」	10/18 おきなわ小劇場	1	1	317	56.2%	1	1	334	60.1%	94.9%
民俗芸能「波照間島の芸能」	11/23 おきなわ大劇場	1	1	539	95.4%	1	1	337	60.1%	159.9%
琉球舞踊「男性舞踊家の会」	12/20～21 おきなわ大劇場	2	2	839	67.9%	2	2	785	63.5%	106.9%
沖縄芝居「ハヂチナビー小」「春夏秋冬」	1/10～11 おきなわ大劇場	2	2	646	56.6%	2	2	639	56.0%	101.1%
琉球舞踊特選会	2/14～15 おきなわ大劇場	2	2	751	61.6%	2	2	723	58.5%	103.9%
創作組踊	3/14 おきなわ大劇場	1	1	530	87.5%	1	1	308	55.0%	172.1%
定期公演【小計】	12 公演 計画:12 公演	16	16	5,815	68.6%	16	16	5,012	59.4%	116.0%
国立劇場寄席	11/15 おきなわ大劇場	1	1	579	92.1%	1	1	371	60.0%	156.1%
ISLANDSONGS 島のうた	1/24 おきなわ大劇場	1	1	580	94.5%	1	1	325	52.9%	178.5%
企画公演【小計】	2 公演 計画 2 公演	2	2	1,159	93.2%	2	2	696	56.5%	166.5%

公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
		回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
琉球国時代の演出による舞踊と組踊「執心鐘入」	12/13 おきなわ大劇場	1	1	458	82.7%	1	1	295	53.1%	155.3%
研究公演【小計】	1 公演 計画:1 公演	1	1	458	82.7%	1	1	295	53.1%	155.3%
組踊の世界「女物狂」	7/19 おきなわ大劇場	1	1	452	78.6%	1	1	345	60.0%	131.0%
琉球楽器の音色	8/16 おきなわ大劇場	1	1	562	90.9%	1	1	348	57.0%	161.5%
組踊鑑賞教室「二童敵討」	9/17～19 おきなわ大劇場	6	3	2,260	65.5%	6	3	2,277	66.0%	99.3%
はじめての組踊～Discover KUMIODORI～ 組踊「二童敵討」	9/20 おきなわ大劇場	1	1	255	44.3%	1	1	316	55.0%	80.7%
普及公演【小計】	4 公演 計画:4 公演	9	6	3,529	67.6%	9	6	3,286	63.1%	107.4%
組踊等沖縄伝統芸能【合計】	19 公演 計画:19 公演	28	25	10,961	70.7%	28	25	9,289	60.2%	118.0%

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※上記のほか、受託公演として、7月企画公演「史劇「王子の乱」」、9月企画公演「アジア・太平洋地域の芸能 ～新作能「沖縄残月記」と韓国・済州道の芸能～」、10月普及公演「怪猫伝 化け猫～山田祝女殿内～」を実施した。公演詳細については、I-2-(4)-[1]-ウ-①「国、地方公共団体、芸術団体、企業等との連携協力による公演等」を参照。

(b)外部専門家等の意見

- ・公演事業委員会を9月と3月に2回開催し、外部専門家等の意見を聴取して、公演制作及び公演計画に活用した。

(c)アンケート調査

公演数	配布数(A)	回収数(B)	回答数(C)	満足数(D)	回収率 (B/A)	満足回答率 (D/C)
19 公演	10,153	7,318	6,202	5,938	72.1%	95.7%

(d)優れた業績・評価すべき点

- ・4月琉球舞踊公演「琉球舞踊鑑賞会」は、古典舞踊、雑踊、創作舞踊を中心に、重鎮や中堅の舞踊家が出演した。結びの演目は、若手男性舞踊家陣による群舞で、大城光子作の「纏」を、18年ぶりに上演した。
- ・5月組踊公演「未生の縁」は、平成9年に復活上演され、当劇場は11年ぶりの上演となった。中堅の琉球舞踊家が古典舞踊・雑踊・創作舞踊で華を添えた。
- ・7月企画公演(受託公演)では、戦後80周年の節目に平和への祈りを込めて、琉球国の王位継承をめぐる争いである志魯・布里の乱を描いた「王子の乱」を上演した。また、戦前・戦後を通して今でも愛される雑踊の数々を上演した。
- ・8月普及公演「琉球楽器の音色」では、琉球古典芸能で使用する三線・箏・胡弓・笛・太鼓の五つの楽器の純粋な「音」の魅力を、古典音楽、沖縄民謡、器楽曲、現代曲など様々なジャンルの楽曲で紹介した。また、終演後に来場者に対して五つの楽器の体験会を開催した。
- ・9月企画公演(受託公演)では、戦後80周年に関連し、沖縄戦を題材にした新作能「沖縄残月記」と、韓国・済州道に伝わる伝統芸能を上演し、沖縄、日本、韓国の文化交流と相互理解を深め、平和への祈りを込めた公演となった。
- ・11月研究公演「琉球国時代の演出による組踊と舞踊『執心鐘入』」は、琉球国時代の古文書や古図などから舞台・衣装・演出に関わる記録を調べ、復元・上演した。
- ・1月企画公演「ISLAND SONGS しまのうた」は、バイリンガルの案内で、外国の方にも楽しめるよう上演した。
- ・3月組踊公演「創作組踊」では、組踊の新しい世界を紹介する目的で、第4回新作組踊戯曲大賞(令和7年度)受賞作「唐のくぐつ」と、60余年前の新作組踊「月の夜の姫」を上演した。

イ 演目の拡充

《復活・復曲・新作の上演を実施した作品数》

分野	演目	作品数	今中期目標 期間累計 (令和7年度末)	前中期目標 期間実績
歌 舞 伎	—	0	1	—
文 楽	文楽劇場伝統芸能講座「諸葛孔明鼎軍談司馬徽離庵の段」復曲試演会、5月文楽公演「芦屋道満大内鑑」、2月文楽公演「絵本太功記」、初春文楽公演「新薄雪物語」	4	11	—
舞踊・邦楽等	8月舞踊公演「土蜘蛛」、文楽劇場10月舞踊公演「都若衆万歳」「築地明石町」「安達ヶ原」、11月邦楽公演文楽素浄瑠璃の会「絵本太功記」「杉の森の段」	5	15	—
大衆芸能	—	0	1	—
能 楽	4月狂言の会狂言「瓢の神」、1月狂言の会新作狂言「二文酒」、3月企画公演 復曲狂言「鷺」、復曲能「名取ノ老女」	4	6	—
組踊等	研究公演組踊「執心鐘入」舞踊「扇子をどり」「女笠をどり」、新作組踊「唐のくぐつ」「月の夜の姫」	5	9	—
計		18	43	67

※以下に示す詳細のうち、文頭が「◆」となっているものが当該作品の説明である。

①歌舞伎

(a)上演機会の少ない優れた演目の再演

- ・中村鴈治郎家に伝わる家の芸・玩辞楼十二曲の一つ「土屋主税」を、東京で35年ぶりに上演した(6月歌舞伎鑑賞教室)。
- ・「仮名手本忠臣蔵」全十一段のうち、上演機会が少ない「二段目」と「九段目」を9年ぶりに取り上げ、事前解説を付けて「歌舞伎名作入門」として提供した(9月歌舞伎公演)。
- ・通し狂言「鏡山旧錦絵」を17年ぶりに上演した(初春歌舞伎公演)。

(b)復活等上演時の「国立劇場文芸研究会」による補綴

- ・国立劇場文芸研究会の補綴により、大詰「右大将頼朝花見の場」を創作した(初春歌舞伎公演)。

(c)歌舞伎脚本募集

- ・新作歌舞伎脚本募集事業の一環として、「歌舞伎脚本募集説明会」を実施した(2/20実施。講師＝岡崎哲也氏(松竹(株)エグゼクティブフェロー)ほか。参加者48名、アーカイブ配信申込者133名)。

②文楽

(a)上演が途絶えていた場面の復活上演

- ◆文楽の廃絶演目復活事業の一環として復曲作業を終えていた初代竹田出雲の「諸葛孔明鼎軍談司馬徽離庵の段」を、曲の伝承に深く関わった初代鶴沢清七の二百回忌の年に因み、素浄瑠璃の試演会として上演した(文楽劇場11/26小ホール「伝統芸能講座」)。

(b)新作も視野に入れた上演に向けての準備

- ・文化庁クリエイター等育成支援事業として公益財団法人文楽協会が主催する新作文楽につき、チャールズ・チャップリンの映画「街の灯」の脚色作品「まちの灯」で、台本の整備、演出プランの策定、素浄瑠璃の録音に協力した(令和8年度初演予定)。

(c)上演機会の少ない優れた演目の上演

- ◆本館5月文楽公演では「加茂館の段」を東京では20年ぶりに上演した。
- ◆本館2月文楽公演では19年ぶりとなる「安土城中の段」「局注進の段」「長左衛門切腹の段」「瓜献上の段」を含め通し狂言として上演した。
- ◆演者に高度な技術が要求される「新薄雪物語」を平成10年(1998)以来28年ぶりに上演。従来の二部制での上演場面を再構成して三部制での上演を可能にすることで、次世代への演目の継承を図った(文楽劇場初春文楽公演)

③舞踊・邦楽等

(a)上演機会の少ない優れた演目の復活上演

- ◆平成19年5月以来およそ20年間にわたって上演機会を得ず、2月文楽の通し上演でも時間設定の都合で舞台に取り上げることはできなかった「絵本太功記」「杉の森の段」を文楽素浄瑠璃の会として上演、次世代への作品継承に取り組んだ。

(b)上演機会の少ない優れた演目の再演

- ◆「都若衆万歳」(文楽劇場 10 月舞踊公演「東西名流舞踊鑑賞会」)
古曲に含まれる一中節の上記作品を若衆の本衣裳で舞う吉村雄輝の振付を、師匠の雄輝から直伝で継承した吉村古ゆうにより、振興会主催公演では 26 年ぶりに上演し、音楽・振付の両面で後代の規範となる舞台を提供した。
- ◆「築地明石町」(文楽劇場 10 月舞踊公演「東西名流舞踊鑑賞会」)
二世西川鯉三郎が創作した上記作品を振興会主催公演で初めて上演し、積極的な創作活動に努めた先人の偉業を称えとともに、今後の演目のレパートリーの拡充に寄与した。
- ◆「安達ヶ原」(文楽劇場 10 月舞踊公演「東西名流舞踊鑑賞会」)
二世花柳壽楽の振付による素踊りの上記作品を振興会主催公演で初めて上演するにあたり、従来の背景画から一新し、紗幕や照明等で表現する舞台美術を考案し、今後の上演の参考となる規範を示した。

(c) 新たな舞踊作品の上演

- ◆「土蜘蛛」(国立劇場 8 月舞踊公演「国立劇場×刀剣乱舞 ONLINE 刀剣男士 髭切・膝丸がいざなう！日本舞踊の楽しみ Discover NIHONBUYO」)
素唄として作曲された長唄「土蜘蛛 上・中・下」を元にした舞踊作品を新たに制作し、上演した。

④能楽

(a)上演機会の稀な作品の上演

- ◆4 月狂言の会において、野村又三郎家にて 100 年以上上演が絶えていた狂言「瓢の神」を上演した。
- ◆3 月企画公演にて、狂言「鷲」を現存する伝書を基に脚本を再構成し復曲上演した。

(b)国立能楽堂制作による復曲作品の再演

- ・5 月 20 日企画公演において、平成 25 年に上演した「世阿弥自筆本による能「雲林院」」を新たな出演者で再演した。また、5 月 28 日企画公演では令和 4 年に復曲上演した「賀茂物狂」を再演した。
- ◆3 月企画公演にて、平成 28 年に国立能楽堂で復曲した能「名取ノ老女」を再演した。今回初めて宝生流による全面的な上演となったため、改めて台本・演出・節付を検討した上で上演した。

(c)他の能楽堂等で上演された復曲作品及び新作の再演

- ・6 月定例公演において、令和 5 年に復曲された宝生流による能「玉井」を上演した。
- ◆1 月狂言の会において、狂言師・佐藤友彦が昭和期に作成し、上演を重ねてきた新作狂言「二文酒」の構成を見直し、結末を新たに書き下ろして国立能楽堂で初めて上演した。

⑤組踊等沖縄伝統芸能

(a)新作の上演

- ◆3 月組踊公演「創作組踊」において、組踊の新しい世界を紹介する目的で、第 4 回新作組踊戯曲大賞(令和 7 年度)受賞作「唐のくぐつ」と 63 年前の新作組踊「月の夜の姫」を上演した。

(b)復曲作品の再演

- ◆組踊「執心鐘入」と舞踊「扇子をどり」「女笠をどり」について、琉球国時代の古文書や古図などから舞台・衣装・演出に関わる記録を調べて復元・上演した。

(c)「創作舞踊大賞」の公募・選考・表彰

- ・第 4 回新作組踊戯曲大賞の公募を実施し、選考の結果、大賞と奨励賞に各 1 作品を決定し、令和 7 年 12 月 13 日に表彰式を行った。令和 8 年 3 月に奨励賞作品の上演を行った。次年度に大賞作品の上演を予定している。

ウ 日本博に関連した公演等の企画・実施

- ・日本博 2.0 関連事業として、公演や公演関連イベント等を実施した。

事業区分	館名	対象公演等
令和 7 年度 日本博 20 事業 (委託型)	本館	Discover KABUKI、Discover BUNRAKU、8 月舞踊 4 月特別企画、伝統芸能海外プロモーション(6 月特別企画韓国[ソウル・釜山])、3 月特別企画遠野、3 月特別企画 文楽プロモーションイベント(文楽関連展示・ミニパフォーマンス)
	能楽堂	ショーケース公演(6 公演)、Discover Noh & Kyogen、11 月 22 日企画、国立能楽堂オープンデイ
	文楽劇場	5 月特別企画、Discover BUNRAKU、夏休み文楽第 3 部、 2025 年大阪・関西万博「人形浄瑠璃文楽」ミニ公演と特別展示「体感！文楽の世界」、 爽秋文楽 A プロ・C プロ、インバウンド向け配信事業(5 月特別企画、9/18～R8.9/30)
	おきなわ	5 月大阪万博「琉球祭」 7 月普及公演組踊の世界「女物狂」

		8 月普及公演「琉球楽器の音色」 9 月普及公演組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI「二童敵打」 12 月研究公演琉球国時代の演出による舞台と組踊「執心鐘入」 1 月企画公演「ISLAND SONGS 島のうた」
令和7年度 日本博20事業 (参画型)	本館	全公演(Discover KABUKI、Discover BUNRAKU、8 月舞踊、4 月特別企画、伝統芸能海外プロモーション(6 月特別企画韓国[ソウル・釜山])、3 月特別企画遠野、3 月特別企画を除く)
	能楽堂	全公演(ショーケース、Discover Noh & Kyogen、11 月 22 日企画を除く)
	文楽劇場	全公演(5 月特別企画、Discover BUNRAKU、夏休み文楽第 3 部、爽秋文楽 A プロ・C プロを除く)

2 - (2) 現代舞台芸術の公演

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(2) 現代舞台芸術の公演

国際的に比肩し得る高い水準の現代舞台芸術を自主制作により公演し、その振興と普及に努める

ア オペラ公演：名作と呼ばれる代表的な作品の上演、新たに制作する作品や上演機会の少ない優れた作品の上演、日本の作曲家の作品の上演

イ バレエ公演：スタンダードな作品を新国立劇場バレエ団を主体に上演、国内外の振付家による質の高い新国立劇場オリジナル作品の企画・上演

ウ 現代舞踊公演：特徴あるスタイルを持つ芸術家による斬新な企画作品や国内外で高い評価を得ている作品等の上演

エ 演劇公演：新作上演の企画・発信、我が国で創作された作品の再評価や海外の優れた作品の紹介、芸術団体等との交流

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(2) 現代舞台芸術の公演

現代舞台芸術の振興と普及を図るため、別表 2 のとおり主催公演を実施

ア 主催公演の実施

《分野別 公演実績(現代舞台芸術分野総計)》

分野	実績					計画					入場者数 達成率
	公演数	回数	日数	入場者数	入場率	公演数	回数	日数	入場者数	入場率	
オペラ	11	51	49	70,519	82.8%	11	51	49	64,700	75.8%	109.0%
バレエ	6	63	49	96,732	85.9%	6	62	48	92,800	83.7%	104.2%
現代舞踊	3	12	9	4,685	74.4%	3	12	9	4,000	65.6%	117.1%
演劇	8	95	82	28,776	70.2%	7	95	83	24,700	65.7%	116.5%
合計	28	221	189	200,712	81.9%	27	220	189	186,200	77.6%	107.8%

※入場者数達成率 = 実績入場者数 / 計画入場者数

※単位は、公演数:公演、回数:回、日数:日、入場者数:人

※計数はそれぞれ四捨五入により単位未満を処理しているため、合計において一致しない場合がある。

※公演収支の改善状況については、(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等に記載。

※上記の公演のほか、英国ロイヤルオペラハウスにて「ジゼル」ロンドン公演を実施した(7/24～27、5回)。有料入場者数 10,346 人、入場率 94.5%(招待を含む総入場率 99.0%)

① オペラ

《制作方針》

- 1、名作と呼ばれるような代表的な作品を上演するとともに、新たに制作する作品や上演機会の少ない優れた作品、日本の作曲家の作品の上演にも努める。
- 2、上演作品をレパートリーとして蓄積し、繰り返し上演していくことで、オペラの振興と普及を図る。

(a) 公演実績

公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
		回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
「蝶々夫人」	5/14～24 オペラ劇場	4	4	6,508	90.8%	4	4	5,500	76.7%	118.3%
「セビリアの理髪師」	5/25～6/3 オペラ劇場	5	5	8,118	90.6%	5	5	6,700	74.8%	121.2%
「ナターシャ」(新制作)	8/11～17 オペラ劇場	4	4	4,976	71.5%	4	4	5,200	72.5%	95.7%
「ラ・ボエーム」	10/1～11 オペラ劇場	5	5	7,931	88.5%	5	5	6,800	75.9%	116.6%
「ヴォツェック」(新制作)	11/15～24 オペラ劇場	5	5	5,904	65.9%	5	5	6,300	70.3%	93.7%
「オルフェオとエウリディーチェ」	12/4～7 オペラ劇場	3	3	4,261	79.3%	3	3	3,700	68.8%	115.2%
「こうもり」	1/22～29 オペラ劇場	5	5	7,579	84.6%	5	5	7,000	78.1%	108.3%
「リゴレット」	2/18～3/1 オペラ劇場	5	5	7,239	80.8%	5	5	6,500	72.5%	111.4%
「ドン・ジョヴァンニ」	3/5～12 オペラ劇場	5	5	6,404	71.5%	5	5	6,500	72.5%	98.5%
こどものためのオペラ劇場 2025 「オペラをつくろう！小さなエントツそうじ屋さん」	5/5～6 小劇場	4	2	1,262	89.1%	4	2	1,000	70.6%	126.2%
高校生のためのオペラ鑑賞教室 2025 「蝶々夫人」	7/7～12 オペラ劇場	6	6	10,337	98.7%	6	6	9,500	90.7%	108.8%
オペラ【合計】	11 公演 計画:11 公演	51	49	70,519	82.8%	51	49	64,700	75.8%	109.0%

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b) 外部専門家等の意見

- ・専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。また、総括レポートの提出を依頼し、自己点検評価の総括に活かした。

(c) アンケート調査

公演数	配布数(A)	回収数(B)	回答数(C)	満足数(D)	回収率 (B/A)	満足回答率 (D/C)
11 公演	-	-	3,793	3,362	-	88.6%

※全公演でウェブアンケートを実施した。

※高校生のためのオペラ鑑賞教室 2025「蝶々夫人」では鑑賞校にアンケートを配布し、後日回収した。

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・11 公演 51 回のオペラ公演を計画通り、実施した。
- ・「ナターシャ」「ヴォツェック」の2作品を新制作し、レパートリーを充実させた。
- ・大野和士芸術監督による日本人作曲家委嘱作品シリーズ第3弾として制作した細川俊夫による新作オペラ「ナターシャ」は、現代の諸問題をテーマに扱い、多言語で書かれた新境地のオペラとして高い評価を受けた。台本・作曲者・指揮者・電子音響等のスタッフが語るトークイベント「新作オペラ『ナターシャ』創作の現場から」も開催し、作品の理解を深める機会となった。
- ・「セビリアの理髪師」では、ロジーナ役で再登場となった脇園彩が、その実力を発揮し、周りを固める主役級の招聘歌手、指揮者とともに大変水準の高い再演公演となった。今回アルマヴィーヴァ伯爵役として2006年以来の登場となったL・ブラウンリーと指揮者の希望により、当プロダクションの過去の上演においては

カットされてきた2幕終盤の大アリアを、カットを入れずに上演した。

- ・「ヴォツェック」 ヴォツェック(駒田敏章)※代役、アンドレス(伊藤達人)・「リゴレット」 ジルダ(中村恵理)、マッダレーナ(清水華澄)、「ドン・ジョヴァンニ」 マゼット(近藤圭)等、年度を通じてオペラ研修所修了者を起用し、その高い実力を示すことができた。
- ・日本語字幕の表示に加え、令和元年度から実施している全てのオペラ公演での英語字幕の設置を引き続き実施した。併せて、公演プログラムには従来のあらすじとクレジットに加え、プロフィールや解説にも英文ページを増やし、外国人観客の観劇環境整備を更に推進した。

【特記事項】

- ・令和7年度日本博2.0事業(委託型)：「ナターシャ」
- ・令和7年度(第80回)文化庁芸術祭主催公演(「ラ・ボエーム」「ヴォツェック」)
- ・文化庁劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業(「オルフェオとエウリディーチェ」「こうもり」)
- ・「ナターシャ」が2025年度ミュージック・ペンクラブ音楽賞を受賞した。
- ・NHK-FM「オペラ・ファンタスティカ」において、以下の公演がラジオ放送された。
 - 「ナターシャ」(令和7年8月収録。10/10放送)
 - 「夢遊病の女」(令和6年10月収録。3/27(再放送))

② バレエ

《制作方針》

- 1、スタンダードな演目を多彩なキャストで上演するとともに、国内外の振付家による質の高い新国立劇場のオリジナル作品の企画・上演にも努める。
- 2、上演作品をレパートリーとして蓄積し、繰り返し上演することにより、バレエの振興普及を図る。

(a) 公演実績

公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
		回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
「ジゼル」	4/10～20 オペラ劇場	9	7	13,644	84.8%	9	7	13,300	82.6%	102.6%
「不思議の国のアリス」	6/12～24 オペラ劇場	13	11	20,917	90.0%	13	11	19,700	84.8%	106.2%
「シンデレラ」	10/17～26 オペラ劇場	12	9	16,512	77.0%	12	9	17,800	83.0%	92.8%
「くるみ割り人形」(新制作)	12/19～1/4 オペラ劇場	18	14	31,084	96.6%	18	14	27,500	85.4%	113.0%
「バレエ・コフレ 2026」	2/5～8 オペラ劇場	5	4	5,988	67.0%	4	3	5,400	75.5%	110.9%
「マノン」	3/19～22 オペラ劇場	6	4	8,587	80.0%	6	4	9,100	84.8%	94.4%
バレエ【合計】	6 公演 計画:6 公演	63	49	96,732	85.9%	62	48	92,800	83.7%	104.2%

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※上記の公演のほか、英国ロイヤルオペラハウスにて「ジゼル」ロンドン公演を実施した(7/24～27、5 回)。有料入場者数 10,346 人、入場率 94.5%(招待を含む総入場率 99.0%)

(b) 外部専門家等の意見

- ・専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。また、総括レポートの提出を依頼し、自己点検評価の総括に活かした。

(c) アンケート調査

公演数	配布数(A)	回収数(B)	回答数(C)	満足数(D)	回収率 (B/A)	満足回答率 (D/C)
6 公演	0	0	2,050	1,897	－	92.5%

※全公演でウェブアンケートを実施した。

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・6 公演 63 回のバレエ公演を実施した。「バレエ・コフレ 2026」は計画より 1 回追加した。
- ・英国の振付家ウィル・タケットによる新国立劇場オリジナル版として、「くるみ割り人形」を新制作上演した。第 2 幕では従来の世界観から大きく変更し、お菓子の踊りをメインとした新しい演出で大きな反響を呼んだ。ほぼ全公演完売し、のべ 3 万人以上の観客動員となった。
- ・「バレエ・コフレ 2026」では、「ファイヴ・タンゴ」を新制作上演した。
- ・「不思議の国のアリス」においては、多数の若手ダンサーがロールデビューの機会を得た。ロイヤルバレエのプリンシパルでマッドハッター役オリジナルキャストのステイーヴン・マックレーおよび、同じくロイヤルバレエプリンシパルとして活躍する高田茜を招聘し、バレエ団にとって良い刺激となった。
- ・英国ロイヤルオペラハウスにて、新国立劇場主催による「ジゼル」ロンドン公演を実施し、全 5 公演はすべて完売した。現地主要メディアから 5 つ星を含む高評価を獲得し、The New York Times や The Daily Telegraph でも 2025 年のベスト・パフォーマンズに選出されるなど、高い評価を受けた。さらに、第 26 回英国舞踊批評家協会賞(National Dance Awards)の「Stef Stefanou Award for Outstanding Company(最優秀カンパニー賞)」を日本のバレエ団として初めて受賞した。なお、本公演では、オフィシャルスポンサーとして株式会社 木下グループ、オフィシャルエアラインとして全日本空輸株式会社の支援を受けた。
- ・新国立劇場バレエ団が主役からコール・ド・バレエまで遺憾無く実力を発揮した。若手の抜擢やスタッフの徹底指導により、複数の主役キャストそれぞれが高いテクニック・表現力で完成度の高い舞台を作り上げ、観客から高い支持を得た。また、外部専門家等からも評価を受けた。
- ・SNS(X、Instagram、Facebook)を活用し、リハーサル風景や公演の様子等を積極的に映像・写真で掲載した。

- り、映像広告を出稿したりすることで、当該公演やバレエ団への興味喚起・認知度の向上に貢献した。
- ・バレエダンサーの日々のレッスンの様子を公開した「バレエ・コフレ 2026」クラスレッスン見学会、作品を練り上げていく様子を公開した「ライモンダ」「String SAGA」のリハーサルライブ配信を実施し、観客が公演を鑑賞するだけでなく、舞台を創り上げる過程や作品に関する知識を得られる機会を提供した。
 - ・協賛企業の支援を受けて、未来のバレエ界を担う小・中学生を応援する特別企画「こどもみらいシート」等、若い世代に芸術鑑賞の楽しさを伝える取り組みを積極的に実施した。
 - ・新国立劇場バレエ団シーズン・ゲスト・プリンシパルの福岡雄大が、第37回服部智恵子賞を受賞した。

【特記事項】

- ・文化芸術活動基盤強化基金(クリエイター等育成・文化施設高付加価値化支援事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会(「ジゼル」)
- ・令和7年度(第80回)文化庁芸術祭主催公演(「シンデレラ」)
- ・文化庁劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業(「くるみ割り人形」)
- ・NHK BSプレミアム 4K 及びNHK BS「プレミアムシアター」において「ジゼル」ロンドン公演(令和7年7月収録)が放送された(10/19, 20)。また、NHK Eテレにおいても同公演が放送された。(1/25)

③ 現代舞踊

《制作方針》

特徴あるスタイルを持つ振付家による斬新な企画作品や国内外で高い評価を得ている作品等を上演し、現代舞踊の振興普及を図る。

(a) 公演実績

公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
		回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
「Young NBJ GALA 2025」	7/12～13 中劇場	3	2	2,203	71.3%	3	2	2,400	78.1%	91.8%
伊藤郁女「ロボット、私の永遠の愛」	12/5～7 小劇場	4	3	866	64.4%	4	3	700	52.1%	123.7%
「フレンズ・オブ・フォーサイズ」	3/25～29 小劇場	5	4	1,616	86.9%	5	4	900	53.6%	179.6%
現代舞踊【合計】	3 公演 計画:3 公演	12	9	4,685	74.4%	12	9	4,000	65.6%	117.1%

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b) 外部専門家等の意見

- ・専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。また、総括レポートの提出を依頼し、自己点検評価の総括に活かした。

(c) アンケート調査

公演数	配布数(A)	回収数(B)	回答数(C)	満足数(D)	回収率 (B/A)	満足回答率 (D/C)
3 公演	0	0	233	197	－	84.5%

※全公演でウェブアンケートを実施した。

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・3 公演 12 回の現代舞踊公演を計画通り、実施した。
- ・「Young NBJ GALA 2025」において、元新国立劇場バレエ団ダンサーであり、NBJ Choreographic Group で振付家としての経験を重ねてきた福田圭吾による新作を上演できたことは、新国立劇場バレエ団の中から次世代の振付家を育てていくプロジェクト全体にとって非常に意義のあることであり、ダンサーのみならず若手振付家の育成という面でも大きな成果となった。「0 Solitude」では、初演を踊ったバレエ団ダンサーの五月女遥が振付指導補佐として作品に貢献し、レパトリを次世代に引き継ぐ良い機会となった。また、「0 Solitude」と「The Theory of Reality」のザ・サイエンス役は、日替わりで男性ダンサーと女性ダンサーが踊り、性別にとらわれずに上演できる作品であった。
- ・フランスを拠点に振付家・ダンサーとして活躍し、ストラスブール・グランテスト国立演劇センター「TJP」のディレクター(総芸術監督)も務める伊藤郁女(いとうかおり)氏の作品「ロボット、私の永遠の愛」を上演した。日本国内でまだよく知られていなかった振付家の作品に触れる機会を得たとして高く評価された。
- ・「フレンズ・オブ・フォーサイズ」においては、入場率が目標を大きく上回る結果となった。世界各国で上演され、ダンスの多様性と可能性を提示するコンテンポラリーダンスの最先端とも言える作品を日本初演できたことは極めて意義深い。

④ 演劇

《制作方針》

新作上演を企画・発信するとともに、国内作品の再評価や海外の優れた作品の紹介、芸術団体等との交流に努め、現代演劇の振興普及を図る。

(a) 公演実績

公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
		回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
こつこつプロジェクト Studio 公演 「夜の道づれ」	4/15～20 小劇場	7	6	1,569	84.9%	7	6	1,400	74.6%	112.1%
シリーズ「光景—ここから先へと—」 Vol.1 海外招聘公演「母」	5/28～6/1 小劇場	6	5	1,640	84.9%	6	5	1,600	82.8%	102.5%
シリーズ「光景—ここから先へと—」 Vol.2 「ザ・ヒューマンズ—人間たち」	6/12～29 小劇場	18	16	4,246	73.3%	18	16	3,400	58.7%	124.9%
シリーズ「光景—ここから先へと—」 Vol.3 「消えていくなら朝」	7/10～27 小劇場	17	16	4,314	78.8%	17	16	3,200	58.5%	134.8%
日韓国交正常化60周年記念公演 「焼肉ドラゴン」	10/7～27 小劇場	25	19	7,024	87.8%	25	19	7,100	87.9%	98.9%
海外招聘公演 「鼻血—The Nosebleed—」	11/20～24 小劇場	6	5	1,221	63.2%	6	5	1,600	82.8%	76.3%
「スリー・キングダムス Three Kingdoms」	12/2～14 中劇場	12	12	5,417	44.7%	16	16	6,400	51.2%	84.6%
日韓国交正常化60周年記念公演 「焼肉ドラゴン 凱旋公演」 ※年度計画外	12/19～21 中劇場	4	3	3,345	86.5%	—	—	—	—	—
演劇【合計】	8 公演 計画:7 公演	95	82	28,776	70.2%	95	83	24,700	65.7%	116.5%

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b) 外部専門家等の意見

- ・専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。また、総括レポートの提出を依頼し、自己点検評価の総括に活かした。

(c) アンケート調査

公演数	配布数(A)	回収数(B)	回答数(C)	満足数(D)	回収率 (B/A)	満足回答率 (D/C)
8 公演	0	0	778	683	—	87.8%

※全公演でウェブアンケートを実施した。

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・8 公演 95 回の演劇公演を実施した。演劇「焼肉ドラゴン」凱旋公演（中劇場）が計画より追加となった。
- ・海外招聘公演として、「母」と「鼻血—The Nosebleed—」の2作品を上演した。
- ・チェコ、ブルノ国立劇場ドラマ・カンパニーの「母」は、1938年に書かれた作品が、シュチェパーン・パーツル氏による現代的な演出で「戦争による悲劇」の現代性が強調され、家族という最小単位から社会や世情の風景が強く浮かび上がってくる作品として、今日での上演意義が十分に観客へ伝わる公演となった。また、準備期間から本番までを通した劇場スタッフとブルノスタッフの協力体制も円滑で、劇場同士の強い信頼関係へとつながった。
- ・米国で劇作家、演出家、パフォーマーとして活躍するアヤ・オガワ氏の作・演出による「鼻血—The Nosebleed—」は、自伝的な戯曲を観客参加型のシーンを交えたユニークな形式で上演し、高い評価を受けた。
- ・日韓国交正常化60周年を迎えることを記念し、日韓合同公演「焼肉ドラゴン」を上演した。14年ぶりに韓国 芸術の殿堂(ソウル・アーツ・センター)でも公演を行い、全国公演(北九州・富山)を経て中劇場で凱旋公演を行う全45公演のツアーを成功させた。
- ・こつこつプロジェクト 第二期・第三期参加作品の「夜の道づれ」を Studio 公演として上演した。これまでクローズドであった試演会を一般にも公開するという試みであり、チケット料金を安価に設定したほか、作品のさらなる発展を目指して、終演後に演出家や出演者が直接観客から感想や意見を聞く＜トークバック＞を開催した。
- ・「ザ・ヒューマンズ—人間たち」「焼肉ドラゴン」「スリー・キングダムス」各公演に付随して、視覚・聴覚に障害のある方々への観劇サポート(文化庁委託事業「令和7年度障害者等による文化芸術活動推進事業」)

を実施した。また、演劇の全公演日において、聴覚に障害のあるお客様を対象とした、タブレット型上演台本の貸出を実施した。

- ・公演に付随する企画「ギャラリープロジェクト」を実施し、公演ガイドツアーのほか、「演劇晰」では実地開催のほかにオンラインでの記事掲載の形式も取り、より多くの方に発信することができた。また、「焼肉ドラゴン」の関連企画として、日韓演劇交流センターとの共催で「日韓演劇の現在（いま）と未来」と題して、韓国の若手劇作家による戯曲リーディング公演とシンポジウムを開催した。
- ・「焼肉ドラゴン」作・演出の鄭義信が、第 67 回(2025 年度)毎日芸術賞を受賞した。

【特記事項】

- ・令和 7 年度(第 80 回)文化庁芸術祭主催公演(「焼肉ドラゴン」)
- ・BS 放送・WOWOW にて演劇「透明人間の蒸気」(平成 16 年 3 月収録)が放送された(12/20(再放送))。

2-(3) 青少年等を対象とした公演

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(3) 青少年等を対象とした公演

- ア 伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図るため、(1)の中で主に青少年を対象とした公演を実施するほか、社会人や親子を対象とする入門企画を実施
- イ 青少年等が現代舞台芸術に触れる機会を確保し、新たな観客層の育成と現代舞台芸術の普及を図るため、(2)の中で主に青少年を対象とした公演を実施
- ウ 国内外の幅広い来訪者に伝統芸能及び現代舞台芸術の魅力を分かりやすく紹介するため、外国人向けの公演や普及的な企画を充実

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(3) 青少年等を対象とした公演

- ア 伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図るため、主に青少年を対象とした公演、社会人や親子等を対象とした公演・入門企画を別表 3 のとおり実施
- イ 青少年等が現代舞台芸術に触れる機会を確保し、新たな観客層の育成と現代舞台芸術の普及を図るため、主に青少年を対象とした公演を別表 3 のとおり実施し、親子でも楽しめるよう工夫
- ウ 外国人を対象とした公演・入門企画を別表 4 のとおり実施

ア 青少年、社会人や親子等を対象とした公演・入門企画(伝統芸能分野)

《制作方針》

伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図るため、中高生をはじめ青少年を対象とした入門公演を実施する。また、日頃伝統芸能に触れる機会の少ない社会人等を対象とした公演や、親子を対象とした公演を実施する。

本館では、代替劇場を使用して歌舞伎鑑賞教室を実施し、6月は「忠臣蔵」の外伝物で中村鴈治郎家の家の芸である「土屋主税」を、7月は歌舞伎舞踊の名作「色彩間苺豆ーかさねー」を、それぞれ分かりやすい解説付きで上演することにより、歌舞伎初心者への普及を図る。

なお、各教室において開演時間を遅く設定した社会人のための公演を実施するほか、夏休み期間には、割安な親子セット料金を設定した「親子で楽しむ歌舞伎教室」を実施する。

本館文楽では、12月文楽鑑賞教室の演目として「国性爺合戦」を初めて取り上げる。文楽鑑賞の初心者にとって、日本の古典戯曲を代表する近松門左衛門の作品に触れる貴重な機会となるため、「この機会に見ておきたい」という関心を喚起する効果を狙う。また、初めて文楽公演を行う東京芸術劇場プレイハウスの高度な舞台機構を活かして、初代国立劇場での上演時と同じような舞台転換を実施し、閉場中でも引き続き人形浄瑠璃文楽の作品継承に努めていることを示す。併せて、出演者による解説も実施し、観客の理解と興味をさらに深める。

能楽堂では、6月に能楽鑑賞教室を実施し、内容の分かりやすい狂言「附子」、能「鉄輪」に、学生が親しみを持てるよう解説を付ける。また、年間を通してコンパクトな内容で能・狂言を上演する「国立能楽堂ショーケース」を、8月には「親子で楽しむ狂言の会」「親子で楽しむ能の会」を実施し、入門的な内容の公演の拡充を図りながら、新たな観客層を開拓する。「国立能楽堂ショーケース」は、公演日を拡充し、大阪・関西万博の開催期間に合わせて7月に延べ6日間上演する。

文楽劇場では、6月に鑑賞教室を実施し、中高生をはじめとする若年層及び観劇歴の浅い観客層に対して、地元大阪の伝統芸能である人形浄瑠璃文楽の存在をアピールし、観客層の拡大を図る。技芸員による実演を交えた解説と初めての鑑賞者に適した名作を約2時間で上演する。今回は、源牛若丸(のちの義経)と武蔵坊弁慶との出会いを描いた景事「五条橋」に続き、「解説 文楽へようこそ」を挟んで、柳の精と人間との情愛を綴った異類婚姻譚に属する作品「三十三間堂棟由来」を上演する。「解説 文楽へようこそ」では、人形の三人遣いの体験コーナーを設ける。日曜日には、社会人を主な対象とした「大人のための文楽入門」を3回、大阪・関西万博を契機に急増しているインバウンドの観客層の開拓を念頭に「Discover BUNRAKU」を1回実施する。

また、夏休み文楽特別公演の第1部では、子供と保護者を主な対象にした「親子劇場」を開催し、令和5年度から場面を分けて取り上げてきた「西遊記」の《完結篇》を上演する。詞章の現代語への改訂や舞台機構を駆使した演出で、一層親しみやすい娯楽作品を目指す。また、解説「文楽ってなあに？」は、子供にも分かりやすい文楽の紹介と人形の構造や遣い方を解説する。

国立劇場おきなわでは、組踊・三線音楽・沖縄芝居の鑑賞教室や普及公演において、初心者向けに解説を交えた親しみやすい演目の上演を行い、伝統芸能の魅力を堪能できる公演を目指す。

① 公演実績

(a) 青少年や社会人・親子等を対象とした公演(再掲)

分野	公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
			回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室 「土屋主税」	6/4～21 サンパール荒川	32	16	19,712	66.6%	32	16	18,800	63.5%	104.9%
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室 「大人のための歌舞伎入門」	6/14 サンパール荒川	(1)	(1)	(258)	(27.9%)	1	1	-	-	-
歌舞伎	7月歌舞伎鑑賞教室 「色彩間苺豆」	7/17～26 ティアラこうとう	17	9	17,891	92.6%	17	9	12,300	66.5%	145.5%
文楽	12月文楽鑑賞教室 「万才」「解説 文楽の魅力」 「国性爺合戦」	12/4～18 東京芸術劇場 プレイハウス	28	14	13,759	69.7%	28	14	10,300	53.2%	133.6%
文楽	12月文楽鑑賞教室 「大人のための文楽入門」	12/5～6 東京芸術劇場 プレイハウス	(2)	(2)	(945)	(67.0%)	2	2	-	0.0%	-

分野	公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
			回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
文楽	6月文楽鑑賞教室 「五条橋」解説 文楽へようこそ「三十三間堂棟由来」	6/5～19 文楽劇場	28	14	11,400	55.7%	28	14	13,600	66.4%	83.8%
文楽	6月文楽鑑賞教室 「大人のための文楽入門」	6/8・15 文楽劇場	(3)	(2)	(1,298)	(59.2%)	3	2	—	—	—
文楽	夏休み文楽特別公演 (第1部 親子劇場)	7/19～8/12 文楽劇場	23	23	6,550	39.0%	23	23	5,500	—	119.1%
能楽	【国立能楽堂ショーケース】 狂言「長光、能「羽衣 和合之舞」	4/18 能楽堂	1	1	622	99.2%	1	1	550	87.7%	113.1%
能楽	【能楽鑑賞教室】 解説 狂言「附子」、能「鉄輪」	6/24～28 能楽堂	10	5	6,268	100.0%	10	5	5,500	87.7%	114.0%
能楽	【国立能楽堂ショーケース】 狂言「寝音曲」、能「鶴飼」	7/23～24 能楽堂	2	2	891	71.1%	2	2	800	63.8%	111.4%
能楽	【国立能楽堂ショーケース】 狂言「棒縛」、能「葵上」	7/25～26 能楽堂	2	2	1,246	99.4%	2	2	800	63.8%	155.8%
能楽	【国立能楽堂ショーケース】 狂言「蝸牛」、能「船弁慶」	7/28～29 能楽堂	2	2	1,246	99.4%	2	2	800	63.8%	155.8%
能楽	【企画公演】親子で楽しむ狂言の会 おはなし、狂言「水掛罌」、狂言「蟹山伏」	8/2 能楽堂	1	1	615	98.1%	1	1	580	92.5%	106.0%
能楽	【企画公演】親子で楽しむ能の会 おはなし、能「土蜘蛛」	8/30 能楽堂	1	1	615	98.1%	1	1	580	92.5%	106.0%
能楽	【国立能楽堂ショーケース】 狂言「文山賊」、能「小鍛冶 黒頭」	10/17 能楽堂	1	1	622	99.2%	1	1	550	87.7%	113.1%
能楽	【国立能楽堂ショーケース】 狂言「清水」、能「箆」	1/16 能楽堂	1	1	623	99.4%	1	1	550	87.7%	113.3%
組踊等	組踊の世界「女物狂」	7/19 おきなわ大劇場	1	1	452	78.6%	1	1	345	60.0%	131.0%
組踊等	琉球楽器の音色	8/16 おきなわ大劇場	1	1	562	90.9%	1	1	348	57.0%	161.5%
組踊等	組踊鑑賞教室「二童敵討」	9/17～19 おきなわ大劇場	6	3	2,260	65.5%	6	3	2,277	66.0%	99.3%
	合計	17公演 計画:17公演	157	97	85,334	69.0%	157	97	74,180	60.5%	115.0%

(b) 全国各地の文化施設等における主に青少年を対象とした公演（後掲）

区分	公演名	劇場	日程	回数	日数	入場者数	入場率	共催
共催	6月歌舞伎鑑賞教室 静岡公演	グランシップ 中ホール	6/23	2	1	1,432	82.0%	(公財)静岡県文化財団
〃	6月歌舞伎鑑賞教室 神奈川公演	神奈川県立 青少年センター	6/25 ～26	4	2	2,279	80.2%	かながわ伝統芸能祭実行委員会
〃	国立劇場おきなわ県外公演 「琉球舞踊 男性舞踊家の会」	茅ヶ崎市民文化会館	2/1	2	1	562	77.8%	(公財)茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団

② アンケート調査

公演数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
15公演	11,500	7,072	6,555	6,359	61.5%	97.0%

③ 優れた業績・評価すべき点

<各館共通>

- ・公演ごとに字幕やパンフレットの活用、解説の充実を行い、公演内容の理解促進に尽力した。

<歌舞伎>

- ・歌舞伎では6・7月に鑑賞教室を実施し、「忠臣蔵」外伝物の一つで中村鴈治郎家に受け継がれる「土屋主税」(6月)と、盛夏の納涼として定番の名作舞踊劇「色彩間苅豆ーかさねー」(7月)を、工夫を凝らした解説付きで分かりやすく上演することで、主に歌舞伎初心者若年層に向けて歌舞伎の魅力をアピールした。

＜文楽＞

（東京）

- ・12 月文楽鑑賞教室は、東京芸術劇場の施設環境を十分に活かし「国性爺合戦」を上演した。令和6年度の文楽鑑賞教室における「夏祭浪花鑑」とは趣を異にする作品であり、これまで鑑賞教室に通っている客層に対しては、人形浄瑠璃文楽の多様さ、初めての観客にとっては古典作品の醍醐味を感じてもらうことができた。

（大阪）

- ・夏休み文楽特別公演の第1部親子劇場では、前年度の同公演に続き、舞台上での解説や台本・演出の工夫で「西遊記」がわかりやすく楽しめたとの評価を受け、子供限定の音声ガイド無料貸出(利用実績:1,745台)、終演後の文楽人形によるお見送りやオリジナル子供グッズの配布を行ったほか、天満天神繁昌亭や大阪市立図書館との地域連携PRイベントを初めて実施し、来場者へのサービス向上に繋げた。

＜能楽＞

- ・「国立能楽堂ショーケース」は社会人と訪日観光客を主対象とした入門的な公演で、親しみやすい作品を選択して上演、事前の体験コーナーや当日のプレトーク、現代語訳チャンネルを備えた座席字幕装置など、初心者向けの様々な工夫を継続しつつ、年間を通して定期的に実施した。今年度は夏休み期間に合わせて7月に延べ6日間の上演を行い、訪日外国人や若年層が多数来場し、企画の目的を十分に達成した。

＜組踊等沖縄伝統芸能＞

- ・7月の親子のための組踊鑑賞教室及び8月の琉球楽器の音色では、親子料金を学童にも適用し、県内学童に周知した。また、9月の組踊鑑賞教室及び10月・11月の沖縄芝居鑑賞教室では、学校行事としての参加を促すため、前年度から営業活動に取り組んだ。
- ・国立劇場おきなわ運営財団の自主事業として貸切バス費用助成事業を実施し、学校団体等の誘客に努めた。

イ 主に青少年を対象とした公演(現代舞台芸術分野)

《制作方針》

新国立劇場では、青少年を対象とした鑑賞教室等を実施し、新たな観客層の育成を図るとともに、現代舞台芸術の普及と理解促進を図る。

① 公演実績

(a) 主に青少年を対象とした公演(再掲)

分野	公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
			回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
オペラ	こどものためのオペラ劇場 2025「オペラをつくろう！小さなエントツそうじ屋さん」	5/5～6 小劇場	4	2	1,262	89.1%	4	2	1,000	70.6%	126.2%
オペラ	高校生のためのオペラ鑑賞教室 2025「蝶々夫人」	7/7～12 オペラ劇場	6	6	10,337	98.7%	6	6	9,500	90.7%	108.8%
	合計	2 公演 計画:2 公演	10	8	11,599	97.5%	10	8	10,500	88.3%	110.5%

(b) 全国各地の文化施設等における主に青少年を対象とした公演、主に青少年を対象とした合唱団外部出演公演(後に再掲)

《全国各地の文化施設等における主に青少年を対象とした公演》

区分	公演名	劇場	日程	回数	日数	入場者数	入場率	連携協力先
共催	高校生のためのオペラ鑑賞教室 2025「魔笛」	ロームシアター京都 メインホール	10/28 ～29	2	2	3,084	95.4%	京都市、ロームシアター京都((公財)京都市音楽芸術文化振興財団)

《主に青少年を対象とした合唱団外部出演公演》

公演名		会場	主催・共催等	日程	回数
令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)		各県の小・中学校内体育館	主催:(独)日本芸術文化振興会	6月・11月	14回

② アンケート調査

公演数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
2 公演	0	0	395	309	-	78.2%

③ 優れた業績・評価すべき点

- 平成23年度以降実施がなかったこどものためのオペラ劇場を14年ぶりに復活し、子供やファミリー層に向けたオペラ公演として、「オペラをつくろう！小さなエントツそうじ屋さん」を新制作し上演した。客席の観客も一緒に歌うことで作品に自ら参加する構成となっており、子どもたちがオペラの楽しさを体験できる公演となった。新国立劇場合唱団のメンバーを中心とする出演者や新国立劇場の主催オペラ公演を支えるスタッフらが尽力し、合唱指揮者による歌唱指導の巧みさにも注目が集まった。

ウ 外国人を対象とした公演・入門企画

《制作方針》

「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」をはじめ、外国人向けの入門公演を各館で実施する。実施に際しては、解説や外国語表示、音声同時解説等に工夫を凝らし、当日の受け入れ態勢等のサービスにも留意する。

外国人向け 12 月分鑑賞教室「Discover BUNRAKU」は、ネイティブの英語話者が解説をナビゲートすることで、日本人目線の説明を脱却し、訪日外国人にも共感を得られる解説を提供する。これにより、文楽の魅力効果的に伝えるとともに、外国人に寄り添った解説を実現する。

能楽堂においては、座席字幕表示装置を活用し、6 言語(日本語・英語・中国語(簡体字)・韓国語・フランス語・スペイン語)での表示を行う。また、当日無料配布の解説書も同じく 6 言語表記として、理解促進に役立てる。

文楽劇場では、大阪・関西万博の開催に合わせ、インバウンドを含む外国人来場者を意識した企画を重点的に開催する。まず、6 月の外国人のための文楽鑑賞教室「Discover BUNRAKU」では、イギリスでの活動歴も長いコーポリアルタイムアーティストを解説の英語ナビゲーターに起用したほか、英語字幕の表示、多言語対応による別冊の無料解説書、日本語・英語の音声同時解説サービスの無料提供により、文楽の理解を深める一助とする。また、夏休み文楽特別公演の第 3 部では、英語による文楽及び演目の解説や文楽人形の実演を交えた「Welcome to BUNRAKU!」に続き、刀剣をテーマにした 2 作品を上演し、英語字幕の表示を実施する。さらに爽秋文楽特別公演では、日本語・英語の 2 言語対応による「字幕アプリ通信方式」の表示に加え、A プロ・C プロでは、外国人にもわかりやすい物語や演出の作品を選定するとともに、各プロの冒頭に英語ナレーションによる文楽の紹介動画「Welcome to BUNRAKU!」を上映する。

① 公演実績

分野	公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
			回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
歌舞伎	6 月歌舞伎鑑賞教室「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」	6/4～21 サンパール荒川	2	1	1,032	55.8%	2	1	1,500	81.1%	68.8%
文楽	7 月歌舞伎鑑賞教室「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」	7/17～26 ティアラこうとう	1	1	602	53.0%	1	1	750	66.0%	80.3%
文楽	12 月文楽鑑賞教室「Discover BUNRAKU－外国人のための文楽鑑賞教室－」	12/4～18 東京芸術劇場 プレイハウス	1	1	578	82.0%	1	1	325	47.0%	177.8%
文楽	6 月文楽鑑賞教室 「Discover BUNRAKU」	6/5～19 文楽劇場	1	1	220	30.1%	1	1	320	43.8%	68.8%
文楽	夏休み文楽特別公演(第 3 部) 「Welcome to BUNRAKU!」「伊勢音頭恋寝刃」「小鍛冶」	7/19～8/12 文楽劇場	23	23	5,122	30.5%	23	23	6,000	35.7%	85.4%
文楽	爽秋文楽特別公演A プロ・C プロ) 「Welcome to BUNRAKU!」「恋女房染分 手綱」「日高」「入相花王」「曾根崎心中」	9/2～10/14 文楽劇場	72	36	14,566	27.7%	72	36	14,000	26.6%	104.0%
短期	8 月舞踊公演 「国立劇場×刀剣乱舞 ONLINE 刀剣男士 髭切・膝丸がいざなう! 日本舞踊の楽しみ Discover NIHONBUYO」 ※年度計画外	8/9 浅草公会堂	2	1	1,693	80.9%	—	—	—	—	—
能楽	【外国人のための能楽鑑賞教室】 Discover Noh & Kyogen 解説、狂言「鴈磔」、能「清経」	9/23 国立能楽堂	1	1	625	99.7%	1	1	600	95.7%	104.2%
組踊等	はじめての組踊 ～Discover KUMIODORI～ 組踊「二童敵討」	9/20 おきなわ大劇場	1	1	255	44.3%	1	1	316	55.0%	80.7%
	合計	9 公演 計画:8 公演	104	66	24,693	32.0%	102	65	23,811	31.7%	103.7%

② アンケート調査

公演数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
7 公演	4,260	3,082	2,760	2,736	72.3%	99.1%

③ 優れた業績・評価すべき点

<各館共通>

- ・各 Discover 公演において、字幕・音声解説の活用その他、多言語対応パンフレットの配布等を行い、外国人観客の理解促進を図った。

<能楽>

- ・茂山千之丞師による流暢な英語による解説は、25 分という限られた時間の中ではあるが、能面の紹介や所作の実演などを交えた能・狂言の楽しみ方が具体的に伝わるガイドンスで、外国人をはじめ観客から好評を得た。
- ・英語併記の特別チラシ等で周知を行い、当日は多くの外国人来場者を得た。

<文楽(大阪)>

- ・「Discover BUNRAKU」の解説では、日本語を交えた流暢な英語によるナビゲーターの進行で人間と人形の身体表現の違いを通じて文楽人形の操作の仕組みを紹介し、日本人、外国人を問わず来場者の好評を得た。
- ・夏休み文楽特別公演第 3 部は、長期公演の全日程で開催する初めての外国人向けの公演であったが、「Welcome to BUNRAKU!」をはじめとするオンラインゲーム「刀剣乱舞 ONLINE」とのコラボレーション企画の効果もあり、外国人来場者が前年度の同公演第 3 部との比較で約 55%増であった。
- ・爽秋文楽特別公演の C プロ「曾根崎心中」では、前年度の文楽アメリカ公演の反響、映画「国宝」の影響や公演半ばでの開演時間の入替の効果等により、外国人来場者全体の約 50%にあたる 985 人が鑑賞した。また、「Welcome to BUNRAKU!」の内容が約 10 分程度に簡潔でわかりやすいとの評価も得た。

<組踊>

- ・「はじめての組踊～Discover KUMIODORI～」では、劇場ロビーに英語通訳者を配置したほか、公演後に英語通訳付きのワークショップを開催した。
- ・国立劇場おきなわ運営財団ウェブチケット販売サービスの英語サイトや、多言語対応している旅行代理店の販売ウェブサイト(航空券、ホテル、レンタカー等とあわせて購入可能)を活用し、外国のお客様の利便性向上を図った。

2-(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等

- ア 新たな観客層の開拓、適切な鑑賞者数及び公演収支の改善目標の設定
- イ 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施
- ウ 伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及の中核的拠点としての公演等の実施
 - ①国、地方公共団体、他の独立行政法人、芸術団体、企業等との連携協力公演等
 - ②全国各地の文化施設等における公演等
 - ③国際文化交流の進展に寄与するための国等との連携協力公演等
 - ④ICTを活用した舞台映像の配信

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等

- ア 別表 1 及び別表 2 のとおり公演収支の改善
- イ 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施
- ウ 伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及の中核的拠点としての公演等の実施
 - ①国、地方公共団体、芸術団体、企業等との連携協力による公演等を別表 5 のとおり実施
 - ②全国各地の文化施設等における公演等を別表 6 のとおり実施
 - ③国際文化交流の進展に寄与する公演等を別表 7 のとおり実施
 - ④インターネット通信技術を活用した舞台映像の動画配信

オンライン動画配信の視聴数

i. 伝統芸能:314,100 回

ii. 現代舞台芸術:43,100 回

エ 伝統芸能の公開の実施に当たっては、国立劇場及び国立演芸場が再整備期間中であることを踏まえ、次の点に留意。

- ① 国立劇場及び国立演芸場で実施してきた公演を代替施設で実施している現状に鑑み、既存顧客の購入意欲向上につながる取組の増進。積極的な情報発信等への取組。

国立劇場及び国立演芸場の SNS 登録者数:67,000 人

別表 1 に記載した代替施設での公演の若年層入場者数:32,000 人

別表 1 に記載した代替施設での公演の外国人入場者数:3,600 人

- ② 再整備期間中及び再整備後を見据え、主催公演に係る公演制作及び舞台技術等に関する人材の養成・確保及び研修により業務に必要な専門知識の向上等を図る。

オ 舞台芸術グローバル拠点事業の推進、新国立劇場/バレエ団のフィジカルサポート体制の充実、外国人入場者数や部隊映像の海外からの視聴割合の増加、海外への情報発信や国際的なブランディングの強化に向けたマーケティングの在り方の検討

・英語版の新国立劇場ホームページへのアクセス件数:180,000 件(セッション数)

・別表 2 に記載した公演の外国人入場者数:4,000 人

・舞台映像の海外からの視聴割合:20%【モニタリング指標】

・新国立劇場に関する海外メディアへの掲載件数:90 件【モニタリング指標】

[1] 伝統芸能の公開に際しての留意事項等

ア 公演収支の改善

《分野別 公演収支改善率》

(単位:千円)

分野	前中期実績	実績		計画	
		公演収支額	改善率(A)	公演収支額	改善率(B)
歌舞伎	△ 159,948	△ 61,780	61%	△ 152,000	5%
文楽	△ 87,341	△ 13,800	84%	△ 57,903	34%
舞踊・邦楽等	△ 41,257	△ 31,849	23%	△ 41,430	0%
舞踊		△ 4,994			
邦楽		72			
雅楽		0			
声明		1,804			
民俗芸能		0			
琉球芸能		0			
特別企画		△ 28,730			
大衆芸能	11,253	12,955	15%	11,253	0%
能楽	4,698	32,247	586%	4,698	0%
組踊等	△ 48,509	△ 26,994	44%	△ 44,600	8%
合計	△ 321,105	△ 89,221	72%	△ 279,982	13%

※前中期実績＝平成30年度～令和4年度実績の年平均値

※改善率＝(公演収支額－前中期実績)／前中期実績

※大衆芸能については、もともと黒字公演が多いところ、国立演芸場の再整備に伴って客席数・公演回数が減少するため、代替劇場の確保状況により年度ごとに公演収支額が変動することになる。そのため、以下の算出式により、国立演芸場に係る前中期実績を補正する。上表の前中期実績は補正後の数値である。

前中期実績補正值＝公演収入の前中期実績補正值－公演支出の前中期実績補正值

公演収入の前中期実績補正值＝公演収入の前中期実績×当年度計画の総席数／総席数の前中期実績

公演支出の前中期実績補正值＝公演支出の前中期実績×当年度計画の公演回数／公演回数の前中期実績

イ 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施

① 外部専門家等の意見聴取

② アンケート調査の実施

《分野別集計》

分野	公演数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
歌舞伎	4 公演	2,520	1,674	1,474	1,464	66.4%	99.3%
文楽	8 公演	1,723	1,206	1,255	1,238	70.0%	98.6%
舞踊・邦楽等	6 公演	4,707	3,579	3,095	3,029	76.0%	97.9%
大衆芸能	4 公演	546	351	268	261	64.3%	97.4%
能楽	16 公演	10,561	4,044	4,044	3,941	38.3%	97.5%
組踊等・琉球伝統芸能	19 公演	10,153	7,318	6,202	5,938	72.1%	95.7%
合計	57 公演	30,210	18,172	16,338	15,871	60.2%	97.1%

ウ 伝統芸能の保存振興の中核的拠点としての公演等の実施

① 国、地方公共団体、芸術団体、企業等との連携協力による公演等

(a) 年度計画公演

区分	公演名	劇場	日程	回数	日数	入場者数	入場率	連携協力先
共催	沖縄県伝統芸能公演 令和7年度かりゆし芸能公演 琉球舞踊工場の会 次世代への架け橋	国立劇場 おきなわ小劇場	8/15	1	1	206	80.8%	(公財)沖縄県文化芸術振興会
"	沖縄県伝統芸能公演 第4回 高校生選抜 かりゆし芸能公演	国立劇場 おきなわ小劇場	8/17	1	1	230	90.2%	(公財)沖縄県文化芸術振興会
"	沖縄県伝統芸能公演 令和7年度かりゆし芸能公演 沖芸大琉球芸能専攻OB会 夏休み!カラダとココロで感じる琉球舞踊模範	国立劇場 おきなわ小劇場	8/22	1	1	101	39.6%	(公財)沖縄県文化芸術振興会

"	第12回特選 沖縄の伝統芸能 ～明日へつなぐ島々の凜々しさと祈り～	国立劇場 おきなわ大劇場	11/16	1	1	500	79.1%	沖縄県文化協会
"	沖縄県伝統芸能公演 令和7年度かりゆし芸能公演 琉球舞踊 真踊流 ～伝統に敬意～	国立劇場 おきなわ小劇場	11/22	1	1	223	87.5%	(公財)沖縄県文化芸術振興会
"	沖縄県伝統芸能公演 令和7年度かりゆし芸能公演 心ひとつに舞う 宮城本流風・綾乃乃會 比嘉侑子琉舞研究所	国立劇場 おきなわ小劇場	12/26	1	1	237	92.9%	(公財)沖縄県文化芸術振興会
"	新春組踊大公演	国立劇場 おきなわ大劇場	1/4	1	1	322	55.7%	(一社)伝統組踊保存会
"	「戦後の新作創作組踊を考える」	国立劇場 おきなわ小劇場	2/8	1	1	120	47.1%	APCN 沖縄
"	沖縄県伝統芸能公演 令和7年度かりゆし芸能公演 眞境名由緒組踊会 水辺の恋の物語～組踊と舞踊の夕べ～	国立劇場 おきなわ小劇場	2/13	1	1	110	43.1%	(公財)沖縄県文化芸術振興会
"	沖縄県伝統芸能公演 令和7年度かりゆし芸能公演 正調正風会赤山正 子八重山民俗舞踊劇場「黒島保里村の民俗舞踊 ～島肝踊ん(しいまきむ・ぶどうん)～」	国立劇場 おきなわ小劇場	2/27	1	1	229	89.8%	(公財)沖縄県文化芸術振興会
受託	戦後80周年平和祈念事業 史劇「王子の乱」	国立劇場 おきなわ大劇場	7/5～6	2	2	973	79.8%	沖縄県
"	戦後80周年平和祈念事業 アジア・太平洋地域の芸能～新作組踊「沖縄残月記」 と韓国・済州道の芸能～	国立劇場 おきなわ大劇場	9/28	1	1	444	72.8%	沖縄県
"	琉球歴史文化の日 沖縄芝居鑑賞教室「怪曲云 化け猫～山田祝女殿 内～」	国立劇場 おきなわ大劇場	10/30 ～11/1	4	3	1,878	81.9%	沖縄県
合計		13 公演		17	16	5,573	75.6%	

(b) その他の公演、地方自治体等との後援・協力等

i. 令和7年度(第80回)文化庁芸術祭

区分	館名	公演名
主催	本館	11月舞踊公演(会場:よみうり大手町ホール)
	能楽堂	11月特別企画公演
	文楽劇場	爽秋文楽特別公演Bプロ
	文楽劇場	10月舞踊公演
	文楽劇場	11月特別企画公演
	国立劇場おきなわ	11月民俗芸能公演

ii. 地方公共団体、教育委員会、専修学校各種学校協会、旅行社等の後援・協力等

館名	公演名	区分	連携協力先
本館	歌舞伎鑑賞教室	共催	江東区、公益財団法人江東区文化コミュニティ財団(7月歌舞伎鑑賞教室)
		後援	文化庁、東京都、千葉県、埼玉県教育委員会、神奈川県教育委員会、 荒川区及び荒川区教育委員会、公益財団法人荒川区芸術文化振興会(6月歌舞伎鑑賞教室)
	親子で楽しむ歌舞伎教室 (7月歌舞伎鑑賞教室期間中)	共催	東京都教育委員会
		後援	文化庁、埼玉県教育委員会、千葉県教育委員会、神奈川県教育委員会、東京私立初等 学校協会、一般財団法人東京私立中学高等学校協会
	社会人のための歌舞伎鑑賞教室	共催	江東区、公益財団法人江東区文化コミュニティ財団(7月歌舞伎鑑賞教室)
		後援	一般財団法人日本経済団体連合会、公益財団法人経済同友会、 東京商工会議所
	文楽鑑賞教室	後援	文化庁、東京都、千葉県、埼玉県教育委員会、神奈川県教育委員会、豊島区
	Discover KABUKI、Discover BUNRAKU、 8月舞踊公演	主催	文化庁
	4月特別企画公演	主催	文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会(国立劇場)、大韓民国国立国楽院
		協力	公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団
		後援	駐日韓国大使館 韓国文化院
	6月特別企画韓国(ソウル)公演	主催	大韓民国国立国楽院、文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会(国立劇場)
	6月特別企画韓国(釜山)公演	主催	大韓民国国立釜山国楽院、文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会(国立劇場)
	3月特別企画遠野公演	主催	独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁、遠野市、遠野市教育委員会

	3 月特別企画公演	後援	遠野市芸術文化協会
		主管	一般財団法人遠野市教育文化振興財団
		主催	独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁、遠野市、遠野市教育委員会
		後援	遠野市芸術文化協会
		主管	一般財団法人遠野市教育文化振興財団
演芸場	2 月特別企画公演 「演芸大にぎわい ～東から西から～」	制作 協力	一般財団法人日本演芸家連合
文楽劇場	全公演	共催	関西元氣文化圏共催事業
	6 月文楽鑑賞教室	後援	文化庁、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、京都府教育委員会、兵庫県教育委員会、奈良県教育委員会、滋賀県教育委員会、和歌山県教育委員会、NHK 大阪放送局
		協力	公益財団法人文楽協会
	夏休み文楽特別公演	後援	尼崎市、大阪府教育委員会
	5 月特別企画公演、 Discover BUNRAKU、 夏休み文楽特別公演第 3 部、 爽秋文楽特別公演、10 月舞踊公演、 11 月特別企画公演	主催	文化庁

iii. 外部の公演等への後援・協力等

区分	公演名	劇場	主催等	日程
共催	KAAT×国立劇場 くつたえつなぐ 観てよみ解く～実演&レクチャー 「文楽三味線編」	KAAT 神奈川芸術劇場 中スタジオ	KAAT 神奈川芸術劇場、独立行政法人日本芸術文化振興会(国立劇場)	11/2
共催	KAAT×国立劇場 くつたえつなぐ 観てよみ解く～実演&レクチャー 「日本舞踊編」	KAAT 神奈川芸術劇場 中スタジオ	KAAT 神奈川芸術劇場、独立行政法人日本芸術文化振興会(国立劇場)	3/21
協力	大槻能楽堂自主公演能 新春能	大槻能楽堂	公益財団法人大槻能楽堂	1/3
協力	第 36 回全国高等学校総合文化祭優秀 校東京公演	新国立劇場中劇場	文化庁、公益社団法人全国高等学校文化連盟、東京都教育委員会、東京都高等学校文化連盟	8/23～8/24
協力	国立劇場の舞台技術の人材育成―伝 統芸能公演を中心として―	千代田区立日比谷図書文 化館	千代田区立日比谷図書文化館	2/26
協力	伝統芸能の「しごと」にふれる一日！	国立劇場稽古場	東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団、江戸東 京伝統芸能祭実行委員会	3/20
協賛	2025 年度小学生のための歌舞伎体験 教室	国立オリンピック記念青少 年総合センター 他	文化庁	7/13、7/21、 8/18～8/23
協賛	令和 7 年度キッズ伝統芸能体験	国立能楽堂 他	東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団(アーツカ ウンシル東京)、公益社団法人日本芸能実演家団体協 議会	9/28～3/27
協賛	第 66 回式能	国立能楽堂	公益社団法人能楽協会、東京都、公益財団法人東京 都歴史文化財団、江戸東京伝統芸能祭実行委員会	2/15

② 全国各地の文化施設等における公演等

区分	公演名	劇場	日程	回数	日数	入場者数	入場率	連携協力先
主催	国立劇場等再整備期間中の代替施設における公演については各分野公演実績参照							
〃	第 34 回能楽若手研究会 京都公演 若手能	京都観世会館	6/21	1	1	316	69.9%	
〃	第 34 回能楽若手研究会 大阪公演 若手能	大槻能楽堂	1/17	1	1	367	81.9%	
共催	6 月歌舞伎鑑賞教室静岡公演	グランシップ 中ホール	6/23	2	1	1,432	82.0%	(公財)静岡県文化財団
〃	6 月歌舞伎鑑賞教室神奈川公演	神奈川県立 青少年センター	6/25 ～26	4	2	2,279	80.2%	かながわ伝統芸能祭 実行委員会
〃	文楽岡山公演 「BUNRAKU 1st SESSION」 ※年度計画外	岡山芸術創造劇場 ハレノワ中劇場	11/29 ～30	2	2	801	79.3%	岡山市、岡山芸術創造劇場 ハレノワおかやまアーツ フェスティバル実行委員会
〃	国立劇場おきなわ県外公演 「琉球舞踊 男性舞踊家の会」	茅ヶ崎市民文化会 館	2/1	2	1	562	77.8%	(公財)茅ヶ崎市民文化・スポ ーツ振興財団
〃	3 月特別企画公演遠野公演 ※年度計画外	遠野市市民センター	3/8	1	1	480	51.9%	遠野市、遠野市教育委 員会
	合計	64 公演 計画:62 公演		375	271	134,934	64.2%	

③ 国際文化交流の進展に寄与する公演等

(a) 公演一覧

公演名	劇場	日程	回数	日数	入場者数	入場率	連携協力先
6 月歌舞伎鑑賞教室「Discover KABUKI ー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」	サンパール荒川	6/20	2	1	1,032	55.8%	荒川区
7 月歌舞伎鑑賞教室「Discover KABUKI ー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」	ティアラことう	7/25	1	1	602	53.0%	江東区、公益財団法人江東区文化コミュニティ財団
12 月文楽鑑賞教室「Discover BUNRAKU ー外国人のための文楽鑑賞教室ー」	東京芸術劇場 プレイハウス	12/17	1	1	578	82.0%	
6 月文楽鑑賞教室 「Discover BUNRAKU」	文楽劇場	6/15	1	1	220	30.1%	
夏休み文楽特別公演(第 3 部) 「Welcome to BUNRAKU!」「伊勢音頭恋寝刃」「小鍛冶」	文楽劇場	7/19 ～ 8/12	23	23	5,122	30.5%	株式会社ニトロプラス
爽秋文楽特別公演(A プロ・C プロ) 「Welcome to BUNRAKU!」「恋女房染分 手綱」「日高川入相花王」「曾根崎心中」	文楽劇場	9/6 ～ 10/14	72	36	14,566	27.7%	
【外国人のための能楽鑑賞教室】 Discover Noh & Kyogen 解説、狂言「鴈磔」、能「清経」	能楽堂	9/23	1	1	625	99.7%	
はじめての組踊～Discover KUMIODORI～ 組踊 二童敵討	国立劇場おきなわ 大劇場	9/20	1	1	255	44.3%	
6 月特別企画韓国公演(ソウル公演) 「韓国国交正常化 60 周年記念ー韓日無形遺産 の出会い」 ※年度計画外	国立国楽院礼楽堂	6/13	1	1	495	-	大韓民国国立国楽院、文化庁、 独立行政法人日本芸術文化振 興会(国立劇場)
6 月特別企画韓国公演(釜山公演) 「2025 アジア舞台芸術レクチャー」 ※年度計画外	国立釜山国楽院 ヨナクダン	6/15	1	1	353	-	大韓民国国立釜山国楽院、 文化庁、独立行政法人日本芸 術文化振興会(国立劇場)
合計	10 公演 計画: 8 公演		104	67	23,848	30.6%	

※6 月特別企画韓国公演については、総席数が確認できなかったことから、入場率の算出対象から除外している。

(b) 在日各国大使等の公演招待

- ・文楽劇場 Discover BUNRAKU 公演において在関西各国総領事等招待を実施し、5 か国から総領事等 10 名が参加した(6/16)。
- ・初春歌舞伎公演(新国立劇場中劇場)において、各国駐日大使等招待を実施。15 の国と地域から大使等 23 名が参加した(1/21)。

④ インターネット通信技術を活用した舞台映像の動画配信

《舞台映像配信》

分野	配信件数	視聴回数	年度計画	達成率
歌舞伎	0 件	0 回		
文楽	15 件	698 回		
舞踊・邦楽等	20 件	447,281 回		
大衆芸能	0 件	0 回		
能楽	0 件	0 回		
組踊等	1 件	3,317 回		
伝統芸能合計	36 件	451,296 回	314,100 回	143.7%
うち視聴回数が非常に多かったコンテンツ	1 件	415,916 回		
その他のコンテンツ	35 件	35,380 回		

＜各館共通＞

- ・振興会ホームページへのトピックス及びダイジェスト動画掲出、国立オンライン劇場への情報掲出、お知らせメールへの情報掲載、X(旧 Twitter)、Instagram への投稿により周知を行った。

＜文楽劇場＞

- ・収録した公演記録映像を、公演終了後にストリーミングサービスを用いて有料で配信し、特典として視聴者がダウンロードして利用できる床本集を提供した(4 月文楽公演、夏休み文楽特別公演、爽秋文楽公演、初春文楽公演)。

⑤ 地方公共団体、関係する独立行政法人等との連携協力

i. 国立劇場再整備等事業関連

- ・本館・演芸場について、代替施設での公演実施に当たり、会場が所在する地方公共団体等と連携協定を締結し、公演実施及び公演周知における連携協力の他、住民公演招待、入門講座、展示等の住民還元事業を実施し、地域住民に対する伝統芸能の振興を図った。

◇連携協力先：千代田区、文京区、墨田区、江東区、渋谷区、荒川区、足立区、東京芸術劇場、KAAT 神奈川芸術劇場

ii. その他

連携協力先	概要
(公社)2025 年日本国際博覧会協会	＜文楽劇場＞シグネチャーパビリオン「いのちの未来」における文楽人形「お染」の新規作成及び展示(4/13～10/13)と同パビリオンのオープニングパフォーマンスにおける人形浄瑠璃文楽のミニ上演(4/19、EXPO アリーナ「Matsuri」)。
EU-日本アニメーション・レジデンス(担当:イメージフォーラム)	＜文楽劇場＞日欧の新進アニメーション作家 10 名が日本の伝統芸能からのインスピレーションを元にして共同で作品を制作するプログラム。文楽鑑賞と文楽三業レクチャーの実施(4/24)。
大阪府・大阪市・大阪文化芸術事業実行委員会	＜文楽劇場＞大阪・関西万博会場における「上方伝統芸能公演～能楽・人形浄瑠璃文楽・歌舞伎」で、(公財)文楽協会との共同で人形浄瑠璃文楽「三番叟」の上演に協力(5/10、EXPOホール「シャインハット」)。
大丸松坂屋百貨店 ヴォートレイルファッションアカデミー(実施当時の名称は大阪文化服装学院)	＜文楽劇場＞大丸心齋橋店開業 300 周年企画「文楽と大阪ファッションの響演～伝統を継ぎ、未来へ。国立文楽劇場×ヴォートレイルファッションアカデミー～」において、同アカデミー学生が文楽人形の衣裳を制作するプログラム。大丸の歴史、国立文楽劇場の沿革、文楽及び文楽人形に関するレクチャーと文楽鑑賞を実施(1/13・20)。
アーツサポート関西	＜文楽劇場＞「ワンコイン文楽 2025」の実施に協力し、近畿在住・在勤・在学の学生等の集客を図った。(爽秋文楽特別公演・初春文楽公演)
奈良県下市町・吉野町等	＜文楽劇場＞4 月文楽公演において「義経千本桜」ゆかりの地域と協力し、公演宣伝と観光 PR 及び物産展の開催。
(独)日本学生支援機構	＜能楽堂＞国費外国人留学生歓迎会(主催:文部科学省、日本学生支援機構)で能楽体験ワークショップを実施(6/21,11/8。東京国際交流館。参加者数各日とも約 250 名)。
サントリー美術館 東京文化財研究所	＜能楽堂＞サントリー美術館「酒吞童子ビギンズ」展における「能 大江山替之型」上映映像制作として協力。
沖縄県	＜国立劇場おきなわ＞沖縄県の琉球歴史文化の日(11/1)関連事業として沖縄芝居鑑賞教室の公演を行った。
大韓民国国立釜山国楽院	両機関において文化的理解を深め、文化交流および協力を強化するため、相互協力のための基本協定を締結した(6/15)。
渋谷区	＜新国立劇場＞ ・ふるさと渋谷フェスティバル 2025 に参加し、劇場・主催公演紹介、擬音楽器体験、合唱団によるステージ出演を行った。(11/1・2 代々木公園イベント広場) ・北渋谷フェスティバルに参加し、合唱団によるステージ出演を行った。(11/9 新国立劇場エントランス付近)
美術展ナビフェス(読売新聞社)	日本各地の美術展を紹介する情報サイト「美術展ナビ」が開催する「美術展ナビフェス」(9/8)において、来場者に向けて図録やグッズの案内・説明をするブース出展及びステージイベントに参加した。
東京国立博物館	東京国立博物館の賛助会員向けイベントへの協力依頼に応じ、来場者向けに邦楽演奏会を行った。
東京都	＜新国立劇場＞東京都教育委員会の協力を得て、都立高校に対し令和 8 年度鑑賞教室の周知を行った。
お茶の水女子大学・お茶の水女子大学附属小学校	小学生から大学生までを対象とした「世代別伝統芸能の普及方法」の研究への協力の一環として、歌舞伎の幕を題材に、小学 2 年生の図画工作科授業を共同で実施(10/22・23・24・27)。授業レポート等を国立劇場こどもサイト・振興会トピックスで複数回にわたって発信する企画の内、授業レポートを 3 回にわたって公開した。また、児童の作品紹介ページのほか、本企画による図画工作科授業が広く教育現場等で実施され活用されることを目的に、授業で実際に使用された資料を PowerPoint 版の授業用教材として再構成し、国立劇場こどもサイト上で公開した。
東京都こどもスマイルムーブメント	東京都が推進する、企業・団体等との連携により社会全体で子供を大切にする「こどもスマイルムーブメント」に参画し、同サイトにおいて、振興会における子供向けの事業紹介を開始した。

⑥ 再整備期間中の公演実施における留意事項

再整備のために国立劇場及び国立演芸場が閉場している現状に鑑み、ファンを繋ぎとめる方策の検討を進めた。

i. 新たな観客層の開拓・育成

事項	合計[A]	年間の計画値[B]	達成率[A/B]
国立劇場及び国立演芸場の SNS 登録者数	71,459 人	67,000 人	106.7%
代替施設で実施した主催公演(研修公演を除く)の若年層入場者数	31,690 人	32,000 人	99.0%
代替施設で実施した主催公演(研修公演を除く)の外国人入場者数	4,686 人	3,600 人	130.2%

- ・若年層入場者数：年間の計画値を前年度実績に基づいて設定したが、7 月歌舞伎鑑賞教室の実施期間が 7/17(木)～26(土)と夏休み期間が大半であったため、学校団体の利用が前年度より約 3,000 人減少し、計画値未達となった。

[2] 現代舞台芸術の公演に際しての留意事項等

ア 公演収支の改善

《分野別 公演収支改善率》

(単位:千円)

分野	前中期実績	実績		計画	
		公演収支額	改善率(A)	公演収支額	改善率(B)
オペラ	△ 382,991	6,882	102%	△ 199,094	48%
バレエ	△ 111,534	94,035	184%	△ 14,042	87%
現代舞踊	△ 18,168	△ 17,701	3%	△ 14,464	20%
演劇	△ 64,868	△ 38,916	40%	△ 64,867	0%
合計	△ 577,561	44,300	108%	△ 292,467	49%

※前中期実績とは、平成 30 年度から令和 4 年度実績の平均値をいう。

※改善率 = (公演収支額 - 前中期実績) / | 前中期実績 |

※なお、入場料収入については、過去最高額を記録した。

イ 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施

① 外部専門家等の意見聴取

各部門の専門委員に各公演についてのレポート提出を依頼し、意見の聴取を行った。

また、総括レポートの提出を半期ごとに依頼し、自己点検評価の総括に活用した。

② アンケート調査の実施

《分野別集計》

分野	公演数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
オペラ	11 公演	0	0	3,793	3,362	-	88.6%
バレエ	6 公演	0	0	2,050	1,897	-	92.5%
現代舞踊	3 公演	0	0	233	197	-	84.5%
演劇	8 公演	0	0	778	683	-	87.8%
合計	28 公演	0	0	6,854	6,139	-	89.6%

・回答用の QR コードの掲示・配布、回答者へのプレゼント企画、学校単位でのアンケート回収等を行い、回答率の向上に努めた。

・アンケート結果については、関係部署間で共有した。

ウ 現代舞台芸術の振興普及の中核的拠点としての公演等の実施

① 国、地方公共団体、芸術団体、企業等との連携協力による公演等

(a) 年度計画公演

区分	公演名	劇場	日程	回数	日数	入場者数	入場率	連携協力先
共催	オペラ「ラ・トラヴィアータ」	新国立劇場オペラ劇場	9/5～7	3	3	4,086	76.0%	(公財)東京二期会、 (公財)日本オペラ振興会
	合計	1 公演		3	3	4,086	76.0%	

(b) その他の公演等

i. 令和 7 年度(第 80 回)文化庁芸術祭

区分	公演名
主催公演	オペラ「ラ・ボエーム」 オペラ「ヴォツェック」 バレエ「シンデレラ」 演劇「焼肉ドラゴン」(東京公演)

② 全国各地の文化施設等における公演等

(a) 年度計画公演

区分	公演名	劇場	日程	回数	日数	入場者数	入場率	連携協力先
共催	高校生のためのオペラ鑑賞教室 2025「魔笛」	ロームシアター京都 メインホール	10/28 ～29	2	2	3,084	95.4%	京都市、ロームシアター京都((公財)京都市音楽芸術文化振興財団)
受託	現代舞踊 Co.山田うん「オバケッタ」	ichiko 総合文化センター 音の泉ホール	4/5	1	1	655	92.3%	(公財)大分県芸術文化スポーツ文化振興財団

"	現代舞踊 Co.山田うん「オバケッタ」	まつもと市民芸術館 実験劇場	4/12	1	1	357	97.8%	(一財)松本市芸術文化振興財団
"	演劇「ザ・ヒューマンズ—人間たち」	穂の国とよはし芸術劇場 PLAT 主ホール	7/5 ～6	2	2	756	53.0%	豊橋市、(公財)豊橋文化振興財団
"	演劇「ザ・ヒューマンズ—人間たち」	茨木市文化・子育て複合施設 おにくる ゴウダホール	7/19	1	1	500	54.4%	茨木市文化・子育て複合施設おにくる指定管理者 おにくるみらい
"	バレエ「シンデレラ」	札幌文化芸術劇場 hitaru	10/4 ～5	2	2	2,817	71.3%	(公財)札幌市芸術文化財団
"	演劇「焼肉ドラゴン」	J:COM 北九州芸術劇場 中劇場	12/6 ～7	2	2	715	66.6%	(公財)北九州市芸術文化振興財団
"	演劇「焼肉ドラゴン」	オーバード・ホール 中ホール	12/12 ～13	2	2	652	69.1%	(公財)富山市民文化振興事業団、富山市
	合計	8 公演		13	13	9,536	75.6%	

(b) その他の公演等

i. 新国立劇場合唱団外部出演公演

公演名	劇場	連携協力先	日程	回数
大阪フィルハーモニー交響楽団 大阪・関西万博 開催記念特別演奏会 ベートーヴェン:交響曲第9番	ザ・シンフォニーホール	主催:(公社)大阪フィルハーモニー協会	4/17 ～19	2回
2025 年度品川区立小学校音楽鑑賞教室	きゅりあん 大ホール	主催:(公財)東京都交響楽団	5/22 ～23	4回
千代田区立小学校音楽鑑賞教室	すみだトリフォニーホール	主催:(公財)東京都交響楽団	6/25	1回
ジュンコンサート	明日見らいふ南大沢	主催:(公財)東京都交響楽団	6/27	1回
Bloomberg LP主催大阪市立美術館特別貸切鑑賞 会&懇親会	大阪市美術館	主催:Bloomberg LP	7/10	1回
2025 年度狛江市立中学校音楽鑑賞教室	狛江エコルマホール	主催:(公財)東京都交響楽団	7/11	1回
サントリーホール オルガン・フェスティバル 2025 オルガンで奏でる名曲たち～英国音楽作品集	サントリーホール 大ホール	主催:サントリーホール	8/11	1回
藤原歌劇団 公演 ヴェルディ:「ラトラヴィータ」	新国立劇場 オペラ劇場	主催:(公財)日本オペラ振興会	9/5 ～7	3回
TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL 2025 サラダ音楽祭 メインコンサート ミニコンサート 8回、ワークショップ 4回	メインコンサート/東京芸術劇場 コン サートホール ミニコンサート/グローバルリングシ アター、メトロポリタン自由通路 ワークショップ/東京芸術劇場ギャラ リー1	主催:TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL[サラダ音楽祭]実行委員会 (東京都、(公財)東京都交響楽団、(公財)東 京都歴史文化財団 東京芸術劇場、豊島 区、三菱地所株式会社)	9/14 ～15	1回
小中学生音楽鑑賞会 「はじめてのオペラ」	柏崎市文化会館アルフォーレ	主催:新潟県、柏崎市教育委員会、柏崎市 文化会館アルフォーレ、令和7年度こいが た芸術・文化育成プロジェクト実行委員会	10/1	1回
新潟県民オペラ 「トゥーランドット」演奏会形式	柏崎市文化会館アルフォーレ	主催:新潟県、柏崎市文化会館アルフォー レ、(公財)かしわざき振興財団、柏崎市教 育委員会	10/5	1回
東京都交響楽団 創立 60 周年記念 都響スペシャル「すぎやまこういちの交響宇宙」	東京芸術劇場コンサートホール	主催:(公財)東京都交響楽団	10/19	1回
ドゥダメル & ロサンゼルス・フィルハーモニック —共に歩んだ 17 年の集大成 マーラー作曲 交響曲第2番「復活」	サントリーホール	主催:株式会社 AMATI	10/25	1回
2025 年度練馬区立小学校音楽鑑賞教室	練馬区文化センター大ホール		12/1 ～2	2回
読売日本交響楽団定期演奏会 ベートーヴェン:交響曲第9番	東京芸術劇場 コンサートホール サントリーホール 大阪フェスティバルホール 横浜みなとみらいホール	主催:読売新聞社/日本テレビ放送網/読 売テレビ/(公財)読売日本交響楽団	12/18 ～27	7回
東京フィルハーモニー交響楽団演奏会 ベートーヴェン:交響曲第9番	東京オペラシティ コンサートホール サントリーホール オーチャードホール	主催:(公財)東京フィルハーモニー交響楽 団	12/19 ～21	3回
NHK交響楽団 ベートーヴェン:交響曲第9番	NHK ホール サントリーホール	主催:NHK/NHK 交響楽団(20日、21日、 24日) NHK/NHK 厚生文化事業団(23日)、NHK 交響楽団(26日)	12/20 ～26	5回

東京都交響楽団演奏会 ベートーヴェン:交響曲第9番	東京芸術劇場 コンサートホール 東京文化会館 大ホール サントリーホール	主催:(公財)東京都交響楽団	12/24 ~27	3回
第68回NHKニューイヤーオペラコンサート	NHKホール	主催:日本放送協会	1/3	1回
読売日本交響楽団定期演奏会 プフィッツナー:カンタータ「ドイツ精神について」 作品28(日本初演)	サントリーホール	主催:読売新聞社/日本テレビ放送網/読 売テレビ/(公財)読売日本交響楽団	1/20	1回
令和7年度島しょ芸術文化振興事業クラシック音 楽公演	東京都小笠原村 父島福祉センター 母島村民会館	主催:(公財)東京都交響楽団	2/3 ~4	2回
東京ビッグサイト 30周年記念式典における記念 演奏	東京ビッグサイトレセプションホー ルA・B	主催:(公財)東京都交響楽団	2/10	1回
東京都交響楽団定期演奏会・特別演奏会 マーラー:交響曲第8番「千人の交響曲」	サントリーホール 東京文化会館 大ホール	主催:(公財)東京都交響楽団	2/15 ~17	3回
東京都交響楽団定期演奏会 ブリテン:春の交響曲	東京芸術劇場	主催:(公財)東京都交響楽団	3/4	1回
千葉県少年少女オーケストラ ベートーヴェン:交響曲第9番	千葉県文化会館 大ホール	主催:千葉県少年少女オーケストラ	3/29	1回
令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公 演)	東京都・千葉県・茨城県・山梨県・千葉 市 各都県の小・中学校内体育館	主催:(独)日本芸術文化振興会	6/9 ~20	11回
令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公 演) (離島・へき地等小規模校等を対象)	長崎県・熊本県 各県の小・中学校内体育館	主催:(独)日本芸術文化振興会	11/18 ~21	3回

ii. 全国各地の文化施設等との連携強化

<連携・協力に関する協定>

- ・ 外部機関と連携し、全国公演や関連したイベントの開催、情報共有を行った。

札幌文化芸術劇場 hitaru、東京文化会館、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール、富山市芸術文化ホール(オー
バード・ホール)、ロームシアター京都、穂の国とよはし芸術劇場、上田市交流文化芸術センター(サント
ミューゼ)

③ 国際文化交流の進展に寄与する公演等

(a) 年度計画公演

公演名	劇場	日程	回数	日数	入場者数	入場率	連携協力先
シリーズ「光景—ここから先へと—」 Vol.1 海外招聘公演「母」	新国立劇場小劇場	5/28~ 6/1	6	5	1,640	84.9%	チェコ共和国・ブルノ国立劇場
「バレエ・アステラス 2025」	新国立劇場オペラ劇場	7/18~19	2	2	2,321	64.9%	パリ・オペラ座・バレエ学校
「ジゼル」	英国ロイヤルオペラハ ウス	7/24~27	5	4	10,346	94.5%	英国ロイヤルオペラハウス
日韓国交正常化 60 周年記念公演 「焼肉ドラゴン」	新国立劇場小劇場	10/7~27	25	19	7,024	87.8%	ソウル芸術の殿堂(ソウル・ アーツセンター)
日韓国交正常化 60 周年記念公演 「焼肉ドラゴン」(ソウル公演)	ソウル芸術の殿堂(ソウ ル・アーツセンター)	11/14~ 23	12	9	3,129	29.0%	ソウル芸術の殿堂(ソウル・ アーツセンター)
海外招聘公演 「鼻血—The Nosebleed—」	新国立劇場小劇場	11/20~ 24	6	5	1,221	63.2%	
伊藤郁女「ロボット、私の永遠の愛」	新国立劇場小劇場	12/5~7	4	3	866	64.4%	ストラスブール・グランテスト 国立演劇センター-TJP
「フレンズ・オブ・フォーサイズ」	新国立劇場小劇場	3/25~29	5	4	1,616	86.9%	
合計	8 公演		65	51	28,163	69.7%	

(b) 年度計画外の公演等

i. 海外劇場等との交流

分野	公演等名	開催場所	日程	備考
公演	パリ・オペラ座バレエ団による公演 「PLAY」への特別協力	新国立劇場オペラ劇場	7/25~27	
公演	日韓国交正常化 60 周年記念公演 「焼肉ドラゴン 凱旋公演」	新国立劇場中劇場	12/19~21	4 回公演 有料入場率 86.5% 連携協力先:ソウル芸術の殿 堂(ソウル・アーツ・センター)

上映会	日韓国交正常化 60 周年記念事業 「韓国国立舞踊団・オン・スクリーン」 現代舞踊「ホドン」・「夢遊桃源舞」上映	新国立劇場中劇場	8/28	参加者 458 名
上映会	台中国家歌劇院 春節特別上映会(新国立劇場 公演映像上映) オペラ「トゥーランドット」	台中国家歌劇院	2/17・20	
国際会議	アジア太平洋パフォーミングアーツセンター 協会(AAPPAC) 年次総会	韓国 デジョン・アーツ・センター	10/20～24	
国際会議	オペラ・アメリカ主催式典		3/18～20	
その他	AAPPAC 交換研修	韓国 芸術の殿堂(ソウル)	1/19～30	

※上記のほか、令和 6 年度末にオペラ・ヨーロッパ主催「オペラ・マネジメント・コース」(2025/3/9～15 リセウ大劇場(バルセロナ))に技術統括職員が参加した。本コースで得られた国際的なオペラ・マネジメントに関する知見は、令和 7 年度の公演に活かされるとともに、同コースに参加した海外劇場スタッフとの連携強化にも寄与した。

ii. 海外の芸能関係者等の来場、見学等

日付	国・地域	来場者
4/28	トルコ	トルコ国立オペラ&バレエプロジェクトコーディネーター 1 名
5/15	イギリス	ロンドン コロシウム劇場シニア・照明テクニシャン 1 名
5/22	カナダ	カナダ ナショナル・アーツ・センター英語演劇部門芸術監督他 計 2 名
5/25	マレーシア	クアラルンプール・シティ・オペラ エグゼクティブ・プロデューサー他 計 2 名
6/2	韓国	韓国国立オペラ副総監督他 計 4 名
7/8	ポルトガル	エボラ 27 芸術監督 1 名
8/7	チェコ	チルク・ラ・プティカ芸術監督他 計 2 名
8/11	ヨーロッパ	オペラ・ビジョン 計 2 名
8/11	韓国	韓国国立劇場理事 1 名
8/28	韓国	韓国国立劇場総裁他 計 4 名
9/1	ロシア	ボリショイ・ドラマ・シアター演出家他 計 4 名
9/9	イギリス	英国カーブ・シアターCEO 1 名
9/18	韓国	韓国ノル・シアター技術監督他 計 9 名
10/4	韓国	韓国釜山文化財団代表 1 名
10/6	イギリス	英国ロイヤル・バーミンガム音楽大学院 1 名
10/8	オーストリア	Arts for Arts Theatre Service 社マネージング・ディレクター 1 名
10/18	韓国	韓国世宗文化会館代表 1 名
12/3	台湾	衛武英国家芸術文化センター芸術監督 1 名
12/4	台湾	台中国家歌劇院総裁兼芸術監督 1 名
1/7	カナダ	リッチモンド・ゲートウェイ・シアター技術監督他 計 2 名
2/13	イタリア	ミラノ・スカラ座 技術部(大道具)他 計 2 名
3/6	韓国	世宗文化会館 舞台技術チーム長(音響監督)他 計 3 名

iii. 在日各国大使館との連携協力

・駐日各国大使鑑賞プログラム

演目	日付	参加実績
オペラ「セビリアの理髪師」	5/30	13 カ国 24 名の大使及び外国文化機関代表
オペラ「ヴォツェック」	11/20	10 カ国 16 名の大使及び外国文化機関代表

プログラム以外の主催公演には主要国大使を招待し、大使館関係者へのチケット購入を促した。

・公演関連各国の後援名義

演目	公演名義など
バレエ「ジゼル」	後援:ブリティッシュ・カウンシル
演劇「母」	後援:チェコ共和国大使館 協力:チェコセンター東京
オペラ「ナターシャ」	後援:ゲーテ・インスティテュート東京
演劇「焼肉ドラゴン」	後援:駐日韓国大使館 韓国文化院
現代舞踊「ロボット、私の永遠の愛」	後援:在日フランス大使館/アンスティチュ・フランス
オペラ「こうもり」	後援:オーストリア大使館/オーストリア文化フォーラム東京
演劇研修所「社会の柱」	後援:ノルウェー大使館

(c) 舞台芸術グローバル拠点事業

《舞台芸術グローバル拠点事業関連指標》

区 分	実績	年度計画	達成率
英語版の新国立劇場ホームページへのアクセス件数(セッション数)	237,145 件	180,000 件	131.7%
主催公演(研修所公演を除く)の外国人入場者数 (新国立劇場の英語版チケットサイトの購入者数)	5,336 人	4,000 人	133.4%
舞台映像の海外からの視聴割合【モニタリング指標】	43.9%	20%	
新国立劇場に関する海外メディアへの掲載件数【モニタリング指標】	146 件	90 件	

- ・国際的なレピュテーションの確立を目指し、舞台芸術グローバル拠点事業に取り組んだ。
- ・バレエ団ダンサーの医療サポート等、アーティストの活動環境整備を進めた。
- ・海外広報戦略の一環として、国際的な情報発信の取組を推進した。

《広報・営業》

- ・欧米の舞台芸術サイト・雑誌に広告を掲載して、新国立劇場の認知を高めるとともに、同メディアに記事掲載の働きかけを行った。

《Opera Vision での配信実績》

- ・オペラ「ウィリアム・テル」(令和6年11月公演): 視聴回数 21,975 回
- ・オペラ「ナターシャ」(令和7年8月公演): 視聴回数 10,829 回

《養成研修事業》

- ・海外のアカデミー、音楽学校等で活躍する講師を招聘し、国際水準の研修を実施した。

④ インターネット通信技術を活用した舞台映像の動画配信等

《舞台映像の配信》

分野	配信件数	視聴回数	年度計画	達成率
オペラ	3 件	35,602 回		
バレエ	0 件	0 回		
現代舞踊	0 件	0 回		
演劇	0 件	0 回		
現代舞台芸術合計	3 件	35,602 回	43,100 回	82.6%

⑤ 地方公共団体、関係する独立行政法人等との連携協力

- ・地方団体主催のイベントへの参加・出店を行った。
 - ◇ 渋谷区くみんの広場 ふるさとフェスティバル 2025
劇場紹介・擬音楽器体験ブースの出店および新国立劇場合唱団メンバーのパフォーマンスステージ参加。
 - ◇ 北沢フェスティバル
新国立劇場合唱団メンバーのパフォーマンスステージ参加。
- ・地元町会及び商店会等を対象としたバレエ「シンデレラ」舞台稽古見学会を実施した。

2－(5) 快適な観劇環境の形成

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(5) 快適な観劇環境の形成

観客本位の快適な環境の形成のために行うサービスの向上及び観客の満足度の向上

- ア 観客の要望等を踏まえ、高齢者、障害者、外国人等の利用の機会が拡充される、快適で安全な劇場施設の整備、各種サービスの充実、観劇前後を含めた体験の質の向上
- イ 入場券販売における、利用者にとって利便性の高い多様な購入方法の提供
- ウ 公演内容等の理解促進のための解説書等作成、音声同時解説や字幕表示等のサービスの提供
鑑賞団体等に対する公演内容の説明会等の実施
- エ アンケート調査等の活用による観客等の要望・利用実態等の把握、サービスの向上

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(5) 快適な観劇環境の形成

- ア 快適で安全な環境を提供するための、観客の要望等を踏まえた売店・レストラン等におけるサービスの充実や観劇時のマナーの呼びかけの実施
高齢者、障害者、外国人等の利用者にも配慮した劇場内外の環境整備等各種サービスの充実
国立劇場等の再整備期間中における代替施設での公演実施に当たり、代替施設の管理者等と連携協力した各種サービスの充実
- イ 入場券販売における、PC やスマートフォン等、観客の利用形態に応じた多様な購入方法の提供
- ウ 公演内容等の理解促進のための解説書等作成、音声同時解説及び字幕表示の実施
公演内容の事前説明会、ワークショップ、ステージツアー等の実施
- エ アンケート調査等の活用による観客等の要望・利用実態等の把握、サービス向上への活用
ホームページ等で寄せられる意見・要望の一元的管理、対応の迅速化と職員間の情報共有の強化、内容の集計・分析結果のサービス向上への活用

ア 快適で安全な観劇環境の提供

① 観客の要望等を踏まえたサービスの充実や観劇時のマナーの呼びかけ

(a) 観客の要望等を踏まえたサービスの充実や観劇時のマナーの呼びかけ

- ・観劇の雰囲気盛り上げる装飾やフォトスポットの設置、公演にちなんだ飲食の提供や各種ワークショップ等を行った。また、観劇マナーの向上に関する取組を行った。

<本館>

- ・国立劇場オリジナルグッズ等を作成し、公演会場で販売した。
- ・「国立劇場令和8年オリジナルカレンダー」を作成し、9月より販売した。あぜくら会員への公演チケットとセットにした割引販売も実施した。
- ・読売新聞社運営のオンラインショップ「美術展ナビ 図録・グッズ SHOP」において、オリジナルグッズ、オリジナルカレンダー、公演解説書バックナンバー等を販売した。

<文楽劇場>

- ・文楽劇場の4月文楽公演、夏休み文楽特別公演、爽秋文楽特別公演、初春文楽公演の第3部の来場者を対象に特製ステッカーの配布を行った(各公演4日間)。

<新国立劇場>

- ・8月よりオペラ公演にて、開演前の注意事項アナウンスを日本語・英語字幕としても表示することを開始した。
- ・バレエ10月公演「シンデレラ」より、バレエ公演にて終演後のカーテンコールの撮影を可能とした。
- ・演劇「鼻血」より、アナウンス品質の均一化や多言語対応への柔軟性等を目的として、演劇主催公演においてAI音声による場内アナウンスの導入を行った。

② 高齢者・障害者等多様な観客に配慮した環境整備等各種サービスの充実

(a) バリアフリーに関する取組

<各館共通>

- ・字幕表示や、高齢者・障害者割引のほか、車椅子での来場、筆談や補助犬入場等に対応した。

(b) 観劇サポートの実施

<本館>

- ・聴覚障害者のための観劇サポートとして、貸出用の台本を用意した(6・7月歌舞伎鑑賞教室、9月・初春歌舞伎公演)。
- ・聴覚障害者の観劇機会拡大のため、上演台本を表示する字幕アプリ(無料：日本語・英語)を提供した(6月歌舞伎鑑賞教室：6/15～21)。

<新国立劇場>

- ・文化庁委託事業「令和7年度障害者等による文化芸術活動推進事業」として、視覚・聴覚に障害を持つ観客への観劇サポートを実施した。

【サポート内容】

視覚障害者向け：開演前舞台説明会、リアルタイム音声ガイド等

聴覚障害者向け：バリアフリー字幕の提供等手持ち型ポータブル字幕機の貸出

【実施実績】

公演	視覚障害者向け 実施日	聴覚障害者向け 実施日	参加者数 (合計)
「ザ・ヒューマンズ」	6/25・28	6/20・21	58名
「焼肉ドラゴン」	10/13・16	10/23・24	49名
「スリー・キングダムス」	12/11・13	12/11・13	22名

- ・演劇の全公演を対象に、聴覚障害者を対象とした鑑賞サポートタブレット(上演台本)の貸出を行った(利用実績7件)。
- ・文化庁委託事業「令和7年度障害者等による文化芸術活動推進事業」として、「観劇サポート」関連イベント 舞台芸術の企画・制作・運営等に携わる方を主に対象とした「Open Theatre Project～知ろう、始めよう、観劇サポート～」を2日間にわたり開催した。
 - ◇12/13 「スリー・キングダムス」観劇サポート体験 参加者17名
 - ◇12/14 実例紹介・パネルディスカッション 参加者37名
 - ◇1/18 「触る模型」取組紹介 参加者44名
- ・観劇サポートで使用した「触る模型」を演劇の公演会場で展示し、晴眼者にも実際に触って体験してもらい、観劇サポートの取り組みの周知を図った。

(c) 割引等各種サービスの実施

<各館共通>

- ・高齢者や障害者に対する各種割引を行った。

③ 外国人利用者に配慮した環境整備等各種サービスの充実

(a) Discover 公演における各種サービスの充実

<各館共通>

- ・多言語によるプログラムを提供した。

館名	対応言語
本館	7 言語(日本語・英語・中国語(簡体字)・中国語(繁体字)・韓国語・フランス語・スペイン語) ※Discover NIHONBUYO は 2 言語(日本語・英語)
能楽堂	6 言語(日本語・英語・中国語(簡体字)・韓国語・フランス語・スペイン語)
文楽劇場	7 言語(日本語・英語・中国語(簡体字)・中国語(繁体字)・韓国語・フランス語・スペイン語)
おきなわ	4 言語(日本語・英語・中国語・韓国語)

- ・多言語による字幕表示を実施した。

館名	対応言語
本館	1 言語(英語)
能楽堂	座席字幕表示 6 言語(日本語・英語・中国語(簡体字)・韓国語・フランス語・スペイン語)
文楽劇場	1 言語(英語)
おきなわ	1 言語(英語)普及公演「女物狂」、研究公演「執心鐘入」のみ

- ・多言語による音声ガイドを無料貸出した。

館名	対応言語
本館	2 言語(日本語・英語) ※Discover KABUKI、Discover BUNRAKU のみ
文楽劇場	2 言語(日本語・英語)
おきなわ	4 言語(日本語・英語・中国語・韓国語) ※Discover KUMIODORI、2 言語(英語・韓国語) アジア・太平洋地域の芸能の2公演のみ

(b) 観劇環境の充実

<各館共通>

- ・英語版ホームページにおいて、公演カレンダー機能を追加し、公演情報の広報強化を図った(9/30)。
- ・英語版観劇マナーチラシを配架した。
- ・英語対応が可能な劇場案内スタッフ等を配置した。
- ・英語版のチケット購入サイトを提供した。
- ・アナウンス、リーフレットによる公演情報や施設案内等を多言語化した。
- ・海外からのチケット購入サービスの提供、リンク対応を行った。
- ・海外向け SNS 発信を充実させた。

<おきなわ>

- ・旅行代理店と提携し、多言語対応している航空券やホテル、レンタカーの手配もあわせてできるサイトでチケットを委託販売した。

<新国立劇場>

- ・英語通訳付きのバックステージツアーを計 6 回実施した。

(c) 観劇サポートの実施

<各館共通>

- ・公演プログラムへの英文・多言語によるあらすじ等の掲載や英文・多言語リーフレット等の配布により、外国人の理解促進や観劇環境の充実を図った。
- ・英語版ホームページにおいて、英語であらすじや概要等、公演詳細を掲載した。
- ・Discover 公演以外でも英語音声同時解説サービスの貸出、字幕対応を実施した。
- ・多言語での字幕対応、公演資料の作成・配布を行った。

区分	公演数	利用実績
文楽公演(大阪)	3 公演	1,258 名
特別企画公演(大阪)	1 公演	8 名

<文楽劇場>

- ・爽秋文楽特別公演で日本語・英語対応の「字幕アプリ通信方式」の表示を実施した。

④ 災害等への対応

<各館共通>

- ・外部団体の協力を得て、職員参加の避難訓練を定期的に行った。

イ 多様な購入方法の提供

<各館共通>

- ・eチケット等対応チケットの種類を増やした。

<文楽劇場>

- ・3月上方演芸特選会において電子チケット入場について実証実験を行った。

ウ 公演内容等の理解促進のための取組

① 解説書等の作成

<各館共通>

- ・演目に関する解説や出演者の写真・インタビュー等を掲載した解説書等を作成し、販売・配布した。
- ・公演内容に応じてゆかりの地に関する特集等を組み、また、カラー写真や図版を多用して、視覚的にも理解促進が図れるよう工夫した。

<本館>

- ・《文楽名作入門》においては、解説書に作品の理解促進を図る特集を設け、床本に語注を付した。

② 音声同時解説・字幕表示

(a) 音声同時解説サービスの実施

<本館>

- ・一部公演で音声同時解説サービスを実施した。

<文楽劇場>

- ・一部公演で音声同時解説サービスを実施し、夏休み文楽特別公演第1部親子劇場では、子どもの観劇のサポートとして、18歳以下の来場者に音声同時解説サービスの無料貸出を実施した(1,745台)。

<おきなわ>

- ・一部公演で音声同時解説サービスを実施した。
- ・普及公演「琉球楽器の音色」、企画公演「ISLAND SONGS 島のうた」において英語話者の案内役が日本語・英語で解説を行った。

<新国立劇場>

- ・一部公演で音声同時解説サービスを実施した。
- ・令和7年度障害者等による文化芸術活動推進事業(文化芸術による共生社会の推進を含む)として、演劇3公演(「ザ・ヒューマンズ」「焼肉ドラゴン」「スリー・キングダムス」)で、視覚に障害がある方向けにリアルタイム音声ガイドを提供した。

(b) 字幕表示の実施

分野	実施公演数	内 訳
歌舞伎(鑑賞教室含む)	2 公演	6 月鑑賞教室、7 月鑑賞教室
文楽(鑑賞教室含む)	8 公演	東京:3 公演 大阪:5 公演
舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗 芸能・琉球芸能・特別企画	5 公演	東京:4 月特別企画公演、8 月舞踊公演、3 月特別企画公演 大阪:7 月邦楽公演、11 月特別企画公演
能楽(鑑賞教室含む)	50 公演	蠟燭能を除く全公演
オペラ(鑑賞教室含む)	10 公演	こどもオペラを除く全公演
演劇	6 公演	令和7年度障害者等による文化芸術活動推進事業(文化芸術による共生社会の推進を含む)として3公演で実施(「ザ・ヒューマンズ」「焼肉ドラゴン」「スリー・キングダムス」) 「母」、「鼻血—The Nosebleed—」、「焼肉ドラゴン」凱旋公演
研修発表会等	2 公演	オペラ研修所 2026 春公演「ウィンザーの陽気な女房たち」、朗読劇「少年口伝隊一九四五」

<各館共通>

- ・上演内容に応じて詞章、歌詞などの表示を行い鑑賞の助けとした。

<能楽堂>

- ・「国立能楽堂ショーケース」及び11月企画公演〈手話狂言〉については現代語訳チャンネルも合わせて提供した。また8月の夏休み親子向け公演では、子供が読みやすいように子供向け字幕も実施した。

<新国立劇場>

- ・オペラ公演で日・英字幕を表示し、演劇3公演については聴覚障害者向けにポータブル字幕機を使用し、「母」では日・英字幕、「鼻血—The Nosebleed—」「焼肉ドラゴン」では日本語字幕を表示した。また、オペラ研修所 2026 春公演「ウィンザーの陽気な女房たち」にて日本語字幕を表示し、朗読劇「少年口伝隊一九四五」

一九四五」では英語のポータブル字幕機提供を行った。

③ 公演内容の事前説明会・ワークショップ・ステージツアー等の実施

(a) 公演説明会・ワークショップ・ステージツアー等の実施

《公演説明会・ワークショップ・ステージツアー等の実施実績》

区分	参加者数
本館	2,573 人
演芸場	16 人
能楽堂	6,195 人
文楽劇場	23,366 人
国立劇場おきなわ	1,245 人
新国立劇場	5,840 人

本館・演芸場については、代替施設で公演を実施する地元地域と連携して、入門講座等の住民還元事業を実施した。また、各館においても、公演内容等の理解促進に資する各種イベントを実施した。

＜能楽堂＞

- ・能楽師の案内で国立能楽堂内を見学する「国立能楽堂オープンデイ」を新たに実施した。全8回実施し、累計で2,000名以上の参加者を得た。

《オペラトーク・シアタートーク開催実績》

区分	実施回数	参加者数
オペラトーク	1 件	167 人
オペラトーク配信版	3 件	6,112 人
シアタートーク	7 件	1,520 人
合計	11 件	7,799 人

- ・各劇場でのバックステージツアーやトークイベント、見学会を実施した。
- ・年齢による予約優先や子供向け、英語対応等の幅広い対象に向けたイベントを企画・実施した。

(b) 劇場外での公演説明会等の実施

＜各館共通＞

- ・外部機関と連携し、幅広い対象に向けた講座・ワークショップ等を開催した。

エ アンケート調査等の活用による観客等の要望・利用実態等の把握、サービスの向上

① 意見・要望等への対応体制

- ・アンケート結果を各部署間で共有し、サービスの改善に努めた。

② 意見・要望等への対応 実績

区分	劇場内ご意見箱		メールによるご意見	
	受付件数	回答件数	受付件数	回答件数
本館	0 件	0 件	265 件	242 件
演芸場	1 件	1 件		
能楽堂	0 件	0 件		
文楽劇場	83 件	25 件		
国立劇場おきなわ	1 件	0 件	5 件	4 件
新国立劇場			375 件	220 件
合 計	85 件	26 件	645 件	466 件

※ご意見の内容は公演の感想を含めて多岐にわたるほか、宛先不明等により、回答件数は各劇場・分野によって異なる。

《主な対応・改善例》

＜新国立劇場＞

- ・中劇場の遮光板について、衝突すると怪我の恐れがあるとの意見があり、遮光板の角に安全クッションを設置した。
- ・お客様が嘔吐等のトラブルでお召し物を汚された際に使用するための、使い捨ての下着および着替えの洋服一式を常備しており、使用頻度が高まっている。

2-(6) 広報・営業活動の充実

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(6) 広報・営業活動の充実

幅広く多くの人が鑑賞することを目標とする、一層効果的な広報・営業活動の展開

ア 公演内容に応じた効果的な宣伝活動

振興会各種事業に関する広報の充実、ホームページ・SNS等を活用した最新情報の提供、ホームページのアクセシビリティ向上

イ シーズンシートの拡充、会員に向けた各種サービスの提供、外国人向けの広報・営業、潜在的なニーズの把握、関係機関との連携等、観客の需要を的確に捉えた営業活動の展開 より効果的かつ効率的な運営を行うための会員組織の見直し

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(6) 広報・営業活動の充実

ア 効果的な広報・営業活動の展開

①公演内容に応じて、記者会見・取材等によるマスメディアを通じた広報や、インターネット広告等の多様な媒体を活用した効果的な広報活動

②振興会各種事業に関する広報の充実、ホームページ等を活用した最新情報の提供

(a)ホームページについて、各種情報の早期掲載及び内容の充実、アクセス動向等の分析

(b)SNSやメールマガジンによる公演等の情報の随時配信

(c)振興会各種事業の情報発信及び周知を効果的に実施、国立劇場等の再整備期間中における代替施設での公演について効果的な情報発信を行うための検討を継続

(d)外国語版のホームページ、SNS等での外国人に対する効果的な情報発信

③シーズンシートやセット券等の企画・販売、各種キャンペーンの企画・実施

④団体観劇促進のための、公演内容に応じた営業活動の展開、旅行代理店・ホテル等との連携強化

⑤若年層の観客増を図るため、大学等を対象とする会員制度「キャンパスメンバーズ」の運営、会員校の増加及びサービスの拡充に努める

イ 個人を対象とする会員組織の会員に対し、会報等による情報提供を定期的を実施

入場券の会員先行販売や会員向けイベント等の各種サービスを提供

アンケート調査の結果等を、会員向けサービスの充実に活用

新会員組織の構築について準備

①あぜくら会

・会報「あぜくら」(毎月発行)

・会員向けイベント(年3回程度、代替施設での上演方法や施設利用状況等を踏まえ適宜実施)

②国立文楽劇場友の会

・「国立文楽劇場友の会会報」(年6回発行)

・会員向けイベント(年3回程度)

③国立劇場おきなわ友の会

・「国立劇場おきなわ友の会会報」(年4回発行)

・会員向けイベント(年2回程度)

④クラブ・ジ・アトレ

・会報「ジ・アトレ」(毎月発行)

・会員向けイベント(年11回程度)

ア 効果的な広報・営業活動の展開

① 多様な媒体を活用した効果的な広報活動

(a) ホームページ、SNS 等インターネットを活用した広報活動

・詳細は「②(a) ホームページ、SNS やメールマガジンによる公演等の情報発信」に記載

(b) メディア等と連携した広報活動

<各館共通>

- ・マスコミ各社を招いて、出演者・関係者の取材会(記者会見)を実施した。また、個別にマスコミの取材対応等も行った。
- ・新聞・雑誌等に公演情報を掲載した。
- ・テレビ・ラジオ番組で職員や出演者・芸術監督等関係者が公演 PR を行った。

<本館>

- ・9月歌舞伎公演にあわせて、映画「国宝」の李相日監督と同作で歌舞伎指導と出演を務めた中村鴈治郎の対談イベントを国立劇場小劇場舞台で開催した(8/30、来場者 97 人)。

<新国立劇場>

- ・「焼肉ドラゴン」制作発表記者会見を開催し、オーディエンス 150 名を特別招待した。

(c) チラシ・ポスター等による広報活動

<各館共通>

- ・劇場ロビーや演目ゆかりの地、文化施設・公共施設等にチラシ・ポスターを掲出した。
- ・駅貼りポスター、壁面広告、車内中吊り広告等の交通広告を行った。
- ・近隣イベントへの出店を行いパフォーマンスを行った。

(d) 来場者に対する広報活動

<各館共通>

- ・劇場や代替劇場、全国公演会場のロビー等を活用し、公演広報や公演にちなんだ掲示を行った。

(e) 各分野の特性や公演内容に応じた広報活動

<各館共通>

- ・チラシ・ポスター等のほか、新聞・雑誌等への掲載等での周知、取材対応等、メディアと連携した広報活動を行った。また、ホームページ、SNS 等インターネットを活用した広報活動を行った。

◇詳細は「(b) ホームページ、SNS 等を活用した最新情報の提供」に記載

<新国立劇場>

- ・2025/2026 シーズンガイドを作成し、シーズンを通した演目の紹介、各種サービスの案内を行った。
- ・上演演目に合わせて京王新線初台駅の列車接近メロディを変更した(バレエ「くるみ割り人形」)。
- ・オペラ公演にてオーケストラとの相互宣伝協力を行い、東京フィルハーモニーオーケストラ定期公演の会場にてチラシ設置を行ったほか、オーケストラの会員に対する DM を実施した。
- ・7月の「ジゼル」ロンドン公演に際しては、現地エージェントと協働して現地での広報・営業活動に努め、高い入場率を実現することができた。

② 振興会各種事業に関する広報の充実、ホームページ等を活用した最新情報の提供

(a) ホームページ、SNS やメールマガジンによる公演等の情報発信

《ホームページアクセス件数》

区 分	件数	前年度実績
振興会 HP	2,142,897 件	1,518,353 件
国立劇場おきなわ HP	4,262,981 件	1,533,729 件
新国立劇場 HP	4,419,707 件	4,412,826 件

《SNS 等登録者数》

区分	Facebook	Instagram	LINE	YouTube	X(旧 Twitter)	メールマガジン
国立劇場	-	11,875 (+1,268)	-	42,524 (+2,978)	13,634 (+1,295)	-
国立劇場(英語)	-	3,553 (+3,284)	-	-	-	-
国立劇場チケットセンター	-	-	-	-	-	29,112 (△10,532)
演芸場	-	-	-	-	3,426 (+371)	-

能楽堂	-	-	-	-	2,786 (+667)	-
文楽劇場	-	2,580 (+2,580)	2,621 (+446)	-	16,665 (+322)	-
文楽劇場 (企画制作課文楽技術室)	-	2,973 (+1,386)	-	-	-	-
国立劇場おきなわ	3,231 (+117)	1,808 (+424)	1,648 (+59)	2,280 (+110)	643 (+50)	-
新国立劇場	-	-	25,822 (+2,848)	63,983 (+4,221)	-	-
新国立劇場(英語)	4,278 (+311)	9,232 (+1,237)	-	-	-	-
新国メンバーズ	-	-	-	-	-	72,223 (+6,717)
新国立劇場オペラ	18,405 (+475)	10,715 (+2,151)	-	-	25,132 (+1,066)	-
新国立劇場バレエ団	19,194 (+252)	95,512 (+10,475)	-	-	28,864 (+919)	-
新国立劇場演劇	3,966 (+216)	4,686 (+1,362)	-	-	29,310 (+783)	-

※()内の数値は前年度からの増減。

《各劇場のホームページや SNS 等を活用した広報活動》

- ・演目のダイジェスト動画、稽古場の様子や出演者等関係者のインタビュー動画等をホームページや SNS 等で公開するとともに、Web 広告も活用し、公演 PR に努めた。
- ・若年層への伝統芸能の普及や観客開拓に資するため、小学生を主なターゲットとした特設サイト「国立劇場 こどもサイト」を公開した(4/25)。伝統芸能に触れるきっかけとなる入口のサイトとなることを目指し、各芸能の解説、子供・親子向けイベント情報、養成事業の紹介記事、ゲームなどで構成。情報を集約して発信することで、興味喚起の相乗効果発揮を図った。

＜本館＞

- ・初春歌舞伎公演にあわせて、歌舞伎観劇は未経験という層に向け、チケット購入方法や来場案内、演目あらすじを解説する動画を 2 本作成し、YouTube で公開した。

＜能楽堂＞

- ・国立能楽堂オリジナルキャラクター「はんにゃちゃん」の着ぐるみを製作し、主催公演および展示の広報活動を行った。

＜新国立劇場＞

- ・「オペラができるまで～『ウィリアム・テル』の軌跡～」(日・英)の動画を公開した。
- ・国内外の幅広いユーザーに対して新国立劇場の情報を提供するとともに、国際的な文化交流の機会を広げるため、ブルームバーグ・エル・ピーによる資金的・技術的サポートを受け、世界の芸術・文化施設のデジタルガイドを無料で楽しめるアプリ「Bloomberg Connects (ブルームバーグ・コネクト)」に新国立劇場のページをオープンした。

(c) 外国人に対する効果的な情報発信

＜各館共通＞

- ・外国人旅行者の観劇の増加を図るため、外国語チラシやリーフレットを主要な観光案内所・ホテル等に掲出した。また、外国語版のホームページや SNS 等での情報発信の充実のほか、訪日外国人・在日外国人をターゲットとした WEB 広告などを実施した

＜本館＞

- ・海外 OTA に公演ページを作成し、チケット販売を行った(販売実績計 879 枚、前年度実績 321 枚)。
- ・渋谷の外国人観光客をターゲットとした観光案内所で 2 月文楽公演の PR イベントを実施した。

＜能楽堂＞

- ・海外 OTA に公演ページを作成し、チケット販売を行った(販売実績計 5 枚、1 月国立能楽堂ショーケースより開始)。
- ・外国人向けワークショップを開催した(計 3 回、462 名参加)

＜文楽劇場＞

- ・文楽本公演では、外国人に需要が高い幕見席を特に案内した英語チラシを作成し、WEB・SNS・チラシ配布などで情報発信を行った。

＜新国立劇場＞

- ・海外からジャーナリストを招聘し、新国立劇場の認知を高めるとともに、海外メディアでの露出を図った(オペラ「ナターシャ」9 名)。

・オペラ「リゴレット」において、在日旅行代理店(インバウンド取扱い)のモニター観劇会を実施した。

③ 振興会各種事業に関する広報誌の発行

・「新国立劇場 令和6年度年報」(9月発行、2言語(日本語・英語)表記)

④ シーズンシートやセット券等の企画・販売、各種キャンペーン等の企画・実施

・観劇促進のため、観客の需要を踏まえてセット券や団体割引のほか、各種キャンペーンを実施した。

施策等	主な実績
幕見席	文楽劇場 4月文楽公演第1部・第2部・第3部:実績 830 枚 文楽劇場 夏休み文楽特別公演第2部・第3部:実績 851 枚 3部:実績 851 枚 文楽劇場 爽秋文楽特別公演 Aプロ・Bプロ・Cプロ:実績 1,187 枚 文楽劇場 初春文楽公演第1部・第2部・第3部:実績 851 枚
通し券・セット券	文楽劇場 4月文楽公演「通し割引」:実績 818 セット・2,454 枚 文楽劇場 10月舞踊公演セット割引:実績 14 セット 28 枚) おきなわ 4月琉球舞踊公演(2日通し券):実績 15 セット・30 枚 おきなわ 12月琉球舞踊公演(2日通し券):実績 109 セット・218 枚 おきなわ 2月琉球舞踊公演(2日通し券):実績 56 セット・112 枚 新国立劇場 シリーズ「光景—ここから先へと—」演劇 3 作品通し券:実績 434 セット・1,302 枚 新国立劇場 2025/2026 シーズン演劇 12月中劇場 2 作品通し券:実績 133 セット・266 枚 新国立劇場 2025/2026 シーズン演劇 開幕 2 作品通し券:実績 339 セット・678 枚
シーズンセット券	新国立劇場 25/26 シーズンオペラ:実績 2,368 セット・13,472 枚 新国立劇場 25/26 シーズン バレエ・プレミアムリザーブ:実績 8 セット・408 枚
シード権(優先販売)	新国立劇場 バレエ&ダンス(郵送申込シード権)
入会キャンペーン	文楽劇場(7/2~10/14)、おきなわ(7/2~11/23)

※このほか、エリア・属性限定割引を実施。

⑤ 公演内容に応じた営業活動の展開、旅行代理店・ホテル等との連携強化

(a) 訪問、メール、DM 等による営業活動

<各館共通>

- ・訪問・メール等による団体営業を行った。
 - ・ホームページ、SNS、外部のプレスリリースサービス等に団体観劇に関する案内を掲出した。
 - ・チラシ・ポスターの配布による観客勧誘を行った。
- 過去に利用実績のある団体や利用見込団体等に対して公演情報 DM を定期的に送付した(本館・演芸場 7 回 19,854 件、文楽劇場 4 回 3,053 件、新国立劇場 3 回 2,101 件)。
- ・対象に応じてプラン販売、説明会をはじめとするプロモーションイベントの開催、営業を行った。

(b) 学校団体や若年層を対象とした営業活動

<各館共通>

- ・学校等に対して 7 年度鑑賞教室の案内 DM を送付した(本館 12,390 件、能楽堂 845 件、文楽劇場 2,187 件、おきなわ 530 件)。
- ・親子を対象とする公演について、学校・地方公共団体等を通じて生徒・児童にチラシを配布した(本館 125 万枚、能楽堂 34 校 680 枚、文楽劇場 274,060 枚、新国立劇場 110 校 26,900 枚)。
- ・8 年度鑑賞教室の案内 DM を送付した(本館 14,647 件、能楽堂 835 件、文楽劇場 2,187 件、おきなわ 580 件、新国立劇場 1,679 件)。
- ・地方公共団体等と連携し、各種イベントの開催や割引・優待を行った。
- ・8 年度鑑賞教室の団体鑑賞申込み受付を開始した。

<本館・演芸場>

- ・学校向け修学旅行情報誌に団体鑑賞の案内を掲載した(6 月歌舞伎鑑賞教室、7 月歌舞伎鑑賞教室、12 月文楽鑑賞教室)。
- ・キャンパスメンバーズ会員校に対して、団体営業を行うとともに定期的に公演案内を送付した。
- ・29 歳以下の NTJ メンバーを対象にした「U29 割引」券を販売した(5 月国立演芸場寄席、5 月文楽公演、5 月邦楽公演、9 月歌舞伎公演、11 月舞踊公演、初春歌舞伎公演、2 月文楽公演。販売実績枚 240 枚)。
- ・2 月文楽公演において文化庁「劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業」を実施(販売実績 128 枚)

<能楽堂>

- ・29 歳以下の NTJ メンバーを対象にした「U29 割引」券を販売した(7 月 23 日、24 日国立能楽堂ショーケース公演。販売実績枚 5 枚)。
- ・能楽鑑賞教室公演期間以外で鑑賞を希望の学校等に対し、貸し公演としての学校公演を提供した。

<文楽劇場>

- ・大阪市と連携し大阪市内在学の公立学校の児童・生徒に対し「夏休み親子ペア文楽鑑賞優待事業」(大阪市主催)を実施した。

- ・振興会の伝統芸能分野では初めて、文化庁「劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業」として割引販売を実施した(文楽劇場:初春 1/23～25 第3部、販売実績:148枚)。

＜おきなわ＞

- ・外部の情報サイトで学校団体向けの普及公演の告知を行った。
- ・組踊鑑賞教室「二童敵討」について、観劇する学校団体等に対し、貸切バス費用の助成を実施した。

＜新国立劇場＞

- ・新国メンバーズの若年層向けに、オペラの一部の公演で39歳以下を対象にU39割引チケット、オペラ・バレエ・現代舞踊・演劇の一部の公演で25歳以下を対象にU25割引チケットを数量限定で販売した。
- ・高校生のためのオペラ鑑賞教室 2025「蝶々夫人」に際して、鑑賞校へレクチャー教材(動画映像)を提供した。
- ・首都圏大学宛てに新国メンバーズ入会(U25)を促進するために入会案内チラシのDMを発送し、各大学での配布協力を依頼した(436件)。

(c) 外国人を対象とした営業活動

- ・詳細は「(c) 外国人に対する情報発信の効果的な実施、より効果的な情報発信を行うための検討」に記載。

(d) 旅行代理店、ホテル、地方公共団体等との連携による営業活動

- ・チラシ・ポスター配布、修学旅行情報誌やWebでの情報発信のほか、訪問・メール等による団体営業を行った。また、自治体や文化施設、観光協会等との連携など、各分野の特性や公演内容に応じた営業活動を行った。さらに、レクチャー等を提供することで団体集客に努め、顧客の定着を図った。

＜新国立劇場＞

- ・演劇「スリー・キングダムス」において、旅行代理店のモニター観劇会を実施した。
- ・モダンラグジュアリーホテル「メズム東京、オートグラフ コレクション」とコラボレーションし、バレエ「シンデレラ」からインスパイアされた特別なランチ・ディナープログラムや、観劇をセットにした食事プラン等を提供した。

(e) 各分野の特性や公演内容に応じた営業活動

＜各館共通＞

- ・上演演目ゆかりの地の地方公共団体・文化施設・観光協会等関係団体に対する営業活動を行った。
 - ◇訪問、DM発送等による団体勧誘
 - ◇関連施設やイベント等でのチラシ・ポスターの掲出
 - ◇劇場ロビーでゆかりの地の自治体等のPRイベントを開催
- ・鑑賞の前後に出演者等による演目解説を実施する団体向けサービスを提供した。

＜新国立劇場＞

- ・オペラ「こうもり」で一般向けに、バレエ「シンデレラ」で法人向けにホスピタリティプログラム「グランエクスペリエンス」を各1日程実施した。

⑥ 大学等を対象とする会員制度「国立劇場キャンパスメンバーズ」の運営等

(a) 「国立劇場キャンパスメンバーズ」

- ・会員数:29校
 - (6年度より継続加入:26校)
 - 青山学院大学、大妻女子大学、お茶の水女子大学、学習院女子大学、共立女子大学、学校法人国際共立学園、国士舘大学、埼玉県理容美容専門学校、実践女子大学・実践女子大学短期大学部、学校法人上智学院、白百合女子大学、清泉女子大学、拓殖大学、玉川大学、津田塾大学、東京アニメーションカレッジ専門学校、東京学芸大学、東京藝術大学、東京工芸大学、学校法人東京国際大学、獨協大学、二松学舎大学、日本大学、日本女子大学、文京学院大学、法政大学、武蔵野大学、武蔵野音楽大学、明治学院大学
 - (7年度より新規加入:3校)
- ・利用枚数:計2,127枚(歌舞伎1,040枚、文楽648枚、短期26枚、演芸186枚、能楽227枚)
- ・その他各種イベント及び提携・協力事業を企画・開催した。

(b) 新国立劇場大学連携協力協定

- ・協定締結校:12校
 - 東京藝術大学、学校法人武蔵野音楽学園(武蔵野音楽大学)、国立音楽大学、東京音楽大学、大阪音楽大学、桐朋学園大学、北海道教育大学、昭和音楽大学、学校法人洗足学園(洗足学園音楽大学)、東京学芸大学、東邦音楽大学、学校法人東京医科大学

イ 個人を対象とする会員向けサービスの提供・充実

(a) 会員数

区分	会員数	対前年度末増減 (A-B)	今年度入会者数 (A)	今年度退会者数 (B)
あぜくら会	12,997 人	△ 1,176 人	266 人	1,442 人
文楽劇場友の会	7,293 人	△ 189 人	298 人	487 人
国立劇場おきなわ友の会	1,357 人	△ 73 人	475 人	548 人
クラブ・ジ・アトレ	11,853 人	△ 554 人	985 人	1,539 人

(b) 会報誌の発行

区分	発行回数	実績
あぜくら会	12 回	「あぜくら」を毎月 2 日に発行
文楽劇場友の会	6 回	文楽本公演に合わせて「友の会会報」を発行
国立劇場おきなわ友の会	4 回	「国立劇場おきなわ友の会会報」を 6、9、12、3 月に発行
クラブ・ジ・アトレ	12 回	「ジ・アトレ」を毎月発行

(c) 会員向けイベント

区分	実施回数	参加者数
あぜくら会	4 件	177 人
文楽劇場友の会	4 件	527 人
国立劇場おきなわ友の会	1 件	48 人
クラブ・ジ・アトレ	13 件	424 人

<各館共通>

- ・各種入会・紹介キャンペーンを開催し新規会員獲得に努めた他、交流イベントの開催や、購入記念品の贈呈など既存客に向けたイベントを開催した。

(d) 会員向けサービスの充実

<各館共通>

- ・会員サイト上で各種情報や会報誌の掲載を行った。
- ・公演チケットの優先販売、新規会員を対象としたプレゼント企画等を行った。

(e) アンケート調査等

<各館共通>

- ・公演や会報誌、会員向けイベント等でアンケートを行い各種サービスに対する会員の興味・関心の把握に努めた。

2-(7) 劇場施設の使用効率の向上等

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(7) 劇場施設の使用効率の向上等

- ア 各種事業の日程をより効率的に設定するなど劇場施設の使用効率の向上
鑑賞機会の増加を図る観点から、主催公演等の実施のほか、伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及等を目的とする事業に対し、劇場施設を積極的に貸与
- イ 利用方法、空き日情報等をホームページ等により提供
利用者に対するアンケート調査等を活用したサービスの向上に努め、一層の利用促進を図る
- ウ 再開場後の新劇場の施設使用料金等について検討
- エ 振興会が有する各劇場の相乗効果を最大限に発揮するため、各劇場及び各公演の連携協力を強化、効果的な運営を実施

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(7) 劇場施設の使用効率の向上等

- ア 劇場施設の使用効率の向上を図るとともに、伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及等を目的とする事業に対し、劇場施設を積極的に貸与
- イ 各施設の利用促進を図るため、次の取組を実施
 - ①各施設の設備等の概要、利用方法及び空き日等の情報をホームページへ掲載
 - ②パンフレットやダイレクトメールによる広報
 - ③利用希望者に対する説明・見学等の機会を設け、劇場利用者の増加に取り組む
 - ④利用者に対しアンケート調査を実施、その調査結果を踏まえたサービスの充実
- ウ 他の劇場施設等の利用方法、利用料金等の調査、調査結果の検討・活用
- エ 振興会が有する各劇場の相乗効果を最大限に発揮するため、各劇場及び各公演の連携協力を効果的に実施
- オ 国立劇場等の再整備期間中は施設利用者向けのサービス継続のため、情報提供及び技術協力等の斡旋、稽古室等の貸出を実施

ア 劇場施設の使用効率の向上、積極的貸与

※本表の稼働率は劇場の使用日数を基に算出している。このほか稽古室等も、各劇場の状況に応じた取組により積極的な利用が行われ、使用効率の向上を図っている。

劇場	主催公演・養成 研修等使用日数 (A)	貸劇場使用日数 (左記使用日との重複除く) (B)	稼働日数 (C)=(A)+(B)	使用可能日数 (D)	劇場稼働率 (C)/(D)	前年度 劇場稼働率
能楽堂	137 日	143 日	280 日	306 日	91.5%	93.6%
文楽劇場	185 日	65 日	250 日	300 日	83.3%	76.6%
文楽劇場小ホール	65 日	84 日	149 日	258 日	57.8%	55.0%
国立劇場おきなわ大劇場	125 日	63 日	188 日	267 日	70.4%	69.0%
国立劇場おきなわ小劇場	51 日	83 日	134 日	280 日	47.9%	40.8%
伝統芸能分野 合計	563 日	438 日	1,001 日	1,411 日	70.9%	67.2%
新国立劇場オペラ劇場	250 日	43 日	293 日	293 日	100.0%	98.3%
新国立劇場中劇場	88 日	230 日	318 日	328 日	97.0%	99.1%
新国立劇場小劇場	156 日	150 日	306 日	318 日	96.2%	99.3%
現代舞台芸術分野 合計	494 日	423 日	917 日	939 日	97.7%	98.9%
総 合 計	1,057 日	861 日	1,918 日	2,350 日	81.6%	79.4%

※劇場稼働率＝稼働日数／使用可能日

稼働日数：主催公演等使用日＋養成研修使用日＋貸劇場使用日（主催公演・養成事業等使用日との重複除く）

主催公演等使用日・養成研修使用日は、稽古・仕込・業務使用等を含む。

使用可能日：365 日－（休演日＋保守日＋調整日）

※主催公演・養成研修等使用日数は、稽古・仕込・業務使用等を含む。

※使用可能日数：365 日－（休演日＋保守日＋調整日）

※主催公演等での使用と貸与とが重複する日は、劇場稼働率の算出において貸劇場使用日は 0 日として計上されるため、重複日分については、実際に貸与した日数が増加した場合でも劇場稼働率は上昇しない。

イ 各施設の利用促進を図るための取組

- ・各館ホームページでの情報発信や DM 送付など、各施設の利用促進を図った。
- ・利用希望者には随時、説明・見学対応など劇場利用者の増加に努めた。

《アンケート結果》

劇 場	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
能楽堂	93 件	16 件	16 件	16 件	17.2%	100%
文楽劇場	94 件	39 件	38 件	38 件	41.4%	97.4%
国立劇場おきなわ	80 件	32 件	32 件	32 件	40.0%	100%

ウ 他の劇場施設の利用料金等の調査

- ・他劇場の利用方法・利用料金等について調査・検討を行い、施設貸与業務に活用した。

エ 各劇場の相乗効果を発揮するための連携協力

- ・各劇場で相互に公演チラシ等をロビーに掲出し、公演周知に努めた。
- ・新国立劇場での国立劇場公演の開催に伴い、両劇場の公演案内を相互の会員向けにメールマガジンで送信し、公演周知に努めた。

オ 再整備期間中における施設利用者向けのサービス継続等

- ・国立劇場等の再整備期間中は施設利用者向けに継続してサービスを行うために、伝統芸能公演を実施するための相談窓口を設けて情報提供及び舞台技術職員等の派遣による技術協力を行い、本館稽古場・研修室等の貸与（事務所移転までの期間）を実施した。
- ・施設使用規程を改正し、再整備期間中の国立劇場施設のうち、施設・設備上の安全性が確認できた一部の施設（大劇場舞台・楽屋、小劇場舞台・楽屋等）について、伝統芸能を優先して貸出を行う体制を整備した。
- ・国立劇場稽古室利用については DM による案内（4/25・7/25・11/5・1/26）、また、舞台・楽屋等利用については令和 8 年度上半期の案内（1/26）を DM により行った。
- ・閉場期間中の国立劇場等施設ほか各劇場施設を有効活用した事業を実施するため、新たな企画提案の検討及び調整を進めた。

- ・再整備のため解体予定の国立劇場施設を素材に、今後の情報発信や記録作成も視野に入れ、G00PASS 株式会社の協力のもと、広報・宣伝部門職員向け研修「写真撮影講座」を実施した(9/18)。今後、対象を一般に拡大し、主催事業及びユニークベニュー企画としての展開も見据えている。
- ・株式会社エイチ・アイ・エスとの連携協定に基づき、大劇場舞台・楽屋等を活用したインバウンド向けの高単価・高付加価値の舞台芸術体験ツアーを企画し、観光庁補助金事業「地方創生プレミアムインバウンドツアー集中展開事業」の交付を受けた。日本舞踊協会及び長唄協会の協力による本格的な伝統芸能体験と歌舞伎公演の観劇をセットにして、9月と1月で計15回実施し、148人が参加した。
- ・ユニークベニューの利用実績(R7.9～R8.3)
 - ◇12件15日間(有観客7件、稽古・研修など5件)

2 - (8) 日本博の運営・実施

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(8) 日本博の運営・実施

「日本博 2.0」の企画・実施等における中心的な役割を担う事務局を運営し、ユーザー目線でコンテンツを磨き上げる取組や、来場者のアクセスの向上・改善に向けた取組等を支援するとともに、戦略的なプロモーションを通じて、国内外の観光需要の回復や地域の文化資源の活用による体験滞在の満足度向上等に資する戦略的広報・事業活動等の支援等に寄与する取組を図る。

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(8) 日本博の運営・実施

令和 6 年度の日本博事業の成果や検証結果を踏まえるとともに、大阪・関西万博の開催年であることを意識した上で、「日本博 2.0」の事務局を運営し、委託型・補助型・参画型の企画・実施、効果検証、戦略的なプロモーション等を通じて、国内外の観光需要喚起や体験滞在の満足度向上等による地方誘客を進めつつ、令和 8 年度以後の施策展開について検討を進める。

ア 「日本博 2.0」の基本コンセプトの下で、年間を通してインバウンド需要に的確に応えていくため、「最高峰の文化資源の磨き上げによる満足度向上事業」(委託型・補助型)を実施

① 委託型・補助型の公募を行い、日本芸術文化振興会審査・評価委員会による評価等を得て採択

② 採択団体に対し、契約、支払、助言・指導、モニタリング、効果検証のための各種調査等を実施

日本博採択事業の外国人来場者満足度:採択時に設定した目標値に達した事業の割合が 3 分の 2 以上
イ 「日本博 2.0」の基本コンセプトに合致し、国内外に発信するのにふさわしい団体等を参画型として認証

ウ 「日本博 2.0」の採択事業(委託型・補助型のほか、文化庁において採択したものを含む)及び参画型について、戦略的なプロモーションを一体的に企画・実施、大阪・関西万博における国内外の観光需要を生かしつつ地方誘客に取り組む

エ 「日本博 2.0」は令和 7 年度を区切りとしているため、これまでの成果を総括しつつ、インバウンド需要の更なる喚起に向けて文化庁と協議し、その施策展開について検討を進める。

ア「最高峰の文化資源の磨き上げによる満足度向上事業」の実施

○委託型・補助型事業

日本博 2.0 は、採択事業者に事業を委託・補助することにより、2025 年大阪・関西万博を契機として日本全国を訪れるインバウンドを増加し、その滞在時間を延ばし、繰り返し訪問いただくことを主な目的としている。事業実施期間は令和 5 年度から令和 7 年度までの 3 年間としているが、審査は各年実施し、事業者を採択している。

① 委託型・補助型の公募を行い、審査・評価委員会による評価等を得て採択

《令和 7 年度採択事業(委託型・補助型)の採択状況》

採択事業	企画提案・応募件数	採択件数	交付金額
委託型	82 件	67 件	3,576 百万円
補助型	29 件	15 件	342 百万円
合計	111 件	82 件	3,918 百万円

※振興会事業の採択件数：委託型 3 件。

- ・令和 7 年度採択事業の公募を行い、応募のあった事業者について日本芸術文化振興会審査・評価委員会が企画提案書(補助型の場合は補助金要望書)の審査・評価を行い、採択事業を決定した。
- ・年間を通じ、採択事業者が取組を実施した際に積極的に実地に赴いてインバウンドへの対応状況や参加者の実態を確認し、必要に応じて実施内容の改善点等を助言した。

《万博省庁連携催事の実施実績》

	組織・団体名称	イベント名称	実施日
委託型	公益社団法人大日本弓馬会	2025 年大阪・関西万博安全祈願奉納鎗流馬神事	4/5-4/6 (万博テストラン期間)
	公益財団法人国立劇場おきなわ	琉球祭	5/4-5/6
	ビッグ・アイ共働機構	BiG-I Art Project ～共通感覚を拓げて～	6/2-6/4
	公益社団法人能楽協会	未来につなぐ、能楽の世界	7/13-7/14
	国立文楽劇場	2025 年大阪・関西万博 「人形浄瑠璃文楽」ミニ公演と特別展示「体感! 文楽の世界」	公演：8/14-8/17 展示：8/14-8/18
	ビッグ・アイ共働機構	Dance Drama “Breakthrough Journey”	10/7-10/8
	一般社団法人全国手をつなぐ育成会連合会	障害者の文化芸術国際フェスティバル	公演：10/8-10/10 展示：10/8-10/11
補助型	一般社団法人 MUTEK Japan	MUTEK JP Edition 10 Special Program in collaboration with エレクトロニコス・ファンタスティコス! 大阪万国博電磁盆踊り 2025 - An Electronics Odyssey	6/27

- ・2025 大阪・関西万博において、伝統文化の様式美と現代的な臨場感を融合させて日本の美を創出し、万博来場者に日本文化の多様性に触れる機会を提供するとともに、多くの国内外の人々が日本各地で日本文化を実感し体験できるよう、全国各地の文化資源を活用した事業を展開した。また、日本博 2.0 公式 Web サイトや SNS において、万博関連記事を取り上げ、万博機運の醸成に貢献した。

② 採択団体に対し、契約、支払、助言・指導、効果検証のための各種調査等を実施

- ・採択事業の実施に当たり、採択事業者が外国人来訪者数及びその満足度の目標値を設定し、成果を適切に測定し検証できるよう、各事業者に「効果検証計画書」及び「効果検証報告書」の作成・提出を義務付けた。
- ・「精算の手続き」を配布するとともに、採択事業者を対象とした説明動画をあわせて公開した。事業者における事業の適切な実施及び円滑化を図った。
- ・採択事業者が自ら日本博 2.0 としてふさわしい事業を実施したか効果を検証できるよう、専門家の協力を得ながら、来場者満足度測定調査の内容や実施手法などに対し助言を行った。

《令和 7 年度採択事業(委託型・補助型)の外国人来訪者満足度に関する目標値達成状況》

採択事業	実績(b) (採択時に設定した来場者満足度に関する目標値を達成した事業数)	目標指標(a) (採択事業数の 3 分の 2)	達成率 (b/a)
委託型	45 件(全 67 件)	44 件	102.3%
補助型	11 件(全 14 件)	10 件	110.0%
合計	56 件(全 81 件)	54 件	103.7%

※補助型の採択事業 15 件のうち 1 件について、年度途中に事業廃止となったため評価の対象から除外する。

- ・個々の採択事業の外国人来訪者満足度は、採択事業者が採択時に自ら設定した目標値を上回ることによって目標が達成されるものと設定している。日本博採択事業の外国人来訪者満足度の目標値は、目標を達成した事業の割合が採択事業数の3分の2以上と設定しており、令和7年度における達成率は103.7%であった。

③ 伴走型支援の実施

- ・日本最大の旅行商談会 VISIT JAPAN Travel & MICE マートで令和5～7年度に商談した海外の旅行会社116社に対し、採択事業をベースに企画した商品や採択事業者が情報提供した商品を中心に、文化と自然を楽しむプラン、伝統芸能を味わえるプラン、ポップカルチャーを体験するプランなど様々な切り口のメールマガジンを送付した。関心を示すバイヤーへ熟練の担当者がフォローし、海外の旅行会社が得意先に販売できるよう取り組んだ。その結果、複数の旅行会社において商品取扱いが開始されたほか、ギリシャ、ドイツ、イタリア等世界各国からオーダーメイドプランへの問合せがあり、団体旅行の受入れが実現した。

イ 参画型の認証

《令和7年度認証件数》

採択事業	認証件数
文化施設・団体等	6件
プロジェクト	138件

※振興会事業の認証件数：文化施設・団体等4件(令和5年度認証済み)、プロジェクト56件

- ・参画型は、2025年大阪・万博に向けて国外に発信するにふさわしいプロジェクトや文化施設を認証し、日本博のロゴマークを付与することにより、日本博2.0に参画いただき、日本博2.0事業と連携した一体的なプロモーションを行うものである。
- ・「日本博2.0」参画型認証要領に基づき、申請事業の認証手続き及び問合せ対応を実施した。

ウ 戦略的なプロモーションの実施

《日本博公式ホームページ》

区分	件数	前年度実績
日本博公式 HP 閲覧数	1,800,118PV (1,675,903PV)	1,361,916PV (1,229,736PV)
日本博 HP アクセスユーザー数	1,287,354件 (1,239,203件)	842,117件 (794,966件)

※PV:ページビュー

※()内は海外からのPV数・アクセス件数

- ・日本博公式ホームページについて、外国人ライターによるモデルルート記事、旅行営業の専門家によるおすすめ旅行先記事等、インバウンドのニーズに沿った新規記事を約40本公開した。
- ・ホームページへ誘導するSNS広告、Web広告を海外ユーザー向けに配信を継続した。閲覧数等のアクセスデータを精緻に分析し、掲出画像や掲出先の国の設定等を常に調整しながら公式ホームページへの誘導を図った。
- ・この結果、令和6年度同時期と比較し、海外からの閲覧数は約1.4倍、アクセスユーザー数は約1.6倍と大幅に増加した。平均滞在時間も着実に伸びていることから、興味関心をもつユーザーを一定程度獲得していると考えられる。

《SNS フォロワー数》

区分	Facebook	Instagram	YouTube
日本博	80,944 (△2,157)	22,867 (+4,372)	6,610 (+520)

※()内の数値は前年度からの増減。

- ・日本博公式ホームページへ誘導するSNS広告、Web広告を海外ユーザー向けに配信した。

《VISIT JAPAN トラベル&MICE マート 2025(VJTM)》

- ・日本政府観光局(JNTO)主催の旅行商談会(VJTM、9/25～27)に参加した。本イベントに向けて採択事業者から多くのタリフ・企画書が提出され、幅広いジャンル・地域の旅行商材を用意して欧米豪をはじめ海外の旅行会社33社と商談を実施した。

《タブロイド紙の発行》

- ・令和5年度から制作している訪日外国人向けタブロイド紙「ArtsJP」について、令和7年度はジャパンタイムズとタイアップして6回発行した。外国人に訪れてほしい日本博のイベント等の特集し、空港、ホテル、観光案内所、文化施設、駐日大使館等にて配布した。

《JNT0 高付加価値旅行者向け観光コンテンツ》

- ・ JNT0 がプロモーションする富裕層向けの観光コンテンツ (<https://www.japan.travel/en/luxury/>) に日本博事務局が伴走支援を行った山種美術館・MOA 美術館・日下部民藝館・トキワ荘の特別体験が選定された。日本博から申請した 6 件中 4 件が選ばれたものであり、日本博事業の質が飛躍的に向上したと考えられる。

《その他》

- ・ 各種外部機関と連携し、イベントの開催やプロモーション活動を行った。

エ 効果検証結果に基づく「日本博 2.0」の成果の分析・考察

- ・ 令和 6 年度事業の経済波及効果の推計を実施し、算出結果は約 4,202 億円であった(令和 5 年度は約 1,883 億円)。「日本博 2.0」は通年の取組で実施エリアも全国各地にわたるため、事業費に対して大きな波及効果を生み出している。

《その他》

- ・ 事業実施にあたって参考となるような情報・知見を提供する「オンラインセミナー」を配信した。
 - ◇ 第 1 回：来場者アンケート回収率向上におけるノウハウ
 - ◇ 第 2 回：令和 6 年度の効果検証の結果からみる日本博事業の成果と課題
 - ◇ 第 3 回：来場者アンケート集計・分析のノウハウ(初級編 part2) ※part1 は令和 6 年度に公開

3 伝統芸能の伝承者の養成及び 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

(1) 伝統芸能の伝承者の養成

ア 養成の計画的な実施

イ 既成者研修の実施

ウ 実施に当たっての留意事項

(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

ア 安定的、継続的な実演家の育成

イ 実施に当たっての留意事項

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

自己評価	B
自己評価の根拠	以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を達成しているため、自己評価はB評価とする。 ・研修発表会の実施状況の達成率は100.0%であった。 ・伝統芸能の伝承者の安定的確保のため、「国立劇場養成所」の養成事業の周知、研修生募集広報及び普及活動を効果的に行った。 ・継続的な寄附受入れを目的とした「国立劇場養成所サポーター」に対し、活動報告や発表会への招待に加えてサポーターミーティングを実施し、会員と直接意見交換を行い、養成事業への理解を深めていただくとともに、安定した外部資金の獲得に貢献することができた。 ・再整備期間中の代替施設である国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて養成事業を着実に継続するとともに、センターで行われる青少年対象のワークショップ等に積極的に協力し、伝統芸能の普及・振興に努めた。 ・研修修了者に対するフォローアップ研修の実施による就業後のサポートをするだけでなく、研修応募を検討している方に対する「プレ研修」を実施した。 ・養成所の認知向上を主な目的として、外部団体等と協力し、若年層のための伝統芸能体験プログラムを各施設において実施した。特に小学校などへのアウトリーチ活動を充実させ、参加者は延べ4,539名となり、前年度(3,162名)より大幅に増加した。 ・外部団体との連携を通じた専門的知見の提供として、公益社団法人全国公立文化施設協会主催の「全国劇場・音楽堂等職員舞台技術研修会」に協力し、伝統芸能の舞台技術に関する講義・研修を2日間実施し、舞台技術関係者等を対象とした実地研修に寄与した。 ・現代舞台芸術分野の研修では、国際的なレピュテーションの確立を目指し、舞台芸術グローバル拠点事業に取り組んだ。 ・全日本空輸株式会社の協賛による「ANAスカラシップ」(オペラ研修所・バレエ研修所研修生の海外研修サポート等)、「新国立劇場若手俳優育成のための国内研修事業支援」(演劇研修所の国内研修に関わる航空券のサポート)を実施した。
数値目標の達成状況 実績/目標(達成率)	研修発表会の実施状況:17公演/17公演(100.0%) 既成者研修発表会の実施状況:8公演/8公演(100.0%)
主要な業務実績	(1) 伝統芸能の伝承者の養成 (2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修 各表参照
課題と対応	(1) 伝統芸能の伝承者の養成 (2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修 各表参照

[1] 伝統芸能の伝承者の養成

自己評定	B
自己評定の根拠	以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を達成しているため、自己評定はB評定とする。 ・研修発表会の実施状況の達成率は100.0%であった。 ・伝統芸能の伝承者の安定的確保のため、「国立劇場養成所」の養成事業の周知、研修生募集広報及び普及活動を効果的に行った。 ・継続的な寄附受入れを目的とした「国立劇場養成所サポーター」に対し、活動報告や発表会への招待に加えてサポーターミーティングを実施し、会員と直接意見交換を行い、養成事業への理解を深めていただくとともに、安定した外部資金の獲得に貢献することができた。 ・再整備期間中の代替施設である国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて養成事業を着実に継続するとともに、センターで行われる青少年対象のワークショップ等に積極的に協力し、伝統芸能の普及・振興に努めた。 ・研修修了者に対するフォローアップ研修の実施による就業後のサポートをするだけでなく、研修応募を検討している方に対する「プレ研修」を実施した。 ・養成所の認知向上を主な目的として、外部団体等と協力し、若年層のための伝統芸能体験プログラムを各施設で実施した。特に小学校等へのアウトリーチ活動を充実させ、参加者は延べ4,539名となり、前年度(3,162名)より大幅に増加した。 ・外部団体との連携を通じた専門的知見の提供として、公益社団法人全国公立文化施設協会主催の「全国劇場・音楽堂等職員舞台技術研修会」に協力し、伝統芸能の舞台技術に関する講義・研修を2日間実施し、舞台技術関係者等を対象とした実地研修に寄与した。
数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）	研修発表会の実施状況:8公演/8公演(100.0%) 既成者研修発表会の実施状況:8公演/8公演(100.0%)
主要な業務実績	ア 養成の計画的な実施 ・歌舞伎俳優、歌舞伎音楽、大衆芸能(太神楽)、能楽(三役)、文楽、組踊研修については計画どおり研修を実施した。 ・研修発表会を計画どおり実施した。 イ 既成者研修の実施 ・既成者研修発表会を計画どおり実施した。 ・能楽研究課程を引き続き開講した(受講者35名、実施回数387回)。 ウ 伝統芸能の伝承者の養成の実施に当たっての留意事項 ・研修生への応募を検討する方に向けての見学会を実施した。歌舞伎俳優、能楽(三役)、文楽研修生の募集活動においては、三分野の合同見学会を開催した。 ・外部資金の獲得及び養成事業の広報のため、「国立劇場養成所サポーター」を継続して募集し、会員数は昨年度より27名増えて178名となった。 ・国立オリンピック記念青少年総合センター主催の若年層に対するワークショップ等に協力した。 ・コロナ禍で授業数の減少などカリキュラムに大きな影響を受けた研修修了者に対し、就業後の定着と技芸向上を図るためフォローアップ研修を実施した。 ・将来、研修応募を検討している方の受け皿として、学業と並行して研修を受けることができる「プレ研修」を実施し、受講者1名から研修生への応募があり、選考試験に合格した。 ・養成所の認知向上を主な目的として、外部団体と協力し、若年層のための伝統芸能体験プログラムを各施設において実施した。 ・養成所周知のための広報においては、養成所YouTubeチャンネルの開設やテレビの情報番組等への取材協力に取り組み、研修生募集広報の充実及び養成所の認知度向上に努めた。 ・五館合同特別講義、研修生交流会を開催し、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の共同研修を実施した。
課題と対応	・応募者が減少傾向にある中、国立劇場養成所による募集広報や普及活動を強化するとともに、プレ研修やフォローアップ研修など、伝承者の安定的な確保及び修了者の就業定着のための必要な措置を引き続き講じる。

[2] 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

自己評価	B
自己評価の根拠	以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を達成しているため、自己評価はB評価とする。 ・計画どおり研修及び研修公演を実施した。 ・国際的なレピュテーションの確立を目指し、舞台芸術グローバル拠点事業に取り組んだ。 ・全日本空輸株式会社の協賛による「ANAスカラシップ」(オペラ研修所・バレエ研修所研修生の海外研修サポート等)、「新国立劇場若手俳優育成のための国内研修事業支援」(演劇研修所の国内研修に関わる航空券のサポート)を実施した。 ・研修の実施状況、修了者の活動状況等について、ホームページやSNSを活用して継続的に情報を発信し、研修事業の意義やそのレベルの高さを広く周知できた。 ・オープンスクールや説明会を対面及びオンラインで開催し、研修内容を具体的に理解してもらうことで将来の優秀な研修生獲得に努めた。 ・新国立劇場の人材及び施設を活かして、連携大学からのインターンシップ受入れ等を積極的に実施した。
数値目標の達成状況 実績/目標 (達成率)	研修発表会の実施状況:9 公演/9 公演 (100.0%)
主要な業務実績	ア 安定的、継続的な実演家の育成 ・計画どおり研修を実施し、オペラ研修生4名、バレエ研修生7名、演劇研修生12名が修了した。 ・研修公演を計画どおり実施した。 ・オペラ研修所では、劇場ホワイエでの劇場ホワイエでのミニコンサートや公開マスタークラス、外部施設でのパフォーマンス等、実践の場を多く設けた。また、現役生が音楽コンクールで複数入賞した。 ・バレエ研修所では、同研修所の第1期修了者である本島美和がアクティング・ディレクター(所長代行)に就任し、新たな講師を加えるなど、講師陣のさらなる充実を図った。元舞踊芸術監督のデヴィッド・ビントレー氏より振付作品の指導を直接受ける貴重な機会も得た。 ・演劇研修所では、日本の演劇界を牽引する演出家のもとでシーンスタディを実施したほか、今年度は新たに観劇サポートに関するワークショップも実施し、アクセシビリティ向上への理解を深めることにも努めた。 ・国際的なレピュテーションの確立を目指し、舞台芸術グローバル拠点事業に取り組んだ。 ・全日本空輸株式会社の協賛による「ANA スカラシップ」(オペラ研修所・バレエ研修所研修生の海外研修サポート等)、「新国立劇場若手俳優育成のための国内研修事業支援」(演劇研修所の国内研修に関わる航空券のサポート)を実施した。 ・「バレエ・アステラス 2025」では世界のバレエ学校としてパリ・オペラ座バレエ学校の生徒を招待し、交流を深めた。 ・研修事業委員会を開催し、外部専門家である研修事業委員と各研修所所長が研修所の現状を確認するとともに、今後の方向性を検討した。 イ 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項 ・ホームページやSNSを活用し、研修の実施状況、修了者の活動状況等の詳細な情報を各研修所が随時発信した。 ・オペラ研修所では高齢者用マンションでのサロンコンサート、演劇研修所では東京都立葛飾盲学校へのアウトリーチを行い、研修事業の普及に努めた。 ・事業周知と将来の研修生確保のため、オープンスクールや説明会を対面及びオンラインで開催した。演劇研修所のオープンスクールを愛知県豊橋市においても開催した。 ・五館合同特別講義、研修生交流会を開催し、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の共同研修を実施した。 ・提携大学と連携してインターンシップの受入れを行うなど、新国立劇場の人材及び施設を活用した。
課題と対応	・研修施設の充実については、関係各所と相談し、引き続き検討していく。

3-(1) 伝統芸能の伝承者の養成

《中期計画の概要》

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

(1) 伝統芸能の伝承者の養成

伝統芸能を長期的な視点に立って保存振興し、各分野の伝承者を安定的に確保するため、伝承者の養成を実施

ア 民間での養成が難しい分野に限定し、外部専門家等から、我が国の伝統芸能を保持するために引き続き伝承者を養成する必要があるとの意見が示された、歌舞伎、大衆芸能、能楽、文楽、組踊について実施各分野の充足状況等を把握するとともに、関係団体等との協議、外部専門家等の意見等を踏まえ、養成すべき分野、人数、研修期間等を定めた上で計画的に実施

研修修了生の動向把握等により成果の検証を行い、対象とする分野、人数等の不断の見直しを実施

歌舞伎、大衆芸能、能楽、文楽の各分野を横断的に所管する「国立劇場伝統芸能伝承者養成所」において、戦略的な広報宣伝活動等を実施、伝統芸能の各分野における課題について関係団体等とともに改善方策を検討し、研修生に対する支援の拡充等により研修修了後の就業定着に努める

イ 重要無形文化財保持者等を講師として、実技研修・研修発表会等を中心とする実践的・体系的なカリキュラムにより、養成研修を実施

- ① 歌舞伎俳優・歌舞伎音楽伝承者養成(研修期間2年間又は3年間)
- ② 大衆芸能伝承者養成(研修期間2年間又は3年間)
- ③ 能楽伝承者養成(研修期間:基礎研修課程3年間、専門研修課程3年間)
- ④ 文楽伝承者養成(研修期間2年間)
- ⑤ 組踊伝承者養成(研修期間3年間)

ウ 研修修了者を中心に伝承者の技芸の向上を図るため、次の既成者研修を実施

- ① 既成者研修発表会(歌舞伎俳優・歌舞伎音楽・能楽・文楽・組踊)
- ② 能楽研究課程(1年間)

(2) 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項

ア 養成・研修事業に関する国民の関心の喚起、理解促進のため、ホームページ、SNS 等を活用して研修修了者の活動状況等を分かりやすく示すなど、広報活動を充実

イ 学校等との連携による養成・研修成果の活用及び研修生・研修修了者等が実演経験を積む機会の充実のための児童・生徒等の体験学習や劇場外における様々な文化普及活動への積極的参画

ウ 効果的かつ効率的な募集活動、研修見学会等について検討

エ 国立劇場再整備後を見据えた伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の養成・研修事業の在り方の検討

オ 国立劇場等の人材や施設を活用した公演制作者や舞台技術者等の実地研修等の受入れ、協力、舞台技術に関する安全管理等についての技術講習会実施に向けた検討

《年度計画の概要》

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家等その他の関係者の研修

(1) 伝統芸能の伝承者の養成

ア 養成研修の実施

研修修了者の動向把握等による成果の検証

国立劇場伝統芸能伝承者養成所における戦略的な広報宣伝活動の強化、研修生に対する支援の在り方に関する検討等を実施

国立劇場等の再整備に伴い、歌舞伎及び大衆芸能の養成研修については、国立オリンピック記念青少年総合センターの施設を利用して実施

① 歌舞伎俳優・歌舞伎音楽

(歌舞伎俳優)

(a) 第29期生(研修期間2年、2名)の2年目の養成研修(修了)

(b) 第30期生(研修期間2年、2名)の1年目の養成研修

(歌舞伎音楽)

(c) 竹本第26期生(研修期間2年、1名)の1年目の養成研修

(d) 鳴物第19期生(研修期間2年、2名)の1年目の養成研修

(e) 長唄第10期生(研修期間3年、1名程度)の1年目の養成研修

② 大衆芸能

- (a) 太神楽第9期生(研修期間3年、2名)の1年目の養成研修
- ③ 能楽(ワキ・囃子・狂言:研修期間6年)
 - (a) 第11期生(3名)の6年目の養成研修(修了)
 - (b) 第12期生(3名)の3年目の養成研修
- ④ 文楽(研修期間2年)
 - (a) 第33期生(2名)の2年目の養成研修(修了)
 - (b) 第34期生(2名程度)の1年目の養成研修
- ⑤ 組踊(立方・地方:研修期間3年)
 - (a) 第7期生(8名)の3年目の養成研修(修了)
- ⑥ 研修発表会を別表8のとおり実施する。
- ⑦ 研修修了者の動向把握等による成果の検証を踏まえ、下記の研修生について、募集要項を定め、募集を実施する。
 - (a) 第31期歌舞伎俳優
 - (b) 第13期能楽(三役)
 - (c) 第35期文楽
 - (d) 第8期組踊

イ 研修修了者等の伝承者の技芸向上を図るため、既成者研修を実施

- ① 既成者研修発表会を別表8のとおり実施
- ② 研修修了後の就業定着のため、必要に応じて研修修了者に対するフォローアップ研修を実施
- ③ 能楽について、研究課程を開講し、研修機会の拡大と伝承者間の交流を促進

ウ 伝統芸能の伝承者の養成の実施に当たっての留意事項

- ① 養成事業についての国民の関心の喚起、理解促進のため、ホームページ、SNS 等を活用して研修修了者の活動状況等を紹介するなど、広報の充実に努める
- ② 養成成果の活用及び研修修了者等が実演経験を積む機会の充実に努めるため、ワークショップ等を全国の文化施設、学校等と協力して実施し、文化普及活動への積極的参画に努める
- ③ 研修生募集について、ホームページ、SNS 等での告知、研修紹介映像の活用、研修説明会・見学会の積極的な実施等により周知し、応募者の確保に努める
- ④ 研修生志望者を対象として休日・夜間等に学業と並行して研修が体験できるプレ研修を実施し、応募意欲の維持・向上を図ることにより、応募者の確保に努める。
- ⑤ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義を実施して、両分野の相互交流を図る。
- ⑥ 国立劇場等の再整備後を見据えた伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の養成・研修事業の在り方について検討する。
- ⑦ 舞台技術に関する安全管理等についての技術講習会実施に向け、試行的取組を行う。

ア 養成の計画的な実施

《研修方針》

歌舞伎俳優、歌舞伎音楽(竹本)、歌舞伎音楽(鳴物)においては2年間、歌舞伎音楽(長唄)、大衆芸能(太神楽)研修においては3年間の基礎的な研修を実施する。

能楽(三役)研修は、ワキ方・囃子方・狂言方について、基礎研修課程3年、専門研修課程3年、計6年の研修を実施する。

文楽研修においては、太夫・三味線・人形の後継者を養成するため、2年間の基礎的な研修を実施する。

組踊研修は、組踊の保存振興に寄与することを目的とし、将来にわたって継続的に組踊を支えうる、質の高い優れた立方・地方を養成するため、組踊実技を中心にして、琉球舞踊等の副実技、発声訓練等の基礎実技、芸能史等の講義等バランスのとれたカリキュラムを実施する。

① 養成研修実績

分野		期数	研修期間	年度計画	研修実績	うち修了者
歌舞伎俳優 歌舞伎音楽	俳優	第29期(2年次)	2年	2名	2名	2名
		第30期(1年次)	2年	2名	1名	
	竹本	第26期(1年次)	3年	1名	1名	
	鳴物	第19期(1年次)	3年	2名	2名	
	長唄	第10期(1年次)	3年	1名程度	0名	
大衆芸能	太神楽	第9期(1年次)	3年	2名	2名	
	寄席囃子	休止中				
能楽		第11期(6年次)	専門研修課程3年	3名	3名	3名
		第12期(3年次)	基礎研修課程3年	3名	3名	
文楽		第33期(2年次)	2年	2名	2名	2名
		第34期(1年次)	2年	2名程度	2名	
組踊		第7期(3年次)	3年	8名	8名	8名

※長唄については、年度計画上1名程度を想定して募集を行い、応募に向けた相談会等の対応を行ったが、進路選択等の事情により、結果的に当該年度において入所に至る者はなく、実績は0名となった。引き続き、今後の募集に向けた周知の充実に努めている。

- ・国立劇場養成所の研修生に対し臨床心理士によるカウンセリングを定期的の実施し、研修生のメンタル不調の早期発見・早期対応をはかることで研修途中での辞退予防に努めた。
- ・歌舞伎音楽(竹本)研修、歌舞伎音楽(鳴物)研修修了者、大衆芸能(太神楽)研修修了者に対し、研修修了後の技芸向上を図るためフォローアップ研修を実施した。

《適性審査の実施等》

区分	試験日	受験者数	合格者数
歌舞伎俳優	9/26	1名	1名
歌舞伎音楽(竹本)	9/26、11/25※	1名	1名
歌舞伎音楽(鳴物)	9/22	2名	2名
大衆芸能(太神楽)	9/24	2名	2名
文楽	10/15	2名	2名

※歌舞伎音楽(竹本)については、9/26の適性審査で可否の判断ができなかったため、11/25に再審査を行い合格した。

② 主な授業等の概要

分野	期数	区分	回数	授業内容
歌舞伎俳優	第29期	実技	534	歌舞伎実技、立廻り・とんぼ、化粧・衣裳、日本舞踊、義太夫、長唄、鳴物、箏曲
		その他	85	講義、五館合同特別講義、体操、公演・稽古見学、舞台・楽屋実習、発表会ほか
		合計	619	
	第30期	実技	455	歌舞伎実技、立廻り・とんぼ、化粧・衣裳、日本舞踊、義太夫、長唄、鳴物、箏曲
		その他	94	作法・講義、五館合同特別講義、体操、公演・稽古見学、舞台・楽屋実習、発表会ほか
		合計	549	
歌舞伎音楽	竹本 第26期	実技	258	義太夫、三味線
		その他	121	作法・講義、習字、五館合同特別講義、体操、公演・稽古見学、発表会ほか
		合計	379	
	鳴物 第19期	実技	328	鳴物、長唄、能楽(大鼓)
		その他	126	作法・講義、習字、五館合同特別講義、体操、公演・稽古見学、発表会ほか
		合計	454	
大衆芸能	太神楽	実技	398	太神楽、長唄、囃子、住吉踊り、日本舞踊

	第9期	その他	73	講義、習字、五館合同特別講義、体操、公演・稽古見学ほか
		合計	471	
能楽	第11期	実技	1,326	シテ謡、ワキ、笛、小鼓、大鼓、太鼓、狂言
	第12期	その他	221	講義、和裁、五館合同特別講義、公演・稽古見学、舞台・楽屋実習、発表会ほか
	研究課程	合計	1,547	
文楽	第33期	実技	283	義太夫、義太夫・三味線、人形実技
		その他	539.5	謡・狂言、日本舞踊、作法・講義、講義、五館合同特別講義、実習(舞台実習含む)、公演・稽古見学、部外研修、発表会ほか
		合計	822.5	
	第34期	実技	367.5	義太夫、義太夫・三味線、三味線、人形実技
		その他	266.5	箏曲・胡弓、謡・狂言、日本舞踊、作法・講義、講義、五館合同特別講義、実習(舞台実習含む)、公演・稽古見学、部外研修、発表会ほか
		合計	634	
組踊	第7期	実技	450	組踊実技、副実技(琉球舞踊・箏等)、基礎実技
		その他	40	講義、五館合同特別講義、鑑賞・見学研修等、発表会ほか
		合計	490	

・伝統歌舞伎保存会、松竹株式会社等の関係団体の協力により、研修修了後の就業についてのガイダンスを行うなど、キャリアパスに関する研修を行った。

《外部専門家等の意見》

- ・応募者が増えているのは、養成所が広報活動、普及活動を充実させた成果であると思われる。アウトリーチ活動等の多くの普及活動により若年層に伝統芸能の魅力を伝え、子供たちが伝統芸能に触れる機会を作ることが重要である。養成所の認知度を高めるためにも続けてほしい。
- ・既成者発表会は、研修修了者にとって貴重な経験を得られる大切な機会なので、今後も継続的に開催してほしい。各分野の公演も大勢の観客で賑わい、大変な盛況ぶりであった。
- ・国立劇場の筋書出演者欄に、「養成所出身」の表記を入れたことで養成事業の成果のアピールとなっている。
- ・研修修了者が、芸術選奨新人賞を受賞するなど舞台での活躍が評価されている。今後、研修生に応募する人にとっても、養成所の信頼と安心が高まることが期待できる。
- ・養成所サポーターを対象としたあげざらいの公開は、サポーターが研修生の成長過程を直接見ることができ、研修生にとっても舞台人としての自覚を得る機会となるので、このような交流会を継続してほしい。

③ 研修発表会の実施

(a) 研修発表会

《研修発表会の実施実績》

区分	公演名	入場者数	入場率	入場料収入
歌舞伎俳優 大衆芸能	第29期歌舞伎俳優修了発表会、第30期歌舞伎俳優・第26期歌舞伎音楽(竹本)・第19期歌舞伎音楽(鳴物)・第9期大衆芸能(太神楽)研修発表会	265人	84.9%	0円
能楽	第37回青翔会	587人	99.3%	793千円
能楽	第38回青翔会	551人	93.2%	784千円
能楽	第39回青翔会	587人	99.3%	817千円
能楽	第54回東西合同研究発表会	188人	31.8%	0円
文楽	第33期文楽研修修了発表会、第34期文楽研修発表会	300人	41.0%	0円
組踊	第7期組踊研修生第5回研修発表会	520人	91.7%	0円
組踊	第7期組踊研修修了発表会	570人	100.5%	0円
合計	8公演(計画8公演)	3,568人	78.6%	2,394千円

※第7期組踊研修修了発表会について、567席に対して立ち見等が生じたため、入場率が100%を超えた。

《研修発表会の公演詳細》

合同研修発表会			
劇場・日程・回数	国立オリンピック記念青少年総合センター小ホール	3/11	1 回
演目等	日本舞踊「越後獅子」、長唄「鶴亀」、義太夫「団子売」、太神楽「曲撥・五階茶碗」、立廻り「歌舞伎の立廻り」、歌舞伎「茶壺」		
出演者	第 29・30 期歌舞伎俳優研修生、第 26 期歌舞伎音楽(竹本)研修生、第 19 期歌舞伎音楽(鳴物)研修生、第 9 期大衆芸能(太神楽)研修生		
入場料	無料		
第 37 回青翔会			
劇場・日程・回数	国立能楽堂	6/17	1 回
演目等	舞囃子「高砂」(観世流)、舞囃子「熊野」(金春流)、舞囃子「野守」(宝生流)、狂言「成上り」(和泉流)、能「小鍛冶」(喜多流)		

出演者	第 11・12 期研修生、第 8・9・10 期修了者、令和 7 年度研究生		
入場料	正面 2,000 円、脇正面 1,300 円(学生 900 円)、中正面 1,000 円(学生 700 円)		
第 38 回青翔会			
劇場・日程・回数	国立能楽堂	10/21	1 回
演目等	舞囃子「清経」(喜多流)、舞囃子「羽衣」(宝生流)、舞囃子「融」(観世流)、狂言「魚説法」(和泉流)、能「高砂」(金春流)		
出演者	第 11・12 期研修生、第 5・9・10 期修了者、令和 7 年度研究生		
入場料	正面 2,000 円、脇正面 1,300 円(学生 900 円)、中正面 1,000 円(学生 700 円)		
第 39 回青翔会			
劇場・日程・回数	国立能楽堂	3/24	1 回
演目等	小舞「鐘の音」(和泉流)、舞囃子「竜田」(金春流)、舞囃子「俊成忠度」(喜多流)、舞囃子「唐船」(宝生流)、狂言「末広がり」(大蔵流)、能「石橋」(観世流)		
出演者	第 11・12 期研修生、第 8・10 期修了者、令和 7 年度研究生		
入場料	正面 2,000 円、脇正面 1,300 円(学生 900 円)、中正面 1,000 円(学生 700 円)		
第 54 回東西合同研究発表会			
劇場・日程・回数	国立能楽堂	8/26	1 回
演目等	能「高砂」(金春流)、狂言「文山賊」(和泉流)、舞囃子「熊坂」(観世流)、舞囃子「忠度」(金剛流)、小舞「岩飛」(大蔵流)、小舞「貝盡し」(和泉流)、仕舞「鶴亀」(観世流)、独鼓「箆」、舞囃子「玄象」(観世流)、舞囃子「藤」(宝生流)、小舞「宇治の晒」「暁の明星」「柳の下」「道明寺」(大蔵流)、舞囃子「天鼓」「桜川」(観世流)、能「春日龍神」(金剛流)、		
出演者	第 11・12 期研修生、第 7・8・9・10 期修了者、令和 7 年度研究生		
入場料	無料		
第 33 期文楽研修修了発表会第 34 期文楽研修発表会			
劇場・日程・回数	国立文楽劇場	1/29	1 回
演目等	「二人三番叟」、素浄瑠璃「菅原伝授手習鑑」寺入りの段、素浄瑠璃「一谷嫩軍記」熊谷桜の段、「卅三間堂棟由来」平太郎住家より木遣り音頭の段		
出演者	第 33 期文楽研修生、第 34 期文楽研修生		
入場料	無料		
第 7 期組踊研修生第 5 回研修発表会			
劇場・日程・回数	国立劇場おきなわ大劇場	10/9	1 回
演目等	組踊「女物狂」		
出演者	第 7 期研修生ほか		
入場料	無料		
第 7 期組踊研修修了発表会			
劇場・日程・回数	国立劇場おきなわ大劇場	3/5	1 回
演目等	組踊「花売の縁」		
出演者	第 7 期研修生ほか		
入場料	無料		

・各分野で研修発表会を開催し、研修の成果を示すことができた。

《研修発表会の公演周知》

- ・振興会ホームページ、SNS に公演情報や出演者のコメントを投稿した。
- ・振興会出版物(あぜくら会報、月刊国立能楽堂、国立劇場おきなわ友の会会報)に公演情報を掲載した。
- ・新聞等への公演情報掲載、テレビ、ラジオ放送による公演情報及び養成事業の周知を行った。

(b) その他の発表会等

区分	公演名	劇場	日程	内容
長唄	第29期歌舞伎俳優あげざらい	国立オリンピック記念青少年総合センター カルチャー棟 中練習室42	10/30	○第29期歌舞伎俳優研修生 長唄「末広狩」 指導者:杵屋六左衛門、杵屋勘五郎、杵屋廣吉
歌舞伎	第29期・第30期歌舞伎俳優研修あげざらい	国立オリンピック記念青少年総合センター カルチャー棟 中練習室41	12/17	○第29期・第30期歌舞伎俳優研修生 歌舞伎「矢の根」 指導者:中村萬壽、中村芝翫 ○第29期・第30期歌舞伎俳優研修生 歌舞伎「仮名手本忠臣蔵」山崎街道鉄砲渡しの場合・同 二つ玉の場 指導者:中村萬壽、中村芝翫
能楽	令和7年度第1回稽古会	国立能楽堂	4/14	小舞「松樸」(大蔵流)、袴狂言「口真似」(和泉流)、舞囃子「箆」(金春流)、舞囃子「杜若」(喜多流)、舞囃子「熊坂」(観世流)、袴能「黒塚」(宝生流)

				指導者:金春安明・友枝昭世ほか 出演者:第11・12期研修生、第8・9・10期修了者、令和7年度研究生
能楽	令和7年度 第2回稽古会	国立能楽堂	7/14	小舞「七つ子」(和泉流)、袴狂言「蝸牛」(大蔵流)、 舞囃子「鶴亀」(宝生流)、舞囃子「盛久」(金春流)、舞囃子「葛城」(喜多流)、袴能「船 弁慶」(観世流) 指導者:観世清和、金春安明、友枝昭世ほか 出演者:第11・12期研修生、第8・9・10期修了者、令和7年度研究生
能楽	令和7年度 第3回稽古会	国立能楽堂	1/19	間語り「井筒」(和泉流)、袴狂言「宝の槌」(大蔵流)、舞囃子「岩船」(喜多流)、舞囃 子「東北」(宝生流)、舞囃子「巻絹」(金春流)、袴能「石橋」(観世流) 指導者:観世清和、金春安明ほか 出演者:第11・12期研修生、第8・9・10期修了者、令和7年度研究生

④ 次年度の研修生募集

区分	選考日	応募者数	受験者数	合格者数
第31期歌舞伎俳優	2/24	9名	7名	6名
第11期歌舞伎音楽(長唄)	2/25	1名	1名	1名
第13期能楽(三役)	2/12	6名	5名	5名
第35期文楽	1/28	1名	1名	1名
第8期組踊	11/8・9、2/15	14名	14名	10名

⑤ 研修修了者の動向把握等

《伝承者の現況(令和8年4月1日現在)》

分野	研修修了者総数 (A)	研修修了者のうち 現在従事者数(B)	伝承者総数 (C)	研修修了者の 占める割合(B/C)
歌舞伎俳優	196人	99人	288人	34.4%
歌舞伎音楽(竹本)	46人	32人	37人	86.5%
歌舞伎音楽(鳴物)	26人	15人	39人	38.5%
歌舞伎音楽(長唄)	13人	11人	44人	25.0%
大衆芸能(寄席囃子)	49人	27人	28人	96.4%
大衆芸能(太神楽)	15人	11人	24人	45.8%
能楽	43人	34人	361人	9.4%
文楽	81人	48人	82人	58.5%
組踊	65人	64人	263人	24.3%

《受賞等》

- ・竹本碩太夫(第27期文楽研修修了)が令和7年度「咲くやこの花賞」を受賞した。
- ・翁家和助(第1期太神楽研修修了)が令和7年度「芸術選奨文部科学大臣新人賞」を受賞した。

《主催公演への出演》

- ・国立劇場、国立能楽堂及び国立文楽劇場の主催公演に研修修了者が多数出演した。

⑥ 養成研修制度の在り方に関する検討等

- ・プレ研修を能楽・文楽の分野で実施し、能楽11名、文楽1名が受講した。能楽の受講者1名から研修生への応募があり選考試験に合格した。

イ 既成者研修の実施

《研修方針》

研修修了者の技芸の一層の向上を図るとともに、就業者としての意識の向上を促すため、既成者研修発表会等の公演を行う。さらに、既成者の技芸の向上のため、必要に応じて各種研修を適宜実施する。

① 既成者研修発表会の実施

区分	公演名	入場者数	入場率	入場料収入
歌舞伎俳優	第31回稚魚の会・歌舞伎会合同公演	3,117人	80.6%	16,774千円
歌舞伎俳優	第35回上方歌舞伎会	1,702人	62.9%	9,253千円
歌舞伎音楽	第27回音の会	205人	26.3%	933千円
能楽	第34回能楽若手研究会 京都公演 若手能	316人	69.9%	892千円
能楽	第34回能楽若手研究会 大阪公演 若手能	367人	81.9%	1,056千円
能楽	第34回能楽若手研究会 東京公演 若手能	623人	99.4%	1,829千円

文楽	文楽若手会	879 人	60.1%	2,495 千円
組踊	第 15 回若手伝承者公演	214 人	42.9%	255 千円
合計	8 公演(計画 8 公演)	7,423 人	68.5%	33,487 千円

＜既成者研修発表会の公演詳細＞

稚魚の会・歌舞伎会合同公演			
劇場・日程・回数	浅草公会堂	8/14～8/17	4 回
演目等	「双蝶々曲輪日記」八幡の里引窓の場、「棒しばり」、「勢獅子」		
出演者	中村蝶也、市川新八、市川右田六、尾上音蔵、尾上音幸、市川福五郎ほか		
入場料	一般(1 等)7,000 円、(2 等)5,000 円、(3 等)3,000 円、学生(1 等)4,900 円、(2 等)3,500 円、(3 等)2,100 円		
上方歌舞伎会			
劇場・日程・回数	国立文楽劇場	8/23～8/24	4 回
演目等	「傾城反魂香 土佐将監閑居の場」、「太刀盗人」		
出演者	片岡松十郎、片岡千壽、片岡千次郎、坂東竹之助、片岡當吉郎、片岡りき彌、中村翫政、片岡千太郎、片岡愛三郎ほか		
入場料	一般 6,000 円、学生 4,200 円		
音の会			
劇場・日程・回数	浅草公会堂	8/7	1 回
演目等	鳴物長唄「浦島」、長唄「綱館」、長唄「神田祭」、義太夫「道行旅路の嫁入」		
出演者	田中傳左衛門社中、鳥羽屋三右衛門社中、尾上菊五郎劇団音楽部長唄、竹本連中ほか		
入場料	一般 5,000 円、学生 3,500 円		
第 34 回能楽若手研究会 京都公演 若手能			
劇場・日程・回数	京都観世会館	6/21	1 回
演目等	舞囃子「高砂」(観世流)、能「三井寺」(観世流)、狂言「栗焼」(大蔵流)、能「熊坂」(金剛流)		
出演者	橋本忠樹、味方團、茂山茂、惣明貞助ほか		
入場料	前売 3,400 円、当日 3,700 円、学生 1,800 円		
第 34 回能楽若手研究会 大阪公演 若手能			
劇場・日程・回数	大槻能楽堂	1/17	1 回
演目等	能「高砂」(観世流)、狂言「鬼瓦」(大蔵流)、能「百萬」(観世流)		
出演者	山田薫、小西玲央、上田顕崇ほか		
入場料	前売 3,400 円、当日 3,700 円、学生 1,800 円		
第 34 回能楽若手研究会 東京公演 若手能			
劇場・日程・回数	国立能楽堂	2/21	1 回
演目等	能「吉野静」(喜多流)、狂言「柑子」(大蔵流)、能「葵上」(観世流)		
出演者	友枝真也、山本則重、鶴澤光ほか		
入場料	正面 3,700 円、脇正面 3,200 円(学生 2,200 円)、中正面 2,500 円(学生 1,800 円)		
文楽若手会			
劇場・日程・回数	国立文楽劇場	6/21～6/22	2 回
演目等	「妹背山婦女庭訓」道行恋芋環・饗七使者の段・姫戻りの段・金殿の段、「新版歌祭文」野崎村の段		
出演者	豊竹希太夫、鶴澤寛太郎、吉田文哉ほか		
入場料	3,300 円		
第 15 回若手伝承者公演			
劇場・日程・回数	国立劇場おきな大劇場	12/6	1 回
演目等	琉球舞踊「瓦屋」、「しゅんどう」、琉球古典音楽斉唱「伊江節」「世栄節」「垣花節」「揚沈仁屋久節」、組踊「大城崩」		
出演者	第 3～6 期修了者ほか		
入場料	一般：2,000 円 友の会：1,600 円 学生割：1,000 円		

- ・新聞・雑誌等に公演情報や出演者のインタビューを掲載した。
- ・台東区と連携し、合同公演や音の会にあわせて区民割引・親子招待を実施し、区内の小学校や文化施設、区役所でチラシ・ポスターを配布・掲示するとともに、浅草公会堂でワークショップと公開講座を開催した。また、会場近辺の外国人観光客向けに英語チラシを作成・配布した(合同公演、音の会)。
- ・株式会社イヤホンガイドの協力により、スマートフォンアプリを利用した公演解説(英語)及び字幕ガイド(日本語)を試行的に実施し、希望者へ無料で提供した(合同公演)。
- ・令和 6 年度の第 33 回大阪若手能の能「芦刈」出演を理由に笠田祐樹(シテ方観世流)が令和 7 年度大阪文化

祭賞奨励賞を受賞した。

《既成者研修発表会の公演周知》

振興会ホームページ、SNS、振興会出版物及び外部のホームページや SNS 等に公演情報を掲載した他、振興会外部の劇場等に英語版を含むチラシ・ポスター等を配布・掲出した。新聞・雑誌等への公演情報掲載、ラジオ放送による公演周知と併せて外部機関と連携しイベントでの公演周知や外部でのチケット販売を行った。

② 能楽研究課程の開講

- ・能楽の既成者研修として、研修修了者と能楽師子弟を対象に研究課程を開講し、研究生 35 名が受講した（実施回数：387 回）。研究課程では、若手能楽師が専門以外の副科（シテ謡・笛・小鼓・大鼓・太鼓）を受講し、稽古会や青翔会の出演機会においては、他役・他流儀との交流を通じて研鑽を積んだ。

ウ 伝統芸能の伝承者の養成の実施に当たっての留意事項

① 修了者の活動状況等、養成事業の周知

《SNS 等登録者数》

区分	Instagram	TikTok	YouTube	X(旧 Twitter)
養成所	1,130 (+297)	98 (+23)	320 (+320)	2,535 (+365)

※()内の数値は前年度からの増減。

《広報・普及活動》

周知方法等	概要
振興会サイト、SNS、主催公演等	・振興会ホームページ、国立劇場養成所 SNS などによる情報発信 ・国立劇場養成所専用の YouTube チャンネルを新設し、講師の中村萬壽、野村萬斎等による養成所紹介動画を発信 ・主催公演や研修発表会のロビーで、チラシ等の配布・掲出や研修紹介映像の上映など ・新聞・雑誌・テレビ・ラジオ等による公演・養成事業の周知
外部サイト等	・高校生を対象とした進学情報サイトに養成所情報と研修生募集情報を掲載 ・(公財)文楽協会等のホームページに文楽研修生募集のバナーを掲出
外部イベント等	・歌舞伎座及び歌舞伎巡業公演会場等の振興会外の公演で募集チラシを配布 ・(一社)伝統歌舞伎保存会主催「小学生のための歌舞伎体験教室発表会」のプログラムへの広告掲載、会場ロビーへの広報ブース出展 ・その他、全国高等学校総合文化祭や全国高校生伝統文化フェスティバルなど、各種イベント等での広報ブース出展やチラシ等の配布、映像上映
全国の文化施設、学校等	・全国高等学校文化連盟の実務担当者会議に出席し、養成所の事業を紹介するとともに、各都道府県総合文化祭等における研修生募集広報の協力を依頼 ・伝統芸能コースがある大阪府立東住吉高校で、文楽の実演付きの特別授業を実施 ・江東区立小学校 7 校において文楽、太神楽、日本舞踊のアウトリーチ活動を実施

② 全国の文化施設、学校等と協力した研修修了者による普及事業

《普及活動の実施実績》

分野	実施回数	参加者数
歌舞伎	5 件	356 人
大衆芸能	3 件	207 人
能楽	13 件	3,255 人
文楽	2 件	542 人
組踊	3 件	179 人

- ・若年層やその保護者を対象としたワークショップ「伝統芸能体験教室」を実施した（歌舞伎俳優 5 回、大衆芸能 3 回、能楽 13 回、文楽 3 回）。
- ・ティアラ江東・江東区文化センターと連携し、区立小学校 7 校において文楽、太神楽、日本舞踊のアウトリーチを実施するなど、学校との協力による普及活動を実施した。
- ・国立青少年教育振興機構主催の普及事業（「秋のキッズフェスタ 2025」）に参加し、歌舞伎の立廻りの体験プログラムを実施した。

③ 研修生募集の周知

《研修見学会・個別相談の実施実績》

分野	実施回数	参加者数
歌舞伎・能楽・文楽合同	1 件	15 人
歌舞伎・能楽合同	1 件	2 人

歌舞伎	1 件	6 人
能楽	2 件	11 人
文楽	2 件	36 人
組踊	1 件	1 人

＜養成事業の周知・研修生募集等に関する映像配信＞

実績		前年同期実績	
配信件数	視聴回数	配信件数	視聴回数
20 件	16,350 回	3 件	3,463 回

④ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義

- ・五館合同講義、研修生交流会を 12/2 に開催し、伝統芸能分野と現代舞台芸術の共同研修を実施した（参加者数：伝統芸能・現代舞台芸術の全分野の研修生 53 名）。

講師	桐竹勘十郎(文楽人形遣い)
講義内容	「良き舞台人になるために」
会場	国立オリンピック記念青少年総合センター

⑤ 再整備後を見据えた伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の養成・研修事業の在り方の検討[⑤]

- ・新国立劇場の研修公演、振興会の研修公演及び主催公演において、双方の研修生に対して鑑賞機会を提供することで相互交流の深化を図った。

⑥ 外部研修への協力、舞台技術に関する安全管理等についての技術講習会実施に向けた試行的取組

- ・舞台技術職員を対象に技術向上ならびに講習会実施におけるスキルを学ぶため、法定教育及び外部の舞台技術講習会の受講を推進した。

＜法定教育＞

- ◇テールゲートリフター特別教育(6/25～3/11。5 名)
- ◇足場の組立て等作業従事者特別教育(10/11。1 名)

＜外部の舞台技術講習会＞

- ◇日本コーバン主催調光操作卓(ETC Eoc)研修 (10/1～2。2 名)
- ◇日本コーバン主催調光操作卓(ETC Eoc)基本操作研修 (9/10～10/9。5 名)
- ◇ヒビノ株式会社主催音響調整卓研修 (10/9。5 名)
- ◇日生劇場主催日生劇場舞台フォーラム 2025 (11/12。2 名)
- ◇日本コーバン主催 ETC Eoc プレゼンテーション (12/5。2 名)
- ◇あうるすぽっと研修修プログラム 2025『はじめての舞台技術講座』(1/26。1 名)
- ◇東京芸術劇場・日本音響家協会主催舞台技術セミナーvol.13ー『映画音響に学ぶ舞台のサウンドエフェクト』(2/13。1 名)
- ◇日本照明家協会・東京支部&NGC『東京主催日本舞踊の照明勉強会』(2/16。3 名)
- ◇公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団主催さいたま舞台技術フォーラム 2026『劇場舞台照明 ～LED 化の波～』(2/26。5 名)
- ・舞台技術職職員を対象に安全教育ならびに講習会実施におけるスキルを学ぶため、スリーエムジャパンイノベーション株式会社から講師を招き劇場安全講習会を 3/12 に開催した。
- ・昨年度に引き続き、全国の会館等で伝統芸能の上演を安全に実施する際の手引きとして「国立劇場の舞台技術ー伝統芸能の上演のためにー」を振興会ホームページの専用ページにて公開した。
- ・全国公立文化施設協会が文化庁より委託を受け実施している「全国劇場・音楽堂等職員舞台技術研修会」に協力し、令和 7 年 11 月 20 日・21 日に長野県上田市交流文化芸術センター(サントミュージーゼ)にて『伝統芸能と舞台技術』をテーマに舞台技術部職員による講義・ワークショップを行った。日本舞踊の演目を創り上げる過程を紹介し、伝統芸能を上演する際の疑問や質問にも答えた。全国から 95 名が受講。

3-(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

《中期計画の概要》

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

高い技術と豊かな芸術性を備えた実演家等を育成するため、実演家等の研修を実施

ア 民間団体の役割を踏まえつつ、研修環境のさらなる充実を図ることで優れたアーティストが切磋琢磨する環境を醸成し、グローバルな視点に立った体系的なカリキュラム等により、安定的、継続的に実演家を育成
外部専門家等の意見聴取、成果の検証を行い、長期的視点を踏まえて対象とする分野、人数等について不断の見直しを実施

イ オペラ研修及びバレエ研修については、国際的な活躍が期待できる水準の実演家の育成を目標とし、演劇研修については、確かな演技力等を備えた次代の演劇を担う実演家の育成を目標として、第一線で活躍する各分野の専門家等を講師とし、実践的・体系的なカリキュラムにより研修を実施

① オペラ研修(研修期間3年間)

② バレエ研修(研修期間2年間)

③ 演劇研修(研修期間3年間)

(3) 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項

ア 研修事業に関する国民の関心の喚起、理解促進のため、ホームページ、SNS等を活用して研修修了者の活動状況等を分かりやすく示すなど、広報活動を充実

イ 学校等との連携による研修成果の活用及び研修生・研修修了者等が実演経験を積む機会の充実のための児童・生徒等の体験学習や劇場外における様々な文化普及活動への積極的参画

ウ 効果的かつ効率的な募集活動、研修見学会等について検討

エ 国立劇場再整備後を見据えた伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の養成・研修事業の在り方の検討

オ 新国立劇場等の人材や施設を活用した公演制作者や舞台技術者等の実地研修等の受入れ、協力、舞台技術に関する安全管理等についての技術講習会実施に向けた検討

《年度計画の概要》

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

ア 研修の実施

民間団体の役割を踏まえつつ、グローバルな視点に立った体系的なカリキュラム等により、安定的、継続的に実演家の育成を行うよう留意

・海外研修の実施回数:3回(オペラ研修2回、バレエ研修1回)

・夏期研修の実施回数:1回(バレエ研修1回)

・令和8年度の研修所入所希望者の応募倍率(応募者数÷合格者数):オペラ研修10倍、バレエ研修8倍、演劇研修4倍(平成30年度～令和4年度の平均)以上【モニタリング指標】

・令和12年度までに新国立劇場バレエ団内における団員の入団前所属経験割合が、新国立劇場バレエ研修所50%、海外バレエ関係(バレエ団、教室等)45%、国内バレエ関係(バレエ団、付属研究所等)35%となるよう目指す。【モニタリング指標】

外部専門家等の意見を聴取し、研修修了者の動向把握等による成果の検証を行い、長期的視点を踏まえて対象とする分野、人数等について不断の見直しを実施

① オペラ研修(研修期間3年)

(a) 第26期生(4名)の3年目の研修(修了)

(b) 第27期生(5名)の2年目の研修

(c) 第28期生(5名)の1年目の研修

(d) 第29期生(5名程度)の募集

(e) 研修発表会等を別表8のとおり実施する。

② バレエ研修(研修期間本科4年、基礎科1年)

(a) 本科第21期生(7名)の4年目(後期課程2年目)の研修(修了)

(b) 本科第22期生(6名)の3年目(後期課程1年目)の研修

(c) 本科第23期生(8名)の2年目(前期課程2年目)の研修

(d) 本科第24期生(9名)の1年目(前期課程1年目)の研修

- (e) 本科第23期生の募集(本科前期課程からの進級を含め12名程度)
- (f) 本科第25期生(8名程度)の募集
- (g) 基礎科の研修及び募集
- (h) 研修発表会等を別表8のとおり実施する。
- ③ 演劇研修(研修期間3年)
 - (a) 第19期生(12名)の3年目の研修(修了)
 - (b) 第20期生(9名)の2年目の研修
 - (c) 第21期生(9名)の1年目の研修
 - (d) 第22期生(16名程度)の募集(e) 研修発表会等を別表8のとおり実施
 - (f) 修了後の幅広い活躍を目標とし、5月～6月に国内研修を実施
- イ 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項
 - ① 研修事業についての国民の関心の喚起、理解促進を図るため、ホームページ、SNS等を活用して研修修了者の活動状況等を分かりやすく示すなど、広報活動を充実
 - ② 学校等との連携による研修成果の活用及び研修生等が実演経験を積む機会の充実を図るため、様々な文化普及活動への参画に努める
 - ③ 研修生募集について、ホームページでの告知、研修紹介映像の活用、研修説明会・見学会の実施等により周知し、応募者の確保に努める
 - ④ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義を実施し両分野の相互交流を図る
 - ⑤ 国の文化芸術に関する施策との連携に留意しつつ、新国立劇場等の人材や施設を活用し、外部研修への協力等に努める

ア 安定的、継続的な実演家の育成

《研修方針》

オペラ研修所では、プロのオペラ歌手としての舞台活動を目指している人のために、国際的なレベルの研修を行うことを目的として、3年制の研修を行う。各種音楽レッスンを行うほか、語学、演技、発声法等、オペラ歌手として必要な技能を総合的に研修する。また、コンサート、試演会、春公演等聴衆を意識した演奏や舞台経験を積み、新国立劇場主催公演への出演をはじめ、海外歌劇場の舞台に立てる人材育成を目指す。

バレエ研修所ではプロのダンサーを目指す人のために、ダンサーとして必要な技能の研鑽、知識と教養の付与及び舞台実習を行うことを目的として、4年制の研修を行う。また、研修所入所前に受講できる基礎強化を目的とした、基礎科を開講する。

演劇研修所は、明晰な日本語を使いこなし、柔軟で強度のある精神と身体を備えた次世代の演劇界を担える人材の育成を目的として、3年制の研修を行う。1、2年次は基礎的俳優訓練とともに、第一線の演出家や俳優指導の専門家を軸とする講師陣によるクリエイション演習、シーンスタディを展開し、3年次には修了公演に向けて数本の舞台実習公演を行う。

① 研修実績

分野	期数	研修期間	年度計画	研修実績	うち修了及び受講終了者
オペラ	第26期(3年次)	3年	4名	4名	4名
	第27期(2年次)		5名	5名	
	第28期(1年次)		5名	4名	
バレエ本科	第21期(後期課程)(4年次)	4年	7名	7名	7名
	第22期(後期課程)(3年次)		6名	6名	
	第23期(前期課程)(2年次)		8名	8名	
	第24期(前期課程)(1年次)		9名	9名	
演劇	第19期(3年次)	3年	12名	12名	12名
	第20期(2年次)		9名	9名	
	第21期(1年次)		9名	9名	

- ・バレエ研修所では基礎科を設け、週2回程度の「ジュニアクラス」を実施した(3月末時点で25名が参加)。
- ・オペラ研修所第28期生は11月に死去により1名減となった。

② 主な授業等の概要

分野	期数	区分	合計回数	授業内容
オペラ	第26期	実技	698	実技： オペラ実習、身体表現 座学： 特別講義(サロン)、五館合同特別講義、語学(英語、イタリア語、ドイツ語) その他： 舞台実習、舞台鑑賞
		座学	100	
		その他	15	
		合計	813	
	第27期	実技	741	
		座学	99	
		その他	14	
		合計	854	
	第28期	実技	707	
		座学	103	
		その他	15	
		合計	825	
バレエ本科	第21期	実技	500	実技： クラシカル・バレエ、身体表現ほか 座学： 講義、特別講義(サロン)、五館合同特別講義、語学(英語) その他： 舞台実習、舞台鑑賞、特別講習
		座学	50	
		その他	73	
		合計	623	
	第22期	実技	545	
		座学	53	
		その他	55	
		合計	653	
	第23期	実技	521	
		座学	43	
		その他	73	
		合計	637	

	第 24 期	実技	517	実技： 演劇実習、演技/シーンスタディ、声、身体表現、テクニクほか 座学： 講義、特別講義、五館合同特別講義、戯曲研究/戯曲をよむほか その他： アウトリーチ、国内研修、美術、観劇、見学、公演スタッフ研修ほか
		座学	42	
		その他	42	
		合計	601	
演劇	第 19 期	実技	152	
		座学	8	
		その他	58	
		合計	218	
	第 20 期	実技	352	
		座学	1	
		その他	99	
		合計	452	
	第 21 期	実技	343	
		座学	24	
		その他	90	
		合計	457	

- ・第一線で活躍する講師陣のもと、実践的・体系的なカリキュラムによって研修を実施した。その成果は、発表会、試演会、修了公演等で広く示され、観客及び専門家から高い評価を得ることができた。
- ・海外のアカデミー、音楽学校等で活躍する講師を招聘し、国際水準の研修を実施した。
- ・全日本空輸株式会社の協賛による支援事業の認定を受けた。
 - ◇ANA スカラシップ(オペラ研修所・バレエ研修所研修生の海外研修サポート等)
 - ◇新国立劇場若手俳優育成のための国内研修事業支援(演劇研修所研修生のために国内研修に関わる航空券のサポート)
- ・入所式に引き続いて、ANA スカラシップ認定証授与式を開催した。

《各研修所共通》

- ・多彩な海外招聘講師による指導や、アウトリーチの実施、外部研修などのバラエティに富んだ研修を行った。

《オペラ研修》

- ・佐藤所長のもと、ピアニストやコレペティートルといった音楽スタッフのさらなる充実が図られた。
- ・アウトリーチ企画として、シニアレジデンスにてサロンコンサートを実施した。

《バレエ研修》

- ・昨年度に引き続きバレエ研修所入所前の 13・14 歳を対象に、基礎強化の「ジュニアクラス」を週 2 回程度実施した(3 月末時点で 25 名が参加)。
- ・新しく就任した本島美和アクティング・ディレクター(所長代行)のもと、新たな講師を加えるなど、講師陣のさらなる充実を図った。
- ・元舞踊芸術監督のデヴィッド・ビントレー氏を迎え、氏の振付作品『En Bateau』を「エトワールへの道程 2026」で上演した。振付家の指導を直接受けられる貴重な機会となった。

《演劇研修》

- ・日本の演劇界を牽引する演出家のもとでシーンスタディを実施した。
- ・新国立劇場若手俳優育成のための国内研修事業支援により、演劇研修第 19 期生が広島研修を実施した(6/9～12)。
- ・観劇サポートに関するワークショップを実施し、アクセシビリティ向上への理解を深めることに努めた。
- ・東京都立葛飾盲学校へのアウトリーチを行い、研修事業の普及に努めた。

《海外研修》

- ・ANA スカラシップの一環として海外研修を実施した。《⑦ 舞台芸術グローバル拠点事業》参照。

《国際交流》

- ・海外のアカデミー、音楽学校等で活躍する講師を招聘し、国際水準の研修を実施した。

区分	研修期間	講師
オペラ	5/12～6/6	キャスリーン・ケリー
オペラ	9/8～9/10	ライナー・トロースト
オペラ	11/10～11/28	マーティン・カツツ
オペラ	1/13～2/22	カロリーネ・グルーバー
オペラ	1/26～2/22	ロミー・レクスホイザー

バレエ	7/28	平野亮一
バレエ	9/1～9/5	ウラジーミル・マラーホフ
演劇	7/2～18	木村早智
演劇	10/6	リズ・オルソン
演劇	10/20～24	デイビッド・サルター

《受賞等》

- ・渡邊美沙季(第26期、ソプラノ)が第44回飯塚新人音楽コンクールの声楽部門で、第1位を受賞した。
- ・渡邊美沙季(第26期、ソプラノ)が令和7年度奏楽堂日本歌曲コンクール第36回歌唱部門で入選した。
- ・第94回日本音楽コンクールで牧羽裕子(27期、メゾソプラノ)が第5位入賞した(10/23)。

③ 研修発表会等の実施

(a) 研修公演

《研修発表会の実施実績》

区分	公演名	入場者数	入場率	入場料収入
オペラ	サマー・リサイタル 2025 『スザンナの秘密』/『ルクレツィア』	925 人	51.0%	3,302 千円
オペラ	秋のリサイタル 2025	396 人	50.3%	1,420 千円
オペラ	2026 春公演「ウィンザーの陽気な女房たち」	1,710 人	62.9%	7,929 千円
バレエ	バレエ・アステラス 2025	2,321 人	64.9%	17,816 千円
バレエ	バレエ・コンサート 2025	1,508 人	83.2%	4,005 千円
バレエ	エトワールへの道程 2026	1,300 人	71.7%	4,879 千円
演劇	朗読劇「少年口伝隊一九四五」	800 人	80.0%	1,808 千円
演劇	演劇研修所第 19 期生公演「トミイのスカートからミンがとびだした話」	801 人	53.0%	2,379 千円
演劇	演劇研修所第 19 期生修了公演「社会の柱」	865 人	57.2%	2,624 千円
合計	9 公演(計画 9 公演)	10,626 人	64.2%	46,163 千円

《研修発表会の公演詳細》

新国立劇場オペラスタジオ「サマー・リサイタル 2025」 『スザンナの秘密』／『ルクレツィア』			
劇場・日程・回数	新国立劇場中劇場	7/26～7/27	2 回
出演者	オペラ研修所第 26・27・28 期生 ほか		
入場料	3,850 円、Z 席 1,650 円		
新国立劇場オペラスタジオ「秋のリサイタル 2025」			
劇場・日程・回数	新国立劇場中劇場	11/3	1 回
出演者	オペラ研修所第 26・27・28 期生 ほか		
入場料	全席指定 3,850 円、Z 席 1,650 円		
新国立劇場オペラスタジオ 2026 春公演「ウィンザーの陽気な女房たち」			
劇場・日程・回数	新国立劇場中劇場	2/20～22	3 回
出演者	オペラ研修所第 26・27・28 期生 ほか		
入場料	全席指定 4,950 円、Z 席 1,650 円		
「バレエ・アステラス 2025」			
劇場・日程・回数	新国立劇場オペラ劇場	7/18～7/19	2 回
出演者	バレエ研修所 21 期研修生、22 期生、23 期生、24 期生 ほか		
入場料	S 席 9,900 円、A 席 8,800 円、B 席 6,600 円、C 席 4,950 円、D 席 3,300 円、Z 席 1,650 円		
バレエ研修所「バレエ・コンサート 2025」			
劇場・日程・回数	新国立劇場中劇場	11/15～16	2 回
出演者	バレエ研修所 第 21 期生・第 22 期生・第 23 期生・第 24 期生 ほか		
入場料	全席指定 2,750 円、Z 席 1,650 円		
バレエ研修所「エトワールへの道程 2026」			
劇場・日程・回数	新国立劇場中劇場	2/28～3/1	2 回
出演者	バレエ研修所 第 21 期生・第 22 期生・第 23 期生・第 24 期生 ほか		
入場料	全席指定 3,850 円、Z 席 1,650 円		
演劇研修所第 19 期生公演朗読劇『少年口伝隊一九四五』			
劇場・日程・回数	新国立劇場小劇場	7/31～8/3	4 回

出演者	演劇研究所第 19 期生		
入場料	A 席 2,750 円、B 席 2,200 円、U25 席 1,650 円、Z 席 1,650 円		
演劇研究所第 19 期生公演「トミイのスカートからミシンがとびだした話」			
劇場・日程・回数	新国立劇場小劇場	11/11～16	6 回
出演者	演劇研究所第 19 期生		
入場料	A 席 3,850 円、B 席 3,300 円、U25 席 1,650 円、Z 席 1,650 円		
演劇研究所第 19 期生修了公演「社会の柱」			
劇場・日程・回数	新国立劇場小劇場	2/10～15	6 回
出演者	演劇研究所第 19 期生、研修修了者 ほか		
入場料	A 席 3,850 円、B 席 3,300 円、U25 席 1,650 円、Z 席 1,650 円		

・研究所ごとに特色ある研修発表会を開催し、研修生にとって重要な学びの機会を作り出した。

④ 次年度の研修生募集

区分	選考日	応募者数(A)	受験者数	合格者数(B)	倍率(A/B)	備考
オペラ	10/24～11/7	40名	37名	4名	10倍	願書受付 9/1～9/12
オペラ追加選考	2/17、2/26	46名	46名	1名	46倍	願書受付 1/26～2/6
バレエ前期課程	11/7～12/14	31名	30名	5名	6.2倍	願書受付 10/1～10/15
バレエ後期課程	11/7～12/13	29名	29名	2名	14.5倍	願書受付 10/1～10/15
演劇	12/17～12/21	37名	36名	10名	3.7倍	願書受付 11/4～12/2

⑤ 研修修了者の動向把握等

《研修修了者の就業状況(令和8年4月1日)》

分野	研修修了者総数	研修修了者のうち 現在従事者数
オペラ	125人	124人
バレエ	127人	107人
演劇	210人	180人

《受賞等》

【オペラ研修】

- ・杉山沙織(第23期、メゾソプラノ)がジュゼッペ・ディ・ステファノ国際声楽コンクール(イタリア・トラパニ)で第1位を受賞し、『アルジェのイタリア女』イザベラ役を獲得した(5/15)。
- ・令和7年度奏楽堂日本歌曲コンクール第36回歌唱部門
佐藤克彦(第24期修了、バリトン)：第1位 中田喜直賞 木下記念賞(金)
松浦宗梧(第25期修了、バリトン)：第2位 木下記念賞(銀)・畑中良輔賞
野口真瑚(第25期修了、ソプラノ)：入選
- ・杉山沙織(第23期修了、メゾソプラノ)が6月ミラノ・スカラ座アカデミーオーディション合格。
- ・第94回日本音楽コンクールで砂田愛梨(第18期修了、ソプラノ)が第1位受賞した。(10/23)

《主催公演への出演》

- ・オペラ、演劇の主催公演に研修修了者が多数出演した。
- ・バレエ研究所修了者の多くが新国立劇場バレエ団に在籍しており、主催公演に多数出演した。

《外部公演への出演》

- ・オペラ研究所修了者が、国内の他団体の公演及び海外の歌劇場等での公演に出演した。

⑥ 外部専門家等の意見聴取、成果の検証、対象分野・人数等の不断の見直し

- ・研修事業委員会を開催し、前年度の成果検証に基づき今後の方向性の検討を行った。外部専門家である研修事業委員と各研究所所長が研究所の現状を確認し、研究所の環境、研修内容の改善について意見を交わした。
- ・研修事業委員に授業、公演の視察を依頼し、レポートにて意見を聴取した。
- ・各研究所において定期的に講師会等を開催し、研修内容や今後の方向性について話し合いを行った。
- ・バレエ研修生の選考に当たっては、外部の審査員(1名)を加えて実施した。

⑦ 舞台芸術グローバル拠点事業

- ・国際的なレピュテーションの確立を目指し、舞台芸術グローバル拠点事業に取り組んだ。

《海外研修》

区分	期間	研修先
オペラ	9/27～10/20	ミラノ・スカラ座アカデミー
オペラ	3/14～3/29	フランクフルト歌劇場付属研修所
バレエ	9/15～10/4	ミラノ・スカラ座バレエアカデミー
合計	3回(年度計画3回)	

《夏期研修》

区分	期間	研修名
バレエ	8/2～8/4	バレエ研修所「夏の特別バレエレッスン」
合計	1回(年度計画1回)	

《次年度の研修所入所希望者の応募倍率》

区分	応募者数(A)	合格者数(B)	応募倍率(A/B)
オペラ	86名	5名	17.2倍
バレエ	60名	7名	8.6倍
演劇	37名	10名	3.7倍

※オペラ研修所については、追加募集・選考を実施した。2回の選考を合算して算出しているが、重複応募もあるため、記載の倍率はあくまで合算による参考値であり、実際の志願倍率とは乖離がある。

《新国立劇場バレエ団員の入団前所属経験(全団員数72人)》

区分	新国立劇場 バレエ研修所	海外バレエ関係 (バレエ団、教室等)	国内バレエ関係 (バレエ団、付属研究所等)
人数	23人	39人	22人
全団員数に占める割合	31.9%	54.2%	30.6%

※「入団前所属経験」とは、新国立劇場バレエ団入団前のキャリア全てを上記3区分に分類したものである。複数のキャリアを有する団員もいることから、合計人数は全団員数より多くなっている。

イ 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項

① ホームページ等での事業の周知

《SNS等登録者数》

区分	Facebook	Instagram	X(旧Twitter)
オペラ研修所	－	－	1,111 (+187)
バレエ研修所	1,124 (+122)	－	3,061 (+208)
新国立劇場バレエ・アステラス	－	2,883 (+1,185)	－
演劇研修所	1,257 (+27)	－	2,110 (+123)

※()内の数値は前年度末からの増減。

- ・ホームページやSNS(Facebook, X(旧Twitter))を活用し、研修の実施状況、研修公演の稽古、研修所の紹介コンテンツ、公演の様子、修了者の動向等を随時発信した。各研修所が専用のSNSを開設していることで継続性のある効果的な発信が可能となり、きめ細かな情報発信に奏功した。
- ・ANAスカラシップの一環として、以下の広報活動を行った。
 - ✧ANA国内線機内にてオペラ研修所とANAスカラシップを紹介する映像(10月より1か月間)、バレエ研修所とANAスカラシップを紹介する映像(3月より1か月間)を放映
 - ✧ANAグループ機内誌「翼の王国」に各研修所の紹介広告を掲載(オペラ9月号、バレエ2月号、演劇11月号)

② 学校等との連携による研修成果の活用、様々な文化普及活動への参画

《普及活動の実施実績》

区分	実施回数	参加者数
オペラ研修	6件	759人
バレエ研修	0件	0人
演劇研修	1件	20人

③ 応募者の確保

《研修説明会・オープンスクール等の実施実績》

区分	実施回数	参加者数
オペラ研修	0 件	0 人
バレエ研修	2 件	299 人
演劇研修	4 件	68 人

- ・バレエ研修所では夏の特別バレエレッスンを実施し(8/2～4)、受講者に対してバレエ研修所新研修体系の説明会をあわせて実施した。
- ・演劇研修所ではオープンスクールを開催した(対面：9/6・10/12、オンライン：8/31)。

④ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義

- ・五館合同講義、研修生交流会を12/2に開催し、伝統芸能分野と現代舞台芸術の共同研修を実施した。

講師	桐竹勘十郎(文楽人形遣い)
講義内容	「良き舞台人になるために」
会場	講義: 国立オリンピック記念青少年総合センター 交流会: 国立オリンピック記念青少年総合センター

⑤ 舞台技術者等に対する研修の実施、外部研修への協力

ミュンヘン音楽舞台芸術大学アカデミーからバレエ団のクラスレッスン参加、リハーサルの見学を行うインターンシップを受け入れた(9/1～14、1名)。大学からインターンシップ等の受入れを行った。

学校名	日程	人数	内容
ミュンヘン音楽舞台芸術大学アカデミー	9/1～14	2名	インターンシップ(バレエ団 リハーサル見学等)
武蔵野音楽大学	11/6～12/2	1名	インターンシップ(演劇公演における制作現場)
国立音楽大学	12/1～4	6名	インターンシップ(講義、舞台稽古見学、バックステージ見学等)

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する 調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

[1] 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 伝統芸能に関する調査研究

イ 伝統芸能に関する資料の収集・活用

(2) 伝統芸能に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 公演記録の作成・活用

イ 普及活動

[2] 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

(3) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 主催公演の上演作品等についての資料調査

イ 現代舞台芸術に関する図書・資料の収集・活用

ウ 資料等の展示公開

(4) 現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 公演記録の作成・活用

イ 普及活動

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

自己評価	A
自己評価の根拠	以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を上回る成果を得られたため、自己評価はA評価とする。 ・展示公開の来場者数について、目標値を上回った(達成率117.2%)。 ・「文化デジタルライブラリー」、「ジャパンサーチ」及び「文化遺産オンライン」に国立劇場収蔵資料を多くの画像と詳細な解説付きで登録・公開して一般の利用促進を図り、外部専門家からデジタル公開の拡充について高い評価を受けた。 ・文化デジタルライブラリーのアクセス件数について、年度計画においてはCookie取得同意バナー導入の影響を考慮し、モニタリング指標として目標値を設定したが、前中期目標期間実績(年平均約 109.8 万件)と同水準のアクセスを維持できた。 ・能楽堂では、展示公開の来場者数が目標値を大きく上回った(達成率129.5%)。特に能楽堂収蔵資料展「能面展」は、新規寄贈資料等の初公開を行い、目標来場者数6,300人に対して8,965人(達成率142.3%)となった。また、特別展「狩野派絵師の能楽への眼差し」は、目標来場者数4,700人に対して6,468人(達成率137.6%)となった。外部専門家からの意見として、初見の資料も多く最新の研究に基づく展示だったとの高い評価を得た。 ・第14回文楽特別講座は古典演目の復活事業の一環として「諸葛孔明鼎軍談」司馬徽離庵の段の試演会を開催した。外部専門家からの意見として、国立文楽劇場でなければならない事業との高い評価を得た。 ・令和7年8月大阪・関西万博で開催した「人形浄瑠璃文楽」ミニ公演と特別展示「体感！文楽の世界」では、文楽の基本的な内容を紹介し、特設舞台では文楽技芸員による「二人三番叟」の上演と三業の解説を行い、5日間で約19,800人が来場した。 ・新国立劇場では、青島広志の講座「教えてブルーアイランド先生！ 新国立劇場で学ぶ神話・伝説の世界-ギリシア」(全6回)や演劇公演に関連したギャラリープロジェクトなど、魅力的な講座を多数展開し、好評を得た。 ・台中国家歌劇院でオペラの公演映像上映会を実施した。
数値目標の達成状況 実績/目標(達成率)	文化デジタルライブラリーアクセス件数 1,097,919 件/1,080,000 件(101.7%)【モニタリング指標】 展示公開の実施回数:12 回/12 回(100.0%) 展示公開の来場者数:91,476 人/78,075 人(117.2%) 講座等の実施回数:46 回/40 回(115.0%)
主要な業務実績	[1] 伝統芸能分野 [2] 現代舞台芸術分野 各表参照
課題と対応	[1] 伝統芸能分野 [2] 現代舞台芸術分野 各表参照

[1] 伝統芸能分野

自己評定	A
自己評定の根拠	以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を上回る成果を得られたため、自己評定はA評定とする。 ・国立劇場再整備期間中の資料の活用を図るため、国立劇場おきなわ運営財団との共催により「国立劇場所蔵 上方浮世絵展」を開催した。また、国立劇場所蔵資料展「時代を描いた浮世絵師 三代歌川国貞展」を国立文楽劇場にて実施し、ともに外部専門家から高い評価を受けた。 ・能楽堂では、展示公開の来場者数が目標値を大きく上回った(達成率 129.5%)。特に能楽堂収蔵資料展「能面展」は、新規寄贈資料等の初公開を行い、目標来場者数 6,300 人に対して 8,965 人(達成率 142.3%)となった。また、特別展「狩野派絵師の能楽への眼差し」は、目標来場者数 4,700 人に対して 6,468 人(達成率 137.6%)となった。外部専門家からの意見として、初見の資料も多く最新の研究に基づく展示だったとの高い評価を得た。 ・文楽劇場においても、展示公開の来場者数は目標値を大きく上回った(達成率 117.4%)。 ・第14回文楽特別講座は古典演目の復活事業の一環として「諸葛孔明鼎軍談」司馬徽離庵の段の試演会を開催した。外部専門家からの意見として、国立文楽劇場でなければならない事業との高い評価を得た。 ・「文化デジタルライブラリー」、「ジャパンサーチ」及び「文化遺産オンライン」に国立劇場収蔵資料を多くの画像と詳細な解説付きで登録・公開して一般の利用促進を図り、外部専門家からデジタル公開の拡充について高い評価を受けた。 ・文化デジタルライブラリーのアクセス件数について、年度計画においては Cookie 取得同意バナー導入の影響を考慮し、モニタリング指標として目標値を設定したが、前中期目標期間実績(年平均約 109.8 万件)と同水準のアクセスを維持できた。 ・令和7年8月大阪・関西万博で開催した「人形浄瑠璃文楽」ミニ公演と特別展示「体感！文楽の世界」では、文楽の基本的な内容を紹介し、特設舞台では文楽技芸員による「二人三番叟」の上演と三業の解説を行い、5 日間で約 19,800 人が来場した。
数値目標の達成状況 実績/目標 (達成率)	文化デジタルライブラリーアクセス件数 1,097,919 件/1,080,000 件(101.7%)【モニタリング指標】 展示公開の実施回数: 12 回/12 回 (100.0%) 展示公開の来場者数: 86,106 人/72,830 人 (118.2%) 講座等の実施回数: 19 回/16 回 (118.8%)
主要な業務実績	(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用 ・文化デジタルライブラリーにおいて、舞台芸術教材「歌舞伎事典/KABUKI A to Z」について、新規項目の追加、映像・画像を拡充するなどリニューアルを実施し、公開した。 ・芝居版画等図録第 21 巻(80 点)、プロマイド資料(365 点)などのデータベース化を行い、文化デジタルライブラリーへ登録・公開した。 ・「ジャパンサーチ」及び「文化遺産オンライン」に、国立劇場収蔵資料 506 点を多くの画像と詳細な解説付きで登録・公開し、一般の利用促進を図った。 ・国文学研究資料館との連携により、国立劇場が所蔵する貴重書、文献等 789 冊のデジタル化を進めた。 ・伝統芸能全般の文献(図書・解説書・台本・雑誌等)、図画(錦絵・番付・絵画等)、写真、映像・音声資料、舞台装置等の資料について、収集、分類整理を各館で実施した。 ・各館の資料展示室・閲覧室を開室し、計画どおり展示公開や閲覧業務等を実施した。 ・国立劇場所蔵資料展「時代を描いた浮世絵師 三代歌川国貞」(会場: 国立文楽劇場資料展示室)は、再整備期間中の国立劇場所蔵資料の活用を図るため、国立劇場と文楽劇場の共同企画として実施し、展示図録を刊行した。 ・能楽堂入門展「能楽入門」において入門展解説動画(日本語・英語表記10分)を初

	めて制作して展示室内で上映した。また、英語通訳付きギャラリートークを「国立能楽堂ショーケース」(7/23・28)の公演後に開催し、外国人を含む参加者から好評を得た。 ・能楽堂特別展「狩野派絵師の能楽への眼差し」は、古画に基づいた狩野派表絵師による能絵の発展の系譜を明らかにし、さらに狩野派奥絵師や京都の狩野派の能絵も概観できる展示とした。理解を深める特別展解説動画(日本語・英語表記、各10分)を制作して展示室内で放映した。英語通訳付きギャラリートークは「国立能楽堂ショーケース」(10/17)の夜公演前に行い、47名(うち外国人5名)の参加があった。書籍化した展示図録を刊行した。展示期間中に183冊(内、美術展ナビ通販サイトで6冊)を販売した。読売新聞「美術展ナビ」の取材を受け、サイトとSNSに記事と画像・展示紹介動画が掲載された(10/29)。東京新聞の取材を受け、紙面1/5ほどの写真入りで掲載された(11/7)。目標来場者数4,700人に対して6,468人(達成率137.6%)となった。 ・能楽堂収蔵資料展「能面展」は、令和6年度に寄贈された「松本正彦能面製作用具・製作工程」を初公開し、能面を「写す、打つ」という点から収蔵する能面を展示・解説した。あわせて今年度寄贈の喜多宗家旧蔵の能面「平太」も初公開した。資料展示室入口に、展示している収蔵能面をはじめとする全能狂言面の詳細なデータを「文化遺産オンライン」にて公開している旨をパネルで告知し、デジタルコンテンツの広報にもつなげた。読売新聞「美術展ナビ」の取材を受け、記事とSNSに画像・動画が掲載された(1/17)。目標来場者数6,300人に対して8,965人(達成率142.3%)となった。 ・国立劇場おきなわでは国立劇場との共催による「国立劇場所蔵 上方浮世絵展」を含む企画展を4回実施した。 (2) 伝統芸能に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施 ・各館の主催公演について、映像・写真等による記録を作成した。 ・各館図書閲覧室・視聴室において、公演記録写真・公演記録映像を出演者及び公演関係者と一般来場者の閲覧・視聴に供するとともに、出演者、教科書等の出版社及び放送局等の依頼に応じて複製物を作成・提供した。 ・舞踊や雅楽など多様な芸能ジャンルの公演記録映像を有料配信した。公演記録映像等の配信に当たっては、必要な著作権等の処理・契約を行った。 ・能楽堂入門展では理解を深める入門展解説動画(日本語・英語表記、各10分)を初めて制作して展示室内で放映した。この中で18曲の公演記録映像を使用して展示内容を補完した。熱心に視聴する来場者が多く、好評だった。 ・文楽劇場では展示内容に関連した公演記録映像を編集し、展示室内で上映した。 ・令和7年度からの新企画として、国立劇場図書閲覧室のスペースを有効活用し、読書を通じた交流イベント「国立劇場の読書会」を開催した。少人数ながらも継続的に回数を重ねて開催するプログラムとすることにより、読書を深め、参加者間の交流を促し、読書体験を通じた伝統芸能へのアプローチを図るものとした。 ・三島由紀夫生誕100年を記念した特別講座「国立劇場と三島由紀夫～『椿説弓張月』と三島歌舞伎～」を開催し、ダイジェスト動画を公開した。 ・お茶の水女子大学との連携協定に基づき講座「日本の伝統芸能」を実施した。 ・お茶の水女子大学「世代別伝統芸能普及方法の研究」の一環として、お茶の水女子大学附属小学校において、図画工作を通じて子供たちに伝統文化の魅力を伝える授業方法の開発に協力した。 ・国立劇場おきなわでは、公演記録鑑賞会を4回実施した。
課題と対応	・国立劇場再整備等事業に伴う所蔵資料の安全な移転に向けて、資料の整理及びデジタル化等準備を進めている。 ・文楽劇場では国文学研究資料館の国書データベース公開に向けた文楽劇場所蔵の丸本の調査及びリスト作成を行う。

[2] 現代舞台芸術分野

自己評定	B
自己評定の根拠	以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を達成しているため、自己評定はB評定とする。 ・展示公開の来場者数について、目標値を達成した。 ・「新国デジタルシアター」を通じたインターネット配信による公演記録映像の有効活用を推進した。 ・調査研究を計画どおり実施し、その成果については、オンラインも活用しながら講座・プログラムへの掲載など活用を図った。 ・外部機関等との連携による調査研究を実施し、その成果について、公開セミナーや展示、オンラインでの活用を図った。 ・青島広志の講座「教えてブルーアイランド先生！ 新国立劇場で学ぶ神話・伝説の世界-ギリシア」（全6回）や演劇公演に関連したギャラリープロジェクトなど、魅力的な講座を多数展開し、好評を得た。 ・台中国家歌劇院でオペラの公演映像上映会を実施した。
数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）	展示公開の来場者数:5,370人/5,200人（103.3%） 講座等の実施回数:27回/24回（112.5%）
主要な業務実績	(3) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用 ・主催公演の演目内容を調査研究した成果を講座として開催した。開催に当たってはオンラインも活用して多くの方に参加する機会を提供した。 ・劇場内のオープンスペースを有効活用して舞台装置模型や衣裳を展示する「初台アート・ロフト」を実施した。 ・日本舞台写真家協会との共同企画により、舞台写真展「彩 いろどり一舞台の記憶を紡ぐ」を実施した。また、関連公開セミナーとして、「舞台写真家から学ぶ 撮影術」を開催した。 ・青島広志の講座「教えてブルーアイランド先生！ 新国立劇場で学ぶ神話・伝説の世界-ギリシア」（全6回）については、有料入場率80%を越え、ピアノ演奏付きの解説とゲスト歌手による歌唱演奏で、参加者からも好評を得た。 ・美術展ナビおよび慶應ミュージアム・コモンズとの連携企画として、オペラ「セビリアの理髪師」の舞台裏紹介動画を慶應ミュージアム・コモンズの学生が撮影し、美術展ナビのYouTubeチャンネルにて配信した。 ・演劇公演に関連して実施したギャラリープロジェクトでは、実地開催のほかにオンラインでの記事掲載の形式も取り、より広く発信することができた。 ・オペラ「セビリアの理髪師」では、日本ロッシーニ協会と連携し、作品に関連した所蔵品を借用し、情報センター等で展示を行った。 (4) 現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施 ・主催公演の公演記録データベース作成を引き続き実施した。 ・「新国デジタルシアター」等で公演記録映像3件をインターネット配信した。そのうち、オペラ「ウィリアム・テル」「ナターシャ」の2作品は世界最大級の舞台芸術配信プラットフォームであるOperaVisionを通して配信し、海外からの視聴割合も高い実績を得た。 ・台中国家歌劇院(台湾)の春節特別上映会にて、オペラ「トゥーランドット」の公演映像を上映した。
課題と対応	今年度は外部団体との共催による展示及び公開セミナーを実施し、他分野の関係者とのつながりや新たな観客層獲得の機会を得ることができた。外部機関と連携した所蔵資料を活用した調査研究の可能性等についても今後検討を進める。

4 - [1] 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

《中期計画の概要》

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

伝統芸能の公開の充実等に資するため、調査研究並びに資料の収集及び活用を行う
関係機関等と連携した取組を進める

(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 伝統芸能に関する調査研究を実施

- ① 公演の実施に当たり、過去の公演記録、演出等を調査し、文化デジタルライブラリー又は書籍により公開
- ② 日本各地の演劇興行に関する記録、日本各地に伝わる能楽資料及び組踊等沖縄伝統芸能の上演に関する記録について、調査研究を実施
- ③ 伝統芸能に関する古文献等について調査研究するとともに、復刻・刊行等を実施

イ 伝統芸能に関する資料の収集及び活用を実施

- ① 伝統芸能関係図書、歌舞伎錦絵等博物資料等の収集及び分類整理を行い、閲覧に供するとともに、図録等の作成、博物館施設等への貸与等を実施
- ② 収集した資料のデータベース化の推進やデジタルコンテンツの充実を図り、文化デジタルライブラリー等により公開
舞台映像等の配信に係る権利処理等を行うための関係機関等と連携
収集した資料等を活用した展示を企画し、各展示施設等において公開
関係機関等と連携した取組、多言語化等利便性の向上及び広報活動の強化
国立劇場等の再整備期間中は、伝統芸能情報館及び国立演芸場での展示は休止し、関係機関等と連携
- ③ 国立劇場等の再整備期間中において、資料の特性に応じた適切な管理により代替施設で保管
- ④ 外部の関係機関とのネットワーク構築を推進、情報発信機能の充実について検討

(3) 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

- ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存し、閲覧・視聴に供する
イ 公開講座、公演記録の鑑賞会やICTを活用した公演記録映像の有料配信等を実施

《年度計画の概要》

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 伝統芸能に関する調査研究

- ① 歌舞伎、文楽及び組踊等沖縄伝統芸能の過去の公演記録等の調査・公開及び公開方法の検討
- ② 日本各地の歌舞伎・文楽を主とした演劇興行に関する記録、能楽に関する資料及び組踊等沖縄伝統芸能の上演に関する記録の調査研究・刊行等
 - (a) 「近代歌舞伎年表」名古屋篇別巻の刊行
 - (b) 特別展「狩野派絵師の能楽への眼差し」図録(能楽堂)
- ③ 伝統芸能に関する古文献等の調査研究、文化デジタルライブラリーで公開
 - (a) 「絵入根本集」の翻刻・公開
 - (b) 「歌舞伎の文献シリーズ」の復刻・公開

イ 伝統芸能に関する資料の収集・活用

- ① 各館で公開する分野に関する図書・資料の収集整理、公演関係者、研究者及び一般の閲覧に供し、図録等の作成、博物館施設等への貸与等を実施
開架図書の整備、ホームページにおける蔵書検索機能の提供等、利便性に配慮した利用促進
博物資料等の適切な保存管理、関係機関等との連携等による一層の活用
- ② 収集した資料のデータベース化、デジタルコンテンツの充実及び各展示施設等における資料等の展示公開
 - (a) 図書、錦絵、プロマイド、公演記録情報等のデータベース化
 - (b) デジタルコンテンツの充実
 - i. 文化デジタルライブラリー舞台芸術教材コンテンツの製作・公開
 - ii. 文化デジタルライブラリー目標アクセス件数: 1,080,000件【モニタリング指標】

〈目標水準の考え方〉

個人情報保護のため、令和6年度より文化デジタルライブラリーを閲覧する際にCookie情報の取得について利用者の同意確認を行っている。情報の取得について同意がない場合は、文化デジタルライ

- ブリーのアクセス件数を正確に把握できなくなるため、モニタリング指標とする。
- (c) 外部の関係機関とのネットワーク構築の推進、資料の公開
 - (d) 収集した資料等の展示公開(別表9)
 - 関係機関等と連携した取組、多言語化等来場者の利便性の向上及び広報活動の強化
 - 国立劇場等の再整備期間中は、伝統芸能情報館及び国立演芸場での展示休止、関係機関等と連携
 - (e) 展示図録の刊行
 - i. 特別展「狩野派絵師の能楽への眼差し」図録(能楽堂・再掲)
 - ③ 国立劇場等の再整備期間中は、設備等の老朽化による保管環境悪化に対応、適切な移転作業及びリスト化を実施、代替施設での安全かつ効率的な保管体制の構築を検討
- (2) 伝統芸能に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施
- ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存し、公演関係者・研究者及び一般の視聴・閲覧に供する
 - イ 伝統芸能の理解促進と普及を図るため普及活動を実施
 - ① 伝統芸能に関する公開講座、公演記録映像の有料配信等を別表 10 のとおり実施
 - ② 公演の実施にあわせた関連講座、展示等
 - ③ 組踊等沖縄伝統芸能への理解促進のため、全国の文化施設や学校等における普及活動の充実

(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 伝統芸能に関する調査研究

① 過去の公演記録等の調査・公開

《公演記録等の調査・公開実績》

分野	WEB 公開件数	刊行件数	合計
歌舞伎	4 件	0 件	4 件
文楽	3 件	0 件	3 件
組踊	0 件	1 件	1 件

・歌舞伎・文楽公演の上演演目について、初演から現在に至る上演記録や参考資料等を調査し、その成果を文化デジタルライブラリーにおいて公開した。

② 演劇興行、上演に関する記録の調査研究・刊行等

《刊行実績》

- ・国立劇場所蔵資料展「時代を描いた浮世絵師 三代歌川国貞」図録
- ・特別展「狩野派絵師の能楽への眼差し」図録

《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

＜調査事業委員からの意見＞

- ・国立劇場所蔵資料展「時代を描いた浮世絵師 三代歌川国貞」の展示図録は非常に充実しており、国立劇場ならではの展示内容だった。
- ・能楽堂特別展「狩野派絵師の能楽への眼差し」は、初見の資料が多く、監修者の最新の研究成果に基づく展示内容だった。

③ 古文献等の調査研究・公開

- ・下記の文献を文化デジタルライブラリーにおいて公開した。
 - ◇絵入根本集 8「傾城佐野の船橋」の翻刻・公開
 - ◇歌舞伎の文献シリーズ・4「戯場訓蒙図彙」の復刻・公開

《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

＜調査事業委員からの意見＞

- ・文化デジタルライブラリーの電子図書は、絵入根本の翻刻や歌舞伎の文献シリーズの復刻など、公開が順調に進んでいるとの評価を得た。
電子図書で公開するコンテンツについては、様々なジャンルの文献を取り扱うなど、今後の継続的な拡充を期待する。

イ 伝統芸能に関する資料の収集・活用

《方針》

伝統芸能全般に関する基本的な新旧の図書、雑誌、博物資料の収集を主軸に実施する。歌舞伎については、錦絵・番付・ブロマイド写真・上演台本を、大衆芸能については、落語・講談の速記本、見世物・曲芸の絵画資料と映像・音声資料(ビデオ・CD)等の収集を行う。また、図書情報のデータベース化を進め、研究者及び一般の利用に供する。

能楽堂では、主として能楽に関する研究書、実演資料、図録、一般図書等の芸能図書及び能楽の普及・伝承・研究の上で、特に意義があると認められる資料の収集を行う。

文楽劇場では、一般及び関係者の文楽に対する理解促進につながる文楽関連の芸能図書や博物資料等を中心に収集を行う。

国立劇場おきなわでは、組踊等沖縄伝統芸能を主とし、伝統芸能全般に関する図書・資料、博物資料等の収集及び分類整理を行い、閲覧に供する。

① 図書・資料の収集整理・活用

(a) 収集・公開実績

区 分	収 集		公 開			
	図書	資料	閲覧室 利用者数※	開室日数	写真複製使用	博物資料閲覧
伝統芸能情報館	1,445 冊	765 点	1,815 人	241 日	208 件	18 件
能楽堂	643 冊	1,205 点	3,142 人	251 日	71 件	3 件
文楽劇場	410 冊	197 点	475 人	241 日	68 件	1 件
国立劇場おきなわ	285 冊	512 点	4,295 人	266 日	32 件	0 件

※国立劇場おきなわはレファレンスルームの利用者数。

《アンケート結果》

区分	回答数	満足数	満足回答率
国立劇場図書閲覧室(2/2～3/13)	15 人	15 人	100%
国立能楽堂図書閲覧室(4/21～3/29)	6 人	6 人	100%

(b) 伝統芸能に関する図書・資料等の博物館施設等への貸与等

区分	展示名	会場	主催等	活用内容	日程
国立劇場	「蔦重の眼 歌麿・写楽と浮世絵黄金時代」	MOA 美術館	MOA 美術館	錦絵 14 点の貸出	7/25～9/9
国立劇場	特別展示「体感！文楽の世界」	EXPO2025 大阪・関西万博	公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会	文楽かしら 6 点の貸出	8/14～8/18
能楽堂	企画展「幽玄への誘いー能面・能装束の美」	大倉集古館	大倉集古館	狂言装束 2 領の貸出	4/15～6/29
能楽堂	「文楽を知ろう！」国立文楽劇場	国立文楽劇場	国立文楽劇場事業推進課	絵画 3 点の貸出	7/19～8/24
能楽堂	「能狂言の楽しみ ～伝統芸能ってなあに？～」	御前崎市立図書館アスパル	小鼓方能楽師 岡本はる奈	展示パネル等貸出	3/14～29
文楽劇場	令和 7 年爽秋文楽特別公演 PR 展示	高島屋大阪店	国立文楽劇場営業課	文楽紹介パネル 5 点 かしらの製作工程	9/24～10/7
文楽劇場	文楽 PR イベント「文楽へようこそ@渋谷」	Shibuya-san	国立劇場営業部普及営業課	文楽紹介パネル 8 点	2/7

(c) 関係機関等との連携による活用

- ・「ジャパンサーチ」及び「文化遺産オンライン」に国立劇場所蔵資料 506 点を画像と解説付きで登録・公開し、一般の利用促進を図った。
- ・国立劇場において、国文学研究資料館との連携により、『只誠埃録』・『役者評判記』・浄瑠璃丸本等 789 冊のデジタル化作業を開始した。

② 資料のデータベース化、デジタルコンテンツの充実、展示公開

(a) データベース化

区分	実施点数	詳細
図書	4,773 件	「国立劇場蔵書検索」での検索を可能にするため、図書の書誌データを図書管理システムのデータベースに登録、公開した。
資料	454 点	新たに考証・整理が終了した錦絵(芝居版画等)80 点、プロマイド写真(戦前の歌舞伎俳優) 365 点を文化デジタルライブラリーに登録。また、上演資料集 7 点 WEB 版及び電子図書 2 点を公開。
上演情報	156 公演	歌舞伎 11 公演、文楽 18 公演、舞踊・邦楽 10 公演、雅楽・声明 1 公演、特別企画 3 公演、大衆芸能 54 公演、能・狂言 59 公演の公演情報を文化デジタルライブラリーに登録。
公演記録写真	39,346 点	国立劇場、国立演芸場、国立能楽堂、国立文楽劇場で撮影した各ジャンルの公演記録写真を文化デジタルライブラリーに登録。

(b) デジタルコンテンツの充実

《文化デジタルライブラリーアクセス件数【モニタリング指標】》

実績	年度計画	達成率
1,097,919 件	1,080,000 件	101.7%

※6 年度より Cookie 取得同意バナーを導入した。Cookie 取得不同意の場合のアクセスは、数値に含まれない。これにより文化デジタルライブラリーのアクセス件数を正確に把握できなくなるため、年度計画においてはモニタリング指標としている。

- ・文化デジタルライブラリーについて、振興会ホームページの各公演情報からのリンクや、公演プログラムへの掲載、X(旧 Twitter)等 SNS での情報発信など、一層の利用の促進を図った。

- ・文化デジタルライブラリーを紹介するチラシを作成し、振興会の各施設での掲出に加え全国の美術館及び連携機関等に配布した。また、鑑賞教室の案内に同封し、学校等に配布を行った。
- ・図書館を活用した普及事業として文化デジタルライブラリーのコンテンツ紹介資料を配信し(計6回)、展示活用等、新しい広報展開を図った。また、チラシ配布問合せに対応した(1件、足立区立東和図書館)。

(c) 外部関係機関とのネットワーク構築等

- ・大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館と「学術交流・協力に関する基本協定書」を締結した。

(d) 資料の展示公開

＜展示公開実績＞

会場	展示名称	日程	日数 (日)	来場者数(人)		達成率
				実績	年度計画	
能楽堂 資料展示室	入門展「能楽入門」	5/28～8/6	62	7,877	7,000	112.5%
	特別展「狩野派絵師の能楽への眼差し」	10/17～12/3	41	6,468	4,700	137.6%
	収蔵資料展「能面展」	1/7～3/28	57	8,965	6,300	142.3%
	小 計	3 回	160	23,310	18,000	129.5%
文楽劇場 資料展示室	展示「文楽と桜」	4/5～5/6	32	9,821	8,470	116.0%
	展示「BUNRAKU×WORLD」	5/31～7/6	36	5,980	4,160	143.8%
	展示「文楽を知ろう！」	7/19～8/24	37	11,932	10,890	109.6%
	展示「文楽絵画の華」	9/6～10/19	44	13,196	11,600	113.8%
	国立劇場所蔵資料展「時代を描いた浮世絵師 三代歌川国貞」/同時開催「文楽の魅力～初春公演の演目にちなんで～」	1/3～3/8	65	12,620	10,510	120.1%
	小 計	5 回	214	53,549	45,630	117.4%
国立劇場 おきなわ 資料展示室	第1回企画展「上方歌舞伎の浮世絵展」	4/19～6/22	65	2,045	2,300	88.9%
	第2回企画展「子どもと芸能」	7/19～9/21	65	2,115	2,300	92.0%
	第3回企画展「御冠船舞台と組踊」	10/11～12/2	72	2,849	2,300	123.9%
	第4回企画展「沖縄芝居のいろいろ」	1/10～3/22	72	2,238	2,300	97.3%
	小 計	4 回	274	9,247	9,200	100.5%
伝統芸能分野 合計		12 回	648	86,106	72,830	118.2%

＜各館共通＞

- ・出品目録・解説などを複数言語で作成・配布した。
- ・展示・公演内容に合わせトークイベントやスタンプラリー等の特設コーナーを企画した。

＜能楽堂＞

- ・入門展は初めて能に接する来場者の理解を深める展示とした。特に今回は入門展解説動画(日・英表記、各10分)を初めて制作して展示室内で放映し、来場者にも多く好評だった。あわせて展示紹介動画を制作し、各種 SNS にて公開した。読売新聞「美術展ナビ」の取材を受け、X に記事が掲載された(6/19)。アンケートの満足率は日本人 98.5%(回答者数 1,012 人)、外国人 96.5%(回答者数 86 人)で非常に好評だった。
- ・特別展は、古画に基づいた狩野派表絵師による能絵の発展の系譜を明らかにするとともに、狩野派奥絵師や京都の狩野派の能絵も概観する展示とした。展示の理解を深める特別展解説動画(日・英表記 10 分)を制作・放映し、熱心に視聴する来場者が多かった。能絵グッズを新規作成・販売し、SNS 投稿を通じた集客効果も見られた。新聞各紙で紹介され、満足率 98.1%(594 人)と好評を得た。
- ・収蔵資料展では令和 6 年度に寄贈された「松本正彦能面製作用具・製作工程」を初公開し、能面を写す、打つという制作の観点から収蔵品を展示した。あわせて今年度に寄贈された喜多宗家旧蔵能面「平太」を公開した。全能狂言面を文化遺産オンラインで閲覧できるよう QR コードを掲示し、出品リストに収蔵番号を記載した。来場者の利用も多く、満足率は 97.2%(145 人)と高評価を得た。

＜文楽劇場＞

- ・展示「文楽の桜」は、4 月文楽公演「通し狂言 義経千本桜」にちなんで、文楽の舞台装置や衣裳、摺物など様々な資料で桜を紹介する企画とした。展示室内には「道行初音旅」の約 1/40 スケールの舞台を設置し、写真撮影スポットとした。
- ・展示「BUNRAKU×WORLD」では、文楽の基礎知識や上演演目に関する資料に加え、昨年の文楽アメリカ公演関連資料やニューヨークでの展示に貸し出した資料を展示し、文楽の海外普及の取り組みを紹介した。

- ・展示「文楽を知ろう！」は、基礎的な資料の大きさや重さを明記し、静御前の写真パネルで人形の重みを体験できるスペースを設けた。また、第3部の演目に合わせて「万博刀」を陳列し、2025年大阪・関西万博で開催する展示を紹介した。企画コーナーでは、初代鶴澤清七200回忌に因み、清七ゆかりの資料を展示した。
- ・展示「文楽絵画の華」は、文楽劇場及び文楽芸員の所蔵資料から文楽を題材にした近現代の絵画作品を展示し、芸術家の眼を通した文楽の美的世界を鑑賞する機会とした。
- ・国立劇場所蔵資料展「時代を描いた浮世絵師三代目歌川国貞」では、国立劇場と連携し国立劇場所蔵の三代目歌川国貞の浮世絵から名品47点を紹介した。同時開催の「文楽の魅力～初春公演の演目にちなんで～」は、公演にちなんだ資料で文楽の魅力を紹介した。
- ・令和7年8月大阪・関西万博で開催した「人形浄瑠璃文楽」ミニ公演と特別展示「体感！文楽の世界」では、三業のマネキン、文楽のかしらや鬘の製作工程、衣裳や小道具を展示し、併せて桐竹勘十郎原画のスタンプも設置した。特設舞台では文楽芸員による「二人三番叟」の上演と三業の解説を行い、5日間で約19,800人が来場した。

《関係機関等と連携した取組》

関係機関等	連携内容
お茶の水女子大学	令和5年3月に締結した「連携及び協力に関する包括協定書」に基づき、共同プロジェクトとして講座「日本の伝統芸能」を実施したほか、「世代別伝統芸能普及方法の研究」への協力を行った。
国文学研究資料館	令和6年3月に締結した「学術交流・協力に関する基本協定書」に基づき、所蔵する古典籍等について、「国書データベース」での公開へ向けたデジタル化及びデータベース化作業を行っている。
国立歴史民俗博物館	令和7年6月に「学術交流・協力に関する基本協定書」に基づき、国立歴史民俗博物館特集展示「生田コレクション 鼓胴」(7/23～8/31)の展示室内において、文化デジタルライブラリー舞台芸術教材を関連コンテンツとして活用した。
文化遺産オンライン、ジャパンサーチ	・新派俳優・花柳章太郎旧蔵の櫛・簪・簪のコレクション(平成15年寄贈)より、簪422点を公開。 ・歌舞伎関係資料の蒐集「鈴木十郎コレクション」(昭和54年日本政府出資)より、押隈54点を公開 ・新派俳優・花柳章太郎旧蔵の美術コレクション(平成10年寄贈)より、自作陶磁器類30点を公開。 ・「文化遺産オンライン」では、所蔵資料の画像と詳細なデータ・解説文を公開。また、「文化遺産オンライン」と連携した「ジャパンサーチ」では、ギャラリー機能を活用し、オンライン展示を制作、公開。
荒川区民会館	6月歌舞伎鑑賞教室開催に際し、関連事業として ARAKAWA1-1-1 ギャラリーにて「はじめての歌舞伎展」を開催した(5/20～6/22。入場料無料)。歌舞伎の小道具や国立劇場所蔵の錦絵を展示。
美術展ナビ (読売新聞社運営)	・「美術展ナビ×国立劇場コラボ連載 芸能資料定期便」を毎月公開し、国立劇場所蔵資料を紹介。 ・美術展ナビフェス(9/8)に「国立劇場」と「国立能楽堂」よりブースを出展。

《展示公開に関する広報等》

- ・振興会ニュース、あぜくら会会報、ホームページ、X(旧 Twitter)等 SNS にて開催案内や会期中の紹介等広報を行った。

《展示公開等に関する映像配信》

実績		前年同期実績	
配信件数	視聴回数	配信件数	視聴回数
28 件	75,520 回	19 件	20,107 回

《アンケート結果》

区分	会場	回収数	満足数	満足回答率
国立劇場所蔵資料展「時代を描いた浮世絵師 三代歌川国貞」 /同時開催「文楽の魅力～初春公演の演目にちなんで～」	文楽劇場	38 人	37 人	97.4%

《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

＜調査事業委員からの意見＞

- ・国立劇場所蔵資料展「時代を描いた浮世絵師 三代歌川国貞」は、国立劇場ならではの企画であり、外部の専門家と職員が共同で展覧会を作り上げ、情報発信をしていく取組は大変重要である。
- ・国立劇場所蔵資料展「時代を描いた浮世絵師 三代歌川国貞」は、近代歌舞伎史の資料としてよく見る浮世絵の作品群で、まさに「時代を描いた浮世絵師」にふさわしい内容であり、国立劇場のコレクションをうまく活かした展示であるとの評価を得た。
- ・美術展ナビでの「芸能資料定期便」の連載は振興会職員が記名原稿で自分たちの仕事を発信する重要な取組である。
- ・能楽堂特別展「狩野派絵師の能楽への眼差し」は、初見の資料が多く、監修者の最新の研究成果に基づく展示内容だった。
- ・展示「BUNRAKU×WORLD」は、「世界を意識した展示。普段見ることのない『無形文化遺産』の文書も見ることができた」との意見を得た。

- ・展示「文楽を知ろう！」は、「関野準一郎の版画や『六代鶴澤友次郎賛三味線図』が楽しめるもので、能楽堂所蔵資料も興味深かった。企画コーナーは初代鶴澤清七の画像、自筆の譜本、調子笛等、清七二百年忌に導かれた展示」「上演にちなんだ写真パネルと浮世絵、小道具のコーナーは文楽劇場ならではの、説明はもっとコンパクトでも良いと感じた」との意見が寄せられた。
- ・展示「文楽絵画の華」は、「堂本印象の人形衣裳の原画も文楽劇場ならではの所蔵品で、画家と上演舞台とのつながりが良く分かった」「画家解説では画系についての説明もあり、文楽を取材とした近現代絵画が一堂に会した美術史的にも重要な展示」と評価を得た。
- ・国立劇場おきなわでの「国立劇場所蔵 上方浮世絵展」は、沖縄で多くの方に国立劇場所蔵錦絵を見てもらう機会となったことは有意義である。今後も、国立劇場おきなわ、国立文楽劇場など国立劇場の各館での巡回展は重要である。
- ・デジタルアーカイブについて、国立劇場の閉場期間中においても、文化デジタルライブラリーやジャパンサーチ、文化遺産オンラインなどで資料のデジタル公開が拡充できているとの評価を得た。

＜文楽公演専門委員からの意見＞

- ・展示「文楽の桜」は、「上演作品にちなんだ花尽くしの好企画で、四代長谷川貞信の絵看板を見られたことも嬉しい」という感想が寄せられた。
- ・展示「BUNRAKU×WORLD」は、「いつも公演演目関連のものが並ぶが、今回も『五条橋』『三十三間堂棟由来』に因んだ珍しいものが随所に見られ勉強になった」と好評を得た。
- ・展示「文楽を知ろう」は、「いつもながら行き届いた展示。鶴澤清七のコーナーも意義のある内容。等身大パネルで人形の重さを体感できるのは面白いアイデア」との評価を得た。
- ・展示「文楽絵画の華」は「人形浄瑠璃文楽にまつわる絵を集めた展示で、展示資料室の壁面がほぼ埋め尽くされたのは壮観」と好評を得た。
- ・国立劇場所蔵資料展は「これだけの数の三代目国貞の芝居絵が見られるのは貴重な機会」と好評を得た。

(e) 展示図録の刊行

- ・国立劇場所蔵資料展「時代を描いた浮世絵師 三代歌川国貞」図録(詳細は(1)ア「②演劇興行、上演に関する記録の調査研究・刊行等」を参照)
- ・特別展「狩野派絵師の能楽への眼差し」図録(詳細は(1)ア「②演劇興行、上演に関する記録の調査研究・刊行等」を参照)

③ 再整備期間中の代替施設での安全な保管体制の構築

- ・国立劇場等の再整備期間における収蔵資料及び書籍等の保管等業務について、現施設の老朽化による設備機能低下を考慮しながら、収蔵資料及び書籍等の安全な保管体制構築のための検討を継続して行っている。

(2) 伝統芸能に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 公演記録の作成・活用

- ・歌舞伎・文楽公演の上演演目について、初演から現在に至る上演記録や参考資料等を調査し、その成果を文化デジタルライブラリーにおいて公開した。
- ・出演者・演出家等に、公演記録映像・音声を複製・提供し、他劇場を含めて公演制作等に資するとともに、出版社・放送局等に複製物を提供し、伝統芸能の普及に努めた。

＜作成実績＞

区 分	記録件数・内容
本館・演芸場	映像・音声・写真 32 公演
能楽堂	映像・音声・写真 51 公演
文楽劇場	映像・音声・写真 13 公演
国立劇場おきなわ	映像・音声・写真 20 公演

＜活用実績＞

区 分	視聴						複製	
	一 般		関係者(出演者等)		合 計		関係者(出演者等)	
本館	229 件	562 時間	156 件	287 時間	385 件	849 時間	108 件	240 時間
能楽堂	1,062 件	1,875 時間	675 件	938 時間	1,737 件	2,813 時間	165 件	199 時間
文楽劇場	81 件	116 時間	587 件	884 時間	668 件	1,000 時間	167 件	429 時間

国立劇場おきなわ	747 件	1,154 時間	2,150 件	3,272 時間	2,897 件	4,426 時間	99 件	249 時間
----------	-------	----------	---------	----------	---------	----------	------	--------

※時間は項目ごとに切上げ又は切捨てして表記しているため、合計と合わない場合がある。

<各館共通>

- ・展示内容に合わせて公演映像等の所蔵資料を活用した。

<文楽劇場>

- ・展示「文楽の桜」では、演目の内容や大道具に桜が関連した公演映像を展示室内のモニターで上映した。
- ・展示「文楽絵画の華」では「『文楽絵画の華』を楽しむ」と題し、展示絵画の一部を関連する演目の公演記録映像とあわせて紹介することで絵画鑑賞の一助とした。
- ・「国立劇場所蔵資料展『時代を描いた浮世絵師 三代歌川国貞』」では、展示された錦絵のうち数点を映像で紹介し、展示鑑賞の一助とした。

イ 普及活動

① 伝統芸能に関する公開講座、公演記録映像の有料配信等

(a) 伝統芸能に関する公開講座

会場	講座等名称	実績	年度計画	達成率
本館	アーカイブ映像有料配信(国立劇場くろごちゃんねる)	6 回	6 回	100.0%
	特別講座	1 回	-	-
	国立劇場の読書会	11 回	-	-
能楽堂	能楽特別講座	1 回	1 回	100.0%
文楽劇場	アーカイブ映像有料配信(文楽プレミアムシアター)	3 回	3 回	100.0%
	伝統芸能講座(文楽特別講座等)	3 回	2 回	150.0%
国立劇場おきなわ	公演記録鑑賞会・沖縄伝統芸能公開講座	6 回	4 回	150.0%
伝統芸能分野 合計		31 回	16 回	193.8%

※展示関連講座「時代を描いた浮世絵師 三代歌川国貞の画業をひもとく」(2/14 国立文楽劇場1階お休み処)は国立劇場・国立文楽劇場共同企画として実施。

<各館共通>

- ・公演や展示内容やターゲット層に合わせて多様な関連講座や映像鑑賞会を開催した。

<国立劇場>

- ・普及事業の新企画として、図書閲覧室を会場に、伝統芸能や文化芸術に関連した図書を課題本として読み、ナビゲーターや参加者間で感想を共有する「国立劇場の読書会」を10月より開催した。
- ・三島由紀夫生誕100年を記念して、特別講座「国立劇場と三島由紀夫～『椿説弓張月』と三島歌舞伎～」を開催し、インターネットでダイジェスト版を配信した。

<能楽堂>

- ・特別展期間中に監修者を講師とする特別展関連講座を開催し、入場券販売を初めてチケットセンターで行った(受講料1,000円)。131人の参加があり(定員155人)、満足率は95.5%だった。

<文楽劇場>

- ・第13回文楽特別講座は、展示「BUNRAKU×WORLD」に関連して「文楽アメリカ公演レポート&トーク！」を開催した。昨年の文楽アメリカ公演に出演した豊竹芳穂太夫、鶴澤寛太郎、吉田簑紫郎が、現地での出来事や観客の反応等を語った。トーク前には振興会職員がアメリカ公演の開催趣旨や経緯を解説した。
- ・第14回文楽特別講座は古典演目の復活事業の一環として『諸葛孔明鼎軍談(しょかつこうめいかなえぐんだん)』司馬徽離庵の段(しばきりあんのだん)の試演会を開催した。また、竹本千歳太夫、野澤錦糸、亀岡典子(産経新聞大阪本社客員特別記者)による鼎談を行い、作品の魅力や復曲の苦労話等を語った。
- ・国立劇場と文楽劇場が連携し展示関連講座を実施。展示監修者の渡邊晃(太田記念美術館上席学芸員)を講師に迎え、三代歌川国貞の画業や作品の魅力を解説した。

《講座に関する広報等》

- ・振興会ニュース、あぜくら会報、ホームページ、X(旧Twitter)等SNSにて開催案内等広報を行った。

《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

<調査事業委員からの意見>

- ・国立文楽劇場第14回文楽特別講座では、「このような事業は、節付のある本を見つけ、復活すべきかどうかを判断し、実際の復曲に結び付けるという準備が不可欠であり、国立文楽劇場でなければならない事業」との意見を得た。

《公開講座等に関する映像配信》

実績		前年同期実績	
配信件数	視聴回数	配信件数	視聴回数
4 件	2,060 回	3 件	1,010 回

(b) 舞台映像等の有料配信

実績		前年同期実績		今中期目標期間累計	前中期目標期間実績
配信件数	視聴回数	配信件数	視聴回数	視聴回数(令和 7 年度末)	視聴回数
21 件	854 回	26 件	860 回	3,107 回	14,168 回

- ・「国立劇場くろごちゃんねる」、「文楽プレミアムシアター」にて、記録映像から選りすぐりの作品を有料で配信した。

《調査事業委員会等における外部専門家からの主な意見》

＜調査事業委員からの意見＞

- ・再生回数の伸び悩みについて、配信事業が始まったコロナ禍と現在とでは状況が変わっており、今後事業の継続については再考が求められる。

② 公演の実施にあわせた関連講座、展示等

《公演関連講座・展示等の実施実績》

区分	件数	参加者数
本館	0 件	0 人
演芸場	0 件	0 人
能楽堂	0 件	0 人
文楽劇場	0 件	0 人
国立劇場おきなわ	4 件	478 人

＜各館共通＞

- ・公演内容に即した講座や、展示と連動した公演の企画・上演を行った。

③ 組踊等沖縄伝統芸能の普及活動の充実

- ・沖縄県内学校を対象にワークショップを実施した。
- ・沖縄県内イベントに合わせてワークショップを実施し、公演の告知と併せて組踊の普及活動を実施した。

4－[2] 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

《中期計画の概要》

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

現代舞台芸術の公演の充実等に資するため、調査研究並びに資料の収集及び活用を行う関係機関等と連携した取組を進める

(2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 新国立劇場で上演する現代舞台芸術に関し、上演作品等についての資料調査を実施

イ 現代舞台芸術に関する図書、資料等の収集及び分類整理を行い、閲覧に供する

他の劇場施設等への貸与を実施

ウ 収集した資料等を新国立劇場その他の施設において展示し、ICT等を有効利用して公開

エ 舞台美術センター資料館については、展示施設としての機能から衣裳等の保管機能への移行を進める

(3) 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用し、普及活動の実施

ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存し、閲覧・視聴に供する

イ 公開講座、公演記録の鑑賞会やICTを活用した公演記録映像の有料配信等を実施

《年度計画の概要》

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

(3) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 新国立劇場で上演する現代舞台芸術の主催公演等の上演作品等についての資料調査

① 現代舞台芸術に関する調査を新国立劇場での上演に活用、調査結果を活用して講演会等の実施

② 他劇場等の情報収集・活用

③ 主催公演の公演記録映像、写真、舞台演出・美術資料等について整理・保存、他の劇場施設等へ貸与

④ 外部の研究機関等と連携して現代舞台芸術に関する調査研究を行い、その成果を展示等で紹介

イ 現代舞台芸術に関する図書、資料等の収集整理、公演関係者、研究者及び一般の閲覧に供し、他の劇場施設等へ貸与

① 情報センターについて、開架図書の整備、ホームページにおける所蔵資料検索サービスの提供等、利便性に配慮した利用促進

② 図書資料管理システムについて、図書等の情報のデータベース化

③ ホームページで公開している「公演記録データベース」の充実

④ 所蔵品管理システムについて、寄贈資料や公演関連資料のデータベース化を実施

ウ 収集した資料等の展示公開を、別表 9 のとおり実施

舞台美術センター資料館については施設に対する活用方法に係るニーズが変化したことから、第 5 期中期目標期間に展示施設としての機能から衣裳等の保管機能へ移行することを目指し、地元への説明を行うなど具体的な作業を進める

(4) 現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存し、公演関係者・研究者及び一般の視聴・閲覧に供して、再演及び他劇場の公演、現代舞台芸術の研究等に活用

イ 現代舞台芸術の理解促進と普及を図るため、普及活動を実施

① 現代舞台芸術に関する公開講座、公演記録映像の有料配信等を別表 10 のとおり実施

② 公演の実施にあわせた関連講座、展示等

(3) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 主催公演の上演作品等についての資料調査

① 現代舞台芸術に関する調査・調査結果を活用した講演会等の実施

- ・小川絵梨子演劇芸術監督及び演劇研究会委員による演劇研究会を定期開催した。
- ・民間出版社と連携して下記戯曲を刊行。
 - ◇6月演劇「ザ・ヒューマンズ」新訳戯曲刊行（「悲劇喜劇」2025年7月号掲載）
- ・演劇公演において、公演終了後に演出家・出演者が登壇し演出の狙いや制作過程等について語り合う「シアタートーク」を開催した。
- ・新制作オペラの作品理解を深めるため、公演開幕前に指揮者や演出家等のスタッフによるオペラトークを行った。また、オンライン(YouTube)でもアーカイブ配信を行った。
- ・現代舞台芸術に関する調査研究の成果を記事として各ジャンルの公演プログラムに掲載した。

② 他劇場等の情報収集・活用

- ・国内外の劇場について、劇場のホームページや年報等の情報を基に資料収集・調査を実施した。

③ 公演記録の整理・保存・他劇場等への貸与

- ・主催公演の公演記録映像、写真、舞台演出・美術資料の整理・保存を行った。
- ・主催公演のプログラム、上演台本、ポスター等の主催公演資料を管理システムに登録し、公開した。
- ・主催公演の出演者やスタッフ等の情報について、公演記録データベースの作成作業を進めた。
- ・公演記録写真を雑誌社、放送局等へ貸出した。

④ 外部機関等との連携による調査研究

- ・外部機関との連携・協力のもと各種ワークショップ等の開催や、展示を行った。
- ・日本舞台写真家協会との共同企画により、舞台写真展「彩 いろいろ舞台の記憶を紡ぐ」を実施した。
 また関連公開セミナーとして、「舞台写真家から学ぶ 撮影術」を開催した。
- ・美術展ナビおよび慶應ミュージアム・コモンズとの連携企画として、オペラ「セビリアの理髪師」の舞台裏をロジーナ役で出演する脇園彩や舞台監督が紹介する動画を慶應ミュージアム・コモンズの学生が撮影し、美術展ナビのYouTubeチャンネルにて3回にわたり配信した。
- ・オペラ「セビリアの理髪師」では、日本ロッシーニ協会と連携し、作品に関連した所蔵品を借用し、オペラ劇場ホワイエおよび情報センターにて展示を行った。

イ 現代舞台芸術に関する図書・資料の収集・活用

① 情報センターの利用促進

(a) 収集・公開実績

区分	収集		公開					
	図書	資料	利用者数	開室日	ビデオブース利用	タブレット利用	ビデオシアター利用	図書貸出
情報センター閲覧室	258冊	50点	5,370人	232日	695人	454人	823人	294件

(b) 現代舞台芸術に関する図書・資料等の他の劇場施設等への貸与等

展示名	会場	主催等	活用内容	日程
オペラの扉 2025 ～舞台芸術の魔法。 ファンタジーオペラ展～	ロームシアター京都及び特 設WEBサイト	公益財団法人ローム ミュージック ファン デーション、 公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団	舞台装置模型・ 衣裳・小道具貸出	9/12 ～12/7

② データベースの充実

(a) 図書資料管理・所蔵品管理システム

- ・単行本、台本、公演プログラム等の図書資料や映像資料等を登録し、収蔵情報をホームページで公開した。

(b) 公演記録データベース

- ・公演ポスター(主催公演・貸劇場公演等)を新たに登録し、公演の充実に資するとともに、所蔵情報をホームページで公開した。

ウ 資料等の展示公開

(a) 展示公開実績

展示室	企画内容	日程	日数(日)	来場者数(人)		達成率
				実績	年度計画	
新国立劇場内	公演関連展示(情報センター)	随時	232	5,370	5,200	103.3%

<内訳>

企画展示テーマ	期間
「モーツァルト/ワーグナー 二大巨匠コーナー」	通年
「日本の伝統芸能」	通年
初台アートロフト連携「生命の木」関連展示	通年
「シェイクスピア関連書籍コレクション」特設書架	通年
オペラ「蝶々夫人」初演時の衣裳・小道具デザイン原画展～百十余年の時を経て、蝶々さんとジャポネズリ～	5/9～6/8
オペラ「セビリアの理髪師」関連資料展示	5/25～6/3
「美術・衣裳デザイナー オラフ・ツォンベックのオペラの世界」	1/22～2/15

・演劇「消えていくなら朝」では、新国立劇場 Web サイトにて戯曲を期間限定公開した(6/27～7/9)。

<<新国立劇場内のオープンスペースを活用した衣裳展示等実績>>

内容	期間	特記事項
初台アート・ロフト 「作り手たちの美学-Bonsai-」展	5/1～8月下旬	「初台アート・ロフト」について、5月から「作り手たちの美学-Bonsai-」と題して展示内容の更新を行った。
株式会社 タカラトミー × 新国立劇場特別展示	5/5～5/6	こどものためのオペラ劇場 2025「オペラをつくろう! 小さなエントツ そうじ屋さん」の会場ホワイエにて、特別協賛の株式会社タカラトミーによる「トミカ」と本公演舞台装置模型をコラボさせた特別展示を行った。
オペラ「セビリアの理髪師」関連資料展示	5/25～6/3	日本ロッシーニ協会と連携し、オペラ「セビリアの理髪師」関連資料を公演会場ホワイエおよび情報センターにて展示した。
初台アート・ロフト 「うつろい-Utsuroi-」展	10/1～2026/2/10	「初台アート・ロフト」について、10月から「うつろい-Utsuroi-」展と題して展示内容の更新を行った。
パレエ「シンデレラ」関連 ガラスの靴 展示	10/17～10/26	HARIO のガラス職人によって製作されたガラスの靴を公演会場ホワイエにて展示した。
英国ロイヤルオペラハウス「ジゼル」公演写真展示	10/17～10/26	英国ロイヤルオペラハウスでの「ジゼル」ロンドン公演の写真をパレエ「シンデレラ」公演会場ホワイエにて展示した。
舞台写真展「彩 いろどろー舞台の記憶を紡ぐー」	12/15～2026/3/1	新国立劇場「初台アート・ロフト」と日本舞台写真家協会との共同企画により、全国で活躍する舞台写真家の作品を一堂に展示した。
舞台写真展「彩ー舞台の記憶を紡ぐー」に関連公開セミナー「舞台写真家から学ぶ 撮影術」	2/10, 2/16	舞台写真展「彩ー舞台の記憶を紡ぐー」の関連公開セミナーとして、展示の解説付き鑑賞・講義・撮影実習を通して、学ぶ公開セミナーを実施した。

(b) 展示公開に関する広報等

・会報誌ジ・アトレ、公演プログラム、ホームページ、SNS 等にて告知を行った。

(c) 舞台美術センター資料館の機能移行

・舞台美術センター資料館(銚子市)については、衣裳等の保管機能を強化することとし、機能の移行を進め、地元観光協会への説明も実施した。

(4) 現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 公演記録の作成・活用

- ・記録写真をホームページの「舞台写真・公演記録」ページで、記録映像を情報センターで公開した。
- ・「新国デジタルシアター」を通じたインターネット配信による公演記録映像の有効活用を推進した。

<<作成実績>>

区分	実績
記録件数・内容	映像・音声・写真 35 公演
公開件数(記録写真)	35 公演
公開件数(記録映像)	4 公演 4 件

イ 普及活動

① 現代舞台芸術に関する公開講座等

(a) 公開講座等実績

会場	講座等名称	実績	年度計画	達成率
新国立劇場	現代舞台芸術講座	24 回	16 回	150.0%
	新国デジタルシアター映像配信	3 回	8 回	37.5%
	現代舞台芸術分野 合計	27 回	24 回	112.5%

- ・各種講座、「ギャラリープロジェクト」の企画・開催を行った。
- ・古代ギリシアに伝わる神話・伝説をテーマに実施した「ブルーアイランド先生」の講座は、有料入場率 80% を越え、青島氏のピアノ演奏やゲスト歌手による歌唱演奏を交えた内容で好評を得た。

《ギャラリープロジェクト開催実績》

- ・現代舞台芸術講座としてギャラリープロジェクトをオンライン(YouTube) および対面での開催、ウェブ記事の掲載にて実施した。

実績		前年度実績	
件数	参加者数	件数	参加者数
15 件	1,483 人	13 件	4,302 人

※参加者数には、オンラインでの視聴回数を含む。

《公演記録映像の有料配信》

実績		前年同期実績		今中期目標期間累計	前中期目標期間実績
件数	参加者数	件数	参加者数	視聴回数(令和 7 年度末)	視聴回数
0 件	0 回	0 件	0 回	436 回	8,912 回

(b) 公開講座等に関する広報等

- ・会報誌ジ・アトレ、公演プログラム、ホームページ、SNS 等にて告知を行った。

② 公演の実施にあわせた関連講座・展示等

《公演関連講座・展示等の実施実績》

区分	件数	参加者数
新国立劇場	19 件	505 人

- ・上記の他に、新国立劇場内情報センターにて随時公演関連展示を行った(4-3 月実績：来場者数 5,370 人)。外部機関の協力のもと、公演内容に合わせた関連展示を情報センター、劇場ホワイエ等にて開催した。

Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにと るべき措置

1 業務運営の効率化

- (1) 組織体制の整備・強化
- (2) 給与水準の適正化
- (3) 契約の適正化
- (4) 共同調達等の取組の推進
- (5) 情報システムの活用
- (6) 予算執行の効率化

Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

《中期計画の概要》

Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務運営の効率化に関する取組

運営費交付金を充当して行う事業については、一般管理費及び業務経費の合計について、令和4年度比5%以上の効率化を図る

2 組織体制の整備・強化

劇場間の連携強化を図るとともに、再整備期間中の業務及び組織体制の検討を行い、必要な措置を講ずる

3 給与水準の適正化等

国家公務員の給与水準等とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については適正な水準を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表

4 契約の適正化

「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」に基づく取組を実施、外部有識者等で構成する契約監視委員会による点検など、契約の適正化を推進、毎年度「調達等合理化計画」を策定し、点検、見直し

5 共同調達等の取組の推進

(1) 共同調達

各施設の業務内容や地域性を考慮しつつ、他法人や周辺の機関と連携し、コピー用紙等の消耗品や役務について、共同して調達する取組を年度計画に具体的な対象品目を定めた上で進める

(2) 省エネルギー、リサイクルの推進

省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクル、ペーパーレス化等を推進

6 情報システムの活用

ICTの活用など効率的な情報システムの整備により、各事業の効果的・効率的な運営を支援

7 予算執行の効率化

運営費交付金の会計処理として、収益化単位の業務ごとに予算と実績を適切に管理

《年度計画の概要》

Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務運営の効率化を進めるため、次の措置を講ずる

(1) 組織体制の整備・強化

国立劇場等の再整備期間中の業務に応じた組織体制を検討し、必要な措置を講ずる

(2) 給与水準の適正化

国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については適正な水準を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表

(3) 契約の適正化

ア 「調達等合理化計画」に基づく契約の適正化

イ 契約監視委員会において、定期的に契約の点検を行い、その結果を踏まえた見直しを実施

ウ 入札事務の効率化と競争参加者の利便性向上のため、電子入札を一部の案件で実施

(4) 共同調達等の取組の推進

ア 共同調達等の取組の推進

イ 省エネルギー、リサイクルの推進

(5) 情報システムの活用

ア ICTの活用など効率的な情報システムの整備により、各事業の効果的・効率的な運営を支援

イ ワークフローシステム等の電子決裁を推進

ウ 国立劇場等の再整備期間中の業務の円滑化のため、仮想デスクトップシステム等のクラウドサービスの的確な運用、サービスの見直しやシステム整備、更なる業務の効率化に向けた改善

(6) 予算執行の効率化

運営費交付金の会計処理として、引き続き、収益化単位の業務ごとに予算と実績を適切に管理

自己評価	B
自己評価の根拠	以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を達成しているため、自己評価はB評価とする。 ・国立劇場等の再整備期間中の業務に応じるとともに、再開後も見据えて、組織体制の整備・強化を進めた。 ・「独立行政法人日本芸術文化振興会がその事務及び事業に関し温室効果ガスの排出の削減等のため実行すべき措置について定める計画」を令和8年2月16日付けで改正した。 ・組織再編並びに老朽化等に合わせて、適宜、システムやネットワークの整備を行ったほか、生成AIの導入やRPAなどの試験的導入を実施した。 ・その他の項目についても、計画どおり必要な措置を講じた。
数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）	「業務運営の効率化に関する取り組み」参照
主要な業務実績	(1) 組織体制の整備・強化 ・令和7年4月に組織再編を行い、法人全体の課題対応や戦略策定を主導する企画部や、各館の制作・営業等を統括する劇場長等を新設し、公演事業の見直しや収支改善に向けて、法人が一体となって取り組んだ。また、演芸場部を廃止し、国立劇場及び国立演芸場の宣伝・営業機能を制作・営業・舞台技術部門に集約することで、業務運営の効率化を図った。さらに、調査養成部を廃止し、国立劇場養成所の専門化により後継者養成事業の強化を進めるとともに、伝統芸能情報センターの新設により、情報発信・普及教育機能の充実を図った。加えて、財務部における予算・決算機能を一体化することで、財政基盤の強化を図った。 (2) 給与水準の適正化 ・前年度の給与水準について、検証結果や取り組み状況を公表した。 (3) 契約の適正化 ・令和7年度の「調達等合理化計画」を策定し、同計画に基づき契約の適正化に取り組んだ。 (4) 共同調達等の取り組みの推進 ・コピー用紙の調達については、振興会と独立行政法人国立美術館、独立行政法人日本学術振興会及び独立行政法人日本スポーツ振興センターの4者により共同調達を実施した。 ・トイレトーパー及びペーパータオルの調達については、公益財団法人新国立劇場運営財団と共同調達を実施した。 ・「政府がその事務及び事業に関し温室効果ガスの排出の削減等のため実行すべき措置について定める計画」（令和7年2月18日閣議決定）に準じて、「独立行政法人日本芸術文化振興会がその事務及び事業に関し温室効果ガスの排出の削減等のため実行すべき措置について定める計画」を令和8年2月16日付けで改正した。 (5) 情報システムの活用 ・大規模な組織再編に対応したシステムやデータの編集、修正作業を行った。 ・能楽堂及び文楽劇場のネットワーク機器の老朽化に伴い、これらを更新した。 ・ウェブサイトの改修を行い、広報の充実とアクセシビリティの強化に努めた。 ・生成AI機能(Copilot Chat)を振興会全体で利用できるようした。また、RPAの試験的導入を行った。 (6) 予算執行の効率化 ・各課室の予算執行見込について調査し、不用・不足を調整、予算の効率的な執行に努めた。

1 業務運営の効率化

【業務運営の効率化に関する取り組み】

一般管理費及び業務経費:以下の数式により効率化の達成状況を計っている。

増減比率 (B-A)÷A

A: 令和6年度の予算額(特殊要因経費、新たに追加される業務、公課公租及び人件費を除く)

※運営費交付金算定の基礎となった額

B: 当該年度の予算額(特殊要因経費、新たに追加される業務、公課公租及び人件費を除く)

《一般管理費》

区分	金額
令和6年度予算(A)	377 百万円
令和7年度予算(B)	373 百万円
増減比率	△1%

《業務経費》

区分	金額
令和6年度予算(A)	5,023 百万円
令和7年度予算(B)	4,972 百万円
増減比率	△1%

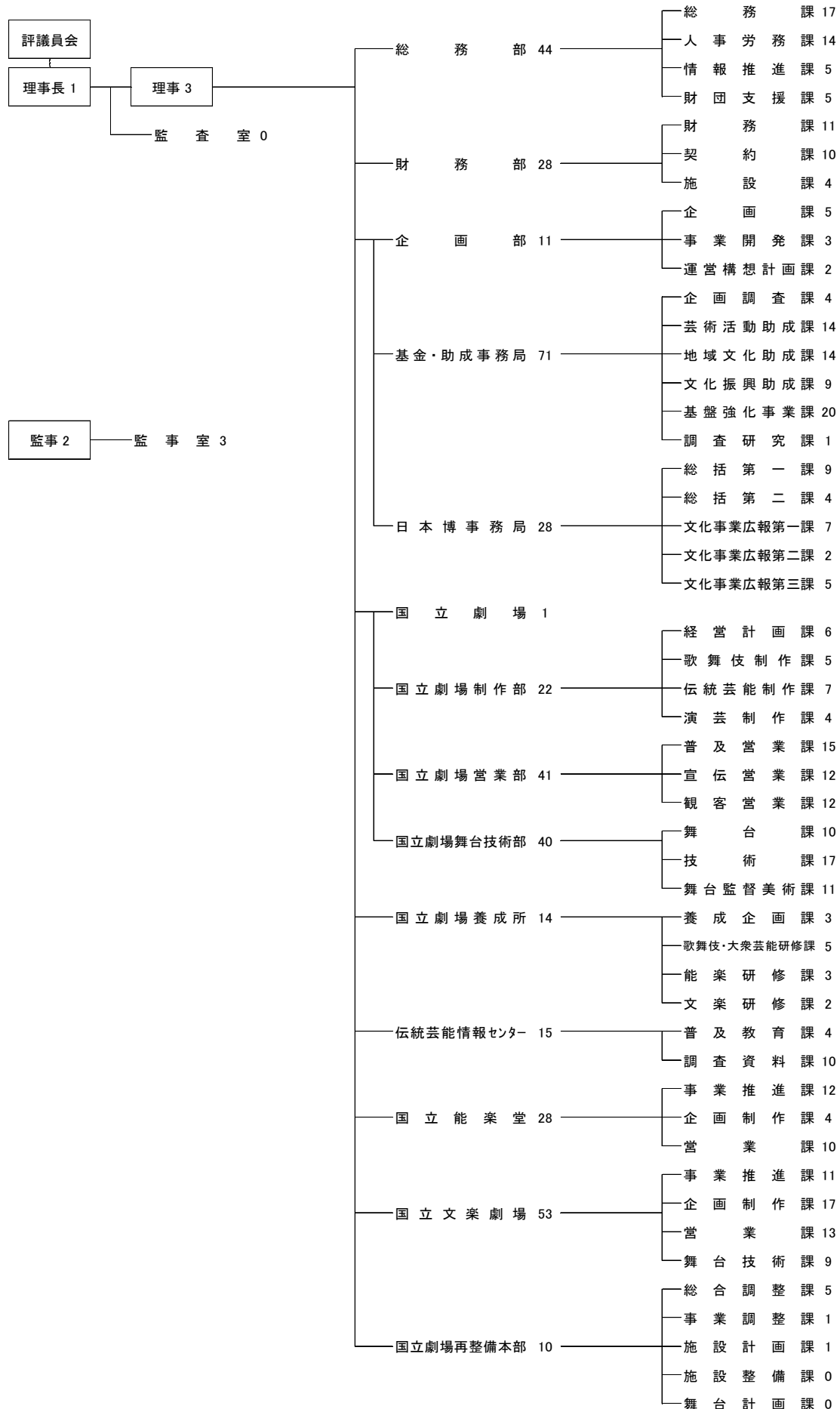
※増減比率は千円単位の予算に基づいて算出しているため、百万円単位での計算と一致しない場合があります。

(1) 組織体制の整備・強化

- ・ 令和7年4月に組織再編を行い、国立劇場等の再整備期間中の業務に応じるとともに、再開場後も見据えた組織体制の整備・強化を進めた。
- ・ 法人全体の運営課題への対応や戦略的に行う取組みを企画・先導する本部機能の中心的部署として企画部を新設した。企画部には、経営戦略や中期目標・中期計画の企画立案及び評価、自主公演の営業統括や新規観客の開拓、寄附金・外部資金の獲得並びに将来運営計画の検討・策定等を担う体制を整備した。
- ・ 各劇場における自主性・独自性を高めるとともに、公演事業等運営における責任体制の明確化を図るため、国立劇場及び国立文楽劇場に劇場長を、国立演芸場に演芸場長を、国立能楽堂に能楽堂長を新設した。劇場長等は、各館における公演事業の企画・運営を担うとともに、各部門を統括し館全体の運営について責任を負う体制とした。
- ・ 演芸場部を廃止し、制作部、営業部、舞台技術部に業務を集約した。国立劇場及び国立演芸場における公演の宣伝・営業活動を一体的に行う体制を構築し、業務運営の効率化及び集客力の向上につなげた。
- ・ 調査養成部を廃止し、国立劇場養成所を専業化することで、後継者養成事業の強化を進めた。また、新たに伝統芸能情報センターを設置し、普及教育やコンテンツの充実を図る体制とした。
- ・ 財務部において予算及び決算に係る機能を一体化し、国費及び振興会資金の管理機能を集約することで、財政基盤の強化を図った。

《組織図》

※ 数字は役員及び常勤職員数(令和8年3月31日現在)



(2) 給与水準の適正化

ア 对国家公務員指数への適正な水準の維持

- ・ラスパイレス指数※は、112.0（地域・学歴勘案＝98.7）であり、地域・学歴を勘案した指数では国家公務員の水準未満であった。
- ・また、全独立行政法人のラスパイレス指数は、102.6（地域・学歴勘案＝101.3）であり、当振興会の水準は、地域・学歴を勘案した指数では全独立行政法人の水準未満であった。

※ラスパイレス指数＝国の一般職俸給表適用者の給与を100としたときの給与水準の指数

イ 給与水準の適正化に関する検証結果・取り組み状況の公表

- ・引き続き国家公務員との給与の比較を行い、ホームページに「独立行政法人日本芸術文化振興会の役職員の報酬・給与等について」を掲載し、給与水準に係る適正化に関する検証結果及び取り組み状況を公表した（令和6年度ベース）。

(3) 契約の適正化

ア 「調達等合理化計画」に基づく契約の適正化

- ・公正性・透明性を確保しつつ、自律的かつ継続的に調達等の合理化に取り組むことを目的として、令和7年度の「調達等合理化計画」を策定し、公表した。
- ・「調達等合理化計画」に基づき、随意契約の適正化を図るため随意契約理由の全案件での点検等を行い、一者応札改善のため調達予定情報の公表による周知強化に努めた。また、適正な調達手続きの周知、理解の徹底、不祥事の発生の未然防止を図るため、「調達手続きの手引き」を改訂し、内部ホームページ及び掲示板により周知を図るとともに、契約担当部門による予定価格の精査・指導、検収の立会いを行い、契約の適正化を図った。

イ 契約監視委員会における契約の点検

- ・第33回契約監視委員会(6/19)
議事：令和6年度契約に関する点検・見直し(審議)、令和7年度調達等合理化計画の策定について(審議)、連続一者応札・応募等事案フォローアップ(令和6年度分)について(報告)、令和6年度調達等合理化計画の自己評価の実施(報告)。
- ・第34回契約監視委員会(12/17)
議事：連続一者応札・応募等事案フォローアップについて(審議)、令和7年度調達等合理化計画における進捗状況について(報告)

《改善内容》

- ・一者応札・応募が続いている案件については、手続きの早期化、公告期間・準備期間の長期化を図るとともに、参加可能性のある事業者へのヒアリングを行って入札参加への支障となっている要因分析を行い、次回調達に反映させるよう取り組んでいる。
- ・「令和8年度公演記録音声収録等業務(本館・演芸場)」(一者応札が続いていたが、事業者へのヒアリングを踏まえて仕様及び参加資格要件の緩和・見直しを行ったことにより、複数の応札者を確保した。)
- ・「国立劇場チケット電話予約受付等業務及び会員事務局業務の委託(令和8年10月～令和11年9月)」(事業者へのヒアリングを踏まえ、契約締結から履行開始までの準備期間を長期化し、複数年契約に変更することにより、業務人員を確保し易くする改善を行った。)

ウ 契約事務の効率化

- ・予算決算及び会計令等の改正に伴い、契約事務の効率化を図るため、少額随意契約基準額の引上げ等に係る会計規程等の改正を行った。
- ・契約事務の効率化を図るため、発注伺書による契約事務処理を行うことができる場合及び請書の徴取を省略することができる場合の基準額の引上げに係る会計規程実施細則の改正を行った。

エ 電子入札の実施

- ・入札事務の効率化を図るほか、入札参加者の利便性向上のため、工事及び設計・コンサルティング業務について電子入札を導入している。

(4) 共同調達等の取り組みの推進

ア 共同調達等の取り組みの推進

① コピー用紙

- ・振興会と独立行政法人国立美術館、独立行政法人日本学術振興会及び独立行政法人日本スポーツ振興センターとの間の共同調達に関する協定に基づき、コピー用紙の共同調達を実施した。

② トイレトペーパー及びペーパータオル

- ・振興会と公益財団法人新国立劇場運営財団との間の共同調達に関する協定に基づき、トイレトペーパー及びペーパータオルの共同調達を実施した。

イ 省エネルギー、リサイクルの推進

① 地球温暖化対策計画書等の作成、二酸化炭素(CO2)の削減推進

- ・令和7年度の隼町地区の電力について、10%の再生可能エネルギー電力の調達を行った。
- ・「政府がその事務及び事業に関し温室効果ガスの排出の削減等のため実行すべき措置について定める計画」(令和7年2月18日閣議決定)に準じて、「独立行政法人日本芸術文化振興会がその事務及び事業に関し温室効果ガスの排出の削減等のため実行すべき措置について定める計画」を令和8年2月16日付けで改正した。

② 光熱水量の節減

事 項	区 分	使用量	対前年度増減率
電 気	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	2,509,720kwh	△ 2.7%
	能楽堂	765,902kwh	△ 2.7%
	文楽劇場	1,214,994kWh	+0.3%
	合 計	4,490,616kwh	△ 1.9%
ガ ス	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	93,756 m ³	+13.1%
	能楽堂	85,129 m ³	+2.1%
	文楽劇場	89,549 m ³	+2.4%
	合 計	268,434 m ³	+5.8%
水 道	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	10,044 m ³	+8.6%
	能楽堂	7,258 m ³	△ 2.3%
	文楽劇場	9,536 m ³	+6.3%
	合 計	26,838 m ³	+4.6%

③ 廃棄物の減量化

- ・能楽堂では、本館移転に伴う事務室明け渡しのため、什器等の整理を行ったため、産業廃棄量が増加した。
- ・文楽劇場では、かしの作業台として使用していた木材を廃棄せずに文楽技術室での別用途の資材として再利用するなどリサイクルに努めた。

事 項	区 分	処理量	対前年度増減率
一般廃棄物	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	6,453kg	△ 30.7%
	能楽堂	5,268kg	△ 0.9%
	文楽劇場	8,615kg	△ 13.2%
	合 計	20,336kg	△ 17.2%
再利用廃棄物	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	17,152kg	△ 24.1%
	能楽堂	5,538g	+37.0%
	文楽劇場	12,160kg	+29.5%
	合 計	34,850kg	△ 3.3%
産業廃棄物	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	34,788kg	+5.1%
	能楽堂	1,921kg	+154.8%
	文楽劇場	5,140kg	+2.0%
	合 計	41,849kg	+7.6%

④ ペーパーレス化

事 項	区 分	枚数	対前年度増減率
コピー用紙 使用量	本館・演芸場	772,793 枚	+ 19.4%
	事務棟	1,395,777 枚	△ 11.3%
	伝統芸能情報館	266,011 枚	+1.6%
	能楽堂	472,748 枚	+4.7%
	文楽劇場	368,327 枚	+28.9%
	合 計	3,275,656 枚	+1.7%
	うち管理部門	1,148,774 枚	+7.0%
コピー用紙 購入枚数	本館・演芸場・事務棟・伝統芸能情報館	1,735,000 枚	△ 2.5%
	能楽堂	405,000 枚	+23.1%
	文楽劇場	272,000 枚	+0.9%
	合 計	2,412,000 枚	+1.4%

⑤ グリーン購入法に基づく調達

- ・事務用消耗品を中心に、環境物品等の調達の推進を図るための方針に基づいた物品購入等を行い、可能な限り環境への負荷の少ない物品等の調達に努めた。

(5) 情報システムの活用

- ・大規模な会議に於ける会議資料のペーパーレス化を進めるため、会議用端末を更新した。
- ・大規模な組織再編に伴い必要となる多くの業務システム等の設定内容の変更、データの修正を行った。
- ・能楽堂及び文楽劇場の複合機を更新した。更新にあたり、他の印刷機器との統合や設置場所の整理を行った。また、この更新にあわせてインターネット FAX を導入し、既存 FAX 回線を廃止した。
- ・振興会施設使用規程の改正により国立文楽劇場の施設使用料金が変更になったため、施設利用システムの料金マスタの変更を行った。
- ・大規模な組織再編に伴い、各部署で所有する資産の管理替えを行う必要が大量に生じたため、データの修正作業を行った。
- ・能楽堂の電話交換機の老朽化に伴いこれを廃止し、本館同様のクラウド電話交換システム及びスマートフォン等を導入した。
- ・能楽堂及び文楽劇場のネットワーク機器の老朽化に伴い、これらを更新した。
- ・舞台美術等業務用ソフトウェア (VectorWorks) の機能追加及びサブスクリプションライセンス導入を完了した。
- ・助成事業におけるアーツカウンシルとしての活動の広報を充実させるため、振興会ウェブサイトの改修作業を進めた。
- ・文化デジタルライブラリーシステムの充実を図るために、「博物資料コレクション」ページの作成等の改修作業を進めた。
- ・既存助成業務システムの稼働基盤の運用が終了することとなったため、電子申請及び事務処理を継続して行うためのシステム整備を行った。
- ・振興会ウェブサイトの改修を行い、公演の広報における利便性の強化、こどもサイトや助成事業ページ等の広報の充実、またアクセシビリティの強化を行った。
- ・電子メールでのファイル送信時のセキュリティ対策として、ファイルを権限管理や有効期限が設定されたクラウド環境に自動的に保存し、共有用 URL からダウンロードを行えるようにするための初期設定を行った。
- ・振興会の事業拡大に応じて、必要となるパソコン及びスマートフォン等を追加導入した。また、追加したパソコンの基本ソフトウェア (OS) は Windows11 であるため、これらをネットワークに安全に接続するための措置として、基幹ネットワークシステム上に Windows11 グループポリシーを整備した。
- ・既存 Microsoft365 のライセンスを利用して、生成 AI 機能 (Copilot Chat) を振興会全体で利用できるようにした。
- ・RPA の機能の試行的導入を行った。

(6) 予算執行の効率化

- ・各課室の予算執行見込について把握し、不用・不足を調整する等、効率的な予算執行に努めた。

Ⅲ 予算、収支計画及び資金計画

- 1 予算
- 2 収支計画
- 3 資金計画
- 4 保有資産の処分

Ⅲ 予算、収支計画及び資金計画

《中期計画の概要》

Ⅲ 予算(人件費の見積もりを含む)、収支計画及び資金計画

実績を勘案しつつ、国民の鑑賞機会の確保と芸術活動の独創性等に十分留意した上で、社会情勢に対応した事業展開において安定的な自己収入の確保を図るとともに、保有財産の有効活用やクラウドファンディング等を活用した外部資金の獲得など多様な財源確保に努め、計画的な収支計画による運営を図る
管理業務の効率化を進めるため、各事業年度において適切な効率化を見込んだ予算による運営に努める

1 予算(中期計画の予算) 別紙1のとおり

2 収支計画 別紙2のとおり

3 資金計画 別紙3のとおり

4 保有資産の処分

「独立行政法人の保有資産の不要認定に係る基本的視点について」に基づき、保有の必要性を不断に見直し、保有の必要性が認められないものについては、不要財産として国庫納付等を行う

Ⅳ 短期借入金の限度額

短期借入金の限度額は、10億円

短期借入金が想定される理由は、運営費交付金の受入の遅延が生じた場合である

Ⅴ 不要財産又は不要財産となることが見込まれる財産の処分等に関する計画

すでに廃止を決定した船橋第三職員宿舎、習志野職員宿舎について、独立行政法人通則法第46条の2の規定に基づき、中期目標期間中に当該不要財産を国庫納付する

Ⅵ 重要な財産の処分等に関する計画

重要な財産を譲渡、処分する計画はない

Ⅶ 剰余金の使途

決算において剰余金が発生したときは、次の経費等に充てる

1 助成事業の充実

2 公演事業の充実

3 伝統芸能伝承者養成事業・現代舞台芸術実演家等研修事業の充実

4 調査研究・資料の収集活用・公演記録の作成活用等事業の充実

5 研修器具、芸能資料等の購入・修理

6 観劇者サービス、情報提供の質的向上、老朽化対応等のための施設・設備の充実

《年度計画の概要》

Ⅲ 予算、収支計画及び資金計画

目標自己収入額:3,234百万円

1 予算 別紙1のとおり

2 収支計画 別紙2のとおり

3 資金計画 別紙3のとおり

4 保有資産の処分

保有の必要性を不断に見直し、保有の必要性が認められないものは不要財産として国庫納付等を行う

自己評価	B
自己評価の根拠	以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を達成したため、自己評価はB評価とする。 ・運営費交付金を適切かつ効率的に使用するため、効率的な業務運営を見込んだ予算の策定を行い、第3四半期に交付金財源の予算について見直しを行った。 ・入場料収入の増等により、自己収入が増加した。 ・公演事業や養成研修事業等に充当する外部資金の獲得のため、「国立劇場基金(くろごちゃんファンド)」及び「国立劇場養成所サポーター」への寄附を引き続き募集するとともに、事業への理解促進のための情報発信等を行った。 ・劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業(文化芸術振興費補助金事業)等を実施し、新たな補助金の活用に努めた。
数値目標の達成状況 実績/目標(達成率)	自己収入の確保状況:3,529百万円 /3,234百万円(109.1%)
主要な業務実績	1 予算 ・積極的に外部資金を獲得すべく、国立劇場基金、国立劇場養成所サポーターの寄附募集等を展開した。 2 収支計画 3 資金計画 4 保有資産の処分
課題と対応	・入場料収入や施設使用料収入について、国民の鑑賞機会の確保等に留意しつつ、公演収支の分析や料金の見直し等により安定的な自己収入の確保に向けた検討を行うとともに、入場者数増に向けた取り組みを進める。 ・多様な財源確保のため、寄附金の継続的な受け入れ、オリジナル商品販売収入の増加、新たな補助金の獲得等を目指す。

自己収入及び外部資金の状況

- ・芸術文化振興基金等の運用収入、主催公演や研修発表会等の入場料収入、劇場施設の使用料収入、所蔵資料の複製使用料、映像配信による収入等により、安定的な自己収入の確保を図った。
- ・寄附金・補助金等の外部資金を積極的に獲得した。
- ・くろごちゃんファンド感謝イベントを開催し、文楽技術室の職員が寄附金の活用事例等を紹介した(12/13 伝統芸能情報館レクチャー室、寄附者・あぜくら会員等 41 名が参加)。
- ・令和 8 年 3 月に「くろごちゃんファンド」への多額の寄附により紺綬褒章を受章された方への伝達式を行った。

《自己収入の確保状況》

区分	助成事業	公演事業	養成研修事業	調査研究事業	法人共通	合計
実績	662 百万円	1,949 百万円	44 百万円	11 百万円	862 百万円	3,529 百万円
年度計画	717 百万円	1,609 百万円	34 百万円	7 百万円	867 百万円	3,234 百万円
達成率						109.1%

《外部資金の獲得状況》

区分	件数	金額
芸術文化振興基金に対する民間出えん金	35 件	401,133 千円
オーケストラ支援への寄附	1 件	300,000 千円
国立劇場基金(くろごちゃんファンド)	1,109 件	35,357 千円
公演事業等への寄附	1 件	400,000 千円
主催公演における共催負担金	5 件	18,719 千円
公演事業への協賛	3 件	1,900 千円
養成事業継続寄附(国立劇場養成所サポーター)	1,979 件	4,606 千円
養成研修事業への寄附(竹本研修生奨励費)	1 件	500 千円
受託事業	7 件	15,490 千円
国庫財源以外による外部資金の獲得状況(小計)	3,141 件	1,177,705 千円
文化庁芸術祭主催公演請負代金	1 件	25,263 千円
日本博受託収入(再委託分除く)	1 件	255,442 千円
訪日外国人旅行者周遊促進事業費補助金	1 件	12,585 千円
文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業)	2 件	1,062 千円
国庫財源による外部資金の獲得状況(小計)	5 件	294,352 千円
合計	3,146 件	1,472,057 千円

※それぞれ四捨五入により単位未満を処理しているため、合計において一致しない場合がある。

1 予算

(単位：百万円)

区 分	計画額	実績額	増△減
収 入			
運営費交付金	11,736	11,736	-
雑収入	68	73	5
施設整備費補助金	344	431	87
文化資源活用事業費補助金	342	333	△9
文化芸術振興費補助金	11,274	11,328	54
文化芸術活動基盤強化基金事業収入	397	1,503	1,107
訪日外国人旅行者周遊促進事業費補助金	-	13	13
寄附金収入	648	662	14
基金運用収入	219	220	1
その他の助成事業収入	-	-	-
公演等事業収入	2,438	2,576	138
公演受託事業収入	3,662	3,677	15
計	31,127	32,551	1,424
支 出			
一般管理費	1,584	1,779	195
うち人件費	1,075	1,083	8
うち物件費	509	697	187
事業費	10,219	9,661	△558
うち人件費	2,252	2,246	△6
うち助成情報提供等事業費	1,110	659	△450
うち国立劇場事業費	2,142	2,028	△114
うち国立劇場おきなわ事業費	636	665	29
うち新国立劇場事業費	4,080	4,063	△17
施設整備費	344	427	83
文化資源活用事業費	342	312	△30
文化芸術振興費	11,274	11,043	△232
うち人件費	314	287	△27
うち物件費	10,960	10,755	△205
文化芸術活動基盤強化基金事業費	397	1,503	1,107
うち人件費	143	152	10
うち物件費	254	1,351	1,097
訪日外国人旅行者周遊促進事業費	-	15	15
基金助成事業費	648	661	13
うち人件費	48	67	18
うち物件費	600	595	△5
公演等事業費	2,656	2,057	△600
公演受託事業費	3,662	3,701	39
計	31,127	31,160	32

《主な増減理由》

(1) 共通

- 施設整備費補助金については、計画額には令和7年度補正予算事業の国立文楽劇場安全・老朽化対策工事(196百万円)及び新国立劇場舞台美術センター設備等改修(148百万円)を計上したのに対し、実績としては全額を繰り越し、令和6年度補正予算事業(国立能楽堂温室効果ガス排出削減事業、国立文楽劇場安全・老朽化対策工事、国立劇場おきなわ小劇場吊物機構設備整備第1期、新国立劇場(オペラ劇場)舞台機構設備整備)の支出額と、これに対する補助金概算払受入額を計上したため、結果として収入支出とも増となった。

- ・文化芸術活動基盤強化基金事業は、原資を基金として保有し、発生した費用と同額を当該年度の収入として計上している。計画時に見込むことができなかった委託事業費が確定したこと、また納付消費税が発生したことにより、1,107百万円の費用増となり、収入も同額増となった。
- ・訪日外国人旅行者周遊促進事業は、観光庁の同事業補助金に申請し、9月・1月の歌舞伎公演に合わせて「日本の舞台芸術体験ツアー」を実施したことによる新規増である。

(2) 収入

- ・公演等事業収入は、入場料収入等の増により、138百万円の増となった。

(3) 支出

- ・一般管理費のうち物件費は、過年度から繰り越して実施した国立劇場再整備事業等により、187百万円の増となった。
- ・事業費のうち助成情報提供等事業費については、芸術文化振興基金助成費の一部を翌年度に繰り越したことにより、450百万円の減となった。
- ・基金助成事業費の人件費は、文化芸術振興費補助金事業に係る人件費のうち補助金の事務費の上限を超える部分を自己財源で負担したことにより、18百万円の増となった。
- ・公演等事業費は、業務委託費、公演費等の節約により、600百万円の減となった。

2 収支計画

(単位：百万円)

区 分	計画額	実績額	増△減
費用の部			
国立劇場公演等事業費	10,917	10,697	△ 220
新国立劇場公演等事業費	4,165	4,346	181
基金助成事業費	13,479	13,902	423
一般管理費	1,694	1,523	△ 171
財務費用	6	6	0
雑損失	-	1	1
臨時損失	-	0	0
計	30,260	30,476	216
収益の部			
運営費交付金収益	10,734	10,586	△ 148
事業収入	1,688	1,803	115
受託事業収入	3,662	3,590	△ 72
財産利用収入	33	37	4
資産見返負債戻入	368	327	△ 41
賞与引当金見返に係る収益	286	259	△ 27
退職給付引当金見返に係る収益	△ 175	△ 145	30
補助金等収益	12,013	13,209	1,196
施設整備費補助金収益	0	248	248
寄附金収益	648	641	△ 7
財務収益	998	1,009	11
雑益	5	33	28
臨時利益	-	0	0
計	30,260	31,599	1,339
純利益	-	1,123	1,123
積立金取崩額	-	3	3
総利益	-	1,126	1,126

《主な増減理由》

(1) 費用の部

- ・国立劇場公演等事業費については、公演費の減等により、220百万円の減となった。

- ・基金助成事業費については、文化芸術活動基盤強化基金事業費の増（＋1,107 百万円）、芸術文化振興基金助成費の繰越（△450 百万円）等により、423 百万円の増となった。

(2) 収益の部

- ・補助金等収益については、文化芸術活動基盤強化基金委託事業の額の確定等により、1,196 百万円の増となった。

3 資金計画

(単位：百万円)

区 分	計画額	実績額	増△減
資金支出	103,125	109,490	6,365
業務活動による支出	77,715	32,792	△44,923
投資活動による支出	812	3,648	2,836
財務活動による支出	251	252	1
翌年度への繰越金	24,347	72,798	48,451
資金収入	103,125	109,490	6,365
業務活動による収入	77,729	77,706	△ 23
運営費交付金による収入	11,736	11,736	0
補助金による収入	58,561	58,617	56
公演等事業による収入	2,438	2,638	200
公演受託事業による収入	3,662	3,677	15
養成事業による収入	36	34	△ 2
基金運用による収入	219	220	1
その他の収入	1,078	785	△ 293
投資活動による収入	549	7,036	6,487
施設整備費補助金による収入	344	431	87
その他の収入	205	6,605	6,400
財務活動による収入	500	401	△ 99
民間出えん金受入による収入	500	401	△ 99
金銭出資の受入による収入		0	0
前年度よりの繰越金	24,347	24,347	0

《主な増減理由》

(1) 資金支出

- ・文化芸術活動基盤強化基金の事業の進捗に伴い、業務活動による支出が 44,923 百万円の減となり、翌年度への繰越金が 48,451 百万円の増となった。

(2) 資金収入

- ・投資活動による収入については、定期預金の払戻による収入の増等により、6,487 百万円の増となった。

4 保有資産の処分

(1) 実物資産の保有状況等

施設名	数	所在地	用途	保有目的及び利用状況
国立劇場(本館・演芸場)	1	東京都千代田区	劇場施設	伝統芸能の保存・振興を図るための拠点施設として設置され、伝統芸能の公開、伝承者の養成等の事業を安定的、継続的に実施するために必要な施設である。 なお、国立劇場(本館・演芸場)については、国立劇場再整備等事業のため、令和 5 年 10 月をもって一時閉場しており、再整備後に再開場の予定である。 令和 7 年度の稼働率の実績：p.83 参照
国立能楽堂	1	東京都渋谷区		
国立文楽劇場	1	大阪府大阪市中央区		
国立劇場おきなわ	1	沖縄県浦添市		
新国立劇場	1	東京都渋谷区	劇場施設	現代舞台芸術の振興・普及を図るための拠点施設として設置されたものであり、現代舞台芸術の公演、実演家の研修等の事業を安定的、継続的に実施するために必要な施設である。

				令和7年度の稼働率の実績:p.83 参照
新国立劇場 舞台美術センター	1	千葉県銚子市	保管施設	現代舞台芸術の公演に必要な舞台装置・衣装等を保管し、新国立劇場におけるレパートリー公演を安定的、継続的に実施するために必要な施設であり有効に活用されている。
職員宿舎	3	東京地区(2) 大阪地区(1)	職員宿舎	東京・大阪に事業所を保有しており、円滑な人事異動など業務上、安定的かつ継続的に職員宿舎を確保する必要があり、研修生の利用も含めた適切な管理運営を図っている。 保有宿舎全 39 戸(うち入居戸数 26 戸。入居率 66.2%)。

(2) 金融資産の保有状況

ア 金融資産の名称と内容、規模

定期預金： 2,100 百万円
 有価証券： 2,194 百万円
 投資有価証券： 99,600 百万円
 長期性預金： 2,900 百万円

イ 保有の必要性(事業目的を遂行する手段としての有用性・有効性)

「日本芸術文化振興会資金運用要項」に基づき、毎年度資金運用計画を策定し、以下の通り運用している。

- ・芸術文化振興基金については、政府出資金及び民間出捐金を原資として、長期的・安定的な運用を行っている。
(運用状況は I-1-(3) 基金の管理運用 を参照)
- ・文化芸術活動基盤強化基金については、同基金に関する業務の財源確保のため、支出計画や流動性に留意しつつ、運用を行っている。
- ・その他の業務上の余裕金については、「政府出資金見合いの資金に関する内規」に従い、伝統芸能の公開事業及び現代舞台芸術の公演事業の安定的継続、国立劇場再整備等事業の経費への充当等のため、運用資金の目的や運用可能期間に合わせ、柔軟に運用を行っている。

ウ 資産の売却や国庫納付等を行うものとなった金融資産の有無、取組状況

該当事項はない。

《参 考》

1. 剰余金

損益計算の結果、令和7事業年度の当期総利益は1,126百万円である。

《利益が生じた主な理由》

[収入支出決算]

国立劇場公演等事業収支の赤字が、年度計画予算の△712百万円から394百万円縮小し、△317百万円となった。その主な要因は次のとおり。

- ・劇場入場料収入の増95百万円
- ・共催公演等収入の増33百万円
- ・国立劇場公演等事業費の減256百万円

[損益計算]

- ・資金運用による有価証券利息等の財務収益が1,009百万円発生した。
- ・昨年度の文化資源活用事業費補助金につき額の確定が今年度となったことにより、見合いの費用のない文化資源活用事業費補助金収益が338百万円発生した。

2. 運営費交付金債務

令和8年3月31日現在における運営費交付金債務残高は2,294百万円である。

(単位：百万円)

期首残高 /当期交付額	当期振替額					引当金見返との 相殺額	期末残高
	運営費交付金 収益	運営費交付金 精算収益化額	資産見返 運営費交付金	建設仮勘定見返 運営費交付金	資本剰余金		
13,808	10,586	0	394	0	0	533	2,294

3. 目的積立金等の状況

(単位：百万円)

	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末	令和8年度末	令和9年度末
前期中期目標期間繰越積立金	3,745	3,279	3,277		
目的積立金	-	-	-		
積立金	0	590	563		
うち経営努力認定相当額					
その他の積立金等	-	-	-		
運営費交付金債務	1,069	2,072	2,294		
当期の運営費交付金交付額 (a)	11,798	11,669	11,736		
うち年度末残高 (b)	1,069	1,003	898		
当期運営費交付金残存率 (b÷a)	9.06%	8.60%	7.65%		

IV その他業務運営に関する重要事項

- 1 その他業務の運営に関する取組
- 2 施設及び設備に関する計画
- 3 人事に関する計画
- 4 その他振興会の業務運営に関し必要な事項

Ⅳ その他業務運営に関する重要事項

《中期計画の概要》

Ⅷ その他業務運営に関する重要事項

1 内部統制

- (1) 外部の有識者、各分野の専門家等で構成する評価委員会において、振興会の目標等を踏まえ、組織、運営、事業などについて評価
組織の改善・事業の見直し・事務の改善等への反映
- (2) 運営費交付金等の有効活用、理事長のマネジメントの強化、監査機能の充実
- (3) 法令等に基づき法人文書を適正に作成、管理
- (4) 国民の理解が得られるよう、分かりやすく説明する意識を徹底
ホームページにおける情報アクセスを容易にするなど、情報開示を推進

2 情報システムの整備・管理及び情報セキュリティ対策

「情報システムの整備及び管理の基本的な方針」にのっとり情報システムの適切な整備・管理、法令等に基づいた適切な情報の開示、政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準群を踏まえた適切な情報セキュリティ対策の推進

3 施設及び設備に関する計画

- (1) 施設・設備に関する計画に沿った整備の推進
各劇場等施設について長期的な視野に立った整備計画を策定し、施設・設備に関する計画に沿った整備を推進
- (2) 国立劇場再整備に関する事業の推進
「国立劇場の再整備に係る整備計画」に基づいたPFI事業実施に向けた手続きの推進、PFI事業における業績監視、国立劇場等の再開場に向けた新たな国立劇場の在り方の検討

4 人事に関する計画

(1) 方針

- ア 職員の計画的、適正な配置を図るとともに、効果的な人事交流を実施
- イ 事務能率の維持、増進を図る
 - ① 職員に対する実務研修等の充実
 - ② 適切な労務管理の実施、多様で柔軟な働き方を推進するための制度の検討・導入
- ウ 人材確保・育成方針に基づき、デジタル分野等専門的分野も含めた必要な人材の確保・育成を実施

(2) 人員に係る指標

給与水準の適正化を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進

5 中期目標の期間を超える債務負担

中期目標期間を超える債務負担については、振興会の業務運営に係る契約の期間が中期目標期間を超える場合で、当該債務負担行為の必要性及び資金計画の影響を勘案し、合理的と判断されるものについて実施

6 積立金の使途

前期中期目標の期間の最終年度において、独立行政法人通則法第44条の処理を行ってなお積立金があるときは、その額に相当する金額のうち文部科学大臣の承認を受けた金額について、以下のものに充てる

- (1) 中期計画の剰余金に規定されている経費
- (2) 次期へ繰り越した経過勘定損益影響額等に係る会計処理
- (3) 自己財源により取得した固定資産の未償却残高相当額に係る会計処理

7 その他振興会の業務の運営に関し必要な事項

国立劇場おきなわの管理運営については、沖縄芸能・文化の独自性とその伝統を活かし、地方自治体等地元の協力を得るため、公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団に委託して行う

新国立劇場の管理運営については、芸術家、芸術団体等の創意、工夫を取り入れるとともに民間等の協力を得るため、公益財団法人新国立劇場運営財団に委託して行う

委託に当たっては、経費の見直しや自己収入の確保等の方策により収支構造の改善等に計画的に取り組むとともに、契約内容の検証を行い、更に効率化を図る

《年度計画の概要》

Ⅳ その他業務運営に関する重要事項

1 その他業務の運営に関する取組

(1) 内部統制の充実・強化

- ア 令和5年度の事業の実施結果について、自己点検評価、外部専門家からの意見聴取、外部の有識者・各分野の専門家等で構成する評価委員会における業務の実績に関する評価を実施
- イ 理事長のリーダーシップの下に業務の適正を確保するための体制、内部監査、監事監査に係る機能の充実・強化、法令遵守の周知徹底や役職員を対象としたコンプライアンス研修等の実施
- ウ リスク管理委員会において、業務ごとに内在するリスクを把握、リスク顕在時における対応策を策定
- エ 文書システムによる電子決裁を活用し、法人文書の適正な作成、管理を実施
- オ 国民が最新の情報を円滑に得られるよう、ホームページにおける情報アクセスを容易にし、情報開示を推進より効果的な情報発信に向けたホームページの改修について検討

(2) 情報セキュリティ対策

- ア 「情報システムの整備及び管理の基本的な方針」にのっとり情報システムの適切な整備・管理
- イ 政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準群を踏まえて作成した情報セキュリティポリシーに沿って、自己点検、システム監査を実施し、適切な情報セキュリティの確保を図る
- ウ 脆弱性情報を的確に把握し、遅滞なく対応、ウイルスや不正アクセス等の情報を収集、役職員に対して積極的に情報提供を行うとともに対応訓練や研修を実施

2 施設及び設備に関する計画

- (1) 「日本芸術文化振興会インフラ長寿命化計画」に基づき、長期的な視野に立った整備計画を策定し、別紙4のとおり施設・設備に関する計画に沿った整備を推進
- (2) 国立劇場等の再整備については、国立劇場再整備に関するプロジェクトチームによる「国立劇場の再整備に係る整備計画」に沿いモデルプランの検討等の入札手続きに係る資料を作成するとともに、入札公告に向けた実施方針の公表を行う。

3 人事に関する計画

(1) 方針

- ア 職員の計画的・適正な配置、効果的な人事交流の実施
- イ 事務能率の維持、増進を図る
 - ① 職員に対する実務研修等の充実
 - ② 適切な労務管理、多様で柔軟な働き方を推進する制度の検討・導入
- ウ 人材確保・育成方針に基づき、デジタル分野等専門的分野も含めた必要な人材の確保・育成を実施

(2) 人員に係る指標

給与水準の適正化等を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進

4 その他振興会の業務の運営に関し必要な事項

国立劇場おきなわの管理運営については、沖縄芸能・文化の独自性とその伝統を活かし、地方公共団体等地元の協力を得るため、公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団に委託して行う

また、新国立劇場の管理運営についても、芸術家、芸術団体等の創意、工夫を取り入れるとともに民間等の協力を得るため、公益財団法人新国立劇場運営財団に委託して行う

自己評価	B
自己評価の根拠	以下に示すとおり、概ね年度計画における所期の目標を達成しているため、自己評価はB評価とする。 ・国立劇場再整備等事業については、「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」(平成11年法律第117号)(以下、「PFI法」という。))に基づく「国立劇場再整備等事業の実施に関する方針」の公表、「特定事業の選定及び客観的な評価の結果」の公表及び「入札公告」等の手続きを実施した。 ・内部統制の充実や人事に関する取組等について、年度計画に沿って着実に実施した。
数値目標の達成状況 実績/目標(達成率)	数値目標なし
主要な業務実績	1 その他業務の運営に関する取組 ・経営上の重要課題に関する事項等を審議するため、令和7年度より新たに経営戦略会議を設置し、各館の公演収支や入場料金の在り方、振興会の中期的な経営戦略及び財政課題への対応等について検討を進めた。 ・内部統制の充実・強化を図り、評議員会、公演専門委員会ほか外部専門家等の意見を事業に反映した。 ・適切な情報セキュリティ対策を講じた。 ・政府機関等のサイバーセキュリティ対策のための統一基準ガイドラインの更新に基づき、振興会情報セキュリティポリシー等の更新を進めた。 ・コンプライアンス及び安全管理に関する取組の強化に努めた。 2 施設及び設備に関する計画 ・国立劇場再整備等事業については、国立劇場再整備に関するプロジェクトチーム(文部科学副大臣主宰)により、令和6年12月及び令和7年9月に行われた「国立劇場の再整備に係る整備計画」の改定に基づき、次期入札に向け、国立劇場再整備委員会や各作業部会を開催し、要求水準の見直し等の準備を進めた。 ・PFI法に基づき「国立劇場再整備等事業の実施に関する方針」、「特定事業の選定及び客観的な評価の結果」を公表し、令和8年3月に入札公告を実施した。 3 人事に関する計画 ・人材確保・人材育成等に関する基本方針を計画的に推進した。 ・人員配置については、各部長から要望を広く聞き、適切な人事異動を行うとともに、任期を定めた採用の強化等、人件費の抑制を踏まえた採用を実施した。 ・労務管理において、法令遵守の徹底、職員の心身の健康管理及び就労の安全を図るため、安全衛生組織、顧問弁護士及び社会保険労務士と連携して対応を行った。 ・子育てをする職員への環境整備をはじめ、多様で柔軟な働き方を推進する取り組みを行った。 4 その他振興会の業務運営に関し必要な事項 ・国立劇場おきなわ及び新国立劇場の運営委託について、継続的に事務・経費の効率化を図りつつ、適切に運営した。

1 その他業務の運営に関する取組

(1) 内部統制の充実・強化

ア 自己点検評価、外部専門家等からの意見聴取

① 自己点検評価について

《令和6事業年度自己点検評価の経過》

令和7年2月～3月	各公演専門委員会、事業委員会において事業に対する意見聴取を実施
令和7年3月	各部において自己点検評価を実施
令和7年3月末～5月	企画部企画課を中心に自己点検評価を取りまとめ
令和7年5月16日	理事長により自己点検評価を決定
令和7年6月26日	評議員会において、6年度の業務の実績に関する評価を審議・決定

② 外部専門家等からの意見聴取

名称	区分	日程	議題等
評議員会	第68回	6/26	令和6事業年度業務実績及び収入支出決算についての審議、令和6事業年度評価についての報告、令和6年度及び第5期中期目標期間における業務実績に対する文部科学大臣評価結果についての報告、令和8年度計画及び計画予算についての審議等
	第69回	10/27	
	第70回	3/23	
評価委員会	令和6年度評価 第2回	5/16	令和6年度評価の実施
	第3回	6/11	
	第4回	6/18	
	令和7年度評価 第1回	10/1	令和7年度評価についての審議等
芸術文化振興基金 運営委員会	第69回	9/22	令和6年度評価の決定、令和8年度審査基準・助成対象活動募集案内の決定、令和8年度助成金の分野別配分予算案の決定、令和8年度助成対象活動及び助成金交付予定額の決定等
	第70回	1/19	
	第71回	3/17	
公演専門委員会	歌舞伎公演専門委員会	5/26・3/27	令和7年度公演計画の説明・意見聴取等、令和7年度公演状況の報告、令和8年度公演計画の説明・意見聴取等
	文楽公演専門委員会(本館)	6/27・3/13	
	舞踊公演専門委員会	7/3・3/25	
	邦楽公演専門委員会	7/4・3/23	
	雅楽・声明公演専門委員会	7/10・3/24	
	民俗芸能公演専門委員会	7/10・書面開催	
	大衆芸能公演専門委員会	7/2・3/30	
	能楽公演専門委員会	2/3・3/6	
	文楽公演専門委員会(文楽劇場)	7/9・3/2	
事業委員会	短期公演等専門委員会(文楽劇場)	7/29・3/5	令和6年度評価結果の報告、令和7年度の事業実施状況、令和8年度事業計画についての意見聴取等
	養成事業委員会	7/11・3/6	
	調査事業委員会	7/10・3/18	
	養成事業委員会(おきなわ)	7/8・2/19	
	調査事業委員会(おきなわ)	3/30	
	公演事業委員会(おきなわ)	9/22・3/25	

イ 内部統制システムの充実、内部監査・監事監査に係る機能の充実・強化、法令遵守の徹底等

① 内部統制システムの充実

(a) 役員会の開催

- ・役員会を毎月1回開催し(8月を除く)、業務に係る重要事項を審議した。
- ・運営会議を毎月1回開催し(8月を除く)、業務に係る重要事項に関し横断的な意見交換を行った。

(b) 情報伝達

- ・状況に応じた基本的な方針を理事長・理事による「理事懇談会」において随時協議し、その内容については、役員会での発言、担当役員から関係部署への指示、又は総務・人事労務担当課等担当部署からの連絡により、周知と意思疎通を図った。
- ・事故等発生時は、報告書等で関係者への情報共有や報告を迅速に行い、対応した。

(c) 内部統制委員会等の定期開催

- ・内部統制委員会を開催した(第1回:9/1～9/5(書面開催)、第2回:2/4～2/10(書面開催))。
- ・課長研修の一環として1年次職員10名に内部統制研修を行った(10/20)。

(d) 経営戦略会議の開催

- ・経営上の重要課題に関する事項等を審議するため、令和7年度より新たに経営戦略会議を設置した。各館の公演収支や入場料金についてのほか、「公演事業を中心とした振興会中期経営戦略」(案)及び行動計画(案)、振興会の財政上の課題と改善に向けた対応について議論を行った(5/13、7/4、7/24、9/25、10/23、11/26、12/19、1/22、2/20、3/25)。

② 監査

(a) 監事監査

- ・定期監査、重要書類の回付等により業務の執行状況及び会計経理事務の処理状況を監査した。

《定期監査(令和6事業年度及び令和7事業年度監査)の経過》

4/8	令和7事業年度監査計画 理事長へ提出
6/13	監事と会計監査人とのディスカッション(会計監査人による令和6事業年度監査結果報告)
6/13	令和6事業年度監査報告 理事長へ提出 ※指摘すべき重大な事項は認められなかった。
1/30	監事と会計監査人とのディスカッション(会計監査人による令和7事業年度監査計画説明)

(b) 内部監査

- ・内部監査要綱に基づき内部監査を実施した。

8/1	内部監査計画の作成及び監事への通知
9～2月	監査実施
3/9	監査報告書 理事長へ提出 ※監査報告書に意見を記載(決裁権者の責任の明確化・物品管理の徹底) ※監事に監査報告書の写しを送付(3/9) ※監査報告書を法人内に周知(3/16)

- ・情報セキュリティポリシーに基づき、情報セキュリティ監査を実施した。

9/26	情報セキュリティ監査計画の作成及び被監査部課への通知
10～12月	監査実施
1/22	監査報告書 最高情報セキュリティ責任者へ提出

- ・法人文書管理規程に基づき、法人文書管理監査を実施した。

1/26	法人文書管理監査計画の作成及び被監査部課への通知
2月	監査実施
2/20	監査報告書 総括文書管理者へ提出

③ 法令遵守の徹底等

- ・最新の法令改正等の安全衛生に関する情報を入手し、コンプライアンスの向上に資するため、顧問弁護士や社会保険労務士及び中央労働災害防止協会から法令改正に関する情報の提供を受け、厚生労働省や中央災害防止協会等のウェブサイトでも適宜確認を行った。
- ・労働安全衛生規則の改正(令和7年6月1日施行)を受け、職場における熱中症の防止措置として報告体制の整備、熱中症のおそれがある者を発見した場合の手順の作成を行い、安全衛生委員会及び掲示板で周知した。
- ・労働安全衛生法に基づき、危険や有害な業務を行う職員に対して、以下の法定特別教育を実施した。
 - ◇テールゲートリフター特別教育の受講(6/25・10/22・3/11)
 - ◇足場の組立て等作業従事者特別教育の受講(10/11)
 - ◇玉掛け技能講習の受講(10/6～10/8、11/3～11/5)

ウ リスク管理委員会

- ・リスク管理委員会を開催した(第1回:6/23～6/27(書面開催)、第2回:9/29～10/3(書面開催) 第3回:3/24～3/27(書面開催))。

エ 法人文書の適正な作成・管理

- ・文書管理システムによる電子決裁を活用し、法人文書の適正な作成・管理を行うため、全職員に向けて文書管理

研修を行った。

- ・文書類の決裁における専決者を適切に設定し、迅速な決裁を行うことで事務の円滑かつ確実な処理を図るため、文書関連規程の改正を実施した。

オ 情報開示の推進

- ・公文書等の管理に関する法律(平成 21 年法律第 66 号)及び内規に基づいた適正な法人文書管理のため、各課における文書管理担当者の任命、標準文書保存期間基準の設定及び見直し、文書管理状況の点検を実施した。また、文書の廃棄や文書の保存期間の延長について、法律及び内規に則した適切かつ慎重な実施がなされるよう周知徹底を行った。

(2) 情報セキュリティ対策

ア 適切な情報セキュリティの確保

- ・振興会セキュリティポリシーの理解増進及び意識向上を目的として、外部の e ラーニングサービス及び独自資料を活用した情報セキュリティ教育を全役職員(常勤及び非常勤)、アルバイト及び医師・看護師等利用者全員を対象に実施した。
- ・標的型メール攻撃に関する教育・意識啓発を目的とした「標的型メール攻撃に対する訓練」を実施した。
- ・各職員(常勤及び非常勤)が情報セキュリティ対策を適切に実施しているかを確認するために自己点検を実施した。
- ・政府機関等のサイバーセキュリティ対策のための統一基準群が令和 7 年 7 月に改定されたことに基づき、振興会情報セキュリティポリシー実施手順等を更新した。

イ 脆弱性・ウイルス・不正アクセスへの対応

- ・振興会ウェブサイトについて第三者機関によるセキュリティ診断を実施し、発見された脆弱性への対応を講じた。
- ・内閣サイバーセキュリティセンター等から公表されるソフトウェアの脆弱性情報に対して、随時振興会内の全情報システムを調査し、必要な対策を行った。
- ・内閣サイバーセキュリティセンター又は情報システム管理運用委託業者等から提供される脆弱性情報、ウイルス情報、不審メール情報等を振興会内電子掲示板に掲載し、重要性又は緊急性の高い情報については適宜全職員向けにメールで注意喚起を行った。また、年末年始等の長期休業期間における情報セキュリティ対策事項を適宜周知した。

(3) 振興会のこれからを考える検討グループ

- ・令和 6 年度に引き続き、職員参加型の検討グループでミーティングを開催し、振興会のミッションを再確認する作業を進めた(4/25、5/23、7/23、7/30、9/8、9/16)。また全役職員を対象に意見招請を行った。
- ・「ナショナル・シアターとしての『国立劇場のこれから』を考える」をテーマに勉強会を行った。
①レクチャー(1/23)②グループディスカッション(2/2、3/13)

(4) 新規事業開発等

- ・日本の伝統芸能の振興普及を目的に、ゴディバ ジャパン株式会社と広報及び商品の製造・販売等について連携協力をすることとなり、ゴディバ公式サイト内に特設ページが公開されるとともに、企画第一弾商品として<ゴディバ×塩瀬総本家×国立劇場>による「蒸し饅頭 ショコラ」が発売(5/22)。第二弾商品として<ゴディバ×加賀菓子処 御朱印×国立劇場>による「リトル御朱印 ショコラ」が発売された(11/12)。
- ・8 月、業務工数削減目的で職員向けご意見箱を設置し、約 70 件の要望や改善に向けた意見を得た。これを踏まえ、項目ごとに関連部署と改善に向けた議論を行った。
- ・8 月、一般層に向けた伝統芸能に関する意識調査(定量・定性)を実施し、調査結果を職員向け報告会で振興会内に周知した(9/29)。
- ・株式会社伊藤園の直営専門店の茶葉を使用した、国立劇場オリジナル商品「くろごちゃんティーバッグ」を開発し、2 月文楽公演から販売した。パッケージには、たちいりハルコ先生描き下ろしのくろごちゃんのイラストを使用した。

2 施設及び設備に関する計画

(1) 施設・設備に関する計画に沿った整備

ア 「日本芸術文化振興会インフラ長寿命化計画」に基づく整備

- ・施設・設備は、経年により老朽化が進んでおり、劇場運営において安全性を確保するため、予防保全を目指して

計画的に保守・点検等を行った。

《施設整備費補助金による施設・設備の整備等》

国立能楽堂温室効果ガス排出削減事業 ※	132,455 千円
国立文楽劇場 安全・老朽化対策工事	90,860 千円
国立劇場おきなわ小劇場吊物機構設備整備 第1期	103,400 千円
新国立劇場(オペラ劇場)舞台機構設備整備	146,146 千円

※令和8年度にかけて事業を実施する。

(2) 国立劇場等再整備等事業

① 本館・演芸場等準町地区の施設・設備の再整備について

- ・国立劇場等再整備事業のうち飲食提供施設の運営方法及び調達方法等の検討を進めた。
- ・要求水準書の見直し等について、国立劇場再整備委員会の各作業部会において、検討を進めた。
- ・国立劇場再整備等事業に係る技術アドバイザリー業務(TA)を委託した香山建築研究所(令和7年3/28契約、履行期間は令和8年3/31まで)とともに新しい国立劇場のモデルプラン、要求水準書及び関連資料等の作成業務を行った。また、「国立劇場の再整備に係る整備計画(令和6年12/26及び令和7年9/24一部改定)」により示された事業方針及び事業スケジュールに対応し、業務内容の変更と令和8年度以降に予定していた業務を前倒して実施するため、仕様を変更した(12/23変更契約)。
- ・国立劇場再整備等事業に係る建設市場の動向等市場調査を実施した。建設会社及び不動産会社から調査票に回答してもらい、その後各企業への聞き取り調査を行った(4月～6月)。
- ・国立劇場再整備等事業アドバイザリー業務(FA)の発注にあたって、国立劇場再整備等事業にかかるアドバイザリー選定委員会を開催し(5/15、6/18)、公示を行った(5/30)。
- ・国立劇場再整備等事業のPFI事業手続きにおける振興会が行う一連の手続きを支援するため、EY新日本有限責任監査法人にアドバイザリー業務(FA)を委託した(8/22契約、令和8年3/31まで)。また、「国立劇場の再整備に係る整備計画(令和7年9/24一部改定)」により示された事業スケジュールに対応し、令和8年度以降に予定していた業務を前倒して実施するため、仕様を変更した(12/1変更契約)。
- ・令和7年度第1回国立劇場再整備委員会を開催し、再整備期間中の移転先について審議を行い了承された。
- ・国立劇場再整備等事業有識者委員会(再開後第1回)を開催し、「国立劇場再整備等事業の実施に関する方針の概略」について審議を行い、今後の手続き等に係る意見を聴取した(9/8)。
- ・国立劇場再整備等事業PFI審査会(再開後第1回)を開催し、「国立劇場再整備等事業の実施に関する方針の概略」について審議を行い、今後の手続き等について了承された(9/12)。
- ・令和7年度第2回国立劇場再整備委員会を開催し、「国立劇場再整備等事業の実施に関する方針の概略」について審議を行い、了承された(9/17)。
- ・「国立劇場再整備等事業の実施に関する方針の概略」の公表にあたり、実演家団体等へ事前説明を行い(9/18～10/1)、また、職員に対しては事前説明会を開催し(9/25)、振興会ホームページで公表した(9/26)。
- ・「国立劇場の再整備に関するプロジェクトチーム」において、「国立劇場の再整備に係る整備計画(令和6年12月26日一部改定)」が改定された(9/24)。
- ・「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」(平成11年法律第117号)(以下、「PFI法」という。)第7条の規定に基づき、特定事業として選定し、令和4年3月24日付けで公表し、令和5年1月20日付けで選定の一部変更について公表した特定事業「国立劇場再整備等事業」について、同事業に関する特定事業の選定を取り消した(10/31)。
- ・令和7年度第3回国立劇場再整備委員会を開催し、再整備期間中の移転先について審議を行い了承された(11/14)。
- ・国立劇場再整備等事業有識者委員会(再開後第2回)を開催し、「国立劇場再整備等事業の実施に関する方針」について審議を行い、今後の手続き等に係る意見を聴取した(11/26)。
- ・国立劇場再整備等事業PFI審査会(再開後第2回)を開催し、「国立劇場再整備等事業の実施に関する方針」について審議を行い、今後の手続き等について了承された(12/3)。
- ・令和7年度第4回国立劇場再整備委員会を開催し、「国立劇場再整備等事業の実施に関する方針」、「再整備期間中の移転先」について審議を行い、了承された(12/9)。
- ・「国立劇場再整備等事業の実施に関する方針」の公表にあたり、実演家団体等へ事前説明を行い(11/20～12/12)、また、職員に対しては事前説明会を開催した(12/9)。
- ・「国立劇場再整備等事業の実施に関する方針」を振興会ホームページで公表した(12/11、12/19更新版)。

- ・近隣住民の代表者に対し「国立劇場再整備等事業の実施に関する方針」の説明を行い、各住民への資料配布を依頼した(12/15)。
- ・国立劇場再整備等事業 PFI 審査会(再開後第 3 回)を開催し、「国立劇場再整備等事業の実施に関する方針」(12/11 公表、12/19 更新版公表)に関して寄せられた質問に対する回答案について審議を行い、了承された(2/6)。
- ・「国立劇場再整備等事業の実施に関する方針」に関する質問及びその回答を振興会ホームページで公表した(2/13)。
- ・国立劇場再整備等事業有識者委員会(再開後第 3 回)を開催し、「特定事業の選定」及び「事業者選定基準」について審議を行い、今後の手続き等に係る意見を聴取した(3/2)。
- ・国立劇場再整備等事業 PFI 審査会(再開後第 4 回)を開催し、「特定事業の選定」及び「事業者選定基準」について審議を行い、今後の手続き等について了承された(3/4)。
- ・令和 7 年度第 5 回国立劇場再整備委員会を開催し、「特定事業の選定」、「事業者選定基準」及び「舞台関係機材・備品等の保管施設」について審議を行い、了承された(3/9)。
- ・PFI 法第 7 条の規定により特定事業「国立劇場再整備等事業」を選定し、同法第 11 条第 1 項の規定により客観的な評価の結果を振興会ホームページで公表した。これにより、PFI 事業として実施することを決定した(3/12)。
- ・「国立劇場再整備等事業」を実施する民間事業者を募集するため、入札公告を実施した(3/31)。
- ・入札公告の実施に関して、職員に対しては振興会内ネットワークの掲示板(3/23)、実演家団体等に対しては電子メールで公表後に周知した(3/31)。

② 国立劇場再整備に関する新たな取組

- ・自己収入拡大に向けて、物販といった公演収入以外の収益獲得についての見識を得るため、外部有識者による職員研修を実施した(「芝居だけ」の“だけ”をはずす)3/10)。

③ 閉場期間中の国立劇場等施設の活用

- ・閉場期間中の国立劇場等施設、ほか各劇場施設を有効活用した事業を実施するため、新たな企画提案の検討及び調整を進めた。
- ・再整備のため解体予定の国立劇場施設を素材に、今後の情報発信や記録作成も視野に入れ、GOOPASS 株式会社の協力のもと、広報・宣伝部門職員向け研修「写真撮影講座」を実施した(9/18)。また、あぜくら会員を対象として「国立劇場アーカイブ撮影プロジェクト」を GOOPASS 株式会社と共催で開催し、高級撮影機材を貸与しての劇場施設の撮影ツアー、プロ写真家によるポートレート撮影と特製アルバムの提供、振興会職員による劇場にまつわる特別トーク等を実施した(3/22)。
- ・株式会社エイチ・アイ・エスとの連携協定に基づき、大劇場舞台・楽屋等を活用したインバウンド向けの高単価・高付加価値の舞台芸術体験ツアーを企画し、観光庁補助金事業「地方創生プレミアムインバウンドツアー集中展開事業」の交付を受けた。日本舞踊協会及び長唄協会の協力による本格的な伝統芸能体験と歌舞伎公演の観劇をセットにして 9 月と 1 月合わせて計 15 回実施し、148 人が参加した。
- ・ユニークメニューの利用実績：12 件 15 日間(有観客 7 件、稽古・研修など 5 件)
- ・舞台・楽屋を使用しての公演に興味を持つ団体・個人へ下見・打合せなどに対応した。

3 人事に関する計画

(1) 方針

ア 職員の計画的・適正な配置、効果的な人事交流の実施

- ・事務職員の新規採用、舞台技術及び調査研究分野における中途採用、舞台技術及び営業マネジメント、助成分野における任期付職員の採用を実施した。
- ・国の機関、国立大学法人及び地方自治体等、民間企業との人事交流を実施し多様な人材の確保による組織の活性化を図った。
- ・国立劇場おきなわ運営財団及び新国立劇場運営財団の要請により振興会職員を派遣、また新国立劇場運営財団から派遣者を受け入れ、両財団における円滑な委託業務の実施に資することができた。

受入		派遣	
国の機関及び国立大学法人からの出向者	17 人	国の機関への実務研修者	1 人
公益財団法人さいたま市文化振興事業団からの出向者	1 人	国立劇場おきなわ運営財団への職員の派遣	1 人
公益財団法人可児市文化芸術振興財団からの出向者	1 人	新国立劇場運営財団への職員の派遣	3 人
一般財団法人建築コスト管理システム研究所	2 人		

新国立劇場運営財団	1 人
民間企業	1 人

イ 事務能率の維持、増進

① 各種研修の実施、外部研修への職員の派遣

(a) 各種研修の実施

研修の実施にあたっては階層や職務内容に応じた各種研修を積極的に実施するとともに、外部機関が実施する研修への参加を積極的に促し職員のスキルアップを支援した。

《内部研修実績》

研修名	実施日	参加者数
新入職員研修(1 年次職員)	4/1～4/8	10 名
基幹業務システム研修(令和 7 年 4 月入職の職員)	4/8	36 名
部長業務研修(1 年次職員)	5/19・22・27・28	10 名
課長業務研修(1 年次職員)	10/20・11/12・12/23	10 名
公演研修(1 年次職員)	5 月～1 月	10 名
営業研修(1 年次職員)	11 月～2 月	10 名
営業研修(2 年次職員)	10 月～2 月	9 名
パソコン研修(e ラーニング講座)(1・2 年次職員)	6/9～8/31	19 名
情報セキュリティ研修(役職員、医師・看護師、アルバイト)	6/5～6/30	483 名
メンター研修(1 年次職員)	6/23～3/31	25 名
ハラスメント防止研修	9/1～10/31	518 名
写真撮影講座	9/18	20 名
令和 7 年度施設担当職員研修会	10/6・10/7	33 名
ウェブアクセシビリティ研修	10/10	112 名
内部統制研修「コンプライアンス研修」(若手職員)	9/10～10/10	205 名
内部統制研修「コンプライアンス研修」(係長以上)	11/10～12/9	165 名
令和 7 年度リーダーシップ研修	1/29・2/25	26 名
ネットで自衛消防訓練(火災編)	2/1～2/28	177 名
ネットで自衛消防訓練(地震編)	2/1～2/28	160 名
文書管理研修・個人情報管理研修	2/19～3/13	297 名
職員研修会「「芝居だけ」の「だけ」をはずす」	3/10	93 名

(b) 外部研修への職員の派遣

《外部研修実績》

研修名	実施日	参加者数
ハラスメント対策・対応講座 vol.1	5/20	2 名
公文書管理研修 I (独法等向け第 1 回)	5/23	1 名
令和 7 年度全国公立文化施設協会 定時総会・研究大会	6/12・13	1 名
テールゲートリフター特別教育	6/25・10/22・3/11	5 名
第三級陸上特殊無線技士	7/15、9/2	1 名
令和 7 年度 給与実務研修会(諸手当関係)	7/17	1 名
アーカイブズ研修 I	8/18～8/22	1 名
令和 7 年度 給与実務研修会(人事院勧告)	8/28	1 名
令和 7 年度 勤務時間・休暇制度実務研修会	9/11	2 名
令和 7 年度図書館等職員著作権実務講習会	9/19～11/14	2 名
第 63 回政府関係法人会計事務職員研修	9/30～11/14	2 名
玉掛け技能講習	10/6～10/8、11/3～11/5	2 名
足場の組立て等作業従事者特別教育	10/11	1 名
KYT(危険予知訓練)研修会	10/15	1 名
令和 7 年度給与実務研修会(俸給決定及び支給関係)	10/16	1 名

令和7年度文部科学省文教団体共同職員研修会(第1回)	10/27～10/28	2名
苦情相談実務研修会	10/30	1名
ブレ CYDER	11/1～11/30	2名
第34回消費税中央セミナー	11/12	1名
服務・懲戒・分限制度実務研修会	11/13	1名
公文書管理研修Ⅱ(第2回)	11/26～11/27	1名
令和7年度文部科学省文教団体共同職員研修会(第2回)	11/26～11/27	3名
育児休業制度等実務研修会	1/29	1名
統括安全衛生管理者セミナー	1/30	2名
ブレ CYDER②	1/31	2名
給与実務実例研修会(諸手当関係)	2/27	1名
第二種電気工事士	3/6	1名

② 適切な労務管理、多様で柔軟な働き方を推進する制度の検討・導入

(a) 適切な労務管理

i. 安全衛生委員会、顧問弁護士及び社会保険労務士との提携

- ・顧問弁護士及び社会保険労務士と提携し、労務管理に関する問題点を調査し、改善に向けて、規程・運用の見直しを行った。

ii. ハラスメント防止への取組

- ・ハラスメントに関する苦情相談を受ける職員(相談員)を配置し、職員が相談しやすい環境を維持した。
- ・管理職及び全職員向けに必要な研修を実施した。

iii. メンタル不全対策の実施

- ・産業医であるメンタルヘルスの専門医と連携し、面談等の相談業務を実施した。
- ・ストレスチェックを実施した(10/1～14、受検者395名)。
- ・特定の年次の若手・中堅職員を対象にメンタルヘルスカウンセリングを実施した(12/9・11・12・19・22、27名)
- ・新規採用職員が振興会に支障なく定着できるようにサポートすることを目的として、新規採用職員をメンティとし、若手先輩職員をメンターとするメンター制度を実施した(6/23～3/31。メンティ10名、メンター15名、計25名)。

iv. 安全衛生管理への取組

- ・安全衛生委員会、産業医及び衛生管理者、舞台安全保持委員会と連携し、職場環境の改善に必要な措置を講じた。

(b) 多様で柔軟な働き方を推進する制度の検討・導入

- ・令和7年度の育児・介護休業法改正に伴い、養育両立支援休暇を新設し、育児期の柔軟な働き方を実現するための制度の拡充を行った。併せて、仕事と育児・介護が両立できるよう、職員に対し個別に利用できる支援制度の周知と意向確認を行った。
- ・国立劇場閉場による代替劇場での公演に伴い、用務地における適正な勤務時間管理に努めるとともに、勤務の実態に合わせた柔軟な運用になるよう、就業規程等の改正の検討を進めた。

ウ 必要な人材の確保・育成

(1) 方針

- ・人材確保・育成方針等に関する基本方針に基づき、以下の取組の向上を図った。
 - ◇職員の計画的、適正な配置を図るとともに、外部機関との人事交流を適切に進め、多様な人材を確保・育成した。
 - ◇各種研修を行い、各職員の能力開発、専門性の確保及び意識改革を行うとともに、適切な労務管理実施した。
 - ◇外部の研修に職員を積極的に派遣し、その資質の向上を図ること、多様で柔軟な働き方を推進するための制度導入を検討した。
 - ◇任期付職員制度を活用し、高度な専門性と豊富な知識・経験を有する者を採用した。

(2) 人員に係る指標

- ・引き続き国家公務員との給与の比較を行い、ウェブサイト「独立行政法人日本芸術文化振興会の役職員の報酬・給与等について」を掲載し、給与水準に係る適正化に関する検証結果及び取組状況を公表した(6年度ベース)。
- ・人員配置については、各部長から要望を広く聞き、適切な人事異動を行うとともに、任期を定めた採用の強化等、人件費の抑制を踏まえた採用を実施した。

4 その他振興会の業務運営に関し必要な事項

(1) 国立劇場おきなわ運営委託(公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団)

ア 委託契約の状況

4/1～3/31 の組踊等沖縄伝統芸能に係る業務及び劇場の管理運営に関する業務委託契約について 633,702 千円を限度として締結した。その後、2/9 付けで業務委託契約の限度額を 640,647 千円に変更した。

イ 委託内容

- ①組踊等沖縄伝統芸能の公演
- ②組踊(立方・地方)伝承者の養成
- ③組踊等沖縄伝統芸能に関して調査研究を行い、また資料を収集し、利用に供すること
- ④劇場施設を組踊等沖縄伝統芸能の保存又は振興を目的とする事業その他のための利用に供すること
- ⑤劇場施設の管理運営
- ⑥前各号の業務に附帯する業務

ウ 運営に関する協議及び報告の状況

- ①業務委託に係る規程の改正等を協議
- ②各四半期終了後に受託業務状況報告書を受領
- ③委託期間終了後に受託業務実績報告書を受領
- ④固定資産取得報告書及び不用通知書を受領

エ 運営委託の方針・連絡体制の整備等

運営財団の業務が業務委託契約書に定める事業計画書及び収支計画書に沿った形で実施されていることについて、随時公演等の視察を行い、その際の意見交換や定期的に提出を受ける受託業務状況報告書により、検証を行っている。また、財団の理事会、評議員会には常に振興会職員が出席するなど、連絡体制の強化に努めている。

オ 情報開示の推進

公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団の業務及び財務等に関する情報を開示するため、ウェブサイトにより以下の情報を公開している。

定款、役員名簿、事業報告書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録、事業計画書、収支予算書、委託に係る事業概要、組織図、事務分掌

カ 効率化状況等

① 委託費の推移

年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
金額	676,604 千円	674,712 千円	656,355 千円	639,259 千円	640,647 千円
前年度比	99.5%	99.7%	97.3%	97.3%	100.2%

② 自己収入の確保等の方策による収支構造の改善

県や国からの補助金や受託金の外部資金獲得を行い、入場料収入については、公演回数や開演時間などを適切に設定し、計画に沿った収入の確保に努めている。また、劇場施設の利用について積極的な広報やサービス向上に努め利用料の増収による収支構造の改善を図っている。

③ 効率化に関する取組

(a) 外部委託の推進

入札公告等は劇場敷地内に掲示するとともに、ウェブサイト上で競争入札参加に必要な公示(入札参加資格等入札情報を含む入札公告等)を掲載し、入札機会の拡大を図った。

(b) 省エネルギー、リサイクルの推進

ペーパーレス化について、会議資料等の電子データ配布や紙配布の際の両面コピー及び両面印刷を実施している。

《使用量・処理量》

事 項	区 分	使用量/処理量	対前年度増減
光熱水量	電気使用量	1,887,320kwh	△ 3.0%
	ガス使用量	45,825 m ³	+0.9%

	水道使用量	2,928 m ³	+20.1%
廃棄物	一般廃棄物	370 kg	△ 49.3%
	産業廃棄物	974kg	+10.9%
ペーパーレス化	コピー用紙使用量	660,845 枚	△ 3.7%
	用紙購入枚数	491,180 枚	+17.6%

(c) 情報システムの活用

財団内のネットワークシステムを活用し、関係者への迅速な連絡、スケジュール管理及び供用施設の予約状況の確認を行うことで、財団全体の情報共有化を図り、業務効率を向上させる工夫を行った。

(2) 新国立劇場運営委託(公益財団法人新国立劇場運営財団)

ア 委託契約の状況

4/1～3/31 の現代舞台芸術の公演等及び劇場の管理運営に関する業務委託契約について 4,301,809 千円を限度として締結した。その後、2/9 付けで業務委託契約の限度額を 4,313,109 千円に変更した。

イ 委託内容

- ①現代舞台芸術の公演
- ②現代舞台芸術の実演家その他関係者の研修
- ③現代舞台芸術に関して調査研究を行い、資料を収集し、利用に供すること
- ④劇場施設を現代舞台芸術の振興又は普及を目的とする事業その他のための利用に供すること
- ⑤劇場施設の管理運営
- ⑥附帯する業務

ウ 運営に関する協議及び報告の状況

- ①業務委託契約に関する規程の改正を協議
- ②各四半期終了後に受託業務状況報告書を受領
- ③委託期間終了後に受託業務実績報告書を受領
- ④固定資産取得報告書及び不用通知書を受領

エ 運営委託の方針・連絡体制の整備等

運営財団の業務が業務委託契約書に定める事業計画書及び収支計画書に沿った形で実施されていることについて、随時公演等の視察を行い、その際の意見交換や、定期的に提出を受ける受託業務状況報告書により、検証を行っている。また、財団の主要な会議には常に振興会職員が出席するなど、連絡体制の強化に努めている。

オ 給与水準の適正化等

- ・新国立劇場運営財団の職員給与については、振興会職員給与規程に準拠した規程を整備し、適正に執行している。
- ・人事院勧告に基づく振興会の措置に準じ、給与及び手当の改定を行った。

オ 情報開示の推進

公益財団法人新国立劇場運営財団の業務及び財務等に関する情報を開示するため、ウェブサイトにより以下の情報を公開している。

定款、役員名簿、事業報告、収支計算書、正味財産増減計算書、キャッシュ・フロー計算書、貸借対照表、財産目録、事業計画書、収支予算書、目的・事業、組織、調達情報、年報、一般事業主行動計画

キ 効率化状況等

① 委託費の推移

年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
金額	4,446,986 千円	4,421,219 千円	4,254,801 千円	4,267,393 千円	4,313,109 千円
前年度比	100.1%	99.4%	96.2%	100.3%	101.1%

② 自己収入の確保等の方策による収支構造の改善

公演事業に係る支出は入場料収入、寄附金・協賛金収入等で賄っているところであり、それぞれ計画に沿った収入の確保に努めている。入場料収入については、公演回数、曜日、開演時間などを適切に設定し、公演内容の充実と効果的な広報宣伝のもと増収を図っている。寄附金・協賛金収入等については、賛助会員や協賛企業の獲得に努め、オンライン寄附など多角的な資金獲得に力を入れている。

③ 効率化に関する取組

(a) 随意契約の見直し及び外部委託の推進

令和 7 年度の外部委託契約 52 件のうち、委託業務 34 件(うち複数年契約 30 件)、物品の製造販売工事等 3 件の合計 37 件について一般競争入札等を行っている。このうち、業務の効率化を目的として日本芸術文化振興会と共同で入札を行った契約が 1 件ある。令和 7 年度に行った入札及び公募は 8 件(うち複数年契約 3 件)であり、このうち翌年度以降の契約のものが 7 件となっている。

(b) 省エネルギー、リサイクルの推進

《使用量・処理量》

事 項	区 分	使用量/処理量	対前年度増減
光熱水量	電気使用量	5,921,326 kwh	△ 0.5%
	ガス使用量	4,514 m ³	+ 9,504.3%
	水道使用量	12,488 m ³	+ 11.1%
廃棄物	一般廃棄物	24,620kg	△ 13.5%
	再利用廃棄物	15,326kg	+1.8%
	産業廃棄物	15,133kg	△ 4.2%
ペーパーレス化	コピー用紙使用量	1,578,346 枚	△ 5.4%
	用紙購入枚数	1,454,000 枚	△ 2.7%

※新国立劇場では楽屋食堂が営業を再開したため、ガス使用量が大幅に増加した。

(c) 情報システムの活用

- ・財団内のネットワークシステムを活用し、関係者への迅速な連絡、スケジュール管理及び供用施設の予約状況の確認を行うことで、財団全体の情報共有化を図り、業務効率を向上させる工夫を行った。

令和 7 事業年度評価報告書

第 23 期（令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日まで）

令和 8 年 6 月

独立行政法人日本芸術文化振興会

本報告書は、独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会要項第 1 条及び評議員会規則第 1 条第 2 項に基づき、令和 8 年 6 月 29 日に開催された第 71 回評議員会に報告され、審議の結果、適切であると認められ、承認されたものである。

独立行政法人日本芸術文化振興会

独立行政法人日本芸術文化振興会 令和 7 事業年度評価報告書

令和 8 年 6 月

独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会

はじめに

本評価委員会は、独立行政法人日本芸術文化振興会評議員会規則第 8 条の規定に基づき、振興会の業務の運営に関する評価を行うため設置されたものである。

このたび、理事長の諮問を受け、令和 7 事業年度の業務の実績に関して、厳正かつ客観的な評価を行った。

評価は、前年度に引き続き、振興会が実施した当該年度に係る自己点検評価報告書をもとに、まず各委員が評価意見書の提出を行い、次に振興会からの説明を聴取しながら、合議により最終的な評価を行った。

本評価委員会は、評価結果について、原則として年度計画に定められた項目ごとに取りまとめ、評価報告書として提出するものである。

評価においては、振興会の業務運営をより良いものとするための意見を付しており、次年度以降の各事業の充実及び発展に活用されることを期待する。

評価実施の経緯

第 1 回評価委員会	令和 7 年 10 月 1 日
第 2 回評価委員会	令和 8 年 5 月 18 日
第 3 回評価委員会	令和 8 年 6 月 11 日
第 4 回評価委員会	令和 8 年 6 月 18 日

令和 7 事業年度評価報告書 (日本芸術文化振興会評価委員会)

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 文化芸術活動に対する援助

(1)概観

- 芸術文化振興基金、文化芸術振興費補助金による助成が年度計画に沿って着実にかつ適切に実施されたほか、文化芸術活動基盤強化基金による支援についても計画どおりに採択決定が行われた。また、助成業務が増大する中で、文化芸術助成の在り方に関する検討が進められ、助成の適正化が促進されている。
- 公演等調査件数の目標値を前年度の 600 件から 800 件へと大きく引き上げて、それを達成するとともに、PD・PO による芸術団体等への助言に対する満足度も目標値を達成した。助成金の交付にとどまらず、芸術団体等と共に芸術を創っていくという姿勢が満足度の結果に現れている。
- 助成事業ウェブサイトのリニューアルや、英語版の年次報告書の発行、地域版アートカウンシル等との連携の進展など、新たな取組や事業の周知・普及のための改善が図られている。

(2)改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

- 助成事業については、ホームページや事業概要の文面は抽象的で、具体的なイメージを持ちにくく、また申請内容の記載が複雑化しており、丁寧な説明も含め応募団体により伝わりやすい表現、書式が望まれる。
- 応募相談件数の大幅な増加や新規事業の開始により業務の増大が懸念されるため、今後の動向を見ながら適切な対応方法を検討する必要がある。
- 更に多くの地域版アートカウンシル等との対話・情報交換を通じ、連携の強化が望まれる。

(3)自己点検評価に対する意見

- 基金・補助金等による助成は計画どおり進められているとともに、助成の予算規模の増大に対して、助成の在り方に関する体制も含めた検討がなされており、評定としてはBが適切と判断できる。

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

自己点検評価に対する意見

- 伝統芸能分野では、代替施設での公演も続く中、入場者数が目標値を上回った。
- 現代舞台芸術分野では、外国人入場者数、海外への情報発信と海外からのオンライン映像への視聴が目標値を大きく上回ったほか、海外公演などを実施し、国際的な評価を獲得した。日本博についても、事業計画に基づく所期の目標を達成でき、総合評定としてはBが適切と判断できる。

2-〈1〉 伝統芸能の公開

(1)概観

《全般》

- 令和6年度は代替施設における公演の入場者数が目標値を下回った分野もあったが、令和7年度は改善され、所期の目標を達成した。また、演目の拡充や青少年を対象とした公演についても、振興会ならではの取組が継続できている。
- 代替施設の使用については、制約もある中、昨年度までのノウハウが一定程度蓄積され、様々な工夫が功を奏している。各ジャンルにおいて外部から高評価を獲得するなど、内容面でも充実している。
- 企画性のある演目の上演や共同制作による公演の地方展開、国立文楽劇場における大阪・関西万博を契機とした活動など、国立劇場再開場までの公演の在り方として、観客の裾野を広げる取組がなされている。

《歌舞伎》

- 9月は、「仮名手本忠臣蔵」の中で「九段目」と関連深い「二段目」を組み合わせ、趣向に富んだ公演が行われた。1月は、通し狂言「鏡山旧錦絵」を17年ぶりに上演し、代替施設の制約を克服した作品づくりとして専門家からも高く評価された。重要な技芸伝承や演出の多様性を担保した点で、閉場中も国立劇場の存在意義を示した取組として評価できる。
- 鑑賞教室では、2作品を初めて取り上げて上演し、目標も達成した。

《文楽》

- 国立文楽劇場では、大阪・関西万博開催に合わせ、外国人誘致なども意識した企画・サービスを実施し、さらに公演日数を大幅に増加させ、鑑賞者の拡大に成功した。首都圏においては計3公演のうち2公演が新たな会場であったが、入場者数が目標値を大きく上回った。
- 上演機会が稀な場面の上演や、通し上演といった振興会ならではの公演が実現

できている。また、複数の出演者が舞台成果により日本芸術院賞などを受賞している。

《舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等》

- 全体として入場者数は目標値を大きく上回った。舞踊では、「刀剣乱舞 ONLINE」とのコラボレーションによる入門公演で若年層の興味を喚起するとともに、上方舞や素踊りを特集した公演を実施し、舞踊の番組編成が注目を集めた。
- 日韓国交正常化 60 周年を記念した日韓両国での公演や、特別企画公演の遠野（岩手県）・東京双方での公演は、振興会ならではの取組と評価できる。また、声明公演の上演前の聴きどころの紹介や、雅楽のステージ見学は、良い試みである。

《大衆芸能》

- 東京では代替施設として民間ホールに加え、新たな公立施設の活用を進め、公演を安定して継続できている。また、代替施設でも1人(組)の高座時間を長く確保するなどにより、技芸の向上と継承という振興会の目的の維持が図られている。
- 国立文楽劇場「浪曲名人会」では、昭和 100 年を記念し、昭和にちなんだ演題の上演に加え、初企画として実演付き解説を実施し、新たな観客層の開拓に寄与した。

《能楽》

- 制作方針が明確であり、定例公演と普及公演では、長い歴史と高い質を備えた演目の上演と、初心者にも配慮された公演が安定してバランスよく提供された。また、大阪・関西万博やデフリンピック、東日本大震災 15 年などの節目に合わせた公演や、講談や落語といった異分野との競演など、振興会ならではの企画を実施した。すべての公演で入場者数の目標値を達成している。国立能楽堂ではロビーでの解説や物販、展示も含め、全体として一体的な企画運営がなされている。
- 中高生を対象とした鑑賞教室も入場者が多く、幅広い年齢層への周知が順調に進んでいる。

《組踊等沖縄伝統芸能》

- 定期、企画、研究、普及という4区分の公演それぞれの合計入場者数が、目標値を上回り、なかでも企画公演、研究公演は関心を集め、目標値を大きく超えた。

○国立劇場おきなわの特色と言える芸能の歴史的復元などを目的とした研究公演や、新作組踊大賞受賞作の創作組踊が継続されている点は、評価できる。また、沖縄県の「戦後 80 周年平和祈念」事業の一環で受託公演が行われ、沖縄戦を題材にした新作能や、韓国の伝統芸能との共演など、いずれも平和祈念にふさわしい内容であった。

《演目の拡充》

○復活・復曲・新作の上演数が 18 作品を数えており、意欲的な取組として評価できる。歌舞伎や舞踊では長年上演がなかった作品、文楽では廃絶作品、能楽では過去に国立能楽堂において復曲した作品の上演、組踊等では新作など、レパートリーが拡充された。

《青少年等を対象とした公演》

○実演家による分かりやすい解説や映像の効果的な活用、子供限定の音声ガイドの無料貸出など、鑑賞の理解を深める取組が行われた。
○国立文楽劇場の夏休み文楽特別公演では、「刀剣乱舞 ONLINE」とのコラボレーションで青少年の関心も集め、伝統芸能への接触機会の創出と集客につながった。また、出演者による観客見送りが継続されるなど、終演後も「楽しさ」を感じさせる工夫により、来場者の満足度向上が図られた。

《伝統芸能の公開の実施に際しての留意事項(連携協力等)》

○各分野で全国各地の文化施設等における公演が継続的に行われ、鑑賞機会の提供が図られている。特に歌舞伎、文楽では、代替施設の設置・運営団体との共催や、教育委員会による後援などにより、来場を促進する取組が続けられており、徐々に成果が現れている。
○国立劇場おきなわでは、共催公演や沖縄県からの受託公演が多く行われ、関係団体等との連携協力が進んでいる。

《快適な観劇環境の形成》

○各館で観劇体験の満足度を向上させる工夫や、バリアフリー、観劇サポートの取組が行われている。代替施設での公演においても、会場ごとに異なる観劇環境を踏まえながら、各施設の協力のもと、各種サービスが提供されている。
○電子チケット入場についての実証実験は、デジタル化推進と利便性向上に向けた取組として評価できる。

《広報・営業活動の充実》

○ホームページへのアクセス件数は振興会・国立劇場おきなわを合わせて 640 万

件に及び、各種 SNS による積極的な広報によって登録者数も順調に増加するなど、充実化が図られている。

○海外 OTA によるチケット販売も行われ、伝統芸能の国際化に向けた取組が着実に進んでいる。

《劇場施設の使用効率の向上等》

○劇場施設の使用効率は、各劇場で向上が図られている。引き続き、劇場施設・設備等の状態や諸条件を勘案した上で、適切な運用が求められる。

○閉場中の国立劇場を活用した高単価・高付加価値の舞台芸術体験ツアーの企画は、閉場中であっても新たな価値を創出する手法であり、民間旅行会社との連携協力で、観光庁補助金事業の交付を獲得した点も評価できる。

(2)改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

○今後も代替施設での公演が続く中、関心者に広く情報が届くよう、SNS 等も駆使したより多様な取組が望まれる。組織再編で整備された体制のもと、広報の戦略の統一性と機動性を一層高めてほしい。

○歌舞伎、文楽などの代替施設は専用劇場に比べると利便性に課題が多く、観客や出演者の便宜に沿うよう、一層の工夫を重ねてほしい。

○国立劇場再開場時に、現在の観客の観劇習慣が途絶えないように、また、新たな観客を迎え入れることを目指して、公演・イベントに魅力あるラインナップの構築を継続してほしい。異分野を組み合わせた公演についても、相乗効果が発揮されるよう、更なる工夫に取り組んでほしい。

○外国人向けサービスはこれまで無料のものが多かったが、有料サービスの拡充も積極的に検討してほしい。

(3)自己点検評価に対する意見

○通し狂言や上演機会の少ない作品、新作の上演、青少年等を対象とする公演など、振興会ならではの取組が着実に進められている。代替施設利用という状況下においても、公演数、入場者数、公演収支の改善がいずれも目標値を上回っているため、評価としてはBが適切と判断できる。

2-〈2〉現代舞台芸術の公演

(1)概観

《全般》

○公演数、入場者数、公演収支の改善などが目標値を上回り、入場料収入は過去

最高額を記録した。

- バレエのロンドン公演チケットの完売、海外との合同公演など、舞台芸術のグローバル拠点としての役割を着実に高め、日本の現代舞台芸術の水準を海外に示した。

《オペラ》

- 「ナターシャ」「ヴォツェック」の2作品を新制作し、レパートリーを充実させた。特に日本人作曲家委嘱作品・世界初演の前者は、多言語による新境地のオペラとして注目を集め、International Opera Awards 2025 新作部門にノミネートされた。
- 年度を通じてオペラ研修所修了者を起用し、その高い実力が発揮されるとともに、日本人出演者の活躍も見られる。

《バレエ》

- 新国立劇場主催「ジゼル」ロンドン公演が多くの観客を集め、現地主要メディアからも高評価を得るとともに、第 26 回英国舞踊批評家協会賞の最優秀カンパニー賞を受賞した。新作バレエ作品の上演、著名作品の新国立劇場オリジナル版の制作上演など、意欲的な取組も進んでいる。
- クラスレススン見学会やリハーサルライブ配信など、SNS による稽古や舞台映像の発信が行われ、関心層の拡大や誘客の促進が図られている。

《現代舞踊》

- 新国立劇場バレエ団出身の振付家による新作公演が実現され、次世代の人材育成が着実に進んでいる。
- 世界各国で上演され、コンテンポラリーダンスの最先端とも言える「フレンズ・オブ・フォーサイス」を日本で初めて上演し、好評を得た。また、国外で活躍する振付家の起用など、人材の紹介にも取り組んでいる。

《演劇》

- 日韓国交正常化 60 周年記念で日韓合同公演を開催し、さらに海外招聘の 2 公演を実現しており、演劇分野の国際化が推進された。
- 「こつこつプロジェクト」や「シリーズ『光景—ここから先へと』」など、シリーズとして芸術監督の制作趣旨を打ち出しながら、国内作品の再評価や海外の優れた作品の紹介に努め、新国立劇場独自の上演を行った。
- 「夜の道づれ」では、Studio 公演として試演会を一般にも公開し、観客に感想や意見を求めた。こうした試みは、これまであまり例のない取組である。

《青少年等を対象とした公演》

- 14 年ぶりの「こどものためのオペラ劇場」をはじめ、青少年や親子を対象とした質の高い入門企画を実施するとともに、新国立劇場合唱団による学校巡回公演の実施により、観客層の裾野の拡大や教育への寄与が図られている。

《現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項(連携協力等)》

- 各国劇場との連携を強化し、交換上映会や交換研修などを通じて協力関係を深めた。
- 「新国デジタルシアター」における公演映像等の配信では、海外からの視聴割合がほぼ半数を占め、今後の展開が期待される。
- 全国各地の劇場等での公演や新国立劇場合唱団の外部出演を通じて、現代舞台芸術への理解促進や関心層の拡大が図られている。

《快適な観劇環境の形成》

- 車椅子利用や盲導犬同伴、筆談への対応をはじめ、バリアフリー対策や各種鑑賞サポートにより、誰もが楽しめる観劇環境が整備されている。
- アナウンス品質の均一化や多言語対応の充実を図るため、AI 音声による場内アナウンスが導入された。
- ホワイエ空間の工夫、写真スポットの設置など、豊かな観劇体験につながる取組が行われている。また、オペラトークやバックステージツアーなどにより、作品理解の促進が図られている。

《広報・営業活動の充実》

- 英語版ホームページ、舞台映像の海外からの視聴、海外メディアでの新国立劇場に関する記事掲載について目標値を大きく上回るなど、広報の充実が国際的な認知度と関心度の向上につながっている。
- ホームページと SNS を連動させ、映像も活用した積極的な情報発信が行われている。バレエ公演の一部ではカーテンコールの撮影を可能としたことで、SNS の口コミが増え、公演の認知度向上に寄与している。
- 会報誌の充実、入場券のセット割引や優先販売など、観劇促進を目的とした取組が継続的に実施されている。また、世界の芸術・文化施設のデジタルガイドを無料で楽しめるアプリ「Bloomberg Connects」で新国立劇場のページを開設するなど、広報手法の多様化が図られている。

《劇場施設の使用効率の向上等》

- 施設利用に関する情報をホームページ等で随時発信し、オペラ劇場、中劇場、小

劇場のいずれも 100%に近い稼働率で活用されている。中劇場・小劇場は貸出日数が多く、外部からの利用ニーズが高いことも窺える。

(2)改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

- 新国立劇場の運営は振興会からの委託業務ではあるが、現代舞台芸術と伝統芸能の両分野において、戦略的な取組や体系的な広報の展開など、振興会として一体的な推進が期待される。
- 新国立劇場バレエ団のロンドン公演は画期的であり、演劇分野でも日韓合同公演が行われたが、こうした海外での公演や海外との共同公演は、現代舞台芸術にとって重要であり、国際事業を続けるための資金獲得を進めてほしい。
- 国内各地での公演や子供向けの公演についても更なる充実を図り、全国への還元と関心層の拡大が望まれる。

(3)自己点検評価に対する意見

- 公演数、入場者数、公演収支の改善についてはいずれも目標値を上回るとともに、海外発信に関する各指標は目標値を大きく上回った。また、内容面でも国内での着実な取組に加え、海外公演の成功や国際的な賞の受賞など、国内外への発信力の向上につながる顕著な成果を上げたため、評定としてはAが適切と判断できる。

2-〈3〉日本博の運営・実施

(1)概観

- 「最高峰の文化資源の磨き上げによる満足度向上事業」の最終年度で、事業公募を行い、委託型 67 件、補助型 15 件の合計 82 件を採択し、採択事業者の取組に対し、インバウンド対応や参加者動向の確認、改善点の助言を行う伴走型支援が実質化されるとともに、「効果検証計画書」及び「効果検証報告書」の作成・提出を義務付けた。
- 伴走型支援によって、大阪・関西万博を契機とした戦略的なプロモーションや海外旅行会社との商談等が、海外からの注目を集め、商品取扱いの開始や団体旅行の受入れにつながるなど、インバウンド誘致の取組が着実に進んだ。

(2)改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

- 海外からの注目を集める一方、国内での機運醸成の観点から、国内での情報発信についても工夫が求められる。
- 外国人来訪者満足度アンケートの中には、回答数が極端に少ないものや満足度

の目標値が低いものがあり、現状には課題がある。PD・PO のような人材による客観的な視点の導入や、「効果検証報告書」の利用など、事業成果をより適切に把握できるよう、効果検証手法の更なる充実が望まれる。

(3)自己点検評価に対する意見

○採択事業の評価はアンケート結果だけで、採択による事業効果は問われていないが、アンケート方法や内容、回答数などが整理されているとともに、外国人来訪者満足度については目標値を達成しており、評価としてはBが適切と判断できる。

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家等その他の関係者の研修

自己点検評価に対する意見

○伝統芸能と現代舞台芸術の両分野において、計画に沿った研修の実施や研修発表会の開催とともに、研修修了者の輩出が進んでいる。伝統芸能分野のプレ研修も効果的な試みであり、現代舞台芸術分野では国際的な研修体制が構築されていることから、総合評価としてはBが適切と判断できる。

3-(1) 伝統芸能の伝承者の養成

(1)概観

○各分野における研修発表会と既成者研修発表会は、計画どおり実施された。また、既成者研修については、発表機会の充実や広報支援等を通じて、既成者の技芸向上と就業者としての意識醸成に資する取組が展開された。修了者の中から芸術選奨新人賞の受賞者を輩出するなどの成果にもつながっている。

○プレ研修やアウトリーチ活動の実施、見学会の開催などにより、応募促進と理解醸成に向けた工夫が図られた。

(2)改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

○プレ研修、見学会などは応募への後押しになる取組であり、研修修了者へのフォローアップ研修は励みになる有益な取組で、ともに今後も着実な展開が期待される。

○各分野とも研修修了者の公演従事は伝統芸能の継承にとって重要であり、研修修了者への出演支援の更なる充実が望まれる。

○養成所サポーターミーティングについては、今後も続けられたい。寄附金がどのような用途に使われ、どのような成果を上げたかを具体的に示すことで、寄附者の意欲向上につながることを期待される。

(3)自己点検評価に対する意見

○養成研修と研修発表会を計画に沿って実施するとともに、次年度の研修生の確保に向けた取組が進められている。研修修了者の活躍も顕著で、評価としてはBが適切と判断できる。

3-(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

(1)概観

○海外から講師を招聘しての研修や海外研修など、充実した研修内容により、コン

クール入賞者の輩出や研修修了者の国内外での活躍など、優れた人材育成の成果が示されている。

- 説明会やオープンスクールでの情報発信により、研修事業の周知が図られ、次代を担う優秀な研修生が獲得されている。次年度の研修所入所希望者も多く、各研修所の実績が高く評価されていることが窺える。

(2)改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

- 研修施設の安定的確保が課題であり、研修生や指導者が安心して利用できる研修環境の整備が求められる。
- 現代舞台芸術にとって国際化は不可欠であり、海外講師の招聘も含め、国際的な研修予算の確保に向けた取組が求められる。
- 研修所修了者の活動実績については、更なる情報発信の充実が望まれる。

(3)自己点検評価に対する意見

- 計画どおりの研修と研修発表会の実施に加え、次年度の研修所入所希望者の確保ができているとともに、現代舞台芸術の国際水準の維持を目的とした国際的な研修も実施されており、評定としてはBが適切と判断できる。

4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

自己点検評価に対する意見

○伝統芸能分野では、継続的な調査研究と資料公開などが積極的に進められ、来場者数が目標値を大きく上回った展示もあった。現代舞台芸術分野においても、計画された資料収集や企画展、公開講座などが順調に進められており、総合評価としてはAが適切と判断できる。

4-(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

(1)概観

- 所蔵資料を中心とした展覧会が各館で開催されており、来場者数は目標値を上回った。特に国立能楽堂では、最新の研究成果を展示に反映し、能楽ファンだけでなく幅広い層から関心を集めた。
- 文化デジタルライブラリーをはじめとするデジタル・コンテンツの拡充は着実に進展しており、公演情報と連動した活用が進められている。また、収蔵資料の各種オンラインプラットフォームへの登録・公開を進め、国文学研究資料館との連携も加わり、学術研究面でも国内外で有用となりつつある。
- 古典演目の復曲事業の一環として公開された試演会が、国立文楽劇場でなければできない事業であると外部専門家から高く評価された。
- 大阪・関西万博でのミニ公演や特別展示、講座等により、海外来訪者を含む多様な層へ伝統文化の魅力を発信した。また、大学との連携による子供向け授業方法開発など、新たな普及手法の試みも展開されている。

(2)改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

- 所蔵資料の活用は、再整備期間中の国立劇場への関心を持続させる上でも有効である。振興会にとどまらず、より幅広い場所での活用が望まれる。
- 所蔵資料のデータベース化や公開、公演記録の集積と活用などが順調に進んでいるが、映像等の教育・研究目的での使用のあり方については引き続き検討が求められる。

(3)自己点検評価に対する意見

- 所蔵資料のデータベース化と公開など中期目標に沿った年度事業が適確かつ積極的に進展していることに加え、来場者数の目標達成率で大きく上回った展示もあり、評価としてはAが適切と判断できる。

4-(2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

(1)概観

- 公演記録の作成や各種展示、公開講座、ギャラリープロジェクトなど、外部団体とも連携協力を図り、計画に沿った調査研究と資料収集・公開が順調に進められている。
- トークイベントやオンライン配信、公演プログラムへの記事掲載など、多様な形態で調査研究成果の活用や発信が行われた。

(2)改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

- 調査研究については、現代舞台芸術分野の特性を踏まえつつ、利用者にとって信頼度が高く、継続的に活用される情報基盤としての役割の充実が期待される。
- 舞台美術センター資料館については、衣裳等の保管機能への移行にあたり、収蔵施設としての施設名に変更するなど、収集・保存資料に関する方針の再構築が求められる。
- 「初台アート・ロフト」については、観劇に向けた高揚感を醸成できるよう、更なる工夫を期待したい。

(3)自己点検評価に対する意見

- 調査研究や資料収集を計画どおり実施し、講座・展示等の実施回数と来場者数はいずれも目標値を達成できており、評定としてはBが適切と判断できる。

Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

(1)概観

- 国立劇場再開場後も見据え、各館の劇場長等の新設、国立劇場・国立演芸場の宣伝・営業機能の一体化、伝統芸能情報センターの新設など、組織体制の整備・強化が進められた。
- 組織再編や機器の老朽化等に対応し、システムやネットワークの整備が適宜行われるとともに、生成 AI の導入や RPA などの試験的導入も実施された。

(2)改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

- 生成 AI 等の ICT の活用については、適用範囲や取扱いを慎重に行い、職員が芸術文化の本質に関わる業務や判断に十分取り組めるよう、環境整備が望まれる。
- 伝統芸能情報センター設置は情報発信の重要性に鑑みて適切な措置であるが、運用人材の確保など組織面の充実も計画的に進められたい。
- カスタマーハラスメントから職員を守る対策を講ずることが求められる。他団体の事例も参考に検討してほしい。

(3)自己点検評価に対する意見

- 組織体制の整備・強化や業務運営の効率化に向けた措置が適切に実行されており、評価としてはBが適切と判断できる。

Ⅲ予算、収支計画及び資金計画

(1)概観

○公演事業等による自己収入の確保では、複数の区分で目標値を上回り、全体としても1割近く目標値を超えた。外部資金についても、新たな補助金の獲得等により件数・金額ともに前年度を上回った。

(2)改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

○支出の抑制には引き続き取り組む一方、振興会の事業の魅力が維持されるような予算執行に努められたい。

○今後も広報活動等を積極的に進め、振興会事業への理解者、関心者を増やし、外部資金の獲得を更に拡大してほしい。

(3)自己点検評価に対する意見

○自己収入の確保が目標値を上回り、外部資金の獲得も前年度に比べて増加している。収入・支出の予算執行は、振興会全体としてほぼ計画どおりに行われており、評価としてはBが適切と判断できる。

IVその他業務運営に関する重要事項

(1)概観

- 国立劇場再整備等事業が、国立劇場再整備委員会、国立劇場再整備等事業 PFI 審査会などによる組織決定を経ながら進められ、入札公告まで実施された。
- 令和 7 年度から新たに経営戦略会議を設置し、経営上の重要課題に関する事項等の組織的審議を始めたことは、将来に向けた課題解決へ実効性のある取組として、高く評価する。

(2)改善を要する事項 及び 今後の業務運営への提言

- 国立劇場再整備等事業は、入札手続きに時間を要することは理解できるが、これまでの大きな遅れを取り戻すべく、スピード感を持って進めることが求められる。
- 再整備等事業の予定が立たない中での業務運営は困難を伴うが、適切な対応が求められる。課題が多く多忙な中であって成果を上げるためにも、引き続き職員の労働環境の向上、職員の定着率の向上など、適切な労務管理に努められたい。

(3)自己点検評価に対する意見

- 振興会運営に関する外部専門家などからの意見聴取等が例年どおり行われたほか、内部統制の充実や人事に関する取組等について、年度計画に沿って着実に実施された。様々な課題がある中で国立劇場再整備等事業についても入札公告に至っており、評定としてはBが適切と判断できる。

令和7年度独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会 委員名簿
(任期：令和7年7月1日～令和8年6月30日)

委員長 小川直之（國學院大學名誉教授）

委員長代理 大久保 充 代（公益財団法人八尾市文化振興事業団業務
執行理事兼事務局長）

委員 小玉祥子（演劇ジャーナリスト）

委員 桜井多佳子（舞踊評論）

委員 氷川まりこ（伝統文化ジャーナリスト）

委員 広瀬依子（追手門学院大学文学部講師）

委員 古谷伸太郎（公認会計士）

独立行政法人日本芸術文化振興会評議員会規則

平成15年10月31日
改正 平成21年 3月27日
改正 令和 7年 3月26日
評議員会決定

第1章 審議事項

第1条 評議員会は独立行政法人日本芸術文化振興会法第12条の規定に基づき理事長の諮問に応じ、独立行政法人日本芸術文化振興会（以下「振興会」という。）の業務の運営に関する重要事項を審議する。

2 前項の審議事項には、振興会の業務の運営に関する評価を含むものとする。

第2章 議事

第2条 評議員会に議長を置き、評議員の互選で定める。

第3条 議長は、会議の議事を整理する。

第4条 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名した評議員が議長の職務を代理する。

第5条 評議員会は、評議員の過半数の出席がなければ会議を開き、議決することができない。

第6条 評議員会の議事は、出席評議員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

第7条 評議員会に出席することのできない評議員は、書面をもって票決をなし、又は他の評議員に票決を委任することができる。この場合は、出席とみなす。

第3章 評価委員会

第8条 第1条第2項に定める評価を行うため、評議員会に評価委員会を置く。

2 評価委員会の人数及び任期等は理事長が定める。

第4章 規則の改正

第9条 この規則を改正等しようとするときは、評議員会において評議員の3分の2以上の同意を得なければならない。

第10条 評議員会の事務は、総務部総務課において処理する。

附 則

この規則は、平成15年10月31日から施行する。

附 則（平成21年3月27日評議員会決定）

この規則は、平成21年3月27日から施行し、平成21年4月1日から適用する。

附 則（令和7年3月26日評議員会決定）

この規則は、令和7年3月26日から施行し、令和7年4月1日から適用する。

独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会要項

	平成15年	10月	31日
改正	平成16年	4月	1日
改正	平成17年	3月	16日
改正	平成20年	6月	19日
改正	平成21年	4月	1日
改正	令和4年	4月	1日
改正	令和7年	4月	1日
改正	令和8年	4月	1日

独立行政法人日本芸術文化振興会理事長裁定

第1条 評議員会に置かれる評価委員会（以下「評価委員会」という。）は、独立行政法人日本芸術文化振興会（以下「振興会」という。）の業務の運営に関する評価を行い、その結果を評議員会に報告する。

第2条 評価委員会は、7人以内の評価委員（以下「委員」という。）で組織する。

第3条 委員は、振興会の業務の運営に関する評価に必要な学識経験を有する者のうちから、理事長が任命する。

第4条 委員の任期は、1年とし、7月1日に委嘱することを常例とする。ただし、欠員の補充による委員の任期は、現任者の残任期間とする。

2 委員は再任を妨げない。

第5条 評価委員会に委員長を置き、委員の互選で定める。

第6条 委員長は、会議の議事を整理する。

第7条 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員が委員長の職務を代理する。

第8条 評価委員会は、委員の過半数の出席がなければ会議を開き、議決することができない。

第9条 評価委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

第10条 評価委員会に出席することのできない委員は、書面をもって票決をなし、又は他の委員に票決を委任することができる。この場合は、出席とみなす。

第11条 評価委員会の事務は、企画部運営構想計画課において処理する。

附 則

1 この要項は、平成15年10月31日から施行する。

2 この要項の施行後最初に任命された委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、平成17年9月30日までとする。

附 則

この要項は、平成16年4月1日から施行する。

附 則（平成17年3月31日独立行政法人日本芸術文化振興会理事長裁定）

この要項は、平成17年3月31日から施行する。

附 則（平成20年6月21日独立行政法人日本芸術文化振興会理事長裁定）

1 この要項は、平成20年7月1日から施行する。

2 この要項による改正後最初に再任される委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、平成21年6月30日までとする。

附 則（平成21年4月1日独立行政法人日本芸術文化振興会理事長裁定）

この要項は、平成21年4月1日から施行する。

附 則（令和４年４月１日独立行政法人日本芸術文化振興会理事長裁定）
この要項は、令和４年４月１日から施行する。

附 則（令和７年４月１日独立行政法人日本芸術文化振興会理事長裁定）
この要項は、令和７年４月１日から施行する。

附 則（令和８年４月１日独立行政法人日本芸術文化振興会理事長裁定）
この要項は、令和８年４月１日から施行する。

独立行政法人日本芸術文化振興会

令和7事業年度 業務実績報告書

令和8年6月29日発行

発行：独立行政法人日本芸術文化振興会（Japan Arts Council）

編集：企画部 運営構想計画課

〒102-8656 東京都千代田区隼町4番1号

TEL：03-3265-7411（代表）

<https://www.ntj.jac.go.jp/>